

LIFESAVING COMPETITION RULES  
2020 EDITION

# ライフセービング 競技規則

〈2020年版〉

(2020.06.04版)

日本ライフセービング協会



ライフセービング競技規則  
LIFESAVING COMPETITION RULES  
〈2020年版〉  
(2020.06.04版)

ILS Competition Rule Book 2019 Edition (Revised February 2020)  
準拠

日本ライフセービング協会

JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION

(JLA)



第一に，人を救うライフセーバーであり

第二に，競技者であること

People who are lifesavers first, competitors second.

(ILS LWC2018 Handbook より)

## この競技規則について

この JLA 競技規則 2020 年版 (2020.06.04 版) は ILS 競技規則 (*International Life Saving Federation Competition Rule Book 2019 Edition (Revised February 2020)*) に準拠しています。ただし、原文の明らかな誤記 (項目番号のずれなど) は訂正しています。また、原文には脚注は無く、全て JLA で付したものである。

## ライフセービングとスポーツ

国際ライフセービング連盟 (ILS: the International Lifesaving Federation) は、溺水事故防止、ライフセービング、ライフセービングスポーツの世界的権威である。 ILS は、非営利で、政治色や宗教色を帯びない、世界規模のライフセービングスポーツおよび人道支援の団体である。 ILS は、国内および国際機関と連携、協力し、世界中の溺水事故の防止、ライフセービングサービス提供の促進、そしてライフセービングスポーツの監督を行っている。

ILS は、ライフセービングスポーツを促進、組織化し、定期的に国際的な水辺ライフセービングの競技会を組織することで、競技者の関心を刺激し、水辺で危険にさらされている人々を救う能力と意欲を向上させている。ライフセービングスポーツは、ライフセーバーのスキル、知識、および技術の開発を支援し、ILS メンバー組織間のグローバルな関係を強化する機会を提供する上で重要な役割を果たしている。

ILS は、以下の国際的なスポーツ組織のメンバーであるか、又は関係を維持している：

- ・ 国際オリンピック委員会 (IOC) : ILSはIOCが承認した国際連盟の1つである、
- ・ スポーツアコード (SportAccord : 全ての国際的なスポーツ連盟を再編成した国際連盟) : ILS はスポーツアコードの議決権のある正式メンバーである、
- ・ IOC 承認国際競技団体連合 (ARISF : Association of Recognised International Sports Federations) : ILS は、ARISF の議決権のある正式メンバーである、
- ・ 国際ワールドゲームズ協会 (IWGA : International World Games Association) : ILS は IWGA の議決権のある正式メンバーである、
- ・ 国際マスターズゲームズ協会 (IMGF : International Masters Games Federation) : ILS は、IMGF の新規メンバーである、
- ・ コモンウェルスゲームズ連盟 (CGF : Commonwealth Games Federation) : ライフセービングスポーツは、CGF によって承認されたスポーツである、
- ・ 国際ミリタリースポーツ評議会 (CISM : International Military Sports Council) : ライフセービングは CISM によって承認されたスポーツである。

ILS はまた、溺水事故防活動に関して世界保健機関 (WHO) と公式な関係を結んでいる。

ライフセービングスポーツは、世界の若者と大人をライフセービングの卓越性を相互に追求することに引き入れている。溺水事故の軽減のための協力とチームワークが世界的な注目を浴びるのは避けられないことである。ライフセービングスポーツへの若者の参加を増やすことは、若者を引き入れる方略の一部である。

ライフセービングスポーツは、このミッションの重要な要素である。 ILS ライフセービング世界選手権 (the ILS Lifesaving World Championships) と ILS ライフセービング地域選手権 (ILS Lifesaving Regional Championships) は、世界のライフセーバーを定期的に参集させるのに重要な役割を果たしている — 他国の経験を学び、自らの改善と手技実践の挑戦に役立っている。ライフセービングスポーツを公開しメディアに露出させることは、溺水事故防止に取り組んでいる世界的権威である我々のビジョン、ミッション、価値観、戦略的な目標を紹介するのに役立っている。

我々は、ILS スポーツ委員会のメンバー及びメンバー組織による ILS 競技規則作成へのご尽力と、世界中での国際的なライフセービング競技会を推進するため絶え間ない努力に対し、感謝したい。又、ILS メンバー組織に対し、ライフセービングスポーツとライフセービング地域選手権、世界選手権への参加が継続的に成長していることをお喜び申し上げたい。

## 用語解説 (Glossary of Terms)

**ライフセービングスポーツ (lifesaving sport)**：個人，チーム，クルーが身体的努力とスキルで他と競争する運動活動。その活動は，レクリエーション又は競争的であり，結果を達成するものであり，国際ライフセービング連盟 (ILS)，及び日本ライフセービング協会 (JLA) が発行する一連の規則により管理されている。

**競技分野 (discipline)**：競技分野は，1つ以上の競技種目で構成されるスポーツの分野である。ライフセービングスポーツは以下の競技分野から構成されている：プール競技，オーシャン競技，SERC，サーフポート競技，IRB 競技。

**競技会 (competition)**：競技会は競技種目のプログラムで構成される。例えば，10 競技種目からなるサーフ競技会など。選手権 (championship) は競技会のタイプの1つである。

**競技種目／競技 (event)**：競技種目は，規定された同じルールと条件（施設，装備，距離，スタイルなど）による一連のレースである。ライフセービングスポーツでは，プール競技分野は泳ぐこと及び投げる競技種目（例えば，障害物スイム）が特徴である。ビーチ／オーシャン競技分野は，走る，泳ぐ，クラフト競技（例えば，ビーチフラッグス）が特徴である。（文脈により競技種目又は競技と表記を変える場合がある）

**レース (race)**：1つのレースとは，タイム又は順位によって勝者が決まる，スピードを競う1つの競争である。たとえば，複数のヒートからなる予選の中の1つのヒートは1つのレースであり，A決勝も1つのレースである。

**予選／ヒート (heats)**：予選とは，競技者を除外して勝者が次のラウンドや準々決勝，準決勝，決勝レースに進む予備的なレースのことである。（文脈により「予選」又は「ヒート」と表記を変える場合がある）

**ラウンド (round)**：ラウンドは，同じ競技種目のヒートの集まりである。例えば，「8ヒートからなるラウンド」などと言う。

**決勝 (final)**：決勝は，予選で上位だった選手らによる最終レースである。

**A決勝 (A-final)**：A決勝は，予選を1位から8位で通過した競技者によるレースで，最終的な1位から8位までの順位を決定する。

**B決勝 (B-final)**：B決勝は，予選を9位から16位で通過した競技者によるレースで，最終的な9位から16位までの順位を決定する。

**タイム決勝 (time-finals)**：タイム決勝は，予選を行わない競技種目の一連のレースの集まりである。その競技種目の勝者はタイムにより決定される。

**所属団体 (affiliation)**：競技会に参加するチームの母体で，地域クラブ，学校クラブ等のこと。クラブチーム (club team) と呼称されることもある。

**チーム (team)**：競技会にエントリーした競技者で，同じ所属団体に属する複数の競技者からなる集団のこと。チーム競技種目に出場する少数のユニットのことも「チーム」と呼称されることがあるが，チーム競技種目はあくまでチームが競うものであり，実際に出場した少数の競技者ユニットはそのチームを代表する存在として「チーム」と呼称されている（チーム競技種目には出場人数が限定された「チーム」が出場していると見做す）。

## 目次

ライフセービングとスポーツ .....	v
用語解説 (Glossary of Terms) .....	vii
目次 .....	viii
<b>第 1 章 ILSとJLA .....</b>	<b>1</b>
1.1. ILSの歴史 (ILS History) .....	2
1.2. ILSの組織 (ILS Organisation) .....	3
1.3. ILSの戦略的目標 (ILS Strategic Goals) .....	3
1.4. ILSスポーツ委員会 (ILS Sport Commission) .....	4
1.5. JLAについて.....	4
1.6. JLAにおけるライフセービング競技会 .....	4
1.6.1. 国内のライフセービング競技会 .....	5
<b>第 2 章 共通競技総則 .....</b>	<b>7</b>
2.1. ILS認定競技会 (ILS Sanctioned Competition) .....	8
2.2. 競技会の組織と管理 (Competition Organisation and Administration) .....	9
2.2.1. 各種委員会及びセーフティーオフィサー (Committees, Safety Officer and Security Officer) .....	10
2.3. 競技会の安全 (Competition Safety) .....	11
2.3.1. 安全・緊急対応計画 (Safety and Emergency Plan) .....	12
2.3.2. 非常時会場変更計画 (Relocation Contingency Plan) .....	13
2.4. 技術的安全及びテクニカルオフィシャル (Technical Safety and other Officials) .....	13
2.4.1. テクニカルオフィシャル行動規範 (Technical Officials Code of Conduct) .....	13
2.4.2. ローカルイベントマネージャー (Local Event Manager) .....	14
2.4.3. ILSイベントディレクター (ILS Event Director) .....	14
<b>テクニカルオフィシャル (Technical Officials) .....</b>	<b>15</b>
2.4.4. チーフレフリー (Chief Referee) .....	15
2.4.5. デピュティチーフレフリー (Deputy Chief Referee) .....	16
2.4.6. エリアレフリー (オーシャン) (Area Referee (Ocean)) .....	17
2.4.7. イベントディレクター (プール) (Event Directors (Pool)) .....	17
2.4.8. セクショナルレフリー (Sectional Referee) .....	17
2.4.9. レフリースチュワード/ヘッドスコアラー (Referee Steward/Head Scorer) .....	18
2.4.10. コンペティションリエゾンオフィサー (Competition Liaison Officers) .....	18
2.4.11. コーススーパーバイザー (Course Supervisors) .....	19
2.4.12. スクルーティニアコーディネーター及びスクルーティニア (Scrutineer Coordinator and Scrutineers) .....	19
2.4.13. 装置及び器材コーディネーター (Gear and Equipment Coordinator) .....	20
2.4.14. アナウンスコーディネーター及びコメントパネル (Announcing Coordinator and Commentary Panel) .....	21
2.4.15. ジャッジ (Judges) .....	21
2.4.15.1. 一般事項 (General) .....	21
2.4.15.2. チーフジャッジ (Chief Judges) .....	22
2.4.15.3. フィニッシュジャッジ (Finish Judges) .....	22
2.4.15.4. レーンジャッジ (IRB) (Lane Judge (IRBs)) .....	22
2.4.15.5. レーンジャッジ (プールレスキュー) (Lane Judges (Pool Rescue)) .....	23
2.4.15.6. コースジャッジ (Course Judges) .....	23
2.4.15.7. スペシャリストジャッジ (Specialist Judges) .....	24

2.4.15.8.	電子機器スペシャリストジャッジ (Electronic Device Specialist Judges)	24
2.4.15.9.	計時ジャッジ (Timekeeping Judges)	25
2.4.15.10.	記録ジャッジ (Recording Judges)	25
2.4.16.	スターター (Starters)	25
2.4.17.	チェックスターター (Check Starter)	26
2.4.18.	マーシャル (Marshall)	27
2.4.19.	チェックマーシャル (Check Marshall)	27
2.4.20.	式典スチュワード (Presentation Steward)	28
2.4.21.	上訴委員長 (Appeals Committee Convenor)	28
2.4.22.	上訴委員 (Appeals Committee members)	28
	<b>非テクニカルオフィシャル (Non-Technical Officials)</b>	<b>28</b>
2.4.23.	規律委員長 (Disciplinary Committee Convenor)	28
2.4.24.	規律委員 (Disciplinary Committee members)	28
	<b>安全オフィシャル (Safety Officials)</b>	<b>29</b>
2.4.25.	セーフティーオフィサー (Safety Officer)	29
2.4.26.	エリアリスク管理オフィサー (ARRO) (Area Risk and Response Officers (ARRO's))	29
2.4.27.	パワークラフトコーディネーター (Power Craft Coordinator)	30
2.4.28.	ウォーターセーフティーコーディネーター (Water Safety Coordinator)	31
2.4.29.	ウォーターセーフティー要員 (Water Safety Personnel)	31
2.4.30.	コミュニケーションコーディネーター (Communications Coordinator)	32
2.4.31.	医療/FAコーディネーター (Medical/First Aid Coordinator)	32
2.4.32.	コース統計係 (Course Statistician)	33
2.5.	<b>世界記録及び日本記録 (World Records and Japan Records)</b>	<b>33</b>
2.5.1.	世界記録 (World Records)	34
2.5.2.	日本記録 (Japan Records)	35
2.6.	<b>競技会の公式な開始と終了 (Official Start and Completion of Competition)</b>	<b>36</b>
2.7.	<b>自然現象による不利益について (Luck of Prevailing Conditions)</b>	<b>36</b>
2.8.	<b>録画装置 (Video Recording Devices)</b>	<b>36</b>
2.8.1.	クラフトへの取付け (Mounted on craft)	36
2.8.2.	競技者への取付け (Attached to competitors)	36
2.9.	<b>通信機器 (Communication devices in competition)</b>	<b>37</b>
2.10.	<b>服装等 (Competition attire)</b>	<b>37</b>
2.10.1.	競技用キャップ及びヘルメット (Competition Caps and Helmets)	38
2.10.2.	ベスト (Vests)	38
2.10.3.	ライフジャケット及びPFD (Lifejackets and Personal Flotation Devices (PFDs))	39
2.10.4.	眼鏡類 (Eyewear)	39
2.10.5.	履物 (Footwear)	40
2.10.6.	ウェットスーツ (Wetsuits)	40
2.10.7.	クラゲ除けスーツ (Marine Singer Suits)	40
2.11.	<b>年齢区分 (Age Categories)</b>	<b>40</b>
2.11.1.	年齢区分の定義 (Determining Age Categories)	40
2.12.	<b>国内/地域内クラブ間移籍及び国際クラブ間移籍 (Inter Club National and International Member Competition Transfers)</b>	<b>43</b>
2.13.	<b>ドーピング・コントロール (Doping Control)</b>	<b>43</b>
2.13.1.	薬物ポリシー (Drug policy)	43
2.14.	<b>行動規範 (Code of Conduct)</b>	<b>44</b>
2.14.1.	競技者, テクニカルオフィシャル及びメンバーの行動規範	44
2.14.2.	ライフセービング競技のフェアプレー規範	44
2.15.	<b>不正行為 (Misconduct)</b>	<b>46</b>
2.15.1.	不正行為と懲罰 (Conduct and discipline generally)	46
2.15.2.	不正競争 (Competing unfairly)	46

2.15.3.	重大な規律違反 (Serious discipline offence) .....	47
2.15.4.	規律委員会 (Disciplinary Committee) .....	47
2.16.	<b>失格及びDNF (Disqualifications and “Did Not Finish” Classifications) .....</b>	<b>48</b>
2.17.	<b>抗議と上訴 (Protests and Appeals) .....</b>	<b>49</b>
2.17.1.	抗議の種類 (Types of protests) .....	49
2.17.2.	抗議の申し立て (Lodging a protest) .....	50
2.17.3.	抗議の裁定 (Adjudication of protests) .....	51
2.17.4.	上訴委員会 (Appeals Committee) .....	51
	抗議申立書 (Protest Form) .....	53
	上訴申立書 (Appeal Form) .....	54
	WORLD RECORD APPLICATION FORM VERSION 2019 .....	55
<b>第 3 章</b>	<b>プール競技規則 .....</b>	<b>57</b>
3.1.	<b>プール競技の一般規則 .....</b>	<b>58</b>
3.2.	<b>スタート .....</b>	<b>59</b>
3.2.1.	飛込スタート .....	60
3.2.2.	水中スタート .....	60
3.2.3.	失格 .....	60
3.2.4.	注意 .....	61
3.3.	<b>マネキン .....</b>	<b>61</b>
3.3.1.	マネキンの浮上 .....	61
3.3.2.	マネキンを運ぶ (キャリー) .....	62
3.3.3.	マネキンを引っ張る (トウ) .....	62
3.3.4.	マネキンハンドラー .....	63
3.4.	<b>組み合わせ配置 .....</b>	<b>63</b>
3.4.1.	予選における組み合わせ配置 .....	63
3.4.2.	タイム決勝の組み合わせ調整 .....	64
3.4.3.	レーンの割り当て .....	64
3.4.4.	決勝における組み合わせ配置 .....	64
3.5.	<b>計時と順位の設定 .....</b>	<b>65</b>
3.5.1.	全自動審判計時装置による計時 .....	65
3.5.2.	手動による計時 .....	65
3.6.	<b>テクニカルオフィシャル .....</b>	<b>66</b>
3.7.	<b>障害物スイム—200 m及び100 m (Obstacle Swim - 200 m and 100 m) .....</b>	<b>67</b>
3.7.1.	競技の説明 — 200 m .....	67
3.7.2.	競技の説明 — 100 m .....	67
3.7.3.	器材 .....	67
3.7.4.	失格 .....	67
3.8.	<b>マネキンキャリー—50 m (Manikin Carry - 50 m) .....</b>	<b>69</b>
3.8.1.	競技の説明 .....	69
3.8.2.	器材 .....	69
3.8.3.	失格 .....	69
3.9.	<b>レスキューメドレー—100 m (Rescue Medley - 100 m) .....</b>	<b>70</b>
3.9.1.	競技の説明 .....	70
3.9.2.	器材 .....	70
3.9.3.	失格 .....	70
3.10.	<b>マネキンキャリー・ウィズフィン—100 m (Manikin Carry with Fins - 100 m) .....</b>	<b>71</b>
3.10.1.	競技の説明 .....	71
3.10.2.	器材 .....	71
3.10.3.	失格 .....	71
3.11.	<b>マネキントウ・ウィズフィン—100 m (Manikin Tow with Fins - 100 m) .....</b>	<b>72</b>

3.11.1.	競技の説明	72
3.11.2.	器材	72
3.11.3.	失格	73
3.12.	スーパーライフセーバー—200 m (Super Lifesaver - 200 m)	75
3.12.1.	競技の説明	75
3.12.2.	器材	75
3.12.3.	失格	76
3.13.	ラインスロー 12.5 m (Line Throw - 12.5 m)	78
3.13.1.	競技の説明	78
3.13.2.	器材	79
3.13.3.	失格	79
3.14.	マネキンリレー—4×25 m (Manikin Relay - 4×25 m)	81
3.14.1.	競技の説明	81
3.14.2.	器材	81
3.14.3.	失格	82
3.15.	障害物リレー—4×50 m (Obstacle Relay - 4×50 m)	83
3.15.1.	競技の説明	83
3.15.2.	器材	83
3.15.3.	失格	83
3.16.	メドレーリレー—4×50 m (Medley Relay - 4×50 m)	84
3.16.1.	競技の説明	84
3.16.2.	器材	85
3.16.3.	失格	85
3.17.	プールライフセーバーリレー—4×50 m (Pool Lifesaver Relay - 4×50 m)	87
3.17.1.	競技の説明	87
3.17.2.	器材	88
3.17.3.	失格	88
	プール競技失格コード表	89
<b>第 4 章</b>	<b>オーシャン競技規則</b>	<b>95</b>
4.1.	オーシャン競技の一般規則	96
4.2.	スタート	97
4.2.1.	スタート前	97
4.2.2.	スターター	98
4.2.3.	スタートの手順	98
4.2.4.	スタートライン	98
4.2.5.	失格	99
4.2.6.	注意	99
4.2.7.	チェンジオーバー及びリレーにおけるタッチ	100
4.3.	フィニッシュ	100
4.3.1.	判定	100
4.3.2.	時間制限	101
4.4.	組み合わせ配置	101
4.4.1.	予選における組み合わせ配置	101
4.4.2.	準決勝及び決勝における組み合わせ配置	101
4.4.3.	レーン決め抽選	102
4.4.4.	ビーチでのスタート位置	102
4.4.5.	競技者数の制限	102
4.5.	サーフレース (Surf Race)	104
4.5.1.	競技の説明	104
4.5.2.	コース	104
4.5.3.	判定	104

4.5.4.	失格.....	104
4.6.	<b>サーフチームレース (Surf Teams Race) .....</b>	<b>106</b>
4.6.1.	競技の説明.....	106
4.6.2.	コース.....	106
4.6.3.	判定.....	106
4.6.4.	失格.....	106
4.7.	<b>レスキューチューブレスキュー (Rescue Tube Rescue) .....</b>	<b>108</b>
4.7.1.	競技の説明.....	108
4.7.2.	注意.....	109
4.7.3.	コース.....	109
4.7.4.	器材.....	110
4.7.5.	判定.....	110
4.7.6.	失格.....	110
4.8.	<b>レスキューチューブレース (Rescue Tube Race) .....</b>	<b>112</b>
4.8.1.	競技の説明.....	112
4.8.2.	コース.....	112
4.8.3.	判定.....	112
4.8.4.	器材.....	112
4.8.5.	失格.....	112
4.9.	<b>ランスイムラン (Run-Swim-Run) .....</b>	<b>114</b>
4.9.1.	競技の説明.....	114
4.9.2.	コース.....	114
4.9.3.	判定.....	114
4.9.4.	失格.....	114
4.10.	<b>ビーチフラッグス (Beach Flags) .....</b>	<b>116</b>
4.10.1.	競技の説明.....	116
4.10.2.	スタートの手順.....	116
4.10.3.	スタート.....	116
4.10.4.	不正スタート.....	117
4.10.5.	レーン決め抽選.....	117
4.10.6.	除外される競技者の人数.....	117
4.10.7.	ランオフ (Run-offs) .....	117
4.10.8.	コース.....	117
4.10.9.	器材及び服装.....	117
4.10.10.	判定.....	117
4.10.11.	除外及び失格.....	118
4.11.	<b>ビーチスプリント (Beach Sprint) .....</b>	<b>120</b>
4.11.1.	競技の説明.....	120
4.11.2.	スタート.....	120
4.11.3.	コース.....	120
4.11.4.	器材及び服装.....	120
4.11.5.	判定.....	120
4.11.6.	失格.....	121
4.12.	<b>ビーチラン — 2 km及び1 km (Beach Run - 2 km and 1 km) .....</b>	<b>123</b>
4.12.1.	競技の説明 — 2 km.....	123
4.12.2.	競技の説明 — 1 km.....	123
4.12.3.	コース.....	123
4.12.4.	器材及び服装.....	123
4.12.5.	判定.....	123
4.12.6.	失格.....	124
4.13.	<b>3×1 km ビーチランリレー (3×1 km Beach Run Relay) .....</b>	<b>126</b>
4.13.1.	競技の説明 — 3×1 km.....	126
4.13.2.	コース.....	126
4.13.3.	器材及び服装.....	126

4.13.4.	判定	126
4.13.5.	失格	127
<b>4.14.</b>	<b>ビーチリレー (Beach Relay)</b>	<b>129</b>
4.14.1.	競技の説明	129
4.14.2.	スタート	129
4.14.3.	バトンの引継ぎ	129
4.14.4.	コース	129
4.14.5.	器材及び服装	129
4.14.6.	判定／チェンジオーバー	129
4.14.7.	失格	130
<b>4.15.</b>	<b>サーフスキーレース (Surf Ski Race)</b>	<b>131</b>
4.15.1.	競技の説明	131
4.15.2.	コース	131
4.15.3.	ドライスタート及びドライフィニッシュ (Dry Start and Dry Finish)	131
4.15.4.	器材	132
4.15.5.	判定	132
4.15.6.	失格	132
<b>4.16.</b>	<b>サーフスキーリレー (Surf Ski Relay)</b>	<b>134</b>
4.16.1.	競技の説明	134
4.16.2.	コース	134
4.16.3.	器材及び服装	134
4.16.4.	判定	134
4.16.5.	クラフトのコントロール	135
4.16.6.	マスターズスキーリレーのコース及び手順のバリエーション	135
4.16.7.	失格	135
<b>4.17.</b>	<b>ボードレース (Board Race)</b>	<b>137</b>
4.17.1.	競技の説明	137
4.17.2.	コース	137
4.17.3.	器材	137
4.17.4.	判定	137
4.17.5.	クラフトのコントロール	137
4.17.6.	失格	138
<b>4.18.</b>	<b>ボードリレー (Board Relay)</b>	<b>139</b>
4.18.1.	競技の説明	139
4.18.2.	コース	139
4.18.3.	器材	139
4.18.4.	判定	140
4.18.5.	クラフトのコントロール	140
4.18.6.	マスターズボードリレーのコース及び手順のバリエーション	140
4.18.7.	失格	140
<b>4.19.</b>	<b>ボードレスキュー (Board Rescue)</b>	<b>142</b>
4.19.1.	競技の説明	142
4.19.2.	コース	142
4.19.3.	器材	143
4.19.4.	判定	143
4.19.5.	溺者役又はボードの制御	143
4.19.6.	溺者役のパックアップ	143
4.19.7.	失格	143
<b>4.20.</b>	<b>オーシャンマン／オーシャンウーマン (Oceanman/Oceanwoman)</b>	<b>145</b>
4.20.1.	競技の説明	145
4.20.2.	コース	145
4.20.3.	器材	146
4.20.4.	判定	147
4.20.5.	クラフトとの接触	147
4.20.6.	失格	147

4.21.	オーシャンM (Ocean M) .....	149
4.21.1.	競技の説明 .....	149
4.21.2.	コース .....	149
4.21.3.	器材 .....	151
4.21.4.	判定 .....	152
4.21.5.	クラフトとの接触 .....	152
4.21.6.	失格 .....	152
4.22.	オーシャンマン/オーシャンウーマン勝ち残りバリエーション (Oceanman/Oceanwoman Eliminator Variation) .....	154
4.22.1.	競技の説明 .....	154
4.22.2.	失格 .....	155
4.23.	オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー (Oceanman/Oceanwoman Relay) .....	156
4.23.1.	競技の説明 .....	156
4.23.2.	器材 .....	157
4.23.3.	判定 .....	157
4.23.4.	クラフトとの接触 .....	157
4.23.5.	マスターズオーシャンマン/オーシャンウーマンリレー手順のバリエーション .....	158
4.23.6.	失格 .....	158
4.24.	オーシャンMライフセーバーリレー (Ocean M Lifesaver Relay) .....	160
4.24.1.	競技の説明 .....	160
4.24.2.	コース .....	160
4.24.3.	失格 .....	161
	オーシャン競技失格コード表 .....	162
<b>第 5 章 シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技 (SERC) 規則 .....</b>		<b>163</b>
5.1.	シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技 (SERC) 総則 .....	164
	組み合わせ .....	164
	出場確認及び招集 .....	164
	スタート .....	164
	不正行為 .....	164
	競技人数 .....	164
	用具の位置 .....	164
5.1.1.	機密保護とロックアップ .....	164
5.1.2.	競技開始 .....	165
5.1.3.	競技エリア .....	165
5.1.4.	状況設定 .....	165
5.1.5.	溺者, 傷病者, マネキン, バイスタンダー .....	165
5.1.6.	使用器材 .....	165
5.2.	救助の原則 .....	165
5.2.1.	ライフセーバーとライフガードの対応の違い .....	165
5.3.	判定と採点 .....	167
5.3.1.	採点制度 .....	167
5.3.2.	失格 .....	168
	シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技失格コード表 .....	169
<b>第 6 章 サーフボート競技規則 .....</b>		<b>175</b>
<b>第 7 章 IRB競技規則 .....</b>		<b>177</b>
7.1.	免責事項 .....	178
7.2.	一般条件 .....	178

7.2.1.	必須安全事項 .....	178
7.2.2.	競技前安全説明.....	179
7.2.3.	安全性及び技術的違反.....	180
7.2.4.	競技者の条件 .....	180
7.2.5.	エントリー基準と代理出場.....	181
7.2.6.	器材の要件, 器材検査及び適合 .....	181
7.2.7.	コース .....	182
7.2.8.	コースの種類 .....	182
7.2.9.	運営とオフィシャル.....	182
7.3.	<b>競技進行.....</b>	<b>183</b>
7.3.1.	溺者役の位置 .....	183
7.3.2.	スタート.....	184
7.3.3.	ブイへの進行と戻り.....	185
7.3.4.	ブイまわりとピックアップ.....	187
7.3.5.	退出とフィニッシュ.....	187
7.3.6.	チェンジオーバー (マス, チーム, リレー種目のみ) .....	189
7.4.	<b>競技種目 1 : IRBレスキュー.....</b>	<b>189</b>
7.5.	<b>競技種目 2 : IRB マスレスキュー.....</b>	<b>189</b>
7.6.	<b>競技種目 3 : IRB チームレスキュー .....</b>	<b>190</b>
7.7.	<b>競技種目 4 : IRBレスキューチューブ .....</b>	<b>191</b>
7.8.	<b>失格.....</b>	<b>192</b>
	IRB競技失格コード表.....	193
第 8 章	<b>設備及び器材の規格と検査手順.....</b>	<b>197</b>
8.1.	<b>プール施設規格 (Pool Facility Standards) .....</b>	<b>198</b>
8.1.1.	検査手順 (Scrutineering procedure) .....	198
8.1.2.	長さ (Length) .....	198
8.1.3.	レーン (Lanes) .....	198
8.1.4.	スターティングプラットフォーム (Starting platform) .....	198
8.1.5.	全自動審判計時装置 (Automatic officiating equipment) .....	198
8.1.6.	水.....	199
8.1.7.	深さ .....	199
8.1.8.	飛び込みスタート .....	199
8.1.9.	障害物スイム, 障害物リレー .....	199
8.1.10.	マネキンキャリー (50 m), スーパーライフセーバー (200 m) .....	199
8.1.11.	マネキンキャリー・ウィズフィン (100 m), マネキントウ・ウィズフィン (100 m), スーパーライフセーバー (200 m), プールライフセーバーリレー (4×50 m) .....	199
8.1.12.	レスキューメドレー (100 m) .....	200
8.1.13.	マネキンリレー (4×25 m) .....	200
8.1.14.	メドレーリレー (4×50 m) .....	201
8.1.15.	ラインスロー .....	201
8.1.16.	シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技 (SERC) .....	201
8.2.	<b>器材の規格 (ILS Equipment Standards) .....</b>	<b>201</b>
8.2.1.	器材検査 (Scrutineering of Equipment) .....	201
8.3.	<b>バトン (ビーチフラッグス) (Batons (Beach Flags)) .....</b>	<b>201</b>
8.3.1.	器材検査手順 .....	202
8.4.	<b>ボード (Boards) .....</b>	<b>202</b>
8.4.1.	器材検査手順 .....	202
8.5.	<b>ボート (Boats) .....</b>	<b>202</b>
8.5.1.	IRB (Inflatable Rescue Boats (IRBs)) .....	202
8.5.2.	サーフボート (Surf Boats) .....	203
8.5.3.	器材検査手順 .....	203

8.6.	ブイ (Buoys) .....	204
8.6.1.	器材検査手順 .....	204
8.7.	マネキン (Rescue Manikins) .....	204
8.7.1.	器材検査手順 .....	205
8.8.	障害物 (Obstacles) .....	205
8.8.1.	器材検査手順 .....	206
8.9.	レスキューチューブ (Rescue Tubes) .....	206
8.9.1.	器材検査手順 .....	207
8.10.	サーフスキー (Surf Skis) .....	207
8.10.1.	器材検査手順 .....	208
8.11.	スイムフィン (Swim Fins) .....	208
8.11.1.	器材検査手順 .....	209
8.12.	スローライン (Throw Lines) .....	209
8.12.1.	器材検査手順 .....	209
8.13.	水着 (Swimwear) .....	209
8.13.1.	器材検査手順 .....	210
8.14.	PFD (Personal Flotation Devices (PFDs)) .....	210
8.14.1.	器材検査手順 .....	211
8.15.	ヘルメット (Helmets) .....	211
8.15.1.	器材検査手順 .....	211
8.16.	ウェットスーツ (Wetsuits) .....	211
8.16.1.	器材検査手順 .....	211
付録 A.	短水路プール競技 .....	213
A.	短水路プール競技 .....	214
A.1.	短水路プール競技種目 .....	214
A.1.1	距離 .....	214
A.1.2	スタート台 .....	214
A.1.3	水深 .....	214
A.1.4	全自動審判計時装置とマニュアル計時 .....	214
A.2.	プール競技種目 .....	215
A.2.1	障害物スイム Obstacle Swim .....	216
A.2.1.1	競技の説明 — 25 m, 50 m, 100 m, 200 m 短水路 .....	216
A.2.1.2	器材 .....	216
A.2.2	マネキンキャリー Manikin Carry .....	217
A.2.2.1	競技の説明 — 25 m 短水路 .....	217
A.2.2.2	競技の説明 — 50 m 短水路 .....	217
A.2.2.3	器材 .....	217
A.2.3	レスキューメドレー Rescue Medley .....	218
A.2.3.1	競技の説明 — 50 m, 100 m 短水路 .....	218
A.2.3.2	器材 .....	218
A.2.4	マネキンキャリー・ウィズフィン Manikin Carry with Fins .....	219
A.2.4.1	競技の説明 — 25 m 短水路 .....	219
A.2.4.2	競技の説明 — 50 m, 100 m 短水路 .....	219

A.2.4.3	器材.....	219
<b>A.2.5</b>	<b>マネキントウ・ウィズフィン Manikin Tow with Fins.....</b>	<b>220</b>
A.2.5.1	競技の説明 — 50 m, 100 m 短水路.....	220
A.2.5.2	失格.....	220
<b>A.2.6</b>	<b>スーパーライフセーバー Super Lifesaver.....</b>	<b>221</b>
A.2.6.1	競技の説明 — 100 m 短水路.....	221
A.2.6.2	競技の説明 — 200 m 短水路.....	221
A.2.6.3	器材.....	221
A.2.6.4	失格.....	221
<b>A.2.7</b>	<b>マネキンリレー Manikin Relay.....</b>	<b>223</b>
A.2.7.1	競技の説明 — 4 x 12.5 m 短水路.....	223
A.2.7.2	競技の説明 — 4 x 25 m 短水路.....	223
A.2.7.3	失格.....	224
<b>A.2.8</b>	<b>障害物リレー Obstacle Relay.....</b>	<b>225</b>
A.2.8.1	競技の説明 — 4 x 25 m, 4 x 50 m 短水路.....	225
A.2.8.2	器材.....	225
<b>A.2.9</b>	<b>メドレーリレー Medley Relay.....</b>	<b>226</b>
A.2.9.1	競技の説明 — 4 x 25 m 短水路.....	226
A.2.9.2	競技の説明 — 4 x 50 m 短水路.....	226
<b>A.2.10</b>	<b>プールライフセーバーリレー Pool Lifesaver Relay.....</b>	<b>228</b>
A.2.10.1	競技の説明 — 4 x 25 m, 4 x 50 m 短水路.....	228
<b>A.2.11</b>	<b>レスキューチューブトウ Rescue Tube Tow.....</b>	<b>229</b>
A.2.11.1	競技の説明 — 50 m短水路.....	229
A.2.11.2	失格.....	229
<b>付録 B.</b>	<b>ジュニア/ユース競技規則.....</b>	<b>231</b>
B.	ジュニア/ユース競技規則.....	232
<b>B.1.</b>	<b>ジュニア/ユース競技の一般規則.....</b>	<b>232</b>
B.1.1	年齢区分.....	232
B.1.2	ハンドラー及びマネキンハンドラー.....	232
B.1.3	器材.....	232
B.1.4	競技者数の制限（サーフ種目に限る）.....	233
<b>B.2.</b>	<b>ジュニア/ユース競技種目.....</b>	<b>233</b>
<b>B.2.1</b>	<b>障害物スイム — 50 m.....</b>	<b>234</b>
B.2.1.1	競技の説明.....	234
B.2.1.2	器材.....	234
B.2.1.3	失格.....	234
<b>B.2.2</b>	<b>ジュニアチューブスイム — 50 m.....</b>	<b>235</b>
B.2.2.1	競技の説明.....	235
B.2.2.2	器材.....	235
B.2.2.3	失格.....	235
<b>B.2.3</b>	<b>レスキューチューブトウ — 100 m.....</b>	<b>236</b>
B.2.3.1	競技の説明.....	236
B.2.3.2	器材.....	236
B.2.3.3	失格.....	236
<b>B.2.4</b>	<b>レスキューチューブリレー — 4×50 m.....</b>	<b>238</b>

B.2.4.1	競技の説明	238
B.2.4.2	器材	238
B.2.4.3	失格	239
<b>B.2.5</b>	<b>ウェーディングレース</b>	<b>240</b>
B.2.5.1	競技の説明	240
B.2.5.2	コース	240
B.2.5.3	判定	240
B.2.5.4	失格	240
<b>B.2.6</b>	<b>ランスイムラン</b>	<b>242</b>
B.2.6.1	競技の説明 — 小学3, 4年	242
B.2.6.2	競技の説明 — 小学5, 6年	242
B.2.6.3	コース — 小学3, 4年	242
B.2.6.4	コース — 小学5, 6年	242
B.2.6.5	判定	242
B.2.6.6	失格	242
<b>B.2.7</b>	<b>ニッパーボードレース</b>	<b>244</b>
B.2.7.1	競技の説明	244
B.2.7.2	コース — 小学1, 2年	244
B.2.7.3	コース — 小学3, 4年	244
B.2.7.4	コース — 小学5, 6年	244
B.2.7.5	コース — 中学生	244
B.2.7.6	器材	245
B.2.7.7	判定	245
B.2.7.8	クラフトのコントロール	245
B.2.7.9	失格	245
<b>B.2.8</b>	<b>ニッパーボードリレー</b>	<b>248</b>
B.2.8.1	競技の説明	248
B.2.8.2	コース	248
B.2.8.3	器材	248
B.2.8.4	判定	249
B.2.8.5	クラフトのコントロール	249
B.2.8.6	失格	249
<b>B.2.9</b>	<b>タップリンリレー</b>	<b>251</b>
B.2.9.1	競技の説明	251
B.2.9.2	コース — 小学4年以下	251
B.2.9.3	コース — 小学6年以下	252
B.2.9.4	コース — 中学生	252
B.2.9.5	コース — 高校生	252
B.2.9.6	器材	253
B.2.9.7	判定	253
B.2.9.8	クラフトとの接触	253
B.2.9.9	失格	253

## 第 1 章 ILS と JLA

# 1. ILSとJLA (ILS and JLA)

## 1.1. ILSの歴史 (ILS History)

### Fédération Internationale de Sauvetage

19世紀末、複数の国のライフセービング組織がライフセービング技術や経験を交換するなどして、互いに協力し、学び合っていた。組織立った国際的なライフセービング活動は、1878年、南フランスのマルセイユ（Marseille）で国際会議が開催されたときに遡る。それ以降数十年の間は、各国ライフセービング活動において多くの独自の功績がみられた。まもなく、アイデアを交換するため国際フォーラム開催の必要性が認識された。精力的に活動していたフランス人レイモンド・ピテ（Raymond Pitet）は、1900年パリ世界博覧会開催中、世界連盟の設立を目的に、ライフセービング会議を組織した。この時、目的を達成するには至らなかったが、彼はそのアイデアを諦めなかった。

1910年1月25日から30日にかけてパリは大洪水に見舞われたが、ライフセーバーらはかつてないほど行動をとる準備が整っていた。これら近隣諸国の人々の連携を目の当たりにしたレイモンド・ピテは、今度はパリの中心部から7kmに位置する小さな町サン＝トゥアン（Saint-Ouen）にて新たな会議を組織した。

この会議に於いて、ベルギー、デンマーク、フランス、イギリス、ルクセンブルク、スイスから参加の連盟により、1910年3月27日、FIS（Fédération Internationale de Sauvetage：国際救助連盟）が設立された。会議に出席できなかったスペインとイタリアも設立証書に署名した。FISはフランスで法人化され、設立された後、レイモンド・ピテの居住地パリに本部を置いた。

翌年以降、欧州各国において会議と国際選手権が開催されたが、第一次世界大戦によりライフセービングの国際連盟の拡大が滞った。2つの世界大戦の間、水難救助だけでなく、ロードレスキューや山岳救助への関心が高くなった。第二次世界大戦後、FISは溺水事故防止及びライフセービングスポーツをリードする組織となっていた。

1953年、最初のプールライフセービング世界選手権が開催され、これが定期開催される世界選手権の始まりであった。

### World Life Saving

WLS（World Life Saving）は、1971年3月24日、オーストラリアのクロヌラ（Cronulla）で設立された。規約は1977年6月14日に最終承認され正式発効された。WLSの設立メンバーは、オーストラリア、イギリス、ニュージーランド、南アフリカ、アメリカ合衆国であった。

WLSは、人対人を基本とした教育的な海の安全性及び水中プログラム（aquatic programmes）を構築する目的で設立された。1974年、南アフリカのポート・エリザベス（Port Elizabeth）及びダーバン（Durban）において、ナショナルチームのための最初の世界サーフライフセービング選手権が開催された。1981年、インドネシアのバリ島クタ（Kuta）において、ライフセービング団体／クラブのための最初の世界サーフライフセービング選手権が開催された。1986年、カナダ・ライフセービング協会がWLS及びFISメンバーをバンクーバー（Vancouver）で開催された国際水中競技博覧会に招待したが、これには国際ライフセービング競技が含まれていた。そのタイトルは「Rescue '86」で、一連の国際会議及び競技会である「Rescue」シリーズの始まりであった。

## ILS 国際ライフセービング連盟

ILS (The International Life Saving Federation : 国際ライフセービング連盟) は、1993年2月26日にベルギーのルーベン (Leuven) で開催された FIS と WLS の合同総会に於いて、FIS (Fédération Internationale de Sauvetage Aquatique) と WLS の合併合意が公式に締結されたことで創設された。

同日、FIS 及び WLS は ILS 規約草案及び附則草案に合意した。そして1994年9月3日 (土) , イギリスのカーディフ (Cardiff) に於いて ILS が設立された。創設日は ILS の公式な設立を示すものである。ILS 後援による最初のライフセービング世界選手権も1994年、カーディフ及び同じくイギリスのニューキー (Newquay) に於いて開催され、プール競技及びオーシャン競技の両方が実施された。2012年までに開催されたこの選手権及びこれに続く隔年開催の ILS 選手権は”Rescue”選手権と呼ばれていた。

2014年<sup>1</sup>、ILS の LWC をより良く表現するため、そして水難事故に関する隔年開催の ILS 世界会議 (the biennial ILS World Conference) と区別して表現するため、「Rescue」という語ではなく代わりに「Lifesaving World Championships」(LWC : ライフセービング世界選手権) が使われるようになった。

### 1.2. ILS の組織 (ILS Organisation)

ILS の最高権威は、加盟組織の代表が出席する総会である。総会は ILS の優先順位を定める。選挙総会は4年ごとに開催され、理事を選出する。理事会は、総会と総会の間 ILS の事業を履行し、会長が議長を務める。事務局 (本部) は現在、ルーヴェン (ベルギー) に所在し、管理部門が置かれている。

ILS は、その業務を4つの地域支部 (Regional Branches) の傘下に分散化している。支部はアフリカ、南北アメリカ、アジア太平洋、ヨーロッパに於いてその地域のために設置され、地域活動を主導、監督、調整する責任を担っている。

ILS は、主要な活動分野の管理、開発、技術的側面を担当する専門委員会 (committees) で構成される委員会 (commissions) を創設した。4つの委員会は、溺水事故防止とその公の教育、レスキュー、ライフセービングスポーツ、事業である。

また ILS は、パートナー組織、政府、非政府組織 (NGO)、およびスポンサーと協力して、世界中にライフセービングを普及している。

ILS は、人道的ライフセービング活動を普及する重要な方法として、競技会を主催又は認定するという点でユニークな国際連盟である。競技を介したライフセービングは、確固とした目標の1つである。

### 1.3. ILS の戦略的目標 (ILS Strategic Goals)

ILS の戦略的目標は以下の通りである：

- ・ 対象コミュニティ内の溺水事故を削減する能力を構築する、

---

<sup>1</sup> 【JLA注釈】 ILSウェブサイト (<https://www.ilsf.org/lifesaving-sport/lwc/>) にあるとおり、また後述 (1.6 JLAにおけるライフセービング競技会) のとおり、2014年まで「Rescue」の呼称が使用されていた。

- ・ 溺水事故防止，ライフセービング，ライフセービングスポーツの世界的権威としてILSを位置づける，
- ・ パートナーシップとコラボレーションを通じて，世界の子供たちの溺水事故を減少させる，
- ・ ライフセービングスポーツの適用範囲，力の及ぶ範囲，世間からの認知を拡大する，
- ・ 持続可能なビジネスモデルを創出する，
- ・ グローバルなベストプラクティスを構築し推進する，
- ・ あらゆる国／地域と関わる。

#### 1.4. ILS スポーツ委員会 (ILS Sport Commission)

スポーツ委員会は，国際的なスポーツ競技の場におけるライフセービングスポーツのあらゆる側面を監督する。委員会の責任範囲には次のものが含まれるが，これらに限定されない：

- ・ スポーツ規則，
- ・ 選手権，
- ・ スポーツ・マネジメント，
- ・ アンチドーピング，
- ・ アスリート，
- ・ テクニカルオフィシャル，
- ・ スポーツ開発，
- ・ スポーツ研究。

本委員会は，協力関係にあるスポーツ組織との関係促進について理事会をサポートしている。

#### 1.5. JLA について

ライフセービングとは，水辺の環境の安全性を高め，水の事故から人の命を救うための活動である。日本ライフセービング協会（JLA）は，救命，スポーツ，教育，福祉，環境をテーマにライフセービング活動を展開している。JLA は，国際ライフセービング連盟（ILS）に加盟し，世界的なライフセービング組織の一員としてライフセービング活動を行っている。また，ILS は，国際オリンピック委員会からライフセービング競技の国際的な組織として承認されており，今後ライフセービング競技の更なる普及・発展が期待されている。JLA は，原則として本競技規則を ILS の競技規則に準拠させ国際的な基準に合わせたライフセービング競技の普及・発展を目指している。

#### 1.6. JLA におけるライフセービング競技会

ライフセービング競技は，スポーツを通してライフセービングの知識や技能を高めるとともにフレンドシップを築きライフセービングを普及・発展させるために重要な役割を持っている。また，ライフセービング競技種目は，いずれもレスキューを想定して競技化されたものである。競技のために努力した過程は，水辺で安全に活動するための体力や技能を身に付け，さらにレスキューにも生かされる。仮にフェアでない行為をして勝ったとしても，レスキューすることができる能力にはならないのである。したがって，ライフセービング競技はフェアの精神に則って行われる。

## 日本における国際的なライフセービング競技会

ライフセービング競技の国際的な競技会は、ライフセービング世界選手権（現在の Lifesaving World Championships; LWC, 2014 年までは Rescue シリーズ）とワールドゲームズがあげられる。1992 年には静岡県下田市でライフセービング世界選手権（Rescue'92）が開催され、日本におけるライフセービングの普及に大きな影響を与えた。また、ワールドゲームズとは、国際スポーツ団体連合に加盟しているスポーツの中で、オリンピックで行われている以外の競技種目が行われるスポーツ・イベントである。ライフセービング競技は 1989 年カールスルーエで開催された第 3 回大会から正式種目となり、2001 年第 6 回大会は秋田県で開催された。これら世界選手権やワールドゲームズでは、日本からメダリストが誕生しており、日本のライフセービング競技の競技力は著しく向上している。

### 1.6.1. 国内のライフセービング競技会

日本におけるライフセービング競技の始まりは、1975 年に神奈川県鎌倉市材木座海岸で開催された第 1 回ライフガード大会であるとされている。当時の競技種目は、素手での救助方法を競い合うものやカッターレースなどが行われていた。その後、年に 1 回開催されていたこの大会は、1987 年第 13 回大会からインタークラブ・ライフセービング選手権と名称を改め、この大会から世界基準のオーシャン競技種目が多く導入されるようになった。その背景には、当時オーストラリアとの間で行われていた豪日交換プログラムによるライフセーバーの人的交流が大きな影響を与えていた。1989 年からはインタークラブ選手権とは別に全日本選手権が開催され、1991 年にはインタークラブ選手権を全日本選手権に併合し現在の全日本選手権に受け継がれている。また、1986 年から静岡県下田市白浜海岸でジャパン・サーフカーニバルが開催され 2004 年から全日本種目別選手権に名称を変更している。さらに、日本では地域クラブとともに多くの学校クラブ設立に伴い 1986 年神奈川県藤沢市辻堂海岸にて第 1 回全日本学生選手権（プール）が始まった。1988 年からは第 1 回全日本室内選手権が開催されるようになり 2010 年には第 1 回全日本学生プール選手権が行われた。これらの競技会は JLA 主催競技会として毎年開催され、現在の全日本選手権では約 1,300 名の選手が参加している。



## 第 2 章 共通競技総則

## 2. 共通競技総則 (General Rules and Procedures)

ライフセービングのスポーツは ILS の使命でもある世界中の溺水事故防止に寄与するものである。ライフセービング・スポーツの国際的な組織である ILS は、ライフセービング競技会が安全で且つ公平な制度の下で開催され得るよう、競技規則を制定するものである。

JLA もまた同様に、JLA が主催／認定する競技会が安全且つ公平な制度の下で開催され得るよう、ILS 競技規則を可能な限り反映させた JLA 競技規則を制定するものである。

ライフセービング世界選手権 (LWC : Lifesaving World Championships) は ILS だけが開催を許可でき、いかなるライフセービングの競技会においても、ILS の同意がなければ以下の用語を用いることができない：“ILS”，“International Life Saving (国際ライフ・セービング)”，“Lifesaving World Championships (ライフセービング世界選手権)”，“LWC”，“Oceanman (オーシャンマン)”，“Ocean M (オーシャン M)”，“Ocean M Lifesaver Relay (オーシャン M ライフセーバーリレー)”，“Oceanwoman (オーシャンウーマン)”，“World (世界)”，“Lifesaving (ライフセービング)”，“Life Saving (ライフ・セービング)”，“Rescue Series (レスキューシリーズ)”，“World Lifesaving Championships (世界ライフセービング選手権)”，“World Water Safety (世界ウォーターセーフティ)”。

### 2.1. ILS 認定競技会<sup>2</sup> (ILS Sanctioned Competition)

ILS だけが他のライフセービング競技会を ILS 認定とすることができる。そして全ての ILS 認定ライフセービング競技会は最新版 ILS 競技規則 (ILS Competition Rule Book) を用いなければならない。

- (a) ILS は世界選手権 (world championships), 国際選手権 (international championships), ILS 地域選手権 (ILS regional championships) そしてナショナル選手権 (national championships) を認定でき、その他の国際 (international) 又はナショナル競技会 (national competitions) も認定できる。認定の目的は、ILS 認定の下で開催される全ての種目が一貫した基準に準拠するようにし、またそれらが ILS のイメージを傷つけないようにすることである。そのような競技種目は ILS 正規会員団体が運営し、開催地域の正式な許可を得て、リスク管理及び所定の保険の手続きを行うものとする。ILS 認定でない競技種目では、世界記録の更新はない。全ての ILS 加盟団体は、自国／地域の競技種目全てが ILS に認定されるようにすることが推奨されている。
- (b) 主催団体には、競技会が認定に必要な仕様を満たし認定申請を完了する責任がある。認定申請は ILS 地域事務局 (ILS Regional Secretary) 及び ILS 本部 (ILS headquarters) により受理されなければならない。主催団体は申請手続きについて ILS 本部と連絡をとるものとする。ILS 認定申請様式はウェブサイト <https://www.ilsf.org> から入手可能である。
- (c) 全ての ILS 認定競技会において、ILS は、認定に必要な全ての仕様を満たす責任のある競技会の組織委員会との公式リエゾン (連絡係) に、ILS スポーツ委員会 (ILS Sport Commission) の議長 (又は議長から任命された者) を任命する。

---

<sup>2</sup> 【JLA 注釈】 JLA 認定競技会については、「基本規程」第 5 章、及び「認定競技会規程」を参照のこと

## 2.2. 競技会の組織と管理 (Competition Organisation and Administration)

- (a) ILSが実施する、又はILSが認定しILS加盟団体の下で実施される全ての競技会（世界選手権を含む）は、ILS競技規則、ILS及び関連する加盟団体の規約、それら規約に基づく規定の対象となる。一部の競技会には特別な条件が適用されることがあるが、その場合、競技組織団体は全ての参加者にその旨を明確にしたハンドブック、公報、案内などを発行する。
- (a)' 同様に、JLAが実施する、又はJLAが認定しJLA加盟団体の下で実施される全ての競技会は、JLA競技規則、JLA及び関連する加盟団体の規約、それら規約に基づく規定の対象となる。一部の競技会には特別な条件が適用されることがあるが、その場合、競技組織団体は全ての参加者にその旨を明確にした要項、公報、案内などを発行する。<sup>3</sup>
- (b) 競技会にエントリーすることで、参加者は競技会を管理する関連規則、規定、手順を知る責任と義務があることを認識しているものとする。
- (c) 競技会の主催者は、競技会へのエントリー資格及びエントリーにより課せられる責任に関する全ての情報を、競技者又は所属団体／クラブが入手できるようにせねばならない。
- (d) 競技会を適切に実施するため以下に例示するような情報提供も必要である：
- ・ 競技会の名称及び特性、
  - ・ ILS加盟団体／JLA加盟団体の名称及び住所、
  - ・ 主催者を明記した組織委員会（Organising Committee）の名称及び住所、
  - ・ 適切な免責事項、情報開示及びILS／JLA認定に関する勧告と、競技会は「ILS及び／又はILS加盟組織の権限及び規定の下に開催される」又は「JLA及び／又はJLA加盟組織の権限及び規定の下に開催される」という趣旨の声明文、
  - ・ 競技会の開催場所及び開催日、ブリーフィングの日時及びその他詳細情報、マーシャルへの集合、エントリーの開始日及び終了日、どのように（そしてどこで）エントリーできるか、そしてエントリー費用、
  - ・ 実施を予定している全ての競技 — 特殊な種目又は複数部門にわたる競技種目の場合、「区間」、コースの全長及びその他詳細情報が含まれていること、
  - ・ エントリーが拒否される条件及び年齢制限の詳細、
  - ・ 主催者が加入する保険（私有財産、公的責任、及び個人賠償責任保険の観点から適切なもの）についての詳細、
  - ・ 器材についての特殊な要求仕様の詳細（もしあれば）、及び器材検査の時刻と場所、
  - ・ 表彰と賞金の詳細一覧と、競技結果から賞が決定される方法、
  - ・ 上訴に関する特別な手続きや預託金についての詳細、
  - ・ 競技の延期、中止、放棄、取消、そして競技種目の一部又は全部を変更することに関する規定、

---

<sup>3</sup> 【JLA注釈】 この(a)'は、JLA主催／認定競技会に関するJLA独自の競技規則である（ILS原文には記述されていない）。

- ・ 競技者には、必要があれば、ILS/JLAの加盟団体、所属団体/クラブ又はその他の関連当局から書面による承認を得る義務があるとの喚起,
- ・ 競技会又は競技種目における競技者/チームの最大数, 及びその数の管理方法,
- ・ 競技中に器材の変更又は交換が必要になった場合の変更/交換方法,
- ・ クラフトに貼付するステッカーや競技者が着用する服装で、スポンサーが特定できるものに関するスポンサーの意向, 及び(もしあれば)競技者の器材又は服装で他の企業ロゴを表示することに関する制約,
- ・ 任命されたオフィシャルがそれぞれ何を判定するか,
- ・ 競技会に適用されるペナルティーの規模,
- ・ 水温: 競技会開催日の平均値,  
気温及び湿度: 競技会開催日の平均値,  
通常と異なるコースの危険性又は特殊器材の必要性: 例えば, ウェットスーツ, 補助具など,  
競技会場及びチェックイン場所への分かりやすいアクセス方法。

### 2.2.1. 各種委員会及びセーフティーオフィサー (Committees, Safety Officer and Security Officer)

各競技会について、当局は組織委員会、競技委員会を設置、及び安全・緊急事態職員を任命する。小規模な競技会では、複数の委員会の機能を一つに統合してもよい。

#### (a) 組織委員会 (Organising Committee)

組織委員会は、競技種目の競技及び非競技の観点から、安全、物流、及び運営組織を計画・展開する責任を負う。組織委員会は競技会の性質に応じて編成される。

組織委員会はライフセービング・スポーツ担当部局 (JLAではライフセービングスポーツ本部) と連携をとり、同担当部局に対して責任を負う。

組織委員会は競技委員会の編成を決定し、必要に応じて同委員会をサポートする。

組織委員会のどんな会合であっても、公式記録を取り、保管せねばならない。

#### (b) 競技委員会 (Competition Committee) <sup>4</sup>

競技委員会は、競技会の運営にかかる全ての事項について監督する。この委員会は、競技規則に従って、競技種目を変更、延期、取り消すことができ、また、競技会の場所を変更することができる。

競技委員会は競技会の体制化、運営に関する事項について、組織委員会、チーフレフリー、セーフティーオフィサー及び関連する緊急事態要員、専門家らから、適宜助言を求めるものとする。

競技委員会のどんな会合であっても、公式記録を取り、保管せねばならない。

#### (c) セーフティーオフィサー (Safety Officer)

セーフティーオフィサーを1人任命すること。セーフティーオフィサーは、競技及び競技以外の安

---

<sup>4</sup> 【JLA注釈】 競技委員会は、競技会の規模に応じて、大会委員会と呼称する場合がある。

全及び緊急対応の全てについて検討し、組織委員会及び競技委員会に助言しなければならない。規模の大きな競技会では、様々な役割責務を担う緊急・安全委員会を設置するのがよい。この委員会の委員長は組織委員会及び競技委員会メンバーをも務める。

セーフティーオフィサー又は緊急・安全委員会による助言は公式記録として保存されなければならない。

(d) セキュリティーオフィサー (Security Officer)

競技会によっては、別途、セキュリティオフィサーが置かれることがある。セキュリティオフィサーは、競技及び非競技の保安に関する全てについて検討し、組織委員会及び競技委員会に助言する。セキュリティオフィサーはテクニカルオフィシャルではないが、組織委員会及び競技委員会の委員に任命される。

セキュリティオフィサーは、提出した助言を公式に記録し、保存せねばならない。

(e) 競技管理委員会 (Event Management Committee) <sup>5</sup>

以下に競技管理委員会の権限と職務を記す (カッコ内は、競技規則内の参照箇所)：

- ・ チーフレフリーと並んで、競技を安全に、公正に判定し、効率的に運営するため、コースの調整を許可することができる (4.1 (h))、
- ・ オーシャンMにおいて、潮流又は海面又はビーチの状況によりスイムブイの距離が水際から90 mを超える場合、競技管理委員会は2つのボードブイをスイムブイとして使用すると決定してもよい。(4.21.2 注意)、
- ・ オーシャンMにおいて、潮流又は海面又はビーチの状況により、適切なM字コースを設定するのが実用的でない場合、代わりに、海上区間に従来のオーシャンマン／オーシャンウーマンのコースを使用し、ビーチコースはそのままにすると決定してもよい (4.21.2 注意)、
- ・ プール及び／又はビーチにおいてフィンの器材検査をする者を任命する (8.11.1)、
- ・ 競技者が用意したPDFの器材検査をする者を任命する (8.14.1)、
- ・ 競技者が用意したヘルメットの器材検査をする者を任命する (8.15.1)、
- ・ 水温及びウェットスーツの器材検査をする者を任命する (8.16.1)。

尚、JLA 主催競技会において、競技管理委員会を設置せず、競技会の競技委員会又は JLA 常設の競技運営・審判委員会がその職務を代行することがある。

### 2.3. 競技会の安全 (Competition Safety)

安全な競技会開催は不可欠であり、競技会の計画における優先事項である。組織委員会は、競技会関係者の安全確保のため、適切な資金を提供する責任がある。

(a) 組織委員会はセーフティーオフィサーを任命する。セーフティーオフィサーは、競技者、オフィシ

---

<sup>5</sup> 【JLA注釈】 この項目はILS競技規則の原文には無いが、「4. オーシャン競技規則」及び「8. 設備及び器材の規格と検査手順」の複数箇所からこの名称が出現することから、ここに項目を立て、JLA主催競技会における位置付けを記しておく。

ャル，そして観客その他の安全確保のため，競技施設と環境の全てが安全に使用でき，適切な安全計画，器材，クラフト，手法，緊急事態要員が所定のとおりであることを確認する責任を負う。

- (b) セーフティーオフィサーは組織委員会及び競技委員会のメンバーである。
- (c) 競技施設が安全であり，適切な安全・緊急対応計画，器材，手法及び要員が配置されていることを ILSスポーツ委員会/JLAライフセービングスポーツ本部が確認するまで，いずれの競技会も ILS/JLAの認定を受けられない。
- (d) いずれのオーシャン競技種目も，チーフレフリー又はセーフティーオフィサーが海の状態を評価し競技委員会に報告するまで実施されない。競技委員会のみが，競技会又は競技種目を取消す，予定変更する，又は開催場所を変更する権限を有する。
- (e) チーフレフリー又は任命された緊急対応コーディネーター（安全・緊急対応計画に記名あり）は，競技会中の緊急事態を掌握するものとする。

**注意：**チーフレフリーと緊急サービスのコーディネーターとの間で共通の言語が話される必要がある。必要に応じて，組織委員会がコミュニケーションを支援するために通訳を任命する場合がある。

### 2.3.1. 安全・緊急対応計画（Safety and Emergency Plan）

- (a) 組織委員会は以下の事項を担保する安全・緊急対応計画を準備する：
  - ・ 開催場所が競技会の目的に合致し適格であること，
  - ・ 競技者，競技会要員及び観客の安全性全般，
  - ・ 競技者，テクニカルオフィシャル，競技会要員，又は観客らの怪我又は疾病を含む大小の緊急時のため，所定どおり緊急事態要員が配置され手順が定まっていること。
- (b) 当該計画には以下の事項が含まれる：
  - ・ 競技者，テクニカルオフィシャル，競技会要員，観客が競技会で使用する施設の概説，
  - ・ 緊急対応の計画，指揮系統及び調整を主導する権限を有する個人を特定していること，
  - ・ 安全要員，プロトコル（陸上及び海上の監視を含む），そしてそれらの職務を特定していること，
  - ・ 緊急対応を展開するためのロジスティック情報を特定していること—すなわち，要員とその配置，競技会場へのアクセス情報，器材，コミュニケーション手順と方法，車両のアクセス，代替会場など，
  - ・ 緊急医療施設を特定していること—これには，応急処置サイトの数，場所及びタイプ，各サイトの設備，応急処置サイトに常駐又は待機している（呼べばすぐ来る状態の）要員などの情報が含まれる—また，現場の，及び現場以外の医療施設を特定していること—これには，最も近い医療センター及び病院の場所と連絡方法の詳細などの情報が含まれる，
  - ・ 傷病者の搬送又は救助チームが駆けつけるため待機している緊急車両の運営に関する手順を特定していること，
  - ・ 緊急時に受けられるサービス及びそれらの業務手順が特定されており，内外の当局やサービス

をどのように有効化すればいいか特定されていること、

- ・ 競技会中に競技者、テクニカルオフィシャル、競技会要員、観客らの死亡又は深刻な負傷事案があった際の意思決定の責任を特定していること。

(c) 緊急対応活動に協力予定の現地当局及び対応機関ともこの安全・緊急対応計画を共有し、ブリーフィングでチームマネージャー及びオフィシャルにも説明すること—緊急医療施設の利用法及び詳細を記した計画概要を各チームマネージャーに提供し、全ての競技会要員にも承知させること。

### 2.3.2. 非常時会場変更計画 (Relocation Contingency Plan)

(a) オープンウォーター競技では、悪天候により厳しい暑さ、寒さ、嵐、大波、うねりなど危険な状況が起こりうる。また、海や浜の汚染といった人為的災害も軽視できない。プール競技では、水質や停電、機械の故障という問題も起こり得る。

(b) 組織委員会は非常時会場変更計画を準備し、悪天候や競技会の一部又は全てが実施できない状況での手順及び手続きを明確にしておくこと。

(c) 非常時会場変更計画は以下のように作成する：

- ・ 競技会の一部又は全ての中止、取消、延期、会場変更を誰がどのような手続きで決定するかを特定している、
- ・ 競技会の一部又は全部が定められた時間内に安全に実施できる代替会場を特定している、
- ・ 中止、取消、延期、会場変更に関する決定及び指示を伝える責任の所在と手順を特定している、
- ・ 代替会場に競技者、競技会要員、器材を異動させるロジスティック計画の概要を説明している、
- ・ 代替会場での設営及びタイムテーブルを調整する責任の所在が記されている。

競技会の安全及び非常時計画、安全ガイドラインのサンプルなど詳細情報は<https://www.ilsf.org>を参照のこと。

## 2.4. 技術的安全及びテクニカルオフィシャル (Technical Safety and other Officials)

### 2.4.1. テクニカルオフィシャル行動規範 (Technical Officials Code of Conduct)

(a) 全てのオフィシャルは、ライフセービング競技の国内／地域内管理団体（日本ではJLA）により認定されていなければならない。また、競技会のオフィシャルに任命されるには、オフィシャル参加申請が承認されなければならない。

**注意：**経験又は専門資格を有する者に専門的な役割を与える場合がある：タイムキーパー、レコーダー、安全担当、医療担当、船上ジャッジ（IRBジャッジ）など。それらの役割担当者には役割と責任についての指示が与えられる。

(b) オフィシャルは競技チームを「コーチ」することはできず、また同様に手助けすることもできない。これに違反したと判断されたオフィシャルはそれ以降オフィシャルとして行動する資格を失う。ただし、競技者を含むグループにオフィシャルが講習会又は研修会を実施することは、この規則に違反したとみなされない。

- (c) 詳細については「2.14 行動規範」を参照のこと。
- (d) **ミーティング**: オフィシャルは競技運営にあたり、判定基準などを共有／確認するため、ミーティング（オフィシャル会議を含む）へ適宜参加すること。
- (e) **服装**: オフィシャルは白又は青の上着、白又は青のショートパンツ、白帽子を着用する。必要に応じてレインコート等の防雨／防寒具を着用することが出来る。

注意：主催者がイベント固有のユニフォームを提供する場合、それを着用する必要がある。

#### 2.4.2. ローカルイベントマネージャー (Local Event Manager)

ローカルイベントマネージャー（又は別名の管理者）は組織委員会に出頭し、競技会の間は競技委員会に出頭する。ローカルイベントマネージャーは競技規則及び組織委員会の決定の範囲内で競技会を組織する責任を負う。ローカルイベントマネージャーは開催場所において組織委員会を代表し、あらゆる問題に対処する。

#### 2.4.3. ILS イベントディレクター (ILS Event Director)

ILS が管理する競技では、ILS 競技ディレクターが任命され、ILS と ILS スポーツ委員会がライフセービング世界選手権を計画し進めるのをサポートし、競技委員会に競技について報告する。

組織委員会は以下の、及び以下に限定されないフィシャルの任命手配を行う：

テクニカル：

- チーフレフリー
- デピュティチーフレフリー
- エリアレフリー（オーシャン）
- イベントディレクター（プール）
- セクショナルレフリー
- レフリースチュワード／ヘッドスコアラー
- コンペティションリエゾンオフィサー
- コーススーパーバイザー
- スクルーティニアコーディネーター及びスクルーティニア
- ジャッジ
- チーフジャッジ
- フィニッシュジャッジ
- レーンジャッジ
- コースジャッジ
- スペシャリストジャッジ
- 電子機器スペシャリストジャッジ
- 計時ジャッジ

- 記録ジャッジ
- スターター
- チェックスターター
- マーシャル
- チェックマーシャル
- アナウンスコーディネーター及びコメントパネル
- 装備及び機器コーディネーター
- プレゼンテーションスチュワード
- 上訴委員長
- 上訴委員

非テクニカル：

- 規律委員長
- 規律委員
- セキュリティーオフィサー

安全：

- エリアリスク管理オフィサー
- ウォーターセーフティーコーディネーター
- パワークラフトコーディネーター
- ウォーターセーフティ要員
- コミュニケーションコーディネーター
- 医療/FAコーディネーター
- コース統計係

**注意：**

1. 小規模競技会では、安全性の規定が損なわれないのであれば、複数のオフィシャルの役割を兼ねさせてもよい。
2. 競技会に参加する者は常に、競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に注意し、観察したこと又は懸念事項を直ちに報告する必要がある。
3. 既に下した判断又は今後検討する必要がある判断を支持するために、オフィシャルは競技規則のどんな侵害又は違反をも記録しておくこと。

## **テクニカルオフィシャル (Technical Officials)**

### **2.4.4. チーフレフリー (Chief Referee)**

チーフレフリーは以下のことを行う：

- (a) 競技委員会と連携して、実際の競技実施に関連するすべての事項、及び最終的な結論がILS規則/JLA規則でカバーされていない事項について、責任を負う — また、チーフレフリーは、実施する競技会又は競技を管理する規則と規制を履行する、
- (b) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持ち、その決定をセーフティーオフィサー及び競技委員会に伝える、  
**注意：**チーフレフリーは、捜索及び救助活動を開始及び調整する権限を持つ — チーフレフリーはそれらの行動をセーフティーオフィサー及び競技委員会に直ちに報告せねばならない、
- (c) 競技者、パワークラフト、ウォーターセーフティ要員、オフィシャル、ライフセーバー/ライフガードから直接受けた安全上の懸念報告に直ちに対応し、セーフティーオフィサー及び/又は競技委員会に適切に伝達する、
- (d) エントリー条件、タイムテーブル、会場レイアウト、特別競技、安全性、緊急時の手配など、競技会の実施及びプログラムに関して、上級オフィシャル及び/又はチームマネージャー及び/又はコーチ及び/又は競技者向けの事前及び事後説明会を実施する、
- (e) 必要と思われる変更をプログラムに加え、遅滞なくすべての関係者に伝える — いかなる変更も、競技者とオフィシャルの安全と福祉を考慮したものであるべきである、
- (f) 報告、抗議、規則違反、及びオフィシャル、競技者、コーチ、マネージャー、競技に関する全ての事項について検討し裁定する — いかなる決定も「2.17 抗議及び上訴」にあるような上訴の対象となる場合がある。
- (g) 競技会又は競技中のいかなる不適切行為をも検討し裁定する — 必要とあらば、更なるペナルティーを検討するためILS/JLAに違反又は違反者を報告する、
- (h) 必要に応じて競技者を失格又は罰する権限を行使する — 関連する競技が終了するまで、チーフレフリーは失格又はペナルティーを通知する必要はない、
- (i) 必要に応じて、オフィシャル、チームマネージャー、コーチ、競技者らとのブリーフィングを実施する、
- (j) 競技会の実施に関して、適切な提案事項を添えてILS/JLA当局に報告する。

#### 2.4.5. デピュティチーフレフリー (Deputy Chief Referee)

デピュティチーフレフリーが置かれた場合、以下のことを行う：

- (a) 競技会の指揮と運営を補助し、チーフレフリーが不在の場合はその権限と責任を代行する、
- (b) チーフレフリーの権限内で、競技会の特定の範囲を管理する、又は特定の任務、権限を与えられる、
- (c) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持ち、その決定をチーフレフリーに伝える、
- (d) デピュティチーフレフリーも、必要とあらば捜査及び救助活動を開始する権限を持ち、セーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はそれらの代理人に報告する。

#### 2.4.6. エリアレフリー（オーシャン）（Area Referee (Ocean)）

エリアレフリーが置かれた場合、以下のことを行う：

- (a) チーフレフリー又はデピュティチーフレフリーに対して、必要条件に対する適切なコースレイアウトを含め、競技会の特定エリア又はセクション又はいくつかの競技のまとまりを管理又は体制化する責任を負う、
- (b) 特定の管理エリアでの競技会及び競技種目を統制する規則及び規定を実施する、
- (c) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、担当するエリアでの競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持ち、その決定をチーフレフリーに伝える、
- (d) エリアレフリーは、エリアリスク管理オフィサーと連携して、捜査及び救助活動を開始する権限を持ち、直ちにセーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はその代理人に報告する、
- (e) チーフレフリーの裁量で、（エリアレフリーが）抗議を検討し裁定する、
- (f) 管理下にあるセクショナルレフリーらに、担当エリアを管理するための特定の要件について説明する、
- (g) エリアでの実施に関して、レフリー又はエリアの権限者に報告及び提案事項を提供する。

#### 2.4.7. イベントディレクター（プール）（Event Directors (Pool)）

イベントディレクターが置かれた場合、以下のことを行う：

- (a) チーフレフリーに対して、競技会の特定エリア又はセクション又はいくつかの競技のまとまりを管理又は体制化する責任を負い、特定の管理エリアでの競技会及び競技を統制する規則及び規定を実施する — 特にイベントディレクターは以下のことを行う：
  - 競技開始のため準備する（例えば、スターティングブロック上で位置につく）ようホイッスルを吹く。
  - 競技者がスタートの位置につくようホイッスルを吹く前に、器材がセットされ、チーフタイムキーパーが準備完了の合図を出していることを確認する、
  - 競技者が配置についていることをスターターに合図し、スターターに引き継いで、そして、
  - 競技者のフィニッシュ順位を記録する、
- (b) イベントディレクターは、失格を含めて各競技に関するすべての結果書類を監督及び照合することと、それらをレコーダーが受け取っていることを確認する責任を負う、
- (c) イベントディレクター（及びスターター）は、スタート条件に違反があった又はスタートが公平でなかったと思われた場合、ホイッスルの合図又はその他の手段で競技者を呼び戻す責任を負う。

#### 2.4.8. セクショナルレフリー（Sectional Referee）

セクショナルレフリーが置かれた場合、以下のことを行う：

- (a) チーフレフリー又はエリアレフリーに対して、必要条件に対する適切なコースレイアウトを含め、競技会の特定セクションを管理又は体制化する責任を負う、
- (b) 特定の責任セクションでの競技会及び競技種目を統制する規則及び規定を実施する、

- (c) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、担当するセクションでの競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持ち、その決定をエリアレフリー及びエリアリスク管理オフィサーに伝える、
- (d) セクショナルレフリーは、エリアレフリー、エリアリスク管理オフィサーと連携して、捜査及び救助活動を開始する権限を持ち、直ちにセーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はその代理人に報告する、
- (e) チーフレフリー又はエリアレフリーの裁量で、(セクショナルレフリーが) 抗議を検討し裁定する、
- (f) 任命されたすべてのオフィシャルが各自の立場と責任を認識していることを確認する、
- (g) チーフレフリー又は担当のILS/JLA当局者に、セクションの運営に関する報告及び提案事項を提供する。

#### 2.4.9. レフリースチュワード/ヘッドスコアラー (Referee Steward/Head Scorer)

- (a) チーフレフリーの監督の下で行動する、
- (b) 競技会の全ての競技及び点数スコアの手書き記録及び電子記録の保持について責任を負う、
- (c) リザルトカード及び競技実施に必要な文房具の供給と配布を手配する、
- (d) 競技会の実施に必要な記録手順を監督し、レコーダーをセクショナルレフリーに割り当てる、
- (e) 各セクションからの結果集計を監督する、
- (f) セクショナルレフリーの求めに応じて、ラウンド、準々決勝、準決勝、決勝のドローを監督する、
- (g) ジャッジがマーキングシートを用いて結果を決定する競技、例えばSERC、において、編集エラーが発生した際、レフリースチュワードは直属のレフリーと連絡を取り結果を決定する、
- (h) チーフレフリーの署名を得て世界（及びその他の）記録申請書を完成させる、
- (i) 競技結果についてメディアと連絡を取る、
- (j) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、いずれの懸念事項をも直ちにレフリー又はその代理人及びセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.10. コンペティションリエゾンオフィサー (Competition Liaison Officers)

コンペティションリエゾンオフィサーが置かれた場合、以下のことを行う：

- (a) (もし置かれていれば) リエゾンコーディネーター及びエリアレフリー又はセクショナルレフリーの監督下で行動する、  
**注意：**通常、リエゾンコーディネーターは複数のリエゾンオフィサーの内の1人であり、チーフレフリーと連携してリエゾンの処理を合理化し、可能な限り実用的、効率的に競技会を実施できるようにする、
- (b) 競技者、コーチ、チームマネージャー、オフィシャルとの間に立ち、競技の実施に関して支援し、

競技規則や質問のコミュニケーションを図る、

- (c) 競技者，コーチ及びチームマネージャーがアクセスできるように配置される，
- (d) 競技者，コーチ及びチームマネージャーから提起された，競技の実施，コース又は安全性に関するいかなる懸念についても，チーフレフリー，エリアレフリー又はセクショナルレフリー又はイベントディレクターに助言する，
- (e) 競技者，コーチ，チームマネージャーに対して，抗議や上訴の手続き，及びチーフレフリーへの最善のアプローチ方法について案内をする，

**注意：**リエゾンオフィサーらは，常にバイアスなしに職務を遂行し，オフィシャル，競技者，コーチ，チームマネージャーらに対してオープンで中立的な立場を維持した業務を実践する，

- (f) 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及びセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.11. コーススーパーバイザー (Course Supervisors)

コーススーパーバイザーが置かれた場合，以下のことを行う：

- (a) チーフレフリー又はエリアレフリー又はセクショナルレフリー又はイベントディレクターに対して，安全，適切，公平なコースレイアウトについて責任を負う，
- (b) エリアリスク管理オフィサー (ARRO) と連携して，競技会中に一般に予想されるビーチ及び水中ビーチの条件を評価する — 利用可能なビーチ及び砂，潮汐，カレント，うねり，風の状況及びその他関連するものを含む，
- (c) パワークラフトコーディネーター及びその他任命された担当者と協力して，競技会前及び競技会中の水中コースの設置及び調整を監督し，可能な限り競技条件の遵守を確保し，すべての競技者にとって安全，適切，公平，平等なレース条件を提供する，
- (d) すべての競技者にとって実用的，安全，公平，平等なレース条件を提供するために，水中イベントに関連するビーチ及びライフセービング競技コース，ビーチでのコースの設定と調整を監督する，
- (e) コースの条件に関して，競技者又は競技者パネル，コンペティションリエゾンオフィサー，その他の職員との連絡を取る，
- (f) 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はエリアリスク管理オフィサー (ARRO) に報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.12. スクルーティニアコーディネーター及びスクルーティニア (Scrutineer Coordinator and Scrutineers)

スクルーティニアコーディネーターが置かれた場合，以下のことを行う：

- (a) チーフレフリーの監督の下で行動する,
- (b) 計測装置と器材検査の統制及び組織化を担当し, 全てのクラフト, ポート, 及び／又は機器がILSから承認された現行仕様に従って動作することを確認する,
- (c) 器材検査エリアと計測装置の正しいセットアップを手配する,
- (d) 使用する器材検査の基準が, 現行の装置と器材の仕様に沿っていることを確認する,
- (e) 競技装置及び器材の(検査)手続きプログラム及びタイムテーブルを手配し記録をメンテナンスする,
- (f) スクルーティニアを監督し, シフトを組んで彼らが担当する場所, 時間そして特定の責任を割り当てる,
- (g) スクルーティニアと協力して, 競技者の器材が競技アリーナに入る前にクラフトと器材を検査し調べる,
- (h) 競技種目を観察し, 特定のクラフト, モーター, 器材の性能がメーカーの性能仕様を越えていると思われる場合, それら観察結果をチーフレフリーに知らせる,
- (i) 必要だと思われる場合, 又は求めがあった場合, 単一競技又は競技会の開催中及び／又は終わってからの検査を手配する,
- (j) 違反及び競技者, マネージャー, コーチが提起した懸念事項について, チーフレフリーと連絡を取る,
- (k) チーフレフリー又は当局者に, スクルーティニアプログラムの実施に関するレポート及び推奨事項を提出する,
- (l) 競技会に参加する競技者, オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し, いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば, オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく, チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.13. 装置及び器材コーディネーター (Gear and Equipment Coordinator)

装置及び器材コーディネーターが置かれた場合, 以下のことを行う:

- (a) チーフレフリーの監督の下で行動する,
- (b) 競技用の装置及び器材の正しい組み立てに責任を持つ,
- (c) 装置及び器材をアシストする組織委員会の作業員を監督する,
- (d) 装置及び器材の修理及び警備／返却を調整, 交代, 手配する,
- (e) 組織委員会及びオフィシャル向けに発行された装置と器材の記録を整備する,
- (f) 装置及び器材を他の場所に移動するのを監督する,
- (g) 競技会中の装置及び器材のどんな紛失又は破損でもチーフレフリーに報告する,
- (h) 競技会終了時に, 全ての装置及び器材が水洗いされ適切に収められていることを確認する,

- (i) 装置及び器材部門に関するレポート及び推奨事項をチーフレフリー又はILS/JLA担当者に提供する、
- (j) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.14. アナウンスコーディネーター及びコメントパネル (Announcing Coordinator and Commentary Panel)

アナウンスコーディネーターが置かれた場合、以下のことを行う：

- (a) チーフレフリーの監督の下で行動する、
- (b) 協力関係にあるスポンサー及び組織委員会が設定したILS/JLAのプロモーションテーマを含め公にアナウンスすること及び（アナウンスのための）システムに注意を払う — アナウンスコーディネーターは緊急時の安全衛生のアナウンスについてセーフティーオフィサーと連絡を取る、
- (c) アナウンスパネルチームメンバーのシフト名簿、担当場所、担当職務、責任範囲を監督する、
- (d) アナウンスのシステム及び様々な器材のセットアップについてアドバイスしアシストする、
- (e) 観客、競技者、コーチ、マネージャー、オフィシャル、作業員らに、競技会の進行状況をアナウンスチームから確実に通知するようにする、
- (f) アナウンスすべき競技会タイムテーブル及び特別イベントの情報をアナウンスチームに知らせ、競技会の詳細についてアナウンスチームが有益で正確であることを確認する、
- (g) チーフレフリー、セーフティーオフィサー又は組織委員会の求めに応じて、競技の開催やその他の事項を説明しアナウンスする、
- (h) 賞、メダル、VIP及びスポンサーの紹介について、式典部門と連携する、
- (i) アナウンス部門の運営についてチーフレフリー又はILS/JLA担当者に報告及び推奨事項を提出する、
- (j) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.15. ジャッジ (Judges)

##### 2.4.15.1. 一般事項 (General)

- (a) 競技会におけるジャッジの役割は多種多様だが、主たる活動は、ILS/JLA競技規則及びチーフレフリーの指示に従って、競技運営を監督及びアシストすることである。
- (b) 全てのジャッジは、競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に注

意し、いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー又はセクショナルレフリー又はイベントディレクター及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

(c) 競技会の規模に応じてジャッジの各役割を組み合わせてもよく、以下のカテゴリーに分類できる。

#### 2.4.15.2. チーフジャッジ (Chief Judges)

チーフジャッジは以下のことを行う：

- (a) チーフレフリー、エリアレフリー／セクショナルレフリー又はイベントディレクターに対して責任を持つ、
- (b) 競技のコース設営を監督又はアシストする、
- (c) エリア／セクションのジャッジのシフト名簿、ローテーションの作成、配置場所の定義を行い、任務及び責任範囲を割り当てる、
- (d) フィニッシュを最適に判断でき、及び競技結果を最適に記録できるよう、ジャッジを配置する、
- (e) 必要に応じて、ジャッジ又はレコーダーの決定を判定する、
- (f) 競技規則の違反又は侵害をエリアレフリー／セクショナルレフリーに報告する、
- (g) 結果を調整し、結果のカードに署名し、セクショナルレフリーに渡す、
- (h) スタートした競技者の数を数え、全ての競技者がコースを完了したことを確認し、緊急時においてはチーフレフリー及び／又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に通知する。

#### 2.4.15.3. フィニッシュジャッジ (Finish Judges)

フィニッシュジャッジは以下のことを行う：

- (a) 競技者のフィニッシュ順位を判定する、
- (b) 競技規則の違反又は侵害をチーフレフリー又はエリアレフリー／セクショナルレフリー又はイベントディレクターに報告する、
- (c) 競技のフィニッシュを妨害なく最も良く見渡せるようフィニッシュラインの両側に位置する、
  - ・ 必要に応じてILS/JLA判定補助具（例えば、ビデオ）を参照してフィニッシュを判定する、
  - ・ 判定にばらつきがある場合、レフリー又はチーフジャッジの監督の下、多数派の判定結果を採用する、
  - ・ 競技結果に留意しつつチーフジャッジ又はチーフレフリーに助言する、
- (d) 可能であれば、着順が判定されたとき、順位を示すものを発行する、
- (e) 競技コースの設置をアシストする。

#### 2.4.15.4. レーンジャッジ (IRB) (Lane Judge (IRBs))

レーンジャッジ (IRB) は以下のことを行う：

- (a) 競技の観察を通し、事実のジャッジを行う、
- (b) できれば2人1組になり、各競技種目の各レーンに配置されること、
- (c) 競技全体を通して選手の動作を観察する — 特に指定されたビーチの位置からスタートとゴールの手順や競技規則に従っている事を確認する、
- (d) 各レース終了時に、必要に応じてIRBとモーター等の確認を行う、
- (e) 競技終了時にIRBを確認する際は、選手がその場にいる事を確認し、異常（失格の内容）が確認された場合は、レーンジャッジと選手との誤解を避ける為に、もう一人のジャッジも立ち合い、選手に内容を伝える、
- (f) ドライバーがIRBから下船をする際、つまずき転倒する様な激しいビーチングや危険な操船を観察する、
- (g) ドライバーがしっかりとポンツーンに座り両足がIRBの床に乗っている事を、IRBの外に足を出し下船する直前に確認する、
- (h) エリアレフリー／セクショナルレフリー及びチーフレフリーに対して責任を負う。

**注意：**チーフレフリーに違反が報告されるまで選手を失格には出来ない。

#### 2.4.15.5. レーンジャッジ（プールレスキュー）（Lane Judges (Pool Rescue)）

レーンジャッジ（プールレスキュー）は以下のことを行う：

- (a) 特定のレーンに配置され、そのレーンの競技において起こった事実を観察する（ジャッジを担当する）、
- (b) 競技規則の違反又は侵害をチーフジャッジ、又はエリアレフリー／セクショナルレフリー又はイベントディレクターに報告する、

**注意：**競技者又はチームは、違反がチーフレフリーに報告されるまでは何らペナルティーを与えられるべきでない。

#### 2.4.15.6. コースジャッジ（Course Judges）

コースジャッジは以下のことを行う：

- (a) 競技において起こった事実を観察する（ジャッジを担当する）、
- (b) 絶えず観察を継続するため、可能な限り高所に配置されたり、オーシャン競技ではボートに配置されたりする、
- (c) 安全上の懸念事項又はレスキュー事態があれば直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する、
- (d) ボートに乗船している場合、必要に応じてそれは救助艇としても活動し、レスキューの際はアシストする — クルーは、競技エリアの両サイドにおいて、ボードライダー、他のクラフト及びサーファーと（実施する競技のタイプを考慮した）適切な距離を保つ、
- (e) 競技会又は規則のどんな侵害でも、観察及びノートして、チーフジャッジ、又はエリアレフリー／セクショナルレフリー又はイベントディレクターに報告する、

- (f) 特に競技条件の変更があった時は、競技会が始まる前及び進行中に全てのブイの並びをチェックする、
- (g) IRB競技では、ドライビング及びクルーの技術が「ドライビング及びクルー安全手順」に沿っているか確認する、
- (h) ドライバー及び／又はクルーのテクニックが警告事項だとみなされる場合、コースジャッジはドライバー及び／又はクルーメンバーに正しい安全テクニックを警告する権限を持つ — それら違反はチーフレフリーに報告される、
- (i) 操船又はクルーのテクニックが安全でなく危険であるとみなされる場合、その競技についてある個別のクルーメンバーを失格とする、又はその競技及びそれ以降の競技会で失格にするかの勧告を添えてチーフレフリーに報告する、

**注意：**

1. 「警告事項 (cautionary matter)」とは、常識と技術が無視される状況又は彼ら自身を危険にさらす状況になった時、クルーに求められる基準に違反することを指す、
  2. 「安全でない又は危険又は安全違反」とは、クルーが、自分らの安全、自分らのIRB、他の競技者又は彼らのIRBに、負傷又は衝突の危険を引き起こす又は危険に晒すことを指す。
- (j) ボートに乗船しているコースジャッジは以下のことを行う：
    - (i) 競技の開始前にセクショナルレフリー／チーフジャッジに連絡し、指示を受ける、
    - (ii) 競技者が全てのブイを回らなければならない競技では、海の状況が許す限りブイのラインの内側に常駐する、
    - (iii) ボードレスキュー及びレスキューチューブレスキュー及びレスキューチューブ競技では、コースジャッジ及びフィニッシュジャッジのような働きをし、チームが競技会の条件及び競技規則を遵守しているかどうかをすぐに観察できるよう常駐する、
    - (iv) 競技会又は規則のどんな侵害でも、観察及びノートして、チーフジャッジ、又はエリアレフリー／セクショナルレフリー又は（その違反に）関係するジャッジと連携して裁定する者に報告する。
  - (k) IRB競技では、ボートに乗船したコースジャッジ及び専用ボート (duty boat) クルーは、以下のことを行う：
    - (i) チーフレフリーからの要請があった場合、溺者役をブイまで移送する — 指示に従い、競技開始前に指定されたブイに溺者役を下す、
    - (ii) クルーが競技の競技会の条件及び競技規則を遵守しているかジャッジがすぐに観察できるよう、IRBを連ブイと同じラインに位置させる、
    - (iii) 全ての溺者役が回収されるまでブイ付近に留まる。

#### 2.4.15.7. スペシャリストジャッジ (Specialist Judges)

スペシャリストジャッジは競技を裁定するが、それは SERC に限定されない。

#### 2.4.15.8. 電子機器スペシャリストジャッジ (Electronic Device Specialist Judges)

- (a) ジャッジ及び順位の確定及び競技中の競技者の行動を確認するために、電子機器スペシャリストジャッジを置くことができる。

**注意：**

1. ILS/JLA当局は、その裁量で、どのソースを最終決定に使うか指定する、
  2. 必要とあらば同一競技会で複数の異なる機器を最終決定のために用いてもよい。
- (b) 電子機器スペシャリストジャッジ（ビデオ、フィニッシュゲート、カメラ、ドローンオペレーター等を含む）は、オフィシャル及び／又は指定された外部ソース（例えば、テレビ／ライブストリームなど）が操作する機器を使用して、指定されたジャッジが見るためにレースを記録するものとする。
  - (c) チーフレフリー、又はエリアレフリー／セクショナルレフリー又はイベントディレクターに対して責任を負い、特定の競技を監督するように配置／及び、又はセットアップされる。セクション／エリア内での電子記録デバイス使用の責任を負う。
  - (d) 指示通りに、競技の特定のフェーズ及び競技のフィニッシュを記録する。

#### **2.4.15.9. 計時ジャッジ (Timekeeping Judges)**

計時ジャッジは以下のことを行う：

- (a) チーフレフリー又はチーフジャッジ又はイベントディレクターに対して責任を負う、
- (b) 競技の計時を特に行うものとする — それによりこれらのジャッジは「事実の判定者」とみなされる、
- (c) 要求されている、又は競技規則又はセクショナルレフリーにより課されるタイム又はタイムのある全競技のタイムを計測し記録する、
- (d) 計時の他、割り当てられたジャッジの役割を実行できるようにしている。

#### **2.4.15.10. 記録ジャッジ (Recording Judges)**

記録ジャッジは以下のことを行う：

- (a) チーフレフリー又はチーフジャッジ又はイベントディレクターの監督の下活動する、
- (b) マーシャルと連絡を取り、ドローをアシストし、競技結果及びドロー結果をアナウンサーに伝える、
- (c) 各々配置された競技者又はチームが競技でフィニッシュした順位を記録し、チーム競技ではチームの全メンバーが記録されるようにする、
- (d) チーフレフリー／チーフジャッジがリザルトカードをチェックしサインするようにする、
- (e) 競技結果／失格の記録を保持し、競技結果がレフリースチュワード及びマーシャルに渡るようにする、
- (f) 必要に応じて、得点又は総当たり戦の累進的合計を保持する、
- (g) 必要に応じて記録の役割の他、割り当てられたジャッジの役割を実行できるようにしている。

#### **2.4.16. スターター (Starters)**

スターターは以下のことを行う：

- (a) イベントディレクター又はチーフレフリーから競技者を委ねられた時点で、コース条件に関するブリーフィングを含め、スタートについて競技者に対して、チェックスターターと共に独立した管轄権をもつ、
- (b) 高所、又はスタートの条件が公平かどうかを最も良く観察でき、そしてチェックスターターの合図が見える場所に位置する、
- (c) スタートが差し迫っていることを競技者に適切に合図するようにする、
- (d) スタートが公平でないとスターター又はチェックスターターが判断すると、ホイッスル、2発目のスタートピストル又はその他の方法で競技者を呼び戻す、
- (e) フライング、又はスターターの指示への不服従、又はスタート時のいかなる妨害に対しても、競技者を失格、又は除外にする力を持つ、
- (f) 全ての失格をセクショナルレフリーに知らせる、
- (g) 競技のスタート前に、競技者、ウォーターセーフティー、専用ボート、ジャッジ、器材及び（IRB競技での）溺者役が正しく配置されていることを確認する、
- (h) 競技の条件に関する疑問点をチーフレフリーに照会する、
- (i) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

**注意：**スタート時、耳の保護具の着用を強く推奨する。

#### 2.4.17. チェックスターター（Check Starter）

チェックスターターは以下のことを行う：

- (a) スターターと連携する、
- (b) 競技において適切な位置にいて、競技者が整列してスタートの用意ができた時に合図をする。
- (c) スタート時に違反があった、又はスタートが公平でなかったと判断した場合、ホイッスル合図又はその他の手段により競技者を呼び戻す。
- (d) 必要に応じて、競技中にコースジャッジの役割を求められる、例えば、チーム競技でのリレーバトン／チェンジオーバー、器材交換及び前後進レバー（gear）の配置、
- (e) スターターと連携して、競技のスタート前に、競技者、ウォーターセーフティー、専用ボート、ジャッジ、器材及び（IRB競技での）溺者役が正しく配置されていることを確認する、
- (f) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに

直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.18. マーシャル (Marshall)

マーシャルは以下のことを行う：

- (a) チーフレフリー，エリアレフリー／セクショナルレフリー又はイベントディレクターの監督の下行動する，
- (b) スタートラインに進む前に，競技者のエントリーが適切であり，競技者が正しく招集されていることを確認する責任を負う，
- (c) エントリー条件，ドロウ，競技の順番，タイムテーブル，スポンサーのユニフォーム，コース及びその他の手配について，チーフレフリー，エリアレフリー／セクショナルレフリー又はイベントディレクターと連携する，
- (d) 全ての競技者がILS競技総則を遵守していることを確認する，
- (e) ギア (gear)<sup>6</sup>及び器材の仕様又はILS標準又は安全要件を競技者が遵守しているかについてスクルーティニアと連携する，
- (f) 違反又は不正行為についてチーフレフリーに助言する，
- (g) ドロウを競技者に開示し，マーシャルエリアの競技者の規律を維持する，
- (h) エントリー及びドロウに関して，アナウンサー，レコーダー，計時及びスチュワードと連携する，
- (i) 競技者をドロウ順に集める，
- (j) 出場する競技者の数とその競技の人数制限に準拠しているか確認する，
- (k) 水に入るレースにおいて，チーフレフリー，マーシャル及びコース統計係と連携し，スタートする競技者数を確認する，
- (l) 競技会に参加する競技者，オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し，いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はエリアリスク管理オフィサー (ARRO) に報告する — もし事態が破滅的であれば，オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく，チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.19. チェックマーシャル (Check Marshall)

チェックマーシャルは以下のことを行う：

- (a) マーシャルをアシストする，
- (b) いかなる競技者チーム変更をもマーシャル，エリアレフリー／セクショナルレフリー又はイベントディレクター及びチーフレフリーに報告する，
- (c) 競技者，器材のいかなる違反又はその他の不正行為をマーシャル及びチーフレフリーに報告する，
- (d) マーシャルをアシストして，競技者をスタート準備のため指定された順に並べ，各レース開始前に

---

<sup>6</sup> 【JLA注釈】 前後進レバーを含むIRBエンジン回りのことを指していると思われる。

全ての競技者名とレース番号が記録されていることを確認する、

- (e) スタートラインまで全競技者に同行し、全競技者がドローの通りに位置していることを確認する、
- (f) 全競技者の服装がこの競技規則又はILSが定めた他の条件に従っていることを確認する、
- (g) IRB競技では溺者役マーシャルと呼ばれ、溺者役が自分のブイの位置を認識し、十分な時間を持って安全に沖のブイまで移送し、レースが円滑に進む様にする、
- (h) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.20. 式典スチュワード（Presentation Steward）

式典スチュワードが置かれた場合、以下のことを行う：

- (a) チーフレフリーに対し、表彰される競技者、受賞者を順序良く待機させる責任を負い、全てのトロフィー及び賞が表彰台で準備されていることを確認する、
- (b) VIPに関するILS/JLA礼典を含め、式典についてのILS/JLA及びスポンサー要件に注意する、
- (c) 賞、メダル及びその他表彰の適切な紹介についてアナウンスコーディネーターと連絡を取る、
- (d) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、いずれの懸念事項をも直ちにセーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はその代理人に報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.21. 上訴委員長（Appeals Committee Convenor）

上訴委員会の招集者、つまり上訴委員長はチーフレフリーから付託された事案を裁定するための上訴委員会委員を任命する責任がある。

#### 2.4.22. 上訴委員（Appeals Committee members）

上訴委員は、チーフレフリーから付託された全ての事案について裁定を下す責任を負う。上訴委員長は、適切な上訴委員会の委員を選定し、個々の事案について裁定させる。

### 非テクニカルオフィシャル（Non-Technical Officials）

#### 2.4.23. 規律委員長（Disciplinary Committee Convenor）

規律委員会の招集者、つまり規律委員長は、競技委員会、チーフレフリー又は上訴委員から付託された事案を解決するために委員を任命する責任がある（「2.17 不正行為」を参照すること）。

#### 2.4.24. 規律委員（Disciplinary Committee members）

規律委員は、競技委員会、チーフレフリー、又は上訴委員会から付託された全ての事案に裁定を下す責任を負う。規律委員長は、適切な規律委員会の委員を選定し、個々の事案について裁定させる。

## 安全オフィシャル (Safety Officials)

### 2.4.25. セーフティーオフィサー (Safety Officer)

セーフティーオフィサーは安全委員会の議長を務め、組織委員会及び競技委員会のメンバーとして助言を提供し、そして以下のことを行う：

- (a) チーフレフリーと連携して活動する、
- (b) 緊急事態における迅速且つ効果的な安全、レスキュー及び復帰を提供する安全、捜索及びレスキュー及び緊急時対応計画を策定し、実行する — このプログラムは競技を実施する競技委員会によって承認されるものとする、
- (c) 競技者、パワークラフト、ウォーターセーフティ要員、オフィシャル及びライフセーバー／ライフガード要員から直接得た安全上の懸念報告に直ちに対応及び記録し、必要に応じてチーフレフリー及び／又は競技委員会と連絡を取る、
- (d) 競技者、オフィシャル及びその他競技に関する要員と競技会周辺をサポートする要員について、その安全と福祉に常に留意すること。重大な損害が発生する看過できないリスクがあると結論付けるに十分な根拠があるときは、いつでも競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持つ。その決定は競技委員会に報告する、
- (e) セーフティーオフィサーは、必要とあらば救助活動を即座に開始及び調整し（指揮し、統制する）、チーフレフリー及び競技委員会に通知する権限を有する、
- (f) 緊急時には、他のサービスを調整して、重要連絡、輸送及び熟練要員を提供する、
- (g) 競技会前に関連する全てのサービスについて概要説明し、以下のことを確実なものとする：
  - (i) 他のサービス関係者が各自の責任を認識しており、
  - (ii) 全レフリーが安全及び緊急時プランを認識している。
- (h) 医療／応急処置／緊急事態／安全の要員及び地域の緊急事態に対応するグループ（警察、救急車、消防及び関連する公共機関など）と連携し調整する、
- (i) 競技会中は都合の良い場所に位置し、チーフレフリーと常時連絡可能な状態にしておく、
- (j) ライフセービングサービス及び他の指定された要員に、緊急プラン及び緊急時に必要な支援について説明する、
- (k) チーフレフリー又は担当のILS当局者に、安全システムの運用に関するレポート及び推奨事項を提供する、
- (l) セーフティーオフィサーは、競技会の規模に応じて、資格とスキルが許す限り、安全チームの他の役割の責任を引き受けてもよい。

### 2.4.26. エリアリスク管理オフィサー (ARRO) (Area Risk and Response Officers (ARRO's))

- (a) エリアリスク管理オフィサーは競技エリアごとに任命され、セーフティーオフィサーに報告せねばならない（報告の義務を負う）。
- (b) エリアリスク管理オフィサーは、エリアレフリー及びセクショナルレフリー又はイベントディレクター及びコーススーパーバイザーと協力し、以下のことを行う：

- (i) 競技エリアの初期リスク評価を実施し、その後も定期的にリスク評価を行い競技状況を継続的に監視する、
  - (ii) 競技が完了するまでの時間を監視し、競技条件に関するいかなる懸念をも記録する、
  - (iii) スタートした競技者に対するフィニッシュした競技者の割合の傾向を監視する、
  - (iv) コース統計係が不在の場合、スタートした及びフィニッシュした競技者の記録を含めてその役割を引き受け、各レースでフィニッシュしていない競技者数を算出する — もし説明のつかない競技者がいる場合、直ちにセーフティーオフィサーに連絡し、それからセクショナルレフリー／レフリーに伝える、
  - (v) 競技者、パワークラフト・ウォーターセーフティ要員、オフィシャル及びライフセーバー／ライフガード要員から競技会の状況に関するフィードバックを取得し、記録し、そして直ちに伝達し、安全上の懸念をセーフティーオフィサー及びエリアレフリーに直接報告する — その結果はセーフティーオフィサーに伝えられる。
- (c) エリアリスク管理オフィサーは競技会に関与する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、重大な損害という看過できないリスクがあると結論付けるに信頼に足る根拠があるときはいつでも、競技会の全部又は一部を直ちに停止する権限を持ち、その決定をセーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はその代理人に報告を上げる。
  - (d) エリアレフリー／セクショナルレフリーと連携して、エリアリスク管理オフィサーは、どんな捜索及び救助活動でも開始する権限を有し、直ちにセーフティーオフィサー及びチーフレフリー又はそれらの代理人に通知する。
  - (e) エリアリスク管理オフィサーは、セーフティーオフィサー又は政府機関の代表者の監督の下、フォワードコーディネーター (forward coordinator) として管理し続ける必要がある — これは混乱し矛盾した要員への指示及び救助資産及び群衆統制に関する矛盾した説明を避けるためである。

#### 2.4.27. パワークラフトコーディネーター (Power Craft Coordinator)

パワークラフトコーディネーターが置かれた場合、以下のことを行う：

- (a) チーフレフリーの、及び緊急時においてはセーフティーオフィサー及び／又はエリアリスク管理オフィサーの監督下で活動する、
- (b) IRB (船体、エンジン等) に対してのアドバイスをしたり、競技が実施出来る様にスタッフとIRBの調整をする
- (c) ウォーターセーフティクラフト及びボートに乗船しているジャッジの両方の活動を監督する、
- (d) 競技会前及び競技会中のコース敷設を監督する、
- (e) ウォーターセーフティコーディネーター (が任命されていない場合) の責任 (役割) を引き受ける — 競技会のウォーターセーフティに関する事項を監督する、
- (f) クルーの配置及び職務についてシフト、ローテーションを組み、クルーに説明する、
- (g) IRBがしっかりと整備され、装備が整って競技が出来る状態にする、
- (h) クラフトが使える状態であるか、ウォーターセーフティ活動及びジャッジに使えるかに関する問

題をチーフレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに報告する、

- (i) 全てのレフリー及びコーディネーターと連絡が取れる効果的なコミュニケーションシステムが整っているか確認する、
- (j) セーフティーオフィサーと常時連絡を取り合う、
- (k) チーフレフリー又は担当のILS当局者に、安全システムの運用に関するレポート及び推奨事項を提供する、
- (l) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、いずれの懸念事項をも直ちにレフリー又はその代理人及び／又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### **2.4.28. ウォーターセーフティーコーディネーター (Water Safety Coordinator)**

ウォーターセーフティーコーディネーターが置かれた場合、以下のことを行う：

- (a) チーフレフリーの、及び緊急時にはセーフティーオフィサー及び／又はエリアリスク管理オフィサーの監督下で活動する、
- (b) 水に入る競技の進行中、競技会の安全について責任を負う、
- (c) ウォーターセーフティー要員を監督し、シフトを組む、
- (d) レスキュークラフト及びウォーターセーフティー要員の配置を調整する、
- (e) ウォーターセーフティーのレベルに関するいかなる懸念事項についてセーフティーオフィサーの注意を喚起する、
- (f) IRB競技において（任命されている場合）セーフティーオフィサーとして、溺者役やクルーの安全を守る
- (g) 全ての競技会において、ウォーターセーフティーが所定のとおりで、事前に評価された要求とおりであることを確認する、
- (h) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### **2.4.29. ウォーターセーフティー要員 (Water Safety Personnel)**

ウォーターセーフティー要員は以下のことを行う：

- (a) ウォーターセーフティーコーディネーターの、及び緊急時にはセーフティーオフィサー及び／又はエリアリスク管理オフィサーの監督下で活動する、
- (b) ウォーターセーフティーコーディネーターの指示により、ビーチ及び水中に配置される、
- (c) ウォーターセーフティーのレベルに関するいかなる懸念事項についてウォーターセーフティーコー

ディネーターの注意を喚起する,

- (d) 担当するウォーターエリアにおける競技会の安全について責任を負う,
- (e) ウォーターセーフティーコーディネーターの指示の下, 必要に応じて他エリアをアシストする,
- (g) 全ての競技会において, ウォーターセーフティーが所定のとおりで, 事前に評価された要求とおりであることを確認する,
- (h) 競技会に参加する競技者, オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し, いずれの懸念事項をも直ちにウォーターセーフティーコーディネーター及び/又はエリアリスク管理オフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば, オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく, チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.30. コミュニケーションコーディネーター (Communications Coordinator)

コミュニケーションコーディネーターが置かれた場合, 以下のことを行う:

- (a) チーフレフリーの, 及び緊急時においてはセーフティーオフィサー及び/又はエリアリスク管理オフィサーの監督下で活動する,
- (b) 競技会の期間中, 組織委員会及び競技委員会のメンバー, 安全, 医療及び作業の要員を含む全ての上級オフィシャル及びIRBと効果的に無線通信ができるようにする,
- (c) チーフレフリー又は関係するILS<sup>7</sup>/JLA担当者と協力して, 競技会に必要な無線機器の必要数とタイプについて合意する,
- (d) 無線機器の支給, メンテナンス及び返却を担当する中央管理センターを監督する,
- (e) 競技会でのコールサイン/周波数のリスト及び無線手続きを公開する,
- (f) チーフレフリー又は担当のILS/JLA当局者に, セクションの運営に関するレポート及び推奨事項を提供する,
- (h) 競技会に参加する競技者, オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し, いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び/又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば, オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく, チーフレフリー及び/又はそのエリアのエリアレフリー及び/又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.31. 医療/FA コーディネーター (Medical/First Aid Coordinator)

医療/FA コーディネーターが置かれた場合, チーフレフリーの, 及び緊急時においてはセーフティーオフィサー及び/又はエリアリスク管理オフィサー (ARRO) の監督下で活動する。

- (a) 実施する競技会の性質とリソースを考慮して, 必要な役割を引き受けるため, 適切な資格を取得している。
- (b) 競技会において医療/FA (ファーストエイド) サービスを組織し運営する責任を持つ。

---

<sup>7</sup> 【JLA注釈】 ILS原文では「SLSA」となっているが, 「ILS」の誤植だと思われる。

- (c) 必要に応じて、競技者又はオフィシャルの身体的及び心理的健康状態を評価し、健康でない競技者又はオフィシャルがいれば、彼ら自身の及び／又は他の競技会参加者の健康安全のために、チーフレフリーを介して競技会に参加させないようにする。
- (d) 競技会の運営に影響する可能性のある医学的判断をチーフレフリーに説明する。
- (e) 重大事故又はその他の事件、又は競技者、オフィシャル、アシスト要員及び／又は公衆の安全に関して、負傷者及びその他の者が避難するための組織委員会が策定した計画に留意する。
- (f) 競技会会場でのFAステーション（救護所）及び医療／FA要員を含めたその他の医療サービス及び物資の配置を指示する。
- (g) 連絡が付く状態にあり、医療又はFAの専門家が医療又はFA事案に対処するのにアシスト又は指示できる位置についている。
- (h) 医療／FA部門の運営についてチーフレフリー又はILS／JLA担当者に報告及び推奨事項を提出する。
- (i) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はセーフティーオフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.4.32. コース統計係（Course Statistician）

コース統計係は以下のことを行う：

- (a) エリアリスク管理オフィサー（ARRO）及び／又はセクショナルレフリー／エリアレフリーの監督下で行動する、
- (b) 担当エリアの記録を保存し、データがレフリースチュワードに確実にわたるようにする、
- (c) 担当エリアのマーシャルと連絡を取り、水に入るレース毎にスタートする競技者人数を取得する、
- (d) スタートした及びフィニッシュした競技者を記録し、各レースでフィニッシュしていない競技者数を算出する、
- (e) 競技種目完了にかかる時間を監視し、競技会の進行状況に係るいかなる問題点をも記録する、
- (f) 各レースにおいて説明のつかない競技者がいる場合、直ちにエリアリスク管理オフィサー（ARRO）に、及び（ARRO不在時は）セーフティーオフィサーに、次に（対応可能であれば）セクショナルレフリー／エリアレフリーに報告する、
- (g) 競技会に参加する競技者、オフィシャル及びその他要員の安全と福祉に常に留意し、いずれの懸念事項をも直ちにチーフレフリー又はその代理人及び／又はエリアリスク管理オフィサーに報告する — もし事態が破滅的であれば、オフィシャルは直ちに競技会停止の指示を出してもよく、チーフレフリー及び／又はそのエリアのエリアレフリー及び／又はセーフティーオフィサーに直ちに事態の報告を上げる。

#### 2.5. 世界記録及び日本記録（World Records and Japan Records）

### 2.5.1. 世界記録 (World Records)

- (a) ILSは、ILS競技規則に示され、ILSライフセービング世界選手権 (LWC) で実施されたユース、オープン及びマスターズの男子及び女子のすべてのプール競技を認定する。それらの競技は50 mプールで実施され、第8章に記述されているILS基準に適合した器材を使用しなければならない。
- (b) 個人及びチーム競技種目：ラインスロー、マネキンリレー、障害物リレー、メドレーリレー及びプールライフセーバーリレーにおいて、世界記録はオープン及びユースの年齢区分（ナショナルチームとクラブチームを別にしない）とマスターズクラブチームにおいて認定され、LWCハンドブックで規定されているチームの資格要件を満たしていなければならない。
- (c) 記録保持者は、ILSの正会員（full member）、準会員（associate member）又は通信会員（corresponding member）である団体の会員で、且つ、ILS認定競技会又はILS主催競技会に出場可能でなければならない。
- (d) オープン及びユースのナショナルチームのリレー記録保持者は、ILSライフセービング世界選手権ハンドブックで定められているナショナルチームの資格要件を満たしていなければならない。  
**注意：** マスターズのナショナルチームリレー記録は無い。
- (e) クラブチームのリレー記録保持者は、ILSライフセービング世界選手権ハンドブックで定められているオープン及びユースのインタークラブ又はマスターズチームの資格要件を満たしていなければならない。
- (f) 世界記録は以下の競技会において樹立される：ライフセービング世界選手権、マルチスポーツゲーム（例えばワールドゲームズ）、ILS地域選手権、国内／地域内選手権、又は複数国／複数地域選手権（例えば国家連合体、ヨーロッパ）、その他ILS競技規則に則ったILS認定選手権又は競技会。
- (g) ユース競技者は、出場したカテゴリーに関わらずユース又はオープンの世界記録を樹立することができる。同様に、マスターズ競技者も、出場したカテゴリーに関わらずマスターズ又はオープンの世界記録を樹立することができる。
- (h) ドーピング・コントロールと世界記録
- 世界記録は、陰性のドーピング検査証明書がある場合に限り認定される。ILSのドーピング防止規則に準拠したターゲットを絞ったテスト、及びランダムテストの制度があるインタークラブ又はナショナルチームのライフセービング世界選手権、ワールドゲームズ、又はILS地域選手権では、陰性のドーピング検査証明書は不要である。
  - 世界記録を樹立した又は同タイムのいかなる競技者も、レースの後に「ドーピング・コントロール」に従わなければならない。リレーチームが世界記録又は同タイムを樹立したとき、泳いだ競技者は全員テストを受けなければならない。
  - もし競技会においてドーピング・コントロールがなかった場合、競技者はレース後24時間以内にドーピング・コントロールに従わなければならない。
  - マスターズの世界記録は、陰性のドーピング検査証明書が無くても認定される。
- (i) マスターズ、インタークラブ世界選手権又はナショナルチームのライフセービング世界選手権、ワールドゲームズ又はILS地域選手権の競技会中に樹立された全ての記録は、自動的に認定される。

**注意**：LWC での全ての記録が確実に記録されるように、世界記録申請フォーム（World Record application）に記入することを勧める。チーフスチュワード／ヘッドスコアラーがこの処理をアシストする。

- (j) 他の競技会での記録は、以下の条件に従って認証されるものとする：
- (i) その競技会はILSにより認定されてなければならない、
  - (ii) 全ての記録は、少なくとも競技の3日前までに広告により公に（及びILS本部に）アナウンスされ、公で開催された競技会で樹立されなければならない、
  - (iii) （競技種目に特化したものを含む）施設の規格及び器材の仕様書は、検査担当者又は別途ILS管理委員会（ILS Management Committee）又はILS認定競技会を主催するILSメンバー組織により任命された又は認証された有資格者により保証されなければならない、
  - (iv) ILSは、全自動審判計時装置によりタイムが記録された時に限り世界記録を受け入れる。
- (k) 1/100秒まで等しいタイムは同タイムとして認定され、同タイムを樹立した複数の競技者は「ジョイントホルダー（Joint Holders）」と称される一レースの勝者のタイムのみが世界記録として申請することができる一記録を打ち立てたレースでタイムが同じであった場合、同じタイムの競技者それぞれが勝者とみなされる。
- (l) 世界記録は、ドーピング検査が陰性であることを含め全ての規定を遵守していることをチーフレフリーが保証しサインした公式なILS記録申請フォーム（この章末を参照、又はILS Record Application Form：[www.ilsf.org](http://www.ilsf.org)で入手可能）を用いて、競技会の組織委員会のしかるべき責任と権限のある者により申請されなければならない。申請書は、競技終了後30日以内にILS記録管理人（ILS Custodian of Records）に送ること。
- (m) ILS記録申請書を受理し次第、及び申請書に記載の情報が正確だと認識され次第、ILS記録管理者は、ILS事務局長が世界記録を公表すること、そしてILS会長とILS事務局長の署名入り世界記録認定書を競技者に付与することを提言する。

世界記録申請書が受理されなかった場合、ILSスポーツ委員会（ILS Sport Commission）に付託される。

### 2.5.2. 日本記録（Japan Records）

- (a) 記録は、JLAの主催競技会又はJLAが記録を認定すると認めた認定競技会において認定される。
- (b) 記録はチーフレフリーにより、正式に発表されたものでなければならない。
- (c) 日本記録は、日本の国籍を保有した者が樹立した最高の認定記録とする。リレー種目の競技者が日本国籍でない場合は、日本記録の対象とならない。
- (d) 日本記録は、男女共、以下の種目に限られる：
  - ・ 障害物スイム（200 m）、
  - ・ 障害物スイム（100 m）、
  - ・ マネキンキャリー（50 m）、
  - ・ レスキューメドレー（100 m）、

- ・ マネキンキャリー・ウィズフィン (100 m),
- ・ マネキントウ・ウィズフィン (100 m),
- ・ スーパーライフセーバー (200 m),
- ・ ラインスロー,
- ・ マネキンリレー (4×25 m),
- ・ 障害物リレー (4×50 m),
- ・ メドレーリレー (4×50 m),
- ・ プールライフセーバーリレー (4×50 m)。

(e) JLAの主催競技会においては競技会終了をもって認定とする。

(f) その他、新しく日本記録が樹立されたときは、次の手続きをとらなければならない：

- ・ JLAにより記録を認定すると認められた認定競技会の主催団体は、競技会終了の日から7日以内に「日本記録申請書」をJLAに申請する,
- ・ 国際大会においては、ILSの競技規則を採用している種目に限り記録を申請することができる,
- ・ 世界選手権及びワールドゲームズにおいては、その競技会の統括団体が証明する報告書をもってこれに代える,
- ・ JLAに申請された記録は、競技運営・審判委員会の審査・承認を経てこれを発表する。

## 2.6. 競技会の公式な開始と終了 (Official Start and Completion of Competition)

(a) 競技会は、主催者からエントリー募集が公式に発行されたとき開始するとみなす。

(b) 競技会の公式な終了は最終競技種目の終了から20分後である。ただし、抗議、上訴又は規律審査に関する問題がある場合、最終解決まで競技会は継続する。

## 2.7. 自然現象による不利益について (Luck of Prevailing Conditions)

(a) 競技者は、オープンウォーター競技は主催者の管理の及ばない環境条件（例えば、水や砂浜の状況、悪天候など）の影響を受ける可能性があること、及び競技者は自然現象の運に委ねられていることを認識し、受け入れること。

(b) 自然現象により事故が発生した場合、一切の抗議又は上訴は受け入れられない。チーフレフリー及び／又は関係するオフィシャルは、事故が自然現象により生じたか否かを判断する絶対的な権限をもつ。

## 2.8. 録画装置 (Video Recording Devices)

### 2.8.1. クラフトへの取付け (Mounted on craft)

ビデオカメラは、「8. 設備及び器材の規格と検査手順」の規定を満たす限り、ボード、サーフスキー、サーフボード及びIRBに取り付けることができる。

### 2.8.2. 競技者への取付け (Attached to competitors)

サーフボードのスリーブ及び IRB ドライバーを除き、レースのスタートからフィニッシュまでの間、競技者がビデオカメラを着用する、又は他の方法で競技者に取り付けることはしてはいけない。

## 2.9. 通信機器 (Communication devices in competition)

競技者はレースの開始から終了までの間、電子通信機器を使用してはならない。

## 2.10. 服装等 (Competition attire)

競技者は ILS 及び／又は JLA により認可されたコスチューム (costumes)、服装 (clothing)、衣装 (dress) を着用する。競技者が適切な服装等を着用していないとチーフレフリーが判断した場合、競技者はいずれの競技会にも参加が許されない。

競技会の服装に関連する規格は第 8 章を参照のこと。

競技者の服装等が以下に適合しない場合、チーフレフリーは競技者を排除する権限を有する：

(a) **水着** 競技者が着用する水着は第 8 章に定められる水着に適合すること。そして：

- ・ 一般良識に反し不快感を与えるものであってはならない、
- ・ 商業特定方針 (commercial identification policy) に順守していること。

男子及び女子の競技者は共に、競技に有利とならなければ、水着の下に繊維素材の水着「モデステイ水着」を着用することができる。これらの水着は、男子はショートスタイル、女子はツーピーススタイルに限る。

宗教的及び／又は文化的多様性の観点から、ILS/JLAは競技に有利とならなければ、身体の大部分を覆うような繊維素材の水着（体形にぴったりしていないもの）を着用することが認められる。

(b) **保護衣服**：プール種目のスイマー及びオーシャン種目のスイマーを除き、その他の保護衣服（例えば、ショートパンツ、ラッシュベスト、Tシャツ等）は、本競技規則もしくは主催者により別途定めがない限り、個人種目及びチーム種目の両方において競技者の判断で着用することができる。ラッシュベスト、Tシャツ及びショートパンツ、ロングタイツもしくはストッキングは、ラインスロー種目及びスイム以外のオーシャン種目又はチーム種目のスイム以外の区間においてのみ着用が許可される。

(c) **フローティングベスト及びヘルメット**：フローティングベスト (Flotation vests) とヘルメットは、IRB種目では着用しなければならない。ボード、サーフスキー、サーフボード、オーシャンマン／オーシャンウーマンの個人種目及びリレー種目のクラフト区間においても着用してよい。

(d) **サーフボード種目において**：スリーブ、オール（漕ぎ手）は、条件によっては衣服（ウェットスーツ及びブーツを含む）を着用することができる。ウェットスーツの仕様（8.16 ウェットスーツ）は適用されない。

(e) **IRB種目において**：競技者は、ウェットスーツ、ブーツ、グローブ及びフードを含む衣服を着用することができる。ただし、IRBチューブレースにおいて救助者役と溺者役はグローブを着用することが許可されない。ウェットスーツに関する仕様（8.16 ウェットスーツ）は適用されない。

### 2.10.1. 競技用キャップ及びヘルメット (Competition Caps and Helmets) <sup>8</sup>

- (a) 競技者の安全、識別、そしてジャッジをアシストするため、全ての競技におけるレースのスタート時に、競技者は競技用キャップ及び／又はヘルメットを着用せねばならない。
- (b) 各競技において同一チームの全競技者は、同一デザインのキャップ及び／又はヘルメットを着用する。キャップ／ヘルメットに競技者名を入れることは認められる。ハンドラーが競技規則に沿っているかをジャッジし、及び指定されたレーンにいるかを確認できるように、ハンドラーもキャップを着用せねばならない。
- (c) オーシャン競技において、競技のスタート時及びチーム競技の各区間のスタート時に、紐をあごの下で留めてキャップを競技者の頭に着用しなければならない。
- (d) プール競技及びシミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技において、競技のスタート時及びチーム競技の各区間のスタート時に、オーシャン競技キャップ又はゴム製／シリコン製のキャップを競技者の頭に着用しなければならない。
- (e) 競技者はオーシャン競技キャップの下に、ゴム製又はシリコン製のキャップを着用してもよい。
- (f) 水上安全ヘルメットの着用は、別に規定が無い限り、クラフト種目において任意に着用できる：
  - ・ **IRB競技**：IRBドライバー、クルー及び溺者役は認定された水上安全ヘルメットを着用しなければならない、
  - ・ **サーフボード競技**：全ての漕ぎ手及びスイープは、競技会のオフィシャルにより別途指示がない限り、水上安全ヘルメットを着用しなければならない。

ヘルメットの規格は第8章を参照のこと。

- (g) 全てのサーフボード種目、ボード種目、サーフスキー種目、IRB種目において、競技者は、スイムキャップと同じ条件でヘルメットを着用することができる。ヘルメットは、チームカラー及びデザインで表現されなければならない。ヘルメットの色については第8章を参照のこと。
- (h) 競技者／チームは、スタートの後にキャップ又はヘルメットがとれたり、失っても、違反なしに競技が終了できていれば失格とはならない。ただし、その競技者／チームが正しく種目を終了したことが確認できる場合に限る。

**注意**：フィニッシュを担当するオフィシャルがキャップ又はヘルメットを脱いでよいとの指示を出すまでは、個人／チームを特定するキャップ又はヘルメットを着用し続けること（正確な着順を記録するため）。

### 2.10.2. ベスト (Vests) <sup>9</sup>

---

<sup>8</sup> 【JLA注釈】 JLA主催競技会において使用するキャップは、別途定める「競技用キャップに関する規程」にも則っていること。

<sup>9</sup> 【JLA脚注】 JLA主催競技会におけるベストについて、以下の規則を追加する：

- ・ 本協会標章が取り付けられ、且つ本協会が認めたものであること、
- ・ 競技者は、出場する競技会以外の競技会ロゴや競技会スポンサー名など、その競技会に適さない標記のあるものを

プール競技の競技者は、主催者側が別途判断しない限り、視認性の高い特徴的なベストの着用は不要である。

競技又は練習のため膝の深さより深いオープンウォーターに入る競技者及びハンドラーは、個人／チームの安全と特定のため主催者から指定された視認性の高い特徴的なベストの着用が求められる。このとき、ハンドラーも視認性の高いベストを着用しないと警告を受ける。オーシャン又はオープンウォーターにおいて実施される種目において、視認性の高いベストの着用は必須である。

オーシャン種目で着用するベストは、高い視認性があり、首から腹部（midriff）まで繋がったスリーブレスでなければならない。泳がない競技者（例えば、パドラー、ハンドラー）は異なる様式の視認性の高いベスト（例えば、袖のあるラッシュベスト）の着用を許可される。

これらのベストは、水着、PFD（2.10.3参照）、保護服、ウェットスーツの上から着用しなければならない。IRB競技については2.10.3(b)を参照のこと。

（競技者は、フィニッシュの判定を補助するため視認性の高い色のベスト又はビブスの着用を求められることがある。その場合、ベスト又はビブスはILS/JLAが支給する。）

競技会主催者が視認性の高いベストを支給した場合でも、競技者は、以下の条件に合致する場合に限り、自身のベスト着用を許可され得る：

- ・ ベストの色が主催者が規定したものと同一である、
- ・ ベストが競技会スポンサーの要求に適合している、
- ・ ベストがILS/JLAにより承認されている。

主催者が、安全のため、競技者／チームの識別のため、判定のために、競技種目別／エリア別／性別ごとに異なる色のベストを規定した場合、主催者がベストを支給する。この場合、所属団体／クラブ又はチームが用意した視認性の高いベスト（又はキャップ）を、規定されたベスト（又はキャップ）の下に着用する必要は無い。

### 2.10.3. ライフジャケット及びPFD（Lifejackets and Personal Flotation Devices (PFDs)）

- (a) ボード、サーフスキー、サーフボード、オーシャンマン／オーシャンウーマンの個人種目及びリレー種目のクラフト区間においてはPFD（Personal Floating Devices）を着用してもよい。
- (b) IRB競技では、トレーニング中及び競技中の双方において、ドライバー、クルー、溺者役が認定されたPFDを着用することが義務付けられている。視認性の高い安全ベストをPFDの上に着用する必要は無い。

PFDの規格は「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

### 2.10.4. 眼鏡類（Eyewear）

- (a) シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技を除き、ゴーグルを着用してよい。

---

着用してはならない、

- ・ 泳がない競技者（例えば、パドラー、ハンドラー）であっても、本協会が主催又は認定する競技会においては、膝の深さより深いオープンウォーターに入る競技者と同等のベストを着用すること、
- ・ 主催者から指定のベストを配布される場合がある、その場合は配布されたベストを着用すること。

- (b) サングラス、視力矯正用眼鏡は全ての種目で許可される。ただし、競技種目に適したデザインに限る。

#### 2.10.5. 履物 (Footwear)

- (a) 競技者は、競技種目説明に別途明記されてない限り、また状況に基づいてチーフレフリーが判断しない限り、競技会の競技において履物を着用してはいけない。
- (b) プール競技におけるマネキン・ハンドラーは履物を着用してよい。
- (c) 1 km及び2 kmビーチラン、及び3×1 kmビーチランリレーにおいて、競技者は履物を着用してよい。

#### 2.10.6. ウェットスーツ (Wetsuits)

- (a) ウェットスーツは、水温が16°C以下の場合にのみ、オーシャン競技において許可される。チーフレフリーは、天候、海、その他、海象条件に応じて、ウェットスーツの着用を許可することができる。水に入る競技種目、又は水に入る恐れのある場合に、競技者はウェットスーツの着用が勧められる。
- (b) チーフレフリーは、セーフティーオフィサー及び競技委員会と相談のうえ、天候及び／又は風による冷却が参加者の低体温へのリスクになる場合には、水温が16°Cより高い場合でもウェットスーツの着用を許可できる。水に入る競技種目、又は水に入る恐れのある場合に、競技者はウェットスーツの着用が勧められる。
- (c) 競技者が着用できるウェットスーツ又はクラゲ除けスーツは1着までである。
- (d) 水温が13°C未満の場合は、ウェットスーツを着用しなければならない。
- (e) IRBの競技者及びサーフボートのスイーパーは、どんな条件であってもウェットスーツを着用してよい。
- (f) 水温が13.0 °C未満の際は、泳ぎが伴う競技を実施してはならない。
- (g) ウェットスーツは、「8. 設備及び器材の規格と検査手順」の基準を満たさなければならない。

#### 2.10.7. クラゲ除けスーツ (Marine Stinger Suits)

- (a) チーフレフリーは、海象条件に応じて、クラゲ除けスーツ (marine stinger suits) の着用を許可することができる。水に入る競技種目、又は浸水の恐れのある場合に、競技者はウェットスーツの着用が勧められる。
- (b) クラゲ除けスーツは競技会の主催組織によって承認されるべきである。

### 2.11. 年齢区分 (Age Categories)

#### 2.11.1. 年齢区分の定義 (Determining Age Categories) <sup>10</sup>

---

<sup>10</sup> 【JLA脚注】 JLA主催競技会の参加条件としての年齢区分及び年齢の数は、競技会の目的や規模等を考慮して別途決定する場合がある。

ILS は IOC ガイドラインに従って競技者の年齢を決定するものとする。競技者の年齢及び適格年齢群は、当該競技者が競技に参加する年の 12 月 31 日現在において何歳であるかによって決定される。

以下に例を示す：

<b>オープン競技会 (Open Competition)</b>	
該当者：	競技開催年の12月31日以前に16歳になる競技者。最高年齢の制限はない。
非該当者：	競技開催年に15歳未満又は15歳になる競技者。

<b>ユース競技会 (Youth Competition)</b>	
該当者：	競技開催年の12月31日以前に15, 16, 17, 18歳になる競技者。
非該当者：	競技開催年に14歳未満又は19歳になる競技者。

<b>マスターズ競技会 (Masters Competition)</b>	
該当者：	競技開催年の12月31日以前に30歳になる競技者。最高年齢の制限はない。
非該当者：	競技開催年に29歳になる競技者。

<b>23歳サーフボート (23 Years Surf Boats)</b>	
該当者：	競技開催年の12月31日以前に16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23歳になる競技者。
非該当者：	競技開催年に15歳, もしくは24歳になる競技者。

<b>IRB競技 (Inflatable Rescue Boats)</b>	
<b>IRBクルー及び溺者役 (IRB Crew and Patients)</b>	
該当者：	競技開催年の12月31日以前に16歳になる競技者。最高年齢の制限はない。
非該当者：	競技開催年に15歳未満又は15歳になる競技者。

<b>IRBドライバー (IRB Drivers)</b>	
該当者：	競技開催年の12月31日以前に18歳になる競技者。最高年齢の制限はない。
非該当者：	競技開催年に17歳以下になる競技者並びに国内連盟によりIRB資格を与えられていない競技者及び無免許のドライバーである競技者。
<b>注意</b>	多くの国において、ドライバーは、海上船舶を操縦するために法制度に基づいて免許を付与される必要がある。組織委員会は、参加要件の1つとして現地の要件を伝えなければならない。

## 2.12. 国内／地域内クラブ間移籍及び国際クラブ間移籍 (Inter Club National and International Member Competition Transfers)

- (a) 団体／クラブ間でのメンバーの競技者としての登録の移籍の取り決めを管理するのは、国内連盟の責任である。
- (b) 競技者は、海外団体／クラブへ移籍する場合、申請しなければならない。申請には、競技者は所属団体／クラブだけでなく地域 (region) 及びナショナル組織 (日本であればJLA) の承認を必要とする：
- ・ 申請者は、現在所属している団体／クラブに許可を求め、それを (もしあれば) 地域 (region) 組織、及びナショナル組織に送付し承認を得る、
  - ・ ナショナル組織は、その決定を申請者に通知し、承認された場合、承認された旨を申請者の新たな所属団体／クラブのナショナル組織に送付する、
  - ・ ナショナル組織は、移籍承認の送付を不合理に保留してはならない、
  - ・ ILSスポーツ委員会は、国際移籍に関する係争を、当事者と競技し解決する — ILSスポーツ委員会の決定は最終的なものである。

**注意：**上記の団体／クラブ間の国際移籍規則は、ナショナルチーム選手権には適用されない。

## 2.13. ドーピング・コントロール (Doping Control)

### 2.13.1. 薬物ポリシー (Drug policy)

- (a) ILSには、全てのILS世界選手権、ILS地域選手権及びワールドゲームズについて、薬物検査を行いドーピングフリーの競技会へのポリシーがある。ILSアンチ・ドーピング規則をウェブサイト <https://www.ilsf.org>にて閲覧又はダウンロードすること。
- (b) ILSは、主催国／地域がILS薬物ポリシーに加え、法律又は法的要件を定めているものと認識している。競技者には、出場登録手続きの一部として、そのような要件が周知されなければならない。
- (c) ILSアンチ・ドーピング規則の違反は、アスリート個人結果の失格 (得点、メダル及び賞の没収を含む) となる。チーム競技では、チームメンバーにILSアンチ・ドーピング規則違反があれば、そのチーム全体がその競技を失格になり、得点、メダル及び賞を失うことになる。
- (d) ドーピング・コントロールには、以下の定義が適用される：
- 個人競技種目：**個人競技種目 (個人種目) は1人の競技者で競わなければならない。個人競技者はハンドラー (例えば、オーシャンマン／オーシャンウーマン、スーパーライフセーバー) の助けを借りることができる。一つの競技種目において、又は次のラウンドに進んだ際、個人競技者は交代することはできない。競技者が規則違反、ドーピング違反等により失格となった場合、その競技種目における全ての資格を失う。
  - チーム競技種目：**チーム競技種目 (チーム種目) は、1つの競技種目又はレースを、SERCのような個別ユニットとして、又はリレー競技のように他と分離して、共に競技する同じナショナルチーム、クラブ又はライフセービング団体からの2人以上の複数競技者で競う。チームメンバーは、次のラウンドに進んだ際交代することができるが、1つのレース中に交代することは

できない。1人以上の競技者が規則違反、ドーピング違反等により失格となった場合、チーム全体がその競技種目における全ての資格を失う。

- (iii) **チームのメダル又は得点**：競技会における総合優勝チームを決めるため、(個人及びチーム競技の第1位などに基づく) 獲得メダル数又は得点の集計が行われる。主催者は、チームのメダル数又はポイントスコアの基本詳細を通知するものとする。1人以上の競技者が規則違反により個人競技又はチーム競技で失格になった場合、それら競技者又はチームにメダル又は得点は与えられないが、主催者による別の取り決めが無い限り、チームが獲得しているメダル数又は得点は維持される。

**注意**：上記の「個人競技種目 (individual events)」及び「チーム競技種目 (team events)」の定義は、ILSアンチ・ドーピング規則で用いられる「個人スポーツ (individual sport)」及び「チームスポーツ (team sport)」の定義と同一である。「クルー (crew)」という用語は、ILS競技に関して「チーム」と同じ意味の効果を持つ。

## 2.14. 行動規範 (Code of Conduct)

ライフセービング団体／クラブ、競技者、競技役員は競技会の主旨、競技規則を理解し、より高いフェアプレー精神と行動を示さなければならない。

競技会に参加する者は、第一に人を救うライフセーバーであり、第二に競技者であること。

### 2.14.1. 競技者、テクニカルオフィシャル及びメンバーの行動規範

- (a) ILS世界選手権、ILS認定競技会、そしてJLA主催／認定競技会は注目を集める公的イベントである。ILS/JLAは、世間からポジティブなイメージを持ってもらえるよう全ての競技者、オフィシャル及びメンバーが協力することを期待している。ILS/JLA又はライフセービング競技会のイメージに困惑又はダメージを引き起こす可能性のある行為は、規律委員会に付託することになり、その罰則には個人又はチームの競技会からの追放が含まれる場合がある。
- (b) ILS/JLAは競技者、オフィシャル及びメンバーに最高の行動基準を期待する。これらの期待は、ILS/JLA規約及び本書の競技規則に反映されている。
- (c) 行動規範を適用する対象である「チーム」は、実際の競技者、コーチ、アシスタント、観客、その他チームと共に行動するものが含まれると定義される。この規範を侵した個人又はチーム、あるいはその両方が、競技会において失格になることがある。

### 2.14.2. ライフセービング競技のフェアプレー規範

競技会、特に世界選手権は、善意の精神及びスポーツマンシップに則って実施されることが重要である。

競技者は規則に従い、その範囲内で競技することが求められている。規則違反はチーフレフリーに報告され、チーフレフリーは「2.17 不正行為」に記述された行動を起こすことができる。

チームメンバーは、自身の国／地域、組織、所属団体／クラブ、スポンサー及びILS/JLAを代表している。よって、チームメンバーは、選手権や社交の催しを含む関連活動の間、常に適切且つ礼儀正しく行動すべきである。

チーム又はそのサポーターによる不適切行為は重大な違反行為であり、相応の処分が下される。

他のチームを混乱させ邪魔しようとする行為は重大な違反行為であり、相応の処分が下される。

全ての参加者の行為は、以下の「ILS/JLA フェアプレー規範」により評価される：

(a) ILS/JLAは以下の事項を履行する：

- ・ メンバーを介してフェアプレーを推進し、奨励すること、
- ・ 競技者、コーチ、テクニカルオフィシャルそして管理者に対し、ライフセービングスポーツにおける最高水準のスポーツマンシップと良識ある行動を維持する必要性を強く印象付けること、
- ・ 規則が公正であり、競技者、コーチ、テクニカルオフィシャルそして管理者らに明確に理解され、適切に施行されることを確実なものとする、
- ・ 規則が一貫して公平に適用されるようあらゆる努力を尽くすこと、
- ・ ジェンダー、人種、身体的特徴にかかわらず、すべてのメンバーを平等に扱うこと、
- ・ 他の競技者に対して有利にならないという条件の範囲で、障害を持つ競技者に便宜を図るあらゆる合理的な規定を作成すること。

(b) ILS/JLAのテクニカルオフィシャルは以下の事項を履行する：

- ・ 競技会の規則と精神を遵守すること、
- ・ 他者に対して誠実で、公正で、そして倫理的であること、
- ・ 自身の外見、言動についてプロフェッショナルであること、
- ・ 規定された方法に則り、係争を公平かつ迅速に解決すること、
- ・ 厳格に公平であること、
- ・ 皆のために安全な環境を維持すること、
- ・ 他者を尊重し思いやること、
- ・ 積極的な模範となること。

(c) 競技者は以下の事項を履行する：

- ・ 競技会の規則と精神を遵守すること、
- ・ レフリーとジャッジの決定を疑わず不平なく受け入れること、
- ・ 決して不正を考えず、特に、薬物を使用して自身のパフォーマンスを向上させようとは思わないこと、
- ・ 常に合理的に自制すること、
- ・ 潔く寛大に、成功と失敗、勝利と敗北を受け入れること、
- ・ 競技エリアの内外を問わず、共に競い合った競技者そしてチームメンバーに敬意を持って接すること。

(d) チームマネージャー及びコーチは以下の事項を履行する：

- ・ 競技者にフェアプレーの原則を理解し、その遵守を要求すること、

- ・ 競技者の薬物使用を決して容認しないこと、
- ・ 競技者の長期的な健康上、又は身体的な発達に対して僅かでもリスクを伴う危険性のある手法又は習慣を決して採用しないこと、
- ・ 自チームの競技者又は対戦相手が有利になるように規則を操作しようと試みないこと、
- ・ ILS/JLAとそのメンバー組織の規定と威信に敬意を払い、それらを回避したり抜け道を考えようと試みないこと、
- ・ ILS/JLAで果たすべき特別な役割を認識し、常にスポーツマンシップと良識ある行動の模範を示すこと、
- ・ 他チームの権利を尊重し、決して他チームに損害を与えようと故意に行動しないこと、
- ・ 競技者、コーチ、テクニカルオフィシャルの権利を尊重し、損害をもたらすような搾取／行動をしないこと、
- ・ 規則及び規定の範囲内、又はフェアプレーの基本原則の範囲内ではない行動により、競技の結果に影響を及ぼすようなことをしないこと。

(e) チーム／団体／クラブ代表者、メディア代表者、サポーター及び観客は以下の事項を履行する：

- ・ ILS/JLAの威信と規定を尊重し、それらを回避したり抜け道を考えようと試みないこと、
- ・ テクニカルオフィシャルの権限を受け入れること、
- ・ 競技の精神を遵守すること、
- ・ 常に合理的に自制し、良識ある行いを示すこと、
- ・ 他者を尊重し思いやって関わること、
- ・ 潔く寛大に、競技に関わる全ての成果を認めること。

## 2.15. 不正行為 (Misconduct)

### 2.15.1. 不正行為と懲罰 (Conduct and discipline generally)

ILS/JLA は、事前に定められ公開されている罰則、又は規律委員会の決定に基づき、その裁量により、競技者個人、所属団体／クラブ、又はナショナルチームに罰則を科すことができる。

### 2.15.2. 不正競争 (Competing unfairly)

(a) 競技者 (ハンドラー／マネキン・ハンドラーを含む)・チームは、不正行為をしたと判断された場合、その競技が失格となるか、又は競技会から除外される。チーフレフリーは規律委員会に報告し、処遇決定を委任することがある。不正行為とは、以下のような場合等をいう：

- ・ ドーピング又は、ドーピングに関連した行為を行った場合、
- ・ 他の競技者になりすまして競技を行った場合、
- ・ 同じ種目に2度出場した場合、
- ・ 他の団体／クラブの競技者として、同じ種目に2度出場した場合、
- ・ 自分が、優位になるように故意に他の競技者を妨害した場合、

- ・ 登録しないまま競技を行った場合,
  - ・ 認可を得ずに他団体／クラブ又は国／地域のために競技を行った場合,
  - ・ 競技種目又は競技する位置を決める投票や抽選で不正を試みた場合,
  - ・ 規則に適合しない器材を用いて競技を行った場合,
  - ・ チーフレフリー又は特別に指定されたオフィシャルの指示に反し競技を行った場合,
  - ・ 他の競技者又はハンドラーを押したり, 進路を妨害した場合,
  - ・ 競技者が外部から身体的又は物質的な助力を受けた場合 (障害競技者のため主催団体が特別に認めた場合を除く), チーフレフリー又はそれと同等のジャッジは, 競技者・チーム, 又はハンドラー／マネキン・ハンドラーが不正行為をしたか否かを判断をする権限を持つ。
- (b) 競技者, チーム, ハンドラーが不正に競技したかどうかの判断について, チーフレフリー又はそれと同等のテクニカルオフィシャルが絶対的な裁量権を持つ。
- (c) ILS/JLAは「不正競争」の問題について, 競技前／競技中／競技後にその絶対的裁量権に基づき調査し処置することができる。それには, メダルの返却, 規律委員会への付託, その他が含まれる。

### 2.15.3. 重大な規律違反 (Serious discipline offence)

- (a) 競技者又はチームが, 重大な規律違反に相当する可能性がある場合, 直ちに組織委員会に連絡し, 詳細を報告すること。違反の可能性が高いことを報告しないこと自体が規則違反となる。
- (b) 重大な規律違反の申し立ては規律委員会に付託される。
- (c) 競技においてチーフレフリーが競技者又はチームを重大な違反により失格とした場合, チーフレフリーは, 競技者又はチーム及びそのメンバーに対して更なる罰則の適用を裁定する規律委員会に報告することもある。

### 2.15.4. 規律委員会 (Disciplinary Committee)

- (a) 組織委員会は3名以上からなる規律委員会の委員を任命する。
- (b) 組織委員会は, 当該競技会の各出場チームのマネージャーの氏名, 連絡先, 電話番号を規律委員会に提供する。
- (c) 規律委員会は, 書面による不正行為の訴え, 又は上訴委員会／チーフレフリーにより付託された問題について調査する。
- (d) 規律委員会はまた, 違反が行われたか否かを決定する調査を開始し, 場合によっては訴えを提起することもできる。そして規律委員会は, 第三者が訴えを提起した場合と同じように手続きを進めることができる。
- (e) 規律委員会は, 競技会からの除名／失格, そしてタイトル／トロフィーの没収など相応の罰則を科すことができる。
- (f) 規律委員会は, ILS事務局長 (ILS Secretary General) /JLA事務局長にその調査内容及び裁定について書面で報告する。
- (g) 訴えの申し立ては書面にて提出されなければならない。また, 告訴人は委員会の求めがあれば, い

つでも委員会の会合に出席し、委員会の調査に応じられるようにしておかねばならない。

- (h) 申し立てられた者は各審問において、チームマネージャーを伴って出席する権利を有する。
- (i) 規律委員会の審問／調査／上訴委員会の審問に関わる全ての者は、本章に規定されている行動規範を受け入れ、遵守せねばならない。またそれらに限定されることなく、係る審問又は調査に関わる全ての者は、
- ・ 正直で、公平で、道徳的であること、
  - ・ 他者を尊重し、配慮すること、
  - ・ 常に適切な自己管理を行っていること、
  - ・ 関与する全ての者に、正直に、誠意を持って、丁寧に、尊重して対処すること。
- (j) 調査のガイドライン：
- ・ 聴取又は問合せには正式な証拠規則までは適用されないが、関与する全ての人々は正直に、誠意をもって行動しなければならない、
  - ・ 委員会への申し立て又は付託は、競技者又はチームの代表者に対して読み上げられなければならない、
  - ・ 申し立て側の証拠を提示する、
  - ・ 申し立てをされたチームメンバーの証拠も提示する、
  - ・ 各証人は、当該証人を召喚した当事者（もしいる場合）からの尋問を受け、また相手方当事者からの反対尋問を受ける一証人を召喚した当事者は、再尋問する権利を有するが、その他の尋問は、委員会の許可がある場合を除き、許可されない、
  - ・ 伝聞証拠及び無関係の証拠は認められない、
  - ・ 当事者以外の証人は、証拠を提示するように求められるまで、審理での聞き取りを受けないこととする。
- (k) **評決の告知**：委員会は密室で決定を下すものとする。申し立てが正当であると証明された場合、委員会は罰則を科すことができる。評決及び罰則の告知は、関与するチームメンバー、チーム又は所属団体／クラブ、そしてチーム又は所属団体／クラブの関係国／地域に対し速やかに書面にて行われる。
- ・ 評決及び（もしあれば）罰則は、直ちに効果を発するものとする。

## 2.16. 失格及び DNF (Disqualifications and “Did Not Finish” Classifications)

競技者又はチームは、競技又は競技会全体で失格となる場合がある。競技者が何らかの理由で競技を失格になった場合、予選又は決勝において、その競技者が保持するはずだった順位は次にフィニッシュした競技者に与えられ、全ての下位の競技者は一つ上の順位に繰り上がる。

(エリミネーション (除外／勝ち残り) 形式競技種目特有の順位及び点数配分については、ビーチフラグス、オーシャンマン／オーシャンウーマン、及びオーシャン M エリミネーション形式を参照のこと。また、「ラウンドロビン (Round Robin)」の点数配分、失格、除外、そして DNF についてはサーフボード競技を参照のこと)

競技者が何らかの理由で失格になった場合、その競技者の順位、タイムは最終の競技結果に含まれない。

競技者はどんな失格についても抗議又は上訴することができる（詳細については2.17を参照のこと）。

- (a) **DNF (Did not finish)**: ある競技者が予選又は決勝において何らかの理由により競技を終了しなかった場合、その競技者が得たであろう順位は次の競技者に与えられ、下位の競技者の順位も1つずつ繰り上がる。
- ・ 競技者が競技を終了しなかった場合、競技結果にはその選手の順位、タイムを含めない。
- (b) **競技会全体での失格**: 所属団体／クラブ又は競技者が失格（競技会全体において失格）となる例：
- ・ 競技会参加資格を満たしていない場合、
  - ・ 行動規範に違反した場合、
  - ・ 他の競技者になりすました場合、又は競技会参加資格を満たしていない競技者を出場させた場合、
  - ・ 会場施設・宿泊施設、その他の競技会関連施設を故意に損壊した場合、
  - ・ 競技役員を侮辱（暴言・暴力）した場合。
- (c) **競技種目別の失格**: 所属団体／クラブ又は競技者が失格（当該種目）となる例：
- ・ 競技開始時に競技者がいなかった場合、
  - ・ 総則や競技種目の競技規則に違反した場合。
- (d) 競技終了時に、競技者はチーフレフリー又はそれと同等のジャッジから失格を通告される。競技者は、チーフレフリー又は同等のジャッジの許可があるまで競技エリアから離れてはならない。
- (e) 競技者の違反がテクニカルオフィシャルのミスによってもたらされた場合、チーフレフリーの判断により競技者の違反は取り消すことができる。

各競技分野の章末に係する失格（DQ）コード表がある。

## 2.17. 抗議と上訴 (Protests and Appeals)

組織委員会には、競技規則、競技基準、タイムテーブル及びその他の事項を、必要とあらば削除し、変更を加え、又は開催時刻を変更する権利がある。そして各チームマネージャーに確実に通知が届くよう最善が尽くされる。これらの組織委員会の決定に対する抗議は受け付けられない。

加えて、チーフレフリーが必要だと判断し、事前にチームに通知した場合、競技種目のコースと競技エリアがこの競技規則の記述から変更されることがある。

競技者又はチームマネージャーは、チーフレフリーに抗議することができ、さらに以下に規定する方法でチーフレフリーの決定に異議を申し立てることができる。この章の末尾にある抗議申立書／上訴申立書を参照のこと。

### 2.17.1. 抗議の種類 (Types of protests)

- (a) ペナルティーを科し得る抗議は以下のカテゴリーに大きく分けられる：

- ・ 競技会参加申し込みの手続き、又は参加資格についての抗議、
  - ・ 器材検査や器材適性についての抗議、
  - ・ 競技中に起きた行為や競技規則違反についての抗議。
- (b) 競技者又はチームが直接干渉を受けた場合を除き、同一競技内の他の競技者又はチームの行為に対するどんな抗議も受け付けない — 例えば、オフィシャルがある競技者又はチームに対し何らかの行動を起こした又は起こさなかったにかかわらず、同一レースで直接干渉を受けてない限り、別の競技者又はチームは抗議することができない<sup>11</sup>。

### 2.17.2. 抗議の申し立て (Lodging a protest)

抗議の申し立てに関連する条件は以下の通りとなる。

- (a) フィニッシュジャッジのフィニッシュ着順の判定に直接的に抗議することは認められない。
- (b) 競技種目又はレースが実施される条件に対する抗議は、競技種目又はレースの前にチーフレフリーに対して口頭で行われなければならない。また、抗議があったことをチーフレフリーは、競技開始前に競技者に伝えなければならない。
- (c) 競技者又はチームに対する抗議、或いはオフィシャルの判定に対する抗議は、競技結果の掲示、又はチーフレフリーからの通告のうち、どちらか早く行われた時刻から15分以内に口頭でチーフレフリーに行われなければならない。さらに口頭による抗議後15分以内に、別掲の形式に準じた抗議申立書をチーフレフリーに提出しなければならない。

**注意：**結果が最終的なものとして宣言されていない場合、チーフレフリーの裁量でこれらの制限時間を延長することができる。

- (d) ビーチフラッグスにおける抗議
- (i) ビーチフラッグス競技において、除外に対する抗議は、当該ラウンドの終了から5分以内又は次のランスルーが開始される前まで（どちらか早い方）に、口頭でなされなければならない — ビーチフラッグス除外に抗議があれば、チーフレフリーは競技を進める前に直ちに遅滞なく、受けた抗議を検討する — ビーチフラッグス除外への抗議にレフリーが裁定したら、それに対して上訴することは認められない、
- (ii) レフリーはまた、上述の手順とタイミングに基づいて決定するため、ビーチフラッグス除外の抗議を、ビーチで裁定する上訴委員会の代表者に直接付託する権限がある — この場合、書類は不要で、手数料の支払いも不要である、
- (iii) 競技者は、正しい手順に沿っていれば、ビーチフラッグス競技での失格判定に対して抗議及び／又は上訴することができる。
- (e) 抗議の裁定が決定するまで、競技の結果は保留される。
- (f) 抗議結果は競技結果カードの裏側に記述され、抗議申立書にも記される。
- (g) 抗議に費用は発生しない。チーフレフリー又はチームのどちらによるかに関わらず、事案が上訴委

---

<sup>11</sup> 【JLA注釈】 JLA主催競技会では、当該競技に出場していない競技者又はチームからの抗議も受け付けない。

員会に付託されたときに費用が課される。

### 2.17.3. 抗議の裁定 (Adjudication of protests)

抗議の裁定は以下のようにする：

- (a) 抗議が正しく申し立てられたら、チーフレフリーはすぐにその抗議を裁定することも、上訴委員長に付託することもできる。

**注意：**失格又は抗議の付託を記録する際に技術的又は管理上の誤りがあったと判断された場合、誤りを修正することができ、抗議又は上訴は先入観なく続行される、

- (b) チーフレフリーが裁定したとしても、上訴委員会に上訴することができる。上訴する場合は、チーフレフリーが裁定を競技者に伝えてから30分以内に、預託金<sup>12</sup>を添えて上訴委員長に上訴しなければならない。

**注意：**結果が最終的なものとして宣言されていない場合、チーフレフリーの裁量でこれらの制限時間を延長することができる。

- (c) この預託金は抗議が認められ裁定が覆った場合に返金される。裁定が覆らない場合は返金されない。

- (d) 抗議内容を検討するための補助としてビデオ又はその他の電子機器を用いることができる。但し、抗議した時点で、信頼に足る明確に映った証拠と映像再生機器を準備する責任は抗議した側にある。

**注意：**HD仕様の9 inch/228 mm (対角線長さ) のタブレット型デバイスが、抗議を適切に裁定するのに必要な最小サイズだと一般に考えられている。

### 2.17.4. 上訴委員会 (Appeals Committee)

組織委員会は適切な経験及び実践的知識のある者を上訴委員長に任命する。

組織委員会は、3人で構成される上訴委員会が同時に2つ開催されるのに必要な人数の上訴委員を予め任命しておく。上訴委員長は、個々の事案を裁定する上訴委員会の委員を、経歴と経験に基づいて選任する。

通常、1つの上訴委員会は3人で構成され、定足数は2人となる。

議論する対象について前回の意思決定に参加していた者は上訴委員会に含めない。

- (a) 上訴委員会はチーフレフリー又は上訴委員長により付託された全ての抗議を取り扱う。
- (b) 上訴委員会は上訴を裁定し、その裁定及び科せられる罰則（失格以外の罰則を含む）について競技者及び関係するテクニカルオフィシャルに助言を与える。裁決の理由は口頭及び抗議申立書により簡潔に提供される。
- (c) 上訴委員会の裁定は、さらに上訴することができない最終的なものである。
- (d) 上訴委員会は、行動規範に対する重大な違反を規律委員会に付託することができる。

---

<sup>12</sup> 【JLA注釈】 JLA主催競技会において、預託金は10,000円とする。

- (e) 事案が上訴委員会に付託される場合、チーフレフリーが直に行うか、又はチームがチーフレフリーの判定を上訴するかを問わず、常に預託金が発生する。
- (f) 上訴委員会は、双方に事案について述べる機会を与えた後、裁定を下す。
- (g) 上訴委員会の審問に関するガイドラインは、規律委員会の手順に類似する（2.15.4を参照のこと）。
- (h) 上訴内容を検討するための補助としてビデオ又はその他の電子機器を用いることができる。但し、上訴した時点で、信頼に足る明確に映った証拠と映像再生機器を準備する責任は上訴した側にある。

**注意：**HD仕様の9 inch/228 mm（対角線長さ）のタブレット型デバイスが、上訴を適切に裁定するのに必要な最小サイズだと一般に考えられている。

- (i) 上訴委員会は、入手できた全ての関連証拠を聴取したあと、密室で決定を下すものとする。
- (j) 抗議を支持する（すなわち同意する）判定、又は退ける（すなわち反対する）判定は、チームマネージャー／競技者／関与するチームメンバーに、そしてチーフレフリー及び上訴委員長にも、口頭又は書面で届けられる。

## 抗議申立書 (Protest Form)



Part 1: 抗議はJLA競技規則及び／又はJLA公式文書に従って申し立てることができる。  
競技会参加申し込みの手続き又は参加資格；器材検査又は器材適正；  
競技中に起きた行為及び／又は競技規則違反について抗議できる。

抗議申し立て競技者又はチーム名： \_\_\_\_\_

競技種目名： \_\_\_\_\_ 競技エリア： \_\_\_\_\_

レーン/ヒート/ロックアップエリア： \_\_\_\_\_

日時： \_\_\_\_\_

私/私たちは、以下に対して抗議します：

競技者 (署名)

チームマネージャー (署名)

(オフィシャル記入欄)

種目結果発表時刻 (正確な時刻を記載する)： \_\_\_\_\_

口頭抗議受理者： \_\_\_\_\_ オフィシャル職位： \_\_\_\_\_ 時刻： \_\_\_\_\_

抗議申立書受理者： \_\_\_\_\_ オフィシャル職位： \_\_\_\_\_ 時刻： \_\_\_\_\_

チーフレフリー名： \_\_\_\_\_

裁定： 支持する (抗議に同意する)  退ける (抗議に反対する)

上訴委員会に附託する  規律委員会に附託する

備考：

チーフレフリー (署名)： \_\_\_\_\_

競技者又はチームマネージャーへの裁定宣告時刻： \_\_\_\_\_

申立者の裁定受理署名： \_\_\_\_\_

(裏面：上訴申立書)



## 上訴申立書 (Appeal Form)

Part 2: 上訴はJLA競技規則に従って申し立てることができる。  
上訴委員会の裁定は最終的なものである。

上訴の根拠又は説明：

---

### (オフィシャル記入欄)

口頭上訴受理者： \_\_\_\_\_ オフィシャル職位： \_\_\_\_\_ 時刻： \_\_\_\_\_  
抗議申立書受理者： \_\_\_\_\_ オフィシャル職位： \_\_\_\_\_ 時刻： \_\_\_\_\_  
上訴預託金受理者： \_\_\_\_\_ 上訴預託金返金者（該当する場合）： \_\_\_\_\_  
上訴委員長名： \_\_\_\_\_  
裁定：             支持する（抗議に同意する）             退ける（抗議に反対する）  
備考：

上訴委員長（署名）： \_\_\_\_\_

競技者又はチームマネージャーへの裁定宣告時刻： \_\_\_\_\_

申立者の裁定受理署名： \_\_\_\_\_



International Life Saving Federation (ILS)

## WORLD RECORD APPLICATION FORM VERSION 2019

---

Kind of Record:  Record

1. Name of the ILS Sanctioned Competition  
*Please add the Sanctioning Document*
2. Event
3. Gender  male  female
4. Age Group  open  youth  masters group
5. Name of the Competitor Family Name , First Name(s) Date of Birth Year, month, day  
Name of the Team
6. Names of the Relay Team Members (*names in order of competing*)
  1. , - Date of Birth Year, month, day
  2. , - Date of Birth Year, month, day
  3. , - Date of Birth Year, month, day
  4. , - Date of Birth Year, month, day
7. Country
8. Member Organisation
9. Record claimed 0'00"00 min  
Please add the official result
10. Date and Time of Race January 2016 at 0:00 a.m.  
City and Venue
11. Chief Referee Approval:  
Name  
  
Signature .....  
Date .....
12. Doping Control  
External Sample Code  
Please add the certificate

An interactive version of this form is available online at [www.ilsf.org](http://www.ilsf.org).

The completed form must be sent to the ILS Custodian of Records,  
Dr. Detlev Mohr, e-mail: [detlev.mohr@dlrg.de](mailto:detlev.mohr@dlrg.de) or fax +49 331 86 43 35  
or to the sport commission of the ILS region in accordance with the record rules



## 第3章 プール競技規則

### 3. プール競技総則 (Pool Events)

この章では、以下のプール競技について述べる：

- ・ 障害物スイム (200 m 及び 100 m),
- ・ マネキンキャリー (50 m),
- ・ レスキューメドレー (100 m),
- ・ マネキンキャリー・ウィズフィン (100 m),
- ・ マネキントウ・ウィズフィン (100 m),
- ・ スーパーライフセーバー (200 m),
- ・ ラインスロー (12.5 m),
- ・ マネキンリレー (4×25 m),
- ・ 障害物リレー (4×50 m),
- ・ メドレーリレー (4×50 m),
- ・ プールライフセーバーリレー (4×50 m)。

#### 3.1. プール競技の一般規則

チームマネージャー及び競技者は、競技スケジュール、競技規則及び競技の方法に精通している責任を有する。

- (a) 競技者は招集場所への集合が遅れた場合、種目を開始することができない (DQ3)。
- (b) 競技者又はチームが競技の開始時に不在だった場合、失格となる (DQ4)。
- (c) 競技者とオフィシャルのみが指定された競技エリアのプールデッキに入ることが許される。競技者は競技していないとき、オフィシャルは職務についていないとき、指定された競技エリアを離れなければならない。
- (d) 競技規則で特別に定められていない限り、人工的な推進手段は競技で使用することはできない (水かき、腕バンドなど)。
- (e) プール種目において、粘着性、接着性のある物質 (液体状、個体状、又は噴霧するもの) を、競技者の手や足へ使用すること、又は掴みやすいようにマネキン又はレスキューチューブの表面への使用すること、又はプールの底を蹴りやすくするために使用すること、は認められない (DQ7)。
- (f) 予防的、医療的、治療的又は運動学的な目的に用いられるボディテープは、それが競争的優位性を与えない限り、チーフレフリーの判断で認可される。

**注意：**上記のことは、一般に、体 (四肢を含むが手足は含まない) のテーピングが許容され得ることを意味する。また、一般的なテーピングは許可されない：複数の指 (2本以上の指を一緒にテープで固定) は、泳ぐときやマネキンを掴む助力になり得る：及び、指一本でも、マネキン／器材を掴んだりマネキンキャリーの助力になるようであれば許可されない。

- (g) 競技者は、特に許可された競技種目 (例えば、障害物スイム、マネキンを伴った浮上、4 x 25 mマ

ネキンリレーなど)を除いて、プールの底を補助に利用してはならない (DQ8)。

- (h) 競技者は、プールの付属品 (例えば、レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いてはならない (プールの底は含まれない) (DQ17, 24)。
- (i) 競技中に他の競技者を妨害した競技者は失格となる (DQ2)。
- (j) 競技種目別規則で特に指定されていない限り、競技者及び器材はレース中及びレースが終了した時点で、指定されたレーン内に留まっていなければならない: 競技者はプールから出るよう指示されるまで水中に留まっておく (DQ9)。

競技者は、プール端のタッチ板を越えてではなく、プールサイドから退水しなければならない。

- (k) 競技者は全ての種目において所属団体/クラブ又は国の代表チームのプール競技用キャップを着用せねばならない。(デザインがプール競技用と同じであれば) オーシャン競技のキャップ, 又はゴム製, シリコン製キャップを着用しても良い。
- (l) ジャッジによるか又は全自動審判計時装置によるかを問わず、着順判定は抗議又は上訴の対象とならない。
- (m) イベントディレクター, スターター, 又はチーフレフリー (又はチーフレフリーが指定した者) によるスタートに関する決定は抗議又は上訴の対象とならない。
- (n) チーフレフリーは、器材の不調又は干渉があった場合、レースの再走/再投げを許可する場合がある。再走/再投げのタイムが公式タイムとなる。
- (o) 落としたフィンの回収: 競技者は、マネキンの扱い方に違反していない限り (「3.3 マネキン」を参照), スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。競技者は、別のヒートで再度スタートすることはできない。

### 3.2. スタート

- (a) 各レースのスタート前、イベントディレクター又は指定されたオフィシャルは以下を行う:
  - (i) 全てのテクニカルオフィシャルが位置についていることを確認する,
  - (ii) 競技者, マネキンハンドラー, 溺者役らが適切な服装で正しい位置についていることを確認する,
  - (iii) 全ての器材が安全で正しい位置に配置されていることを確認する。
- (b) 競技者及びテクニカルオフィシャルが規則通りにスタートする準備ができたなら、指定されたオフィシャルは以下を行う:
  - (i) 各レースの公式開始を長いホイッスルで合図し、競技者に、スタート台で位置につくように、又はマネキンリレー競技の場合は水中に入るように指示する,
  - (ii) コースに向かって腕を伸ばしてスターターに (競技者がスターターの管理下にあることを) 合図する。

#### 注意:

1. 上記の手続きが行われたにもかかわらず、競技者又はチームがレースのスタートにいなかった場合、又は不適切な服装であった場合、オフィシャルは責任を負わない、即ち、競技者/チーム/ハ

ンドラーによる上記に関する抗議又は上訴は許されない。

2. チーフレフリーの判断で、「オーバーザトップ (over the top) 」方式スタートが用いられる場合がある。
3. ラインスローのスタート手順はラインスロー (3.13) の「競技の説明」を参照せよ。

### 3.2.1. 飛込スタート

世界選手権/JLA 主催競技会においては、1 回制スタートとする。

- (a) 長いホイッスルにより競技者はスタート台に上がり、そこに留まる。
- (b) スターターの「Take your marks」の号令によって、競技者はスタート台前方に少なくとも一方の足の指を置き、速やかにスタートの姿勢をとる。競技者が静止したら、スターターは音によるスタートの合図を出す。
- (c) 競技者は、スタート台から、又はプールデッキから、又は水中で一方の手をスタート壁/縁又はスターティングブロックに触れたまま、スタートしてもよい。

### 3.2.2. 水中スタート

マネキンリレー及びラインスローでは、以下のような水中スタートで競技を開始する：

- (a) (1回目の) ホイッスルによって、マネキンリレーの第1競技者及びラインスローの溺者役はプールに入りスタートの準備をする、
- (b) 2回目のホイッスルによって、競技者はむやみに遅らせることなくスタートの位置につく、
- (c) マネキンリレーの競技者は、一方の手でマネキンを水面に保持し、もう一方の手でプールの壁/縁又はスターティングブロックを掴み、水中からスタートする、
- (d) ラインスローの溺者役は、割り当てられたレーン内で固定されたクロスバーの救助者に近い側で立ち泳ぎをする。溺者役はスローラインとクロスバーの両方を片手又は両手で掴む、
- (e) スターターは、全ての競技者がスタート位置についたら、「Take your marks」の号令を出す、
- (f) 全ての競技者が静止した状態になったら、音によるスタートの合図をする。

### 3.2.3. 失格

- (a) スタートの合図をする前にスタートした (即ち、スタート動作を開始した) 競技者は全て失格となる (DQ10)。
- (b) 失格が宣告される前にスタートの合図が発せられていた場合、競技は続行し不正スタートした競技者は、競技終了後失格となる (DQ10)。
- (c) スタートの合図の前に明らかに不正スタートをしたとみなされる場合は、スタートの合図をしないで、その競技者を失格とする：他の競技者は戻され再スタートをする (DQ10)。
- (d) 競技者を呼び戻す合図は、スタートの合図と同じ合図を繰り返すと共にフライングローブを落とし競技者を呼び戻す。もしくは、チーフレフリー又はチーフレフリーが指名した者が、スタートが不正であったと判断した場合、チーフレフリー又はチーフレフリーが指名した者はホイッスルを吹き、続いてスターターの合図を繰り返す。

- (e) マネキンキャリア・ウィズフィン（100 m）の場合、呼び戻す合図は可能ならば水中音とする。もし呼び戻す合図として別の信号が用いられる場合、競技者には予め伝えておく。
- (f) オフィシャルの間違いにより競技者が違反した場合、その違反は取り消される。

#### 3.2.4. 注意

1. イベントディレクター、チーフレフリー及びスターターの任務は、公正なスタートを保障することである。イベントディレクター、スターター又はチーフレフリーが、技術的・器材的な問題を含む何らかの理由でスタートが公正でないと判断した場合、競技者は呼び戻され再スタートが行われる。
2. 競技者は、スタートの合図の前に「前方へのスタート動作」を起こした場合に失格となる。競技者が動いたことが全て失格となるわけではない。スタートの合図を予想して明らかに前方へのスタート動作を起こした競技者が失格となる（DQ10）。
3. 1人あるいはそれ以上の競技者がスタート動作を起こしたか否かの判断は、イベントディレクター、スターター及びチーフレフリーの裁量による。一般に、ある競技者のスタート動作が他の競技者の不正スタートにつられて生じたと判断された場合は、不正スタートによる失格とはしない。
4. イベントディレクター、スターター、もしくはチーフレフリー（又はチーフレフリーが指名した者）によるスタートに関する判断は、抗議又は上訴の対象にはならない。

### 3.3. マネキン

#### 3.3.1. マネキンの浮上

競技者がマネキンを水面に引き上げる場合、競技者はプールの底を蹴ったり押したりしてもよい。競技者は、

- ・ マネキンを持って水面に浮上せねばならない、
- ・ マネキンの頭頂部が5 mライン（マネキンキャリア、レスキューメドレー、スーパーライフセーバー）又は10 mライン（マネキンキャリア・ウィズフィン）を越える時点で、マネキンを正しい状態で運ばなくてはならない（キャリア）、
- ・ 水面に浮上した後、再び潜ってはならない。

#### 注意：

1. 競技者は、指定された5/10 mラインより前で、少なくとも一方の手でマネキンを掴んで水面に浮上しなければならない。競技者は、指定された5/10 mラインを越えたら、潜水して泳いではならず、それらのラインを越えた後レースを終えるまで、マネキンを持ったままずっと水面にいななければならない。

「マネキンの浮上」の規則は、マネキンの頭頂部が5/10 mラインを越える時のみ適用される（JLAでは、マネキンの頭頂部が5/10 mラインを越える時だけでなく、マネキンを持って水面に浮上する間に適用されると解釈する）。

「マネキンを運ぶ（キャリア）」を判定する時、競技者とマネキンは一体／1つの存在として扱われる。判定には、競技者の動き、運ぶ（キャリア）技術、そしてマネキンの位置が重視される。マネ

キンの上に水がかかることは判定基準にはならない。

2. 「水面」とは静水状態のプールの水平面を意味する。

### 3.3.2. マネキンを運ぶ（キャリアー）

- (a) 競技においてマネキンが運ばれる（キャリアーされる）際、マネキン（溺者）は、呼吸停止だと想定する。水がマネキンの顔にかぶることは、ジャッジの基準ではない。
- (b) 競技者は、少なくとも一方の手が常にマネキンに触れてマネキンを運ばなければならない。
- (c) マネキンを押してはいけない — 「押す」とは、マネキンの頭部が競技者の頭部の前方にあることと定義される。
- (d) マネキンの喉、口、鼻及び目を掴んではいけない。「マネキンの喉、口、鼻及び目を掴む」行為には、マネキンの口、鼻及び目を競技者の手、腋、体、及び／又は四肢で覆うことも含まれる。
- (e) 競技者とマネキンは一体とみなし、どちらかは水面にとどまっていなければならない。

**注意1:**「水面」とは静水状態のプールの水平面を意味する。

**注意2:** 競技者及びマネキンが共に「水面下」であれば、失格となる。

- (f) マネキンの頭部は、競技者の身体のかなる部分にも覆われてはならず、又、競技者の身体のかなる部分の下でも運ばれて（キャリアー）はならない。

**注意:** 競技者の身体には、トルソー（胴体）、ヒップ（腰付近）、脚及び足、腕及び手が含まれる。

- (g) 「マネキンを運ぶ（キャリアー）」の規則は、マネキンの頭頂部が5 m又は10 mラインを越えた時点から適用される。
- (h) マネキンリレーの5 mのスタートゾーン内、チェンジオーバーゾーン内、及びフィニッシュゾーン内では、「マネキンを運ぶ（キャリアー）」の規則は適用されないが、競技者は少なくとも一方の手で、マネキンの受け渡し時を含め常時マネキンに触れている必要がある。

**注意:**「マネキンを運ぶ（キャリアー）」の規則は、マネキンが（水面に対して90度を超え）プールの底を向く角度で運ばれる場合の失格を排除するために修正された。

### 3.3.3. マネキンを引っ張る（トウ）

- (a) マネキンを引っ張る（トウ）際、マネキン（溺者）は、呼吸していると想定する。引っ張る（トウ）前に、競技者は、10 mのピックアップゾーン内において、マネキンを正しく確保せねばならない。「正しく確保」とは、レスキューチューブをマネキンの本体回り及び両腕の下に装着し、クリップをオーリングにかけることをいう。
- (b) マネキンの頭部が10 mラインを通過していなければ、競技者は10 mピックアップゾーン内に戻って、マネキンを確保し直してもよい。
- (c) マネキンを引っ張る（トウ）際、競技者は、仰向け、横向き、前向きで泳いでよく、またどんなキック又はストロークをしてもよい。
- (d) 競技者は、10 mピックアップゾーンを越えているとき、マネキンの顔が水面の上にあるようにレスキューチューブで正しく確保せねばならない。

**注意:**「マネキンを引っ張る (トウ)」の規則が修正された。5 mマークまでにマネキンの両腕の下にマネキンを巻いて確保するという以前の要件は、10 mマークまでの間にマネキンを確保するように変更された。

- (e) レスキューチューブの紐は、マネキンの頭頂部が10 mラインを越えた時点で、完全に伸ばされてなければならない。
- (f) レスキューチューブとマネキンが離れた場合、競技者は失格となる。引っ張っている間、レスキューチューブがマネキンの一方の腕の下からずれても、10 mラインで「正しく確保」されていて、マネキンの顔が水面より上であれば失格にはならない。
- (g) レスキューチューブの紐がマネキンの回りに巻き付いて、紐が短くなっていると見做される場合、競技者は失格となる。
- (h) マネキンがレスキューチューブの中で回転しても、マネキンの顔が水面より上であれば、競技者は失格にならない。更に、マネキンが10 mラインにおいて正しく確保され顔が水面より上であれば、マネキンは頭を先にして運ばれる必要はない。

**注意:**「マネキンを引っ張る (トウ)」の規則は、マネキンの顔が水面より上である限りマネキンがレスキューチューブの中で回転しても失格にならないように修正された。

#### 3.3.4. マネキンハンドラー

- (a) マネキントウ・ウィズフィン、スーパーライフセーバーの両種目では、競技者のチームのメンバー1人がマネキンハンドラーとしてアシストする。チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外でも当該競技会に然るべき立場で登録している者がマネキンハンドラーを務めてもよい。
- (b) スタート時及び競技中、マネキンハンドラーは手を使ってマネキンを指定されたレーン内に位置させ、垂直に、そして顔をプールの壁に向け、自然に浮く状態で保持する。
- (c) マネキンハンドラーは、競技用キャップを着用しなければならない。
- (d) マネキンハンドラーは、競技中故意にプールに入ってはならない。

### 3.4. 組み合わせ配置

- (a) プール競技において組み合わせ配置 (シード) を行う。
- (b) プール競技では、競技者は個人種目及びチーム種目のタイムを提出することが求められる。
- (c) タイムが提出されていない競技者は、一番遅いタイムだとみなされる。
- (d) 同タイムであった競技者らの順番は抽選で決定される。また、タイムを提出していない競技者ら (一番遅いタイムとして同タイムとみなされる) の順番も抽選で決定される。

#### 3.4.1. 予選における組み合わせ配置

(エントリー数に応じて) 競技で予選と決勝が行われる場合、競技者は以下の方法により提出されたタイムに応じて組み合わせ配置される。

- (a) **1ヒートしかない場合:** そのヒートは決勝として組み合わせ配置される。
- (b) **2ヒートある予選の場合:** 最も早い競技者を第2ヒートに配置し、2番目に早い競技者を第1ヒート

に配置する。3番目に早い競技者を第2ヒートに、4番目に早い競技者を第1ヒートに、というように配置する。

- (c) **3ヒートある予選の場合**：最も早い競技者を第3ヒートに配置し、次に早い競技者を第2ヒートに配置し、その次に早い競技者を第1ヒートに配置する。4番目に早い競技者を第3ヒートに、5番目に早い競技者を第2ヒートに、6番目に早い競技者を第1ヒートに、7番目に早い競技者を第3ヒートに、というように配置する。
- (d) **4ヒート以上ある予選の場合**：最後の3ヒートは上記(c)に従って組み合わせ配置する。最後の3ヒートの1つ前のヒート（最後から4ヒート目）は、2番目に早い競技者群で構成される。最後の4ヒートの1つ前のヒート（最後から5ヒート目）は、3番目に早い競技者群で構成される。以後同様。レーンは、下記の「3.4.3 レーンの割り当て」に記載の方法に従って、提出されたタイムの降順で割り当てられる。
- (e) **例外**：1つの競技で複数のヒートがある場合、各ヒートには最低3人の競技者を配置する。

### 3.4.2. タイム決勝の組み合わせ調整

競技がタイム決勝で行われる場合、競技者は提出されたタイムに応じて以下の方法により組み合わせ配置される。

- (a) **1ヒートしかない場合**：そのヒートは決勝として組み合わせ配置する。
- (b) **2ヒート以上の場合**：最も早い競技者群が最終ヒートに配置され、次節の詳細のとおりレーン割り当てされる。次に早い競技者群が最後から2番目のヒートに配置され、全ての競技者が提出タイムに応じてヒートに配置されレーン割り当てされるまで、同様に続く。

### 3.4.3. レーンの割り当て

8レーンあるプールの第4レーンに最も早い競技者又はチームを配置する（レーンは、スタート側から見てプールの右側を第1レーンとする）。次に早いタイムの競技者又はチームをその1つ左のレーンに配置し、以下、右、左と交互に配置する。同タイムの競技者は抽選により、前述の方法に従ってレーンを割り当てられる。

### 3.4.4. 決勝における組み合わせ配置

プール競技のスタート位置は以下のように組み合わせ配置される：

- (a) 予選のタイムに基づき、上位8位までの競技者はA決勝、9位から16位までの競技者はB決勝に割り当てされる。
- (b) 予選の同じヒート又は異なるヒートにおいて、8位又は16位を決める競技者のタイムが1/100秒精度で同じだった場合、どの競技者がA、Bどちらの決勝に進むかを決定するためスイムオフを行う。そのスイムオフは関与する競技者の予選ヒート終了後1時間以内には行われない（ただし、関与する競技者がより短い時間で行うことに同意した場合を除く）。再度同タイムであれば、もう一回スイムオフが行われる。
- (c) A又はB決勝において棄権した又はスタートしなかった（DNS）競技者又はチームは、チーム得点の点数を獲得しない（すなわち、「不参加」の加点は零点である）。

- (d) 競技者が1人以上又はチームが1チーム以上A決勝を棄権した場合、B決勝から競技者（又はチーム）が繰り上げられ、代替として最大4人（又は4チーム）までの競技者が予選ヒートから繰り上げられる。B決勝は再シード（再度、組み合わせ配置）されない。代替競技者が足りなくても、招集できた競技者によりB決勝を行う。決勝は再シード（再度、組み合わせ配置）されない。

**注意：**プール競技において、代替競技者は予選ヒートのタイムに基づき決定される。

### 3.5. 計時と順位の設定

競技の順位及び記録を決定するために、計時は全自動審判計時装置<sup>13</sup>又はデジタルストップウォッチのいずれかによって行われる。

#### 3.5.1. 全自動審判計時装置による計時

- (a) 全自動審判計時装置の操作は、主催団体より任命されたオフィシャルの監督の下に行われなければならない。
- (b) 全自動審判計時装置を使用する場合であっても、装置の故障や突発的な事故に備えて少なくとも各レーン2人のストップウォッチによるタイムキーパーを予備配置しなければならない。全自動審判計時装置が作動しなかった場合は、タイムキーパーが計測したタイムが採用される。
- (c) 全自動審判計時装置の着順とタイムの判定は、1/100秒までで着順を決定する。1/1000秒の位まで計測可能な場合であっても、1/1000秒の位は切り捨てる。1/100秒までが同記録の場合は同着・同順位とする。公式結果や電光掲示板の表示は1/100秒まででなくてはならない。
- (d) 全自動審判計時装置によって判定された着順とタイムは、ストップウォッチによる手動計時の判定より優先される。

#### 3.5.2. 手動による計時

- (a) ストップウォッチによる手動計時の場合、各レーン3人のタイムキーパーによって計測したタイムが採用される。さらに別途2人のタイムキーパーがおり、そのいずれかが、各レーンのタイムキーパーの計時がスタート又はストップできなかった、もしくは何らかの理由でタイムを計測できなかった場合、その代わりとなるよう指示される。
- (b) タイムはスタート合図が鳴った時に計測開始し、競技者の身体のいずれかの部分がフィニッシュ壁／縁に触れたとき（タイムキーパーに明瞭に目視できたとき）に停止する。
- (c) 3台のストップウォッチのうち2台が同じで、他の1台が異なるタイムを計測した場合、2台の合致したタイムを公式タイムとする。3台のストップウォッチがそれぞれ異なるタイムを計測した場合、中間のタイムを計測したストップウォッチのタイムを公式タイムとする。3台のストップウォッチのうち、2台だけがタイムを計測した場合、その2台の平均時間を公式タイムとする。
- (d) タイムキーパーの記録したタイムによる順位が、フィニッシュジャッジの判定と一致しない場合は、フィニッシュジャッジの決定した順位を優先する。当該競技者のタイムは、みな同じとする。例えば、2人の競技者が関係する場合、2人のタイムは2人のタイムの合計÷2となる。

---

<sup>13</sup> 【JLA注釈】JLA主催競技会における全自動審判計時装置とは、(財)日本水泳連盟の「自動審判装置等公認規則」に基づく装置を基本とする。

### 3.6. テクニカルオフィシャル

テクニカルオフィシャルは、種目が公正に、かつ、ILS/JLA 規則及び手順の範囲内において運営されるように保障する。テクニカルオフィシャルはまた、競技者の動きが種目別競技規則を順守しているか否かを評価する。

テクニカルオフィシャルは、自分が判定するレーンが明瞭に見えるように配置されなければならない。

### 3.7. 障害物スイム—200 m 及び 100 m (Obstacle Swim - 200 m and 100 m)



#### 3.7.1. 競技の説明 — 200 m

競技者は音による合図で飛び込みスタートし、水中の障害物の下を8回通過しながら200 m泳いで、プールのフィニッシュ壁/縁にタッチする。

- (a) 飛び込んだ後、競技者は第1障害物までの間に；各障害物を通過した後；及び折返した後に障害物の下を通過する前に、水面に浮上しなければならない。
- (b) 競技者は各障害物の下から水面に浮上する際、プールの底を蹴っても押してもよい。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面を突き破ることを意味する。
- (c) 障害物に向かって泳ぐ、又は障害物にぶつかることは、失格となる行為ではない。

#### 3.7.2. 競技の説明 — 100 m

競技者は、音による合図で飛び込みスタートし、水中の障害物の下を4回通過しながら100 m泳いで、プールのフィニッシュ壁/縁にタッチする。

- (a) 飛び込んだ後、競技者は第1障害物までの間に；各障害物を通過した後；及び折返した後に障害物の下を通過する前に、水面に浮上しなければならない。
- (b) 競技者は各障害物の下から水面に浮上する際、プールの底を蹴っても押してもよい。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面を突き破ることを意味する。
- (c) 障害物に向かって泳ぐ、又は障害物にぶつかることは、失格となる行為ではない。

#### 3.7.3. 器材

**障害物:**「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。障害物は、全レーンにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。第1障害物は、スタートの壁から12.5 mのところを設置し、第2障害物は逆の端から12.5 mのところを設置する。2つの障害物の距離は25 mとする。

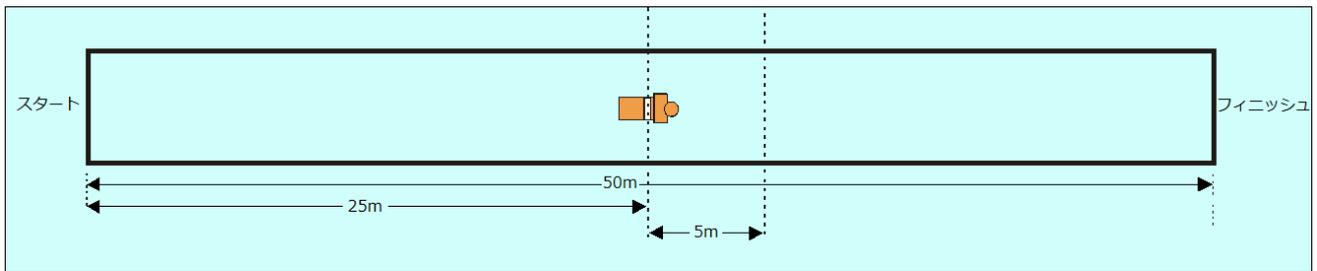
#### 3.7.4. 失格

「2. 共通競技総則」及び3.1から3.3の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) 障害物の上を通過してしまった後、ただちに障害物の上又は下を戻り、あらためて障害物の下を通過し直さなかった (DQ11),
- (b) 飛び込んだ後又は折返した後、障害物の下を通過する前に浮上しなかった (DQ12),
- (c) 各障害物を通過後、浮上しなかった (DQ13),

- (d) 浮上する際、プールの付属品（レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合 — ただし、プールの底は含まれない（DQ17）,
- (e) 折返しの際、壁／縁にタッチをしなかった（DQ14）,
- (f) フィニッシュ壁／縁にタッチしなかった（DQ15）。

### 3.8. マネキンキャリー—50 m (Manikin Carry - 50 m)



#### 3.8.1. 競技の説明

競技者は、音による合図で飛び込みスタートし、自由形で25 m泳ぎ、水中に潜って5 mのピックアップラインまでの間にマネキンを水面に引き上げる。競技者はその後そのマネキンを運び、プールのフィニッシュ壁／縁にタッチする。

マネキンを水面に引き上げる際、競技者はプールの底を押してもよい。

#### 3.8.2. 器材

(a) **マネキン**：「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。マネキンは水を一杯に入れ密閉する。競技者は主催者が用意したマネキンを用いなければならない。

(b) **マネキンの設置**：マネキンは1.8 mから3 mの間の深さに置く。3 mより深い場合、マネキンを台（又はその他の補助）の上に置き、既定の深さになるようにする。

マネキンは、背を下にして、フィニッシュの方向に頭を向け、胸部中央ラインの上端が25 mライン上にくるように置かれる。

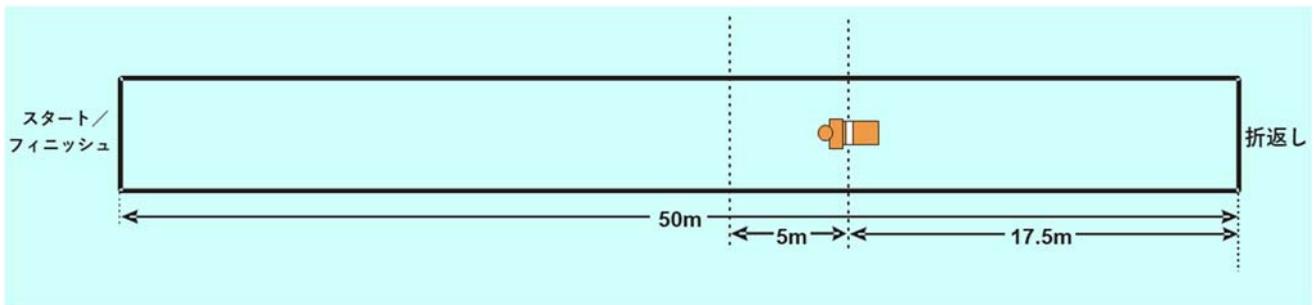
(c) **マネキンの浮上**：競技者は、マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに、マネキンを正しい状態で運ばなくてはならない。

#### 3.8.3. 失格

「2. 共通競技総則」及び3.1 から3.3の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) マネキンに向かって潜る前に水面に浮上しなかった (DQ16),
- (b) マネキンと一緒に水面に浮上する際、プールの付属品（例えば、レーンロープ、排水管、水中ホッケー設備等）を補助に用いた — 但し、プールの底は含まれない (DQ17),
- (c) マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに、マネキンを正しい状態で運ばなかった (DQ18),
- (d) 「3.3 マネキン」の解説のように、マネキンを正しくない方法で運んだ (DQ19),
- (e) フィニッシュ壁／縁にタッチする前にマネキンを放した (DQ21),
- (f) フィニッシュ壁／縁にタッチしなかった (DQ15)。

### 3.9. レスキューメドレー—100 m (Rescue Medley - 100 m)



#### 3.9.1. 競技の説明

競技者は、音による合図で飛び込みスタートし、自由形で50 m泳ぎ、折返し、潜水して、折返し壁から17.5 mの位置に沈められたマネキンまで潜行する。

競技者は、5 mのピックアップラインまでの間にマネキンを水面に引き上げ、その後フィニッシュ壁/縁にタッチするまでの残りの距離、マネキンを運ぶ。

競技者は、折返しの際呼吸してもよいが、足が折返し壁/縁を離れた後は、マネキンと一緒に水面に浮上するまで呼吸してはならない。

マネキンを水面に引き上げる際、競技者はプールの底を押してもよい。

#### 3.9.2. 器材

(a) **マネキン**: 「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。マネキンは水を一杯に入れ密閉する。競技者は主催者が用意したマネキンを用いなければならない。

(b) **マネキンの設置**: マネキンは1.8 mから3 mの間の深さに置く。3 mより深い場合、マネキンを台(又はその他の補助)の上に置き、既定の深さになるようにする。

マネキンは、背を下にして、フィニッシュの方向に頭を向け、胸部中央ラインの上端が17.5 mライン上にくるように置かれる。

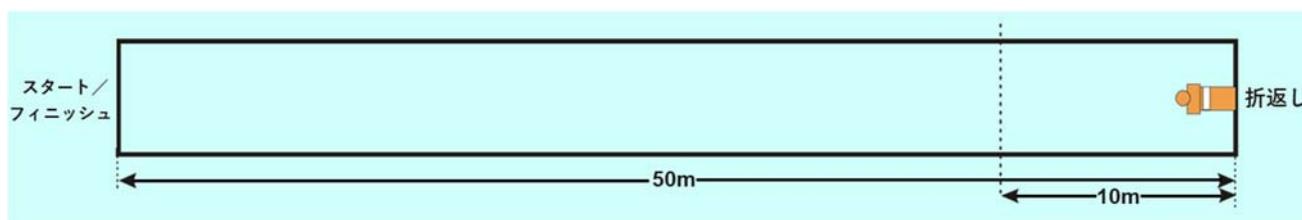
(c) **マネキンの浮上**: 競技者は、マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに、マネキンを正しい状態で運ばなくてはならない。

#### 3.9.3. 失格

「2. 共通競技総則」及び3.1から3.3の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) 折返し後マネキンを引き上げる前に浮上した (DQ22),
- (b) マネキンと一緒に水面に浮上する際、プールの付属品(例えば、レーンロープ、排水管、水中ホッケー設備等)を補助に用いた — 但し、プールの底は含まれない (DQ17),
- (c) マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに、マネキンを正しい状態で運ばなかった (DQ18),
- (d) 「3.3 マネキン」の解説のように、マネキンを正しくない方法で運んだ (DQ19),
- (e) フィニッシュ壁/縁にタッチする前にマネキンを放した (DQ21),
- (f) フィニッシュ壁/縁にタッチしなかった (DQ15)。

### 3.10. マネキンキャリー・ウィズフィン—100 m (Manikin Carry with Fins - 100 m)



#### 3.10.1. 競技の説明

競技者は、フィンをつけ、音による合図で飛び込みスタートし、自由形で50 m泳ぎ、折返し壁から10 mまでの間にマネキンを水面に引き上げる。その後競技者はプールのフィニッシュ壁/縁にタッチするまでマネキンを運ぶ。

競技者はプールの折返し壁/縁にタッチしなくてもよい。

マネキンを水面に引き上げる際、競技者はプールの底を押してもよい。

#### 3.10.2. 器材

(a) **マネキン, フィン:**「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。マネキンは水を一杯に入れて密閉する。競技者は主催者が用意したマネキンを使いなければならない。

(b) **マネキンの設置:** マネキンは1.8 mから3 mの間の深さに置く。3 mより深い場合、マネキンを台(又はその他の補助)の上に置き、既定の深さになるようにする。

マネキンは、プールの底に接するように背を下にして、マネキンの底(脚側)がプール壁に接し、フィニッシュの方向に頭が向くように置かれる。

施設の設計上、プールの壁がプールの底と直角ではない場合、マネキンは壁にできるだけ近く、水面で測定した距離が壁から300 mm以内に位置しなければならない。

(c) **マネキンの浮上:** 競技者は、マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに、マネキンを正しい状態で運ばなくてはならない。

(d) **落としたフィンの回収:** 競技者は、マネキンの扱い方に違反していない限り(「3.3 マネキン」を参照)、スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。競技者は、別のヒートで再度スタートすることはできない。

#### 3.10.3. 失格

「2. 共通競技総則」及び3.1から3.3の概要に加えて、以下の行為は失格になる:

(a) マネキンと一緒に水面に浮上する際、プールの付属品(例えば、レーンロープ、排水管、水中ホッケー設備等)を補助に用いた — 但し、プールの底は含まれない(DQ17),

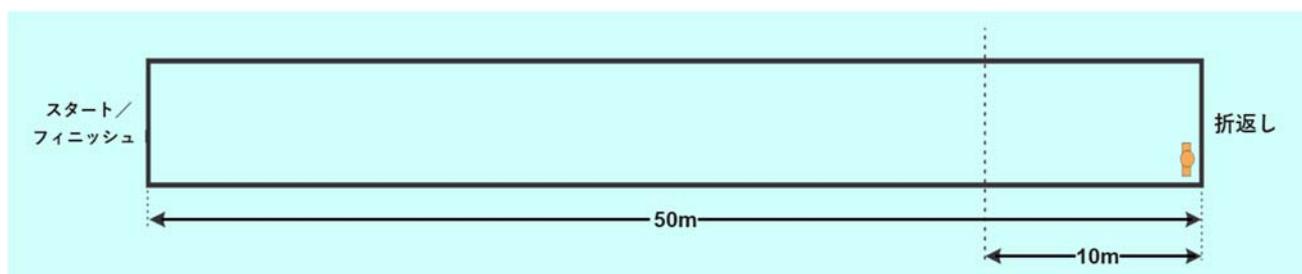
(b) マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに、マネキンを正しい状態で運ばなかった(DQ23),

(c) 「3.3 マネキン」の解説のように、マネキンを正しくない方法で運んだ(DQ19),

(d) フィニッシュ壁/縁にタッチする前にマネキンを放した(DQ21),

(e) フィニッシュ壁/縁にタッチしなかった(DQ15)。

### 3.11. マネキントウ・ウィズフィン—100 m (Manikin Tow with Fins - 100 m)



#### 3.11.1. 競技の説明

競技者は、フィンとレスキューチューブを装着し、音による合図で飛び込みスタートし、自由形で50 m泳ぐ。折返し壁／縁にタッチした後、10 mのピックアップゾーンまでの間に、競技者はマネキンにチューブを正しく装着し、フィニッシュまで引っ張る。競技者がプールのフィニッシュ壁／縁にタッチしたとき競技は終了する。

#### 3.11.2. 器材

(a) **マネキン, フィン:**「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。マネキンは、浮いたとき胸部の横ラインの上部が水面にくるように水を入れる。競技者は主催者が用意したマネキンとレスキューチューブを用いなければならない。

(b) **マネキンの設置:** 競技者のチームのメンバー1人がマネキンハンドラーとして補助する。チームメンバーでない者でも、当該競技会に然るべき立場で登録されていて、チーフレフリーが認めれば、ハンドラーを務めてもよい。マネキンハンドラーは、彼ら競技者のチームキャップをかぶらねばならない。

スタート前及びレース中、マネキンハンドラーは、マネキンを指定されたレーン内のいずれかの場所に位置させる — 垂直に、顔を折返しの壁に向け、マネキンが自然に浮く位置に。

競技者が折返し壁／縁にタッチしたら、直ちにマネキンハンドラーはマネキンを放す。ハンドラーは競技者又はフィニッシュ壁の方にマネキンを押しはけない。

競技中、マネキンハンドラーは故意にプールに入ってはけない。

(c) **スタート時のレスキューチューブ:** スタートにおいて、レスキューチューブ本体と紐は、競技者に指定されたレーン内であれば、競技者の判断で自由に配置してよい。但し競技者は、レスキューチューブと紐が安全で正しく配置されるようにせねばならない。レスキューチューブのクリップは、マネキンに装着するまで外したままにしておく。

(d) **レスキューチューブの装着:** レスキューチューブは正しく装着せねばならない — 競技者の判断で、ループ（肩掛け部分の紐の輪）を一方又は両方の肩にかけるか、肩から胸にかけるか。レスキューチューブを正しく着用していたのであれば、マネキンに接近する際、又はマネキンを引っ張っている間に、ループが競技者の腕又はひじに落ちてても、失格にはならない。

(e) **マネキンの確保:** 競技者は、折返し壁／縁にタッチしたあと、10 mピックアップゾーン内において、レスキューチューブをマネキンの両腕の下のボディーに巻き付け、オーリングにクリップをかけて、マネキンを正しく確保する。マネキンの頭部が10 mラインを通過していなければ、競技者は

10 mピックアップゾーン内に戻って、マネキンを確保し直してもよい。

- (f) **マネキンを引っ張る**：マネキンは、「3.3 マネキン」に記述の通り、運ぶのではなく引っ張らなければならない。レスキューチューブはマネキンに付けられなければならない、レスキューチューブの紐は、マネキンの頭頂部が10 mラインを通過するまでに、完全に伸びた状態にしなければならない。
- (g) レスキューチューブとマネキンが外れたら、競技者は失格となる。10 mラインにおいてレスキューチューブが「正しく付けられ」、マネキンの顔が水面より上にあれば、競技者がマネキンを引っ張っている間に一方の腕からレスキューチューブがずれても失格にはならない。
- (h) レスキューチューブの紐がマネキンに巻かれている又は巻きついて紐が短くなっているとみなされる場合、競技者は失格となる。
- (i) マネキンがレスキューチューブ内で回転しても、マネキンの顔が水面より上に残っている限り、競技者は失格にならない。マネキンが10 mライン時点で正しく確保され、且つ顔が水面より上に残っていれば、マネキンの頭を先にして運ぶ必要はない。
- (m) **落としたフィンの回収**：競技者は、マネキンの扱い方に違反していない限り（「3.3 マネキン」を参照）、スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。競技者は、別のヒートで再度スタートすることはできない。
- (n) **レスキューチューブの不具合**：レース中、レスキューチューブ、紐及び／又はハーネス（ベルト）に技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断すれば、その競技者を別のヒートで再スタートさせてもよいが、それは、レスキューチューブが主催団体から提供され、提供されたレスキューチューブは全ての競技者によって使われる規則になっている場合に限る。

### 3.11.3. 失格

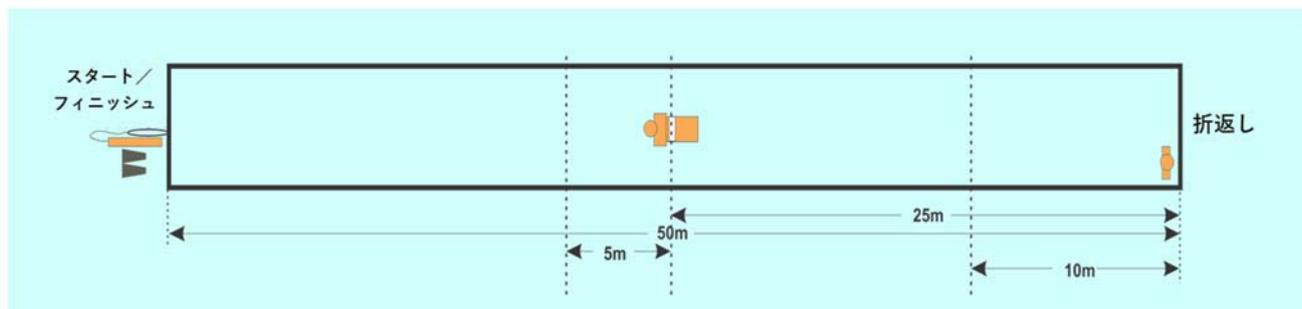
「2. 共通競技総則」及び3.1から3.3の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) レスキューチューブをマネキンに巻きつける際、プールの付属品（レーンロープ、階段、水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合（DQ24），
- (b) 競技者が折返し壁／縁にタッチする前に、レスキューチューブのクリップをオーリングにかけた場合（DQ30），
- (c) 競技者が折返し壁／縁にタッチした後、マネキンハンドラーがただちにマネキンを放さなかった場合（DQ27），
- (d) マネキンハンドラーが、マネキンを競技者の方、又はフィニッシュ壁／縁側へ押した場合（DQ28），
- (e) マネキンハンドラーがマネキンを正しく保持していなかった場合、又は競技者が折返し壁／縁をタッチした後、マネキンハンドラーが再度マネキンを触った場合（DQ25），
- (f) マネキンハンドラーが競技中故意にプールに入った場合、プールに入り他の競技者を妨害した場合又は競技の判定を妨害した場合（DQ29），
- (g) 50 m地点で競技者がプールの壁／縁にタッチする前にマネキンに触れた場合（DQ26），
- (h) レスキューチューブを正しくマネキンに巻き付けて確保しなかった場合（マネキンの胴体、そして

両腕の下でない場所や、クリップをオーリングにかけていないなど) (DQ31),

- (i) マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに、レスキューチューブを巻き付けて確保しなかった場合 (DQ32),
- (j) マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに、レスキューチューブの紐が完全に伸ばされていない場合 (DQ34),
- (k) マネキンの頭頂部が10 mラインを越えた後、レスキューチューブの紐が完全に伸びた状態でマネキンを引っ張っていない場合 (DQ35),
- (l) マネキンの顔が水面下にある状態で引っ張った場合 (DQ20),
- (m) マネキンを引っ張らずに押したり、運んだり (キャリア) した場合 (DQ33),
- (n) レスキューチューブでマネキンを正しく確保した後、外れた場合 (DQ36),
- (o) レスキューチューブとマネキンが正しい位置にない状態でフィニッシュ壁／縁をタッチした場合 (DQ37),
- (p) 競技者がフィニッシュ壁／縁へのタッチに失敗した場合 (DQ15)。

### 3.12. スーパーライフセーバー—200 m (Super Lifesaver - 200 m)



#### 3.12.1. 競技の説明

競技者は、音による合図で飛び込みスタートし、自由形で75 m泳ぎ、水中に潜ってマネキンを引き上げる。競技者は、5 mピックアップゾーン内でマネキンと共に水面に浮上し、折返し壁／縁までマネキンを運ぶ。壁／縁にタッチした後、競技者はマネキンを放す。

水中で、競技者はフィンとレスキューチューブを装着し、自由形で50 m泳ぐ。壁／縁にタッチした後の10 mピックアップゾーンまでの間に、競技者はマネキンの周りにレスキューチューブを正しく付け、マネキンをフィニッシュまで引っ張る。

競技は、競技者がプールのフィニッシュ壁／縁にタッチして完了する。

#### 3.12.2. 器材

- マネキン, フィン, レスキューチューブ:**「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。競技者は主催者が用意したマネキン及びレスキューチューブを用いなければならない。
- フィンとレスキューチューブの置き方:**スタートの前に、競技者はフィンとレスキューチューブを指定されたレーン内のプールデッキ上 — スタート台ではない — に置かねばならない。
- 運ぶマネキンの置き方:**マネキンは水を一杯に入れ密閉する。マネキンは1.8 mから3 mの間の深さに置く。3 mより深い場合、マネキンを台（又はその他の補助）の上に置き、既定の深さになるようにする。

マネキンは、プールの底に接するように背を下にして、フィニッシュの方向に頭が向くように置かれ、横ラインの上部が25 mラインにくるようにする。

- 引っ張るマネキンの置き方:**マネキンは、浮いたとき胸部の横ラインの上部が水面にくるように水を入れる。

競技者のチームのメンバー1人がマネキンハンドラーとして補助する。チームメンバーでない者でも、当該競技会に然るべき立場で登録されていて、チーフレフリーが認めれば、ハンドラーを務めてもよい。マネキンハンドラーは、彼ら競技者のチームキャップをかぶらねばならない。

スタート前、マネキンハンドラーは、マネキンを指定されたレーン内のいずれかの場所に位置させる — 垂直に、顔を折返しの壁に向け、マネキンが自然に浮く位置に。

競技者が折返し壁／縁にタッチしたら、直ちにマネキンハンドラーはマネキンを放さねばならない。ハンドラーは競技者又はフィニッシュ壁の方にマネキンを押しはいけない。

競技中、マネキンハンドラーは故意にプールに入ってはいけない。

- (e) **第1マネキンの浮上**：競技者は、マネキンと共に浮上する際、プールの底を押してもよい。  
競技者は、マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに、マネキンを正しい状態で運ばなくてはならない。
- (f) **(レスキュー) チューブとフィンの装着**：競技者は、折返し壁／縁に初めてタッチした後、第1マネキンを捨てる。競技者は、水中でフィンとレスキューチューブを装着し、自由形で50 m泳ぐ。
- (g) **レスキューチューブの装着**：レスキューチューブは正しく装着せねばならない — 競技者の判断で、ループ（肩掛け部分の紐の輪）を一方又は両方の肩にかけるか、肩から胸にかけるかする。レスキューチューブを正しく着用していたのであれば、マネキンに接近する際、又はマネキンを引っ張っている間に、ループが競技者の腕又はひじに落ちて、失格にはならない。
- (h) **マネキンの確保**：競技者は、折返し壁／縁に初めてタッチしたあと、10 mピックアップゾーン内において、レスキューチューブをマネキンの両腕の下のボディに巻き付け、オーリングにクリップをかけて、マネキンを正しく確保する。マネキンの頭部が10 mラインを通過していなければ、競技者は10 mピックアップゾーン内に戻って、マネキンを確保し直してもよい。
- (i) **マネキンを引っ張る**：マネキンは、「3.3 マネキン」に記述の通り、運ぶのではなく引っ張らなければならない。レスキューチューブはマネキンに付けられなければならない。レスキューチューブの紐は、マネキンの頭頂部が10 mラインを通過するまでに、完全に伸びた状態にしなければならない。
- (j) レスキューチューブとマネキンが外れたら、競技者は失格となる。10 mラインにおいてレスキューチューブが「正しく付けられ」、マネキンの顔が水面より上にあれば、競技者がマネキンを引っ張っている間にレスキューチューブがずれても失格にはならない。
- (k) レスキューチューブの紐がマネキンに巻かれている又は巻きついて紐が短くなっているとみなされる場合、競技者は失格となる。
- (l) マネキンがレスキューチューブ内で回転しても、マネキンの顔が水面より上に残っている限り、競技は失格にならない。マネキンが10 mライン時点で正しく確保され、且つ顔が水面より上に残っていれば、マネキンの頭を先にして運ぶ必要はない。
- (m) **落としたフィンの回収**：競技者は、マネキンの扱い方に違反していない限り（「3.3 マネキン」を参照）、スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。競技者は、別のヒートで再度スタートすることはできない。
- (n) **レスキューチューブの不具合**：レース中、レスキューチューブ、紐及び／又はハーネス（ベルト）に技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断すれば、その競技者を別のヒートで再スタートさせてもよいが、それは、レスキューチューブが主催団体から提供され、提供されたレスキューチューブは全ての競技者によって使われる規則になっている場合に限る。

### 3.12.3. 失格

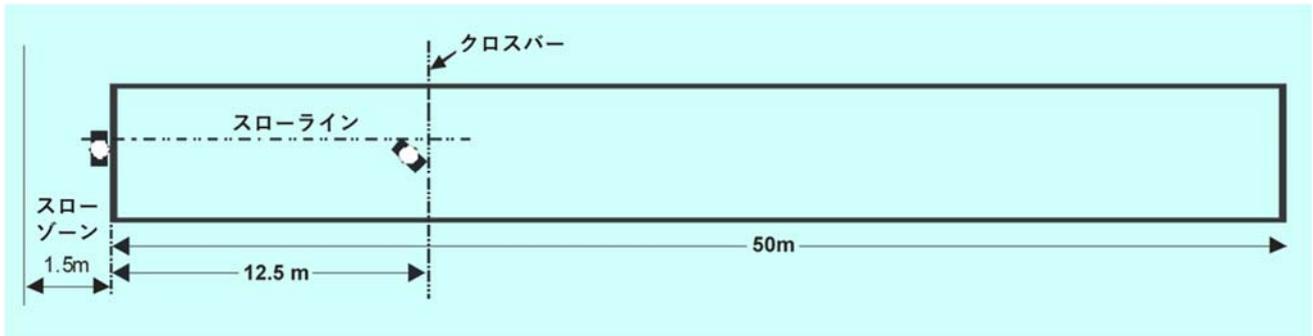
「2. 共通競技総則」及び 3.1 から 3.3 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品（レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合。ただし、プールの底は含まれない（DQ17），
- (b) マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに、マネキンを正しい状態で運ばなかった場合

(DQ18),

- (c) 「3.3マネキン」の解説のように、マネキンを正しくない方法で運んだ (DQ19),
- (d) フィニッシュ壁／縁にタッチする前にマネキンを放した (DQ21),
- (e) 競技者が折返し壁／縁にタッチする前に、レスキューチューブのクリップをオーリングにかけた場合 (DQ30),
- (f) 競技者が折返し壁／縁にタッチした後、マネキンハンドラーがただちにマネキンを放さなかった場合 (DQ27),
- (g) マネキンハンドラーが、マネキンを競技者の方、又はフィニッシュ壁側へ押した場合 (DQ28),
- (h) マネキンハンドラーがマネキンを正しく保持していなかった場合、又は競技者が折返し壁／縁をタッチした後、マネキンハンドラーが再度マネキンを触った場合 (DQ25),
- (i) マネキンハンドラーが競技中故意にプールに入った場合、プールに入り他の競技者を妨害した場合又は競技の判定を妨害した場合 (DQ29),
- (j) 150 m地点で競技者がプールの壁／縁にタッチする前にマネキンに触れた場合 (DQ26),
- (k) レスキューチューブを正しくマネキンに巻き付けて確保しなかった場合 (マネキンの胴体、そして両腕の下でない場所や、クリップをオーリングにかけていないなど) (DQ31),
- (l) マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに、レスキューチューブを巻き付けて確保しなかった場合 (DQ32),
- (m) マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに、レスキューチューブの紐が完全に伸ばされていない場合 (DQ34),
- (n) マネキンの頭頂部が10 mラインを越えた後、レスキューチューブの紐が完全に伸びた状態でマネキンを引っ張っていない場合 (DQ35),
- (o) マネキンの顔が水面下にある状態で引っ張った場合 (DQ20),
- (p) マネキンを引っ張らずに押したり、運んだり (キャリア) した場合 (DQ33),
- (q) レスキューチューブでマネキンを正しく確保した後、外れた場合 (DQ36),
- (r) レスキューチューブとマネキンが正しい位置にない状態でフィニッシュ壁／縁をタッチした場合 (DQ37),
- (s) 競技者がフィニッシュ壁／縁へのタッチに失敗した場合 (DQ15)。

### 3.13. ラインスロー 12.5 m (Line Throw - 12.5 m)



#### 3.13.1. 競技の説明

競技者は、競技 45 秒内に、重りの付いていない 1 本のラインを、(プールの端から) 12.5 m の距離にある硬いクロスバーの手前の水中にいる仲間のチームメンバーに投げる。競技者はその溺者役をプールのフィニッシュ壁/縁まで引っ張って戻す。

- (a) **スタート**: 1 回目のホイッスルで、競技者ら (スロアー (thrower) 及び溺者役) はスローゾーン (throw zone) に入る。「スロアー」は一方の手でスローラインの一方の端だけを持つ。溺者役はラインを持ち水に入る。スタート時、ラインは、ラインとクロスバーの両方を片手又は両手で持っている溺者役まで伸びている。余ったラインはクロスバーの上又は下のどちらにあってもよい。スタートの前に投げることは許されない。

2 回目のホイッスルで、スロアーは遅れのないようにスタートの位置に着く。全ての競技者がスタートの位置についたとみなされたとき、スターターは号令「Take your marks」を発する。全てのスロアー及び溺者役が静止したとき、スターターは音によるスタートの合図を発する。

- (b) **スタートの姿勢**: スロアーは、スローゾーン内で溺者役に向き合うように立ち、踵と膝の両方、又は、踵と膝のいずれかを揃えてつけて、両腕をまっすぐに伸ばして体側につける。スローラインの端を片手で持つ。

溺者役は、指定されたレーンの固いクロスバーの手前側に位置している。溺者役は、スローラインと接触し、クロスバーを片手又は両手で掴む。

- (c) **音によるスタートの合図**でスロアーはラインを回収し、溺者役に投げ返したら (溺者役はそれを掴む)、フィニッシュ壁/縁にタッチするまで水中の彼/彼女を引っ張る。溺者役は、指定されたレーンのクロスバーの前又は後ろにおいて、ラインを掴むことだけしてよい。

**注意**: 溺者役は、クロスバーに沿って手をスライドすることができるが、体のどこかがラインに触れるとき、そしてラインを掴むとき、バーを掴んでいなければならない。

他のレーンへの干渉を避けるため、溺者役は退水せず自分のレーンに留まる。チーフレフリーの合図より前に、腰を越えて水から出ようとしたり、プール縁に座ったりすると、チームは失格となる。

同様に、チーフレフリーが合図してレースが完了するまで、スロアーもスローゾーン内に留まる。スローラインに到達しようとしてクロスバーを引っ張っても構わない。

- (d) **公正なスロー**: 溺者役は、スローラインが自分のレーン内にある時に限り、スローラインを掴むこ

とができる。レーンマーカー（レーンロープ）は自分のレーンには含まれない。溺者役はスローラインを回収するために、水中に潜ってもよい。溺者役は、一方の手でスローラインを掴む前に、他方の手をクロスバーから離してはならない。

**注意：**溺者役は、クロスバーに沿って手をスライドすることができるが、体のどこかがラインに触れるとき、そしてラインを掴むとき、バーを掴んでいなければならない。

- (e) **水中で引っ張る：**プールの縁まで引っ張られている間、溺者役は前を向いた状態で、かつ両手でスローラインを掴んでいなければならない。スローラインを手繰り寄せてはならない。安全上の理由により、溺者役が壁／縁にタッチするために、一方の手をスローラインから放しても失格にはならない。

溺者役はゴーグルを装着することができる。

- (f) **スローゾーン：**スロアーは、プールデッキ上の指定されたレーン、プールの縁から1.5 mにはっきりとラインを引いたプールサイド、にいなければならない。もしプールサイドに隆起した部分がある場合、ラインは隆起した部分のデッキ側から1.5 mとする。

スロアーは、溺者役を引っ張っている間又は競技終了の合図の前にスローゾーンから出た場合、失格となる。スロアーは、どちらか一方の足全部をスローゾーン内の床の上又はスローゾーンの上空のどちらかに置いておかねばならない。救助者のいずれかの足の部分がスローゾーンの「プールの壁側」の前を越えても罰則されることはない。

スロアーは、どちらか一方の足が（全部）スローゾーン内に位置し、且つ、他の競技者を妨害しない限り、スローゾーンの外に落ちたスローラインを回収してよい。水に入った（又は落ちた）スロアーは失格となる。

- (g) **時間制限：**スロアーは公正なスローを行い、45秒以内にフィニッシュ壁／縁まで溺者役を引っ張らなければならない。

スロアーは、45秒後の音による終了合図の前に溺者役をフィニッシュ壁／縁まで連れてこられなかったら、“Did Not Finish” (DNF)となる。

### 3.13.2. 器材

- (a) **スローライン：**「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。スローラインの長さは16.5 mから17.5 mでなければならない。競技者は主催者が用意したスローラインを用いなければならない。
- (b) 硬い（曲がらない）**クロスバー**を、スタート側のプールの端から12.5m地点の水面に各レーンを横断するように設置する。許容差は各レーンに於いてプラス0.10 m、マイナス0.00 mである。

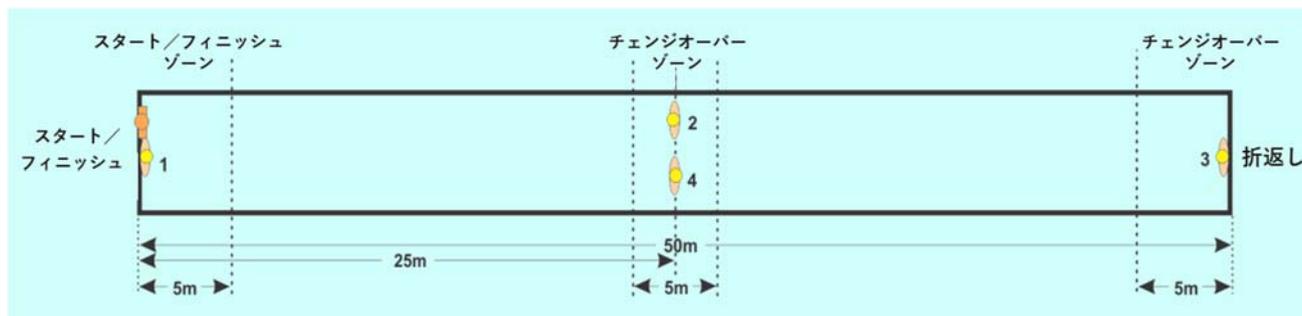
### 3.13.3. 失格

「2. 共通競技総則」及び 3.1 から 3.3 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) （ライン）スロアーが投げる練習をした場合（DQ58），
- (b) フィニッシュ壁／縁まで引っばってもらうラインを掴む時に、溺者役がクロスバーを掴み続けていなかった場合（DQ51），

- (c) 溺者役が自分のレーンの外にあるスローラインを掴んだ場合 (DQ54),
- (d) 溺者役がフィニッシュ壁／縁まで引っ張られている間, 前を向いていなかった場合 (DQ55),
- (e) 溺者役がフィニッシュ壁／縁まで引っ張られている間, 両手でスローラインを掴んでいない場合 (壁／縁にタッチするために一方の手をスローラインから放してもよい) (DQ56),
- (f) 溺者役が引っ張られている間, スローラインを手繰り寄せた場合 (DQ57),
- (g) (ライン) スロアーが, スタートから45秒後の音による終了の合図までの間に, スローゾーンから出た場合 (DQ52),
- (h) 溺者役が45秒の競技終了の合図の前に, 水から出た場合 (DQ53),
- (i) 競技者がフィニッシュ壁／縁にタッチできなかった場合 (DQ15)。

### 3.14. マネキンリレー—4×25 m (Manikin Relay - 4×25 m)



#### 3.14.1. 競技の説明

競技者4人が順に約25mずつマネキンを運ぶ(キャリアする)。

- 第1競技者**は、一方の手で水面にマネキンを保持し、もう一方の手でスタート壁/縁又はスターティングブロックを掴み、水中からスタートする。音による合図で、競技者はマネキンを運び、22.5m地点から27.5m地点の間の5mのチェンジオーバーゾーン内で第2競技者に手渡す。
- 第2競技者**はマネキンを運び、折返し壁/縁にタッチし、少なくとも一方の手で折返し壁/縁に触れるか又はスターティングブロックを掴んで待機している第3競技者にマネキンを手渡す。第3競技者は第2競技者が折返し壁/縁にタッチした後でなければマネキンに触れることができない。
- 第3競技者**はマネキンを運び、72.5m地点から77.5m地点の間のチェンジオーバーゾーン内で第4競技者にマネキンを手渡す。
- 第4競技者**はマネキンを運び、競技者の身体のいずれかの部分でフィニッシュ壁/縁をタッチすることで競技を完了する。
- 競技者は、レースとマネキン受け渡しの各自の担当区間を完了した後、各自のレーンのチェンジオーバーゾーン内の水中に留まり、後続の受け渡しに近づかないようにせねばならない。そして、競技完了の合図があるまでそこに留まっていなければならない。
- マネキンを運んで来る競技者と、それを受け取る競技者だけが、彼らのチェンジオーバーゾーンでのマネキンの手渡しに参加できる。マネキンを運んで来た競技者は、マネキンの頭部がチェンジオーバーゾーン内にある限り、マネキンを受け取る競技者を補助してもよい。
- 常に(少なくとも)1人の競技者の手がマネキンに触れていなければならない。
- スタートとチェンジオーバーゾーンは、旗で示される。
- マネキンを受け渡しする競技者は、チェンジオーバーゾーン内でプールの底を押しても(蹴っても)よい。
- スタートゾーン、フィニッシュゾーン及びチェンジオーバーゾーン内では(3.3で定義した)「マネキンを運ぶ(キャリア)場合」規準で判定されないが、競技者はマネキン受け渡し中を含め常に少なくとも一方の手でマネキンに接触し続ける必要がある。
- マネキンの受け渡しは指定されたチェンジオーバーゾーン内で行わなければならないが、それはマネキンの頭頂部で判定する。

#### 3.14.2. 器材

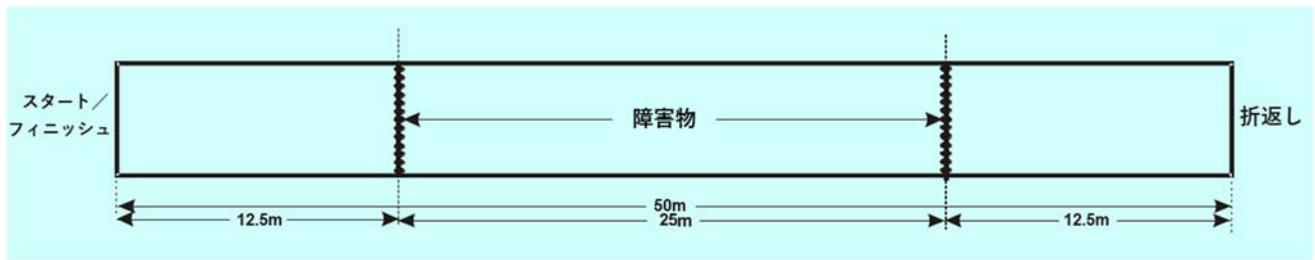
**マネキン**：「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。マネキンは水を一杯に入れ密閉する。競技者は主催者が用意したマネキンを用いなければならない。

### 3.14.3. 失格

「2. 共通競技総則」及び 3.1 から 3.3 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) 「3.3 マネキン」の解説のように、マネキンを正しくない方法で運んだ (DQ19),
- (b) マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品（レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合 — ただし、プールの底は含まれない (DQ17),
- (c) 前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合 (DQ41),
- (d) 以下の時点でマネキンが受け渡された場合 (DQ42)：
  - ・ 指定されたチェンジオーバーゾーンの手前又は越えた後,
  - ・ 第2競技者が折返し壁／縁にタッチする前,
- (e) マネキンを運ぶ競技者から受け取る競技者への引継ぎ中に他の競技者から補助を受けた場合 (DQ39),
- (f) 次の競技者がマネキンを掴む前に、競技者がマネキンを放した場合（即ち、各競技者の一方の手がマネキンに触れていなければならない）(DQ43),
- (g) マネキンの頭頂部が5 mラインを越えるまでに、マネキンを正しい状態で運ばなかった場合 (DQ18),
- (h) 折返し壁／縁又はフィニッシュ壁／縁にタッチする前にマネキンを放した場合 (DQ21),
- (i) 競技者がフィニッシュ壁／縁へのタッチに失敗した場合 (DQ15),
- (j) 競技者が、リレーの自分の区間を完了したあと水から出た場合 (DQ 50), 及び、競技が全て完了した合図が出る前に水から出た場合 (DQ 61),
- (k) 1人の競技者が、2つ又はそれ以上の区間に出場した場合 (DQ40)。

### 3.15. 障害物リレー—4×50 m (Obstacle Relay - 4×50 m)



#### 3.15.1. 競技の説明

音による合図で第1競技者は飛び込みスタートし、2つの障害物の下を通過しながら自由形で50 m泳ぐ。第1競技者が折返し壁/縁にタッチした後、第2、第3、第4競技者が順に同じ手順を繰り返す。

- (a) 飛び込後、競技者は最初の障害物の前までに、及び各障害物の下を潜った後水面に浮上しなければならない。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面を突き破って浮上することを意味する。
- (b) 競技者は各障害物の下から水面に浮上する際、プールの底を蹴っても押してもよい。
- (c) 障害物にぶつかっても失格にはならない。
- (d) 第1、第2、第3競技者は、それぞれの区間が終了したら、他の競技者を妨害することなく、直ちに指定されたレーンから退水しなければならない。退水後は、再度プールに入ってはならない。

#### 3.15.2. 器材

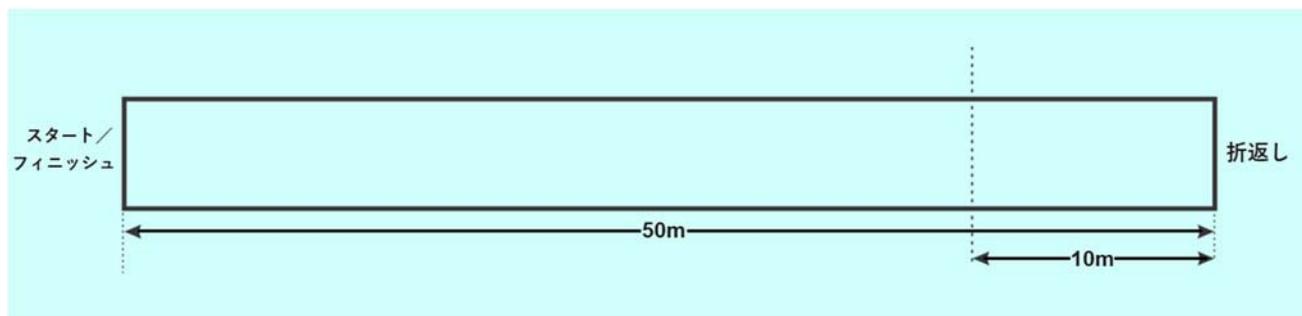
**障害物:**「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。障害物は全レーンにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。最初の障害物はスタートの壁から12.5 m地点に設置し、2番目の障害物は逆のサイドから12.5 m地点に設置する。2つの障害物の距離は25 mとする。

#### 3.15.3. 失格

「2. 共通競技総則」及び3.1から3.3の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) 障害物の上を通過し、ただちに障害物の上又は下を戻り、その後下を潜り直さなかった場合 (DQ11),
- (b) 飛び込んだ後、水面に浮上しなかった場合 (DQ12),
- (c) それぞれの障害物を潜った後、水面に浮上しなかった場合 (DQ13),
- (d) 水面に浮上する際、プールの付属品 (レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合 — ただし、プールの底は含まれない (DQ17),
- (e) 前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合 (DQ41),
- (f) 競技者がフィニッシュ壁/縁へのタッチに失敗した場合 (DQ15),
- (g) 競技者が、自分の区間を終了した後に再度プールに入った場合 (DQ50),
- (h) 1人の競技者が、2つ又はそれ以上の区間に出場した場合 (DQ40)。

### 3.16. メドレーリレー—4×50 m (Medley Relay - 4×50 m)



#### 3.16.1. 競技の説明

第1競技者は、フィン装着せずに音による合図で飛び込みスタートし、自由形で50 m泳ぐ。第2競技者は、第1競技者が折返し壁/縁にタッチした後、フィン装着して自由形で50 m泳ぐ。

第3競技者は、第2競技者が壁/縁にタッチした後飛び込みスタートし、レスキューチューブを引いて自由形で50 m泳ぐ。第3競技者は折返し壁/縁にタッチする。

第4競技者は、水中でフィン装着し、少なくとも一方の手で折返し壁/縁又はスターティングブロックに触れ、ハーネスを着用する。第4競技者は、第3競技者が折返し壁/縁にタッチするまで、レスキューチューブのハーネス、紐、その他レスキューチューブのどの部分にも触れてはいけない。第3競技者は「溺者役」の役割を演じ、第4競技者にフィニッシュまで50 m引かれている間、レスキューチューブ及び/又はクリップを両手で掴む。

(a) 第4競技者と第3競技者(溺者役)は、折返し壁/縁から出発せねばならない。溺者役は10 mラインを通過する前にレスキューチューブに触れなければならない。レスキューチューブの紐は、「溺者役」の頭部が10 mラインを越えるとき、10 mラインよりフィニッシュ側で完全に伸びていなければならない。

**注意:** レスキューチューブの紐が第3競技者(溺者役)のキック力が原因で完全に伸びていない場合、チームは失格とならない。

(b) 第4競技者が、チューブに触れている溺者役を伴ってプールのフィニッシュ壁/縁にタッチした時、競技は完了する。

(c) 溺者役は引っ張られている間キックしてよいが、第4競技者にその他の助力を与えることは許可されない。

(d) 溺者役はレスキューチューブ本体及び/又はクリップを掴まなければならない — 紐ではない。

(e) 溺者役は、引っ張られている間、レスキューチューブ(本体)及び/又はクリップを両手で掴まなければならないが、引っ張られている間にチューブ(本体)及び/又はクリップ上で手の位置を変えても失格とはならない。

(f) 第3競技者がプールの縁にタッチする時、第4競技者は少なくとも一方の手で折返し壁/縁又はスターティングブロックを掴んでいないといけませんが、第4競技者は手、腕、又は足で壁/縁を押してもよい。第4競技者は、第3競技者が折返し壁/縁にタッチした後でないと、レスキューチューブ(本体)、ハーネス又は紐のいかなる部分にも触れてはいけない。

- (g) 第1競技者と第2競技者は自分のリレー区間を終えたら他の競技者を妨害することなくプールから上がらなければならない。第1競技者と第2競技者は、(上がった後)再度プールに入ってはならない。

### 3.16.2. 器材

- (a) **レスキューチューブ、スイムフィン**:「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。競技者は主催者が用意したレスキューチューブを用いなければならない。
- (b) **スタート時のレスキューチューブ**: 第3競技者のスタートにおいて、レスキューチューブ本体と紐は、競技者に指定されたレーン内であれば、競技者の判断で好きに配置してよい。競技者は、レスキューチューブと紐が安全で正しく配置されるようにせねばならない。レスキューチューブのクリップは常に外したままにしておく。
- (c) **レスキューチューブの装着**: レスキューチューブは正しく装着せねばならない — 競技者の判断で、ループ(肩掛け部分の紐の輪)を一方又は両方の肩にかけるか、肩から胸にかけるかする。レスキューチューブを正しく着用していたのであれば、競技者がアプローチしているとき又は引っ張っている間にループが競技者の腕又はひじに落ちてても、失格にはならない。
- (d) **溺者役を引っ張る**: 競技者は、レスキューチューブの紐を完全に伸ばした状態で溺者役を引っ張らなければならない。競技者は、溺者役の頭頂部が10 mラインを越えていなければ、溺者役を再度確保するために10 mのチェンジオーバーゾーン内に戻ってもよい。
- (e) **落としたフィンの回収**: 競技者は、(マネキンが当該区間で使用されている場合) マネキンの扱い方に違反していない限り(「3.3 マネキン」を参照)、スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。競技者は、別のヒートで再度スタートすることはできない。
- (f) **レスキューチューブの不具合**: レース中、レスキューチューブ、紐及び/又はハーネス(ベルト)に技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断すれば、その競技者を別のヒートで再スタートさせてもよいが、それは、レスキューチューブが主催団体から提供され、提供されたレスキューチューブは全ての競技者によって使われる規則になっている場合に限る。

### 3.16.3. 失格

「2. 共通競技総則」及び3.1から3.3の概要に加えて、以下の行為は失格になる:

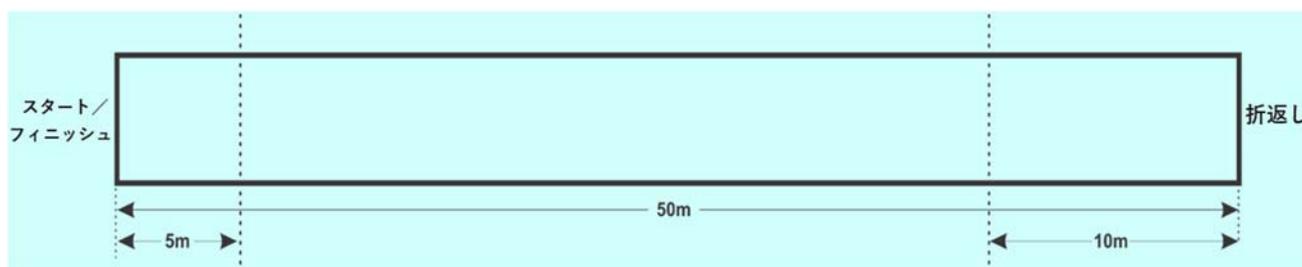
- (a) 前の競技者が壁/縁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合(DQ41),
- (b) 第3競技者が折返しの壁/縁にタッチする前に、第4競技者がレスキューチューブの肩掛け部分、紐、その他全ての部分を触った場合(DQ44),
- (c) 競技者がレスキューチューブのクリップをオーリングにかけた場合(DQ45),
- (d) 溺者役がレスキューチューブの紐を掴んでいる場合(DQ46),
- (e) 溺者役が腕を動かして協力したり、又はレスキューチューブ及び/又はクリップを両手で掴んでいない場合(DQ47),
- (f) 10 mラインを越えた後に、溺者役がレスキューチューブを保持していない又は放してしまった場合(DQ48),

- (g) 第4競技者が10 mラインを越えた後、レスキューチューブの紐を完全に伸ばさずに溺者役を引っ張った場合 (DQ49),
- (h) 1人の競技者が、2つ又はそれ以上の区間に出場した場合 (第3競技者が溺者役になることを除く) (DQ40),
- (i) 競技者がフィニッシュ壁／緑へのタッチに失敗した場合 (DQ15),
- (j) 競技者が、自分の区間を終了した後に再度プールに入った場合 (DQ50) ー マネキンの頭頂部が10 mラインを通過する前に、第4競技者が正しい姿勢でマネキンを運ばなかった場合 (DQ23)<sup>14</sup>。

---

<sup>14</sup> 【JLA注釈】後半のDQ23に関する文章は「3.16 メドレーリレー」とは関係なく、「3.17 プールライフセーバーリレー」のものと思われる。JLA主催競技会におけるメドレーリレーでは、このDQ23に関する文章を適用しない。

### 3.17. プールライフセーバーリレー—4×50 m (Pool Lifesaver Relay - 4×50 m)



#### 3.17.1. 競技の説明

- (a) **第1競技者**：音による合図で第1競技者は飛び込みスタートし、フィンを付けずに自由形で50 m泳ぐ。
- (b) **第2競技者**：第2競技者はフィンを付け、第1競技者が壁／縁にタッチした後飛び込みスタートして50 m泳ぎ、潜って水中のマネキンを引き上げる。第2競技者は、第3競技者へマネキンを引き継ぐ前に、折返し縁にタッチする必要はない。
- 注意**：第2競技者は、マネキンと共に水面に浮上するまでの全区間水中を泳いでもよい、又は、スタートしてからマネキンを引き上げるため潜る前までに、1回以上水面に浮上してもよい。
- (c) **第3競技者**：第3競技者は少なくとも一方の手で折返し壁／縁又はスターティングブロックに触れて、水中でフィンをつけずに待機しておく。第3競技者は、マネキンの頭部が水面に浮上する前に、マネキンに触れてもよい（掴んではいけない）。マネキンの頭部が水面に浮上した後、競技者はマネキンを管理下に置き、折返し壁／縁又はスターティングブロックから離れてもよい。そして第3競技者はマネキンを50 m運び（キャリア）、マネキンを第4競技者に引き継ぐ前に、壁／縁にタッチする。
- (d) **第4競技者**：第4競技者は（フィンを付けて）、少なくとも一方の手でマネキンを受け取るまで、折返し壁／縁又はスターティングブロックを掴んでおく。第4競技者は、第3競技者が壁／縁にタッチした後に限りマネキンに触れてよい。そして第4競技者はマネキンを運び（キャリア）、競技者の体のいずれかの部分でフィニッシュ壁／縁にタッチする。
- (e) チェンジオーバーゾーンにやって来る第2及び第3競技者は、出ていく競技者を補助してもよいが、それはマネキンの頭部がチェンジオーバーゾーン内にある場合に限る。
- (f) マネキンキャリア区間のチェンジオーバーゾーンを旗で示す：
- ・ 第2競技者から第3競技者への引継ぎ — プール壁から5 m,
  - ・ 第3競技者から第4競技者への引継ぎ — プール壁から10 m。
- (g) 競技者は、次の競技者がマネキンを掴むまで、マネキンから手を放してはならない（すなわち、各競技者は、一方の手がいつもマネキンに触れていなければならない）。
- (h) マネキンの頭頂部がチェンジオーバーゾーン内にあれば、第3競技者及び第4競技者は「マネキンを運ぶ（キャリア）」の規則（3.3で定義）は適用されない。「マネキンを運ぶ（キャリア）」の規則は、リレーの最後のフィニッシュゾーン内では適用されない。
- (i) 第3競技者及び第4競技者は、それぞれの区間でマネキンを受け取った後、プールの壁を手、腕もしくは足で押してもよい。

- (j) 第4競技者がマネキンを正しく運び、競技者の身体のいずれかの部分でフィニッシュ壁／縁にタッチすることで競技完了となる。
- (k) 第1, 第2, 第3競技者は、それぞれの区間が終了したら、他の競技者を妨害することなく退水しなければならない。退水後は、再度プールに入ってはならない。
- (l) **落としたフィンの回収**: 競技者は、(マネキンが当該区間で使用されている場合) マネキンの扱い方に違反していない限り(「3.3 マネキン」を参照)、スタート後に落としたフィンを回収して競技を継続することができる。競技者は、別のヒートで再度スタートすることはできない。

**注意**: LWC では、各チームは男性2人、女性2人から構成される。JLA 主催競技会でも、各チームは男性2人、女性2人から構成される。

男女が泳ぐ順番はチームが選んでよい。

### 3.17.2. 器材

**マネキン**: 「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。マネキンは水を一杯に入れ密閉する。競技者は主催者が用意したマネキンを用いなければならない。

**スイムフィン**: 「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

### 3.17.3. 失格

「2. 共通競技総則」及び 3.1 から 3.3 の概要に加えて、以下の行為は失格になる:

- (a) 「3.3 マネキン」の解説のように、マネキンを正しくない方法で運んだ (DQ19),
- (b) プールの付属品 (レーンロープ, 階段, 排水管, 水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合 — ただし、プールの底は含まれない (DQ17),
- (c) 第3競技者が、マネキンに触れる前に壁／縁から手を放した場合、又はマネキンの頭部が水面に浮上する前にマネキンを掴んだ場合 (DQ59),
- (d) マネキンの頭頂部が5 mラインを通過する前までに、第3競技者がマネキンを正しい位置にしなかった場合 (DQ18),
- (e) 第3競技者がプール壁／縁にタッチする前に、第4競技者がマネキンに触れた場合 (DQ60),
- (f) チェンジオーバーゾーンに入ってくる競技者と出ていく競技者との間のマネキン引継ぎの間、それ以外の競技者から補助を受けた場合 (DQ39),
- (g) 次の競技者がマネキンを掴む前に、競技者がマネキンを放した場合 (すなわち、一方の手がいつもマネキンに触れてなければならない) (DQ43),
- (h) マネキンの頭頂部が10 mラインを通過するまえに、第4競技者がマネキンを正しい位置にしなかった場合 (DQ23),
- (i) 競技者がフィニッシュ壁／縁へのタッチに失敗した場合 (DQ15),
- (j) 1人の競技者が、2つ又はそれ以上の区間に出場した場合 (DQ40)
- (k) 前の競技者が壁／縁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合 (DQ41),
- (l) 競技者が、自分の区間を終了した後に再度プールに入った場合 (DQ50)

## プール競技失格コード表

コード No.	失格内容	競技種目
1	競技の説明又は共通競技総則に沿って競技しなかった。	全競技種目
2	チーム、競技者及びハンドラーが不正行為をした場合、競技者又はチームは失格となる。不正行為には下記のような例が含まれる： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドーピング又は、ドーピングに関連した違反行為、</li> <li>・他の競技者になりすますこと、</li> <li>・競技順や位置決めの投票又は抽選で不正を試みること、</li> <li>・同じ個人種目に2度出場すること、</li> <li>・他のチームの競技者として同じ種目に2度出場すること、</li> <li>・コースで自分が優位になるために故意に妨害すること、</li> <li>・他の競技者又はハンドラーを押ししたり、進路を妨害すること、</li> <li>・競技者が外部から身体的又は物質的な助力を受けること（口頭又はその他の指示を除く）。</li> </ul>	全競技種目
3	招集場所への集合に遅れた競技者は、競技をスタートすることができない。	全競技種目
4	競技のスタートに不在だった競技者又はチームは失格となる（A, B決勝を除く）。	全競技種目
5	会場施設、宿泊施設又は他者の所有物を故意に破壊する行為は、個人としての失格、又は競技会全体での失格となる。	全競技種目
6	競技会全体での失格となるオフィシャルへの侮辱。	全競技種目
7	プールの底を蹴りやすくするために、手や足又はマネキンやレスキューチューブに粘着性のある物（液体・固形・煙霧質）を用いた場合。	全競技種目
8	特に認められた場合（例えば、障害物スイム、4×25 m マネキンリレー）を除き、プールの底を補助に用いた場合。	全競技種目
9	レース終了後、ジャッジの許可がある前に、水から出た場合。	全競技種目
10	競技者がスタートの合図の前に、前方へのスタート動作を起こした場合。	全競技種目

コード No.	失格内容	競技種目
11	障害物の上を通過し、ただちに障害物の上又は下を戻り、その後下を潜り直さなかった場合。	障害物スイム 障害物リレー
12	飛び込んだ後又は折返した後、障害物の下を潜る前に浮上しなかった場合。	障害物スイム 障害物リレー
13	それぞれの障害物を潜った後に浮上しなかった場合。	障害物スイム 障害物リレー
14	折返しの際、壁／縁にタッチをしなかった場合。	障害物スイム
15	フィニッシュの壁／縁にタッチしなかった場合。	全競技種目
16	マネキンに向かって潜る前に水面に浮上しなかった場合。	マネキンキャリー
17	マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品（例えば、レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合。ただし、プールの底は含まれない。	障害物スイム、 障害物リレー マネキンキャリー マネキンキャリー・ウィズフィン マネキンリレー レスキューメドレー スーパーライフセーバー プールライフセーバーリレー
18	（フィンを着用しないで運ぶ場合）マネキンの頭頂部が5mラインを越えるまでに、マネキンを正しく運ぶ（キャリー）状態で確保していなかった場合。	マネキンキャリー マネキンリレー レスキューメドレー スーパーライフセーバー
19	（3.3に記述の通り）マネキンを正しくない方法で運んだ（キャリー）場合。	マネキンキャリー マネキンキャリー・ウィズフィン マネキンリレー レスキューメドレー スーパーライフセーバー プールライフセーバーリレー
20	マネキンの顔を水面より下にして運んだ場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
21	フィニッシュの壁／縁又は折返し壁／縁にタッチする前に、マネキンを放した場合。	マネキンキャリー マネキンキャリー・ウィズフィン レスキューメドレー スーパーライフセーバー マネキンリレー （プール）ライフセーバーリレー

コード No.	失格内容	競技種目
22	折返し後、マネキンを引き上げる前に浮上した場合。	レスキューメドレー
23	(フィンを着用して運ぶ場合) マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに、マネキンを正しく運ぶ(キャリア)状態で確保していなかった場合。	マネキンキャリア・ウィズフィン プールライフセーバーリレー
24	レスキューチューブをマネキンに巻きつける際、プールの付属品(例えば、レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等)を補助として用いた場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
25	マネキンハンドラーがマネキンを正しく保持していなかった場合、又は競技者が折返し壁/縁をタッチした後、マネキンハンドラーが再度マネキンを触った場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
26	50 m/150 m地点で壁/縁にタッチする前にマネキンに故意に触れた場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
27	競技者が折返し壁/縁にタッチした後、マネキンハンドラーがただちにマネキンを放さなかった場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
28	マネキンハンドラーが、マネキンを競技者の方、又はフィニッシュ壁/縁に向けて押した場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
29	マネキンハンドラーが競技中故意に水に入った場合、水に入り他の競技者を妨害した場合、又は競技の判定に干渉した場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
30	競技者が折返し壁/縁にタッチする前に、レスキューチューブのクリップをオーリングにかけた場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
31	レスキューチューブをマネキンに正しくつけなかった場合(即ち、マネキンの両腕の下の本体周りでない場所に巻いたり、クリップをオーリングにかけていないなど)。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
32	10mピックアップゾーン内(マネキンの頭頂部で判定する)で、マネキンに正しくレスキューチューブを巻かなかった場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
33	マネキンを引っ張る代わりに押したり、運んだ(キャリアした)場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
34	マネキンの頭頂部が10 mラインを越えるまでに、レスキューチューブの紐が完全に伸ばされていない場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
35	10 mラインを越えた後、レスキューチューブの紐が完全に伸ばされた状態でマネキンを引っ張っていない場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー
36	レスキューチューブがマネキンに正しく巻かれた後、外れた場合。	マネキントウ・ウィズフィン スーパーライフセーバー

コード No.	失格内容	競技種目
37	レスキューチューブとマネキンが所定の位置にない状態でフィニッシュ壁／縁をタッチした場合。	マネキントウ・ウイズフィン スーパーライフセーバー
38	折返しの壁フィニッシュの壁にタッチする前にマネキンを離した場合。注意：DQ38はDQ21と重複しており、よって、DQ38は削除される。	<del>マネキンリレー</del> <del>マネキンキャリア</del> ・ウイズフィン <del>スーパーライフセーバー</del>
39	マネキンを運んでいる競技者と次にマネキンを受け取る競技者以外の競技者が、チェンジオーバーのために助力を与えた場合。	マネキンリレー プールライフセーバーリレー
40	1人の競技者が、2つ又はそれ以上の区間に出場した場合。	障害物リレー マネキンリレー メドレーリレー プールライフセーバーリレー
41	前の競技者が壁／縁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合。	障害物リレー マネキンリレー メドレーリレー プールライフセーバーリレー
42	マネキンの受け渡し方について。 ・マネキンが指定されたチェンジオーバーゾーンの外で受け渡された場合 ・第2競技者が折返しの壁にタッチする前に第3競技者がマネキンを受けとった場合	マネキンリレー
43	次の競技者がマネキンを掴む前に、競技者がマネキンを放した場合（即ち、各競技者の一方の手がマネキンに触れてなければならない）。	マネキンリレー プールライフセーバーリレー
44	第3競技者が折返し壁／縁にタッチする前に、第4競技者がレスキューチューブの肩掛け部分、紐、その他いずれかの部分に触った場合。	メドレーリレー
45	競技者がレスキューチューブのクリップをオーリングにかけた場合。	メドレーリレー
46	レスキューチューブの紐を掴んでいる場合。	メドレーリレー
47	溺者役が腕を動かして協力したり、又はレスキューチューブ及び／又はクリップを両手で掴んでいない場合。	メドレーリレー
48	10 mラインを越えた後に、溺者役がレスキューチューブを保持していない又は放してしまった場合。	メドレーリレー
49	10 mラインを越えた後、レスキューチューブの紐が完全に伸びていない状態で第4競技者が第3競技者を引っ張った場合。	メドレーリレー

コード No.	失格内容	競技種目
50	競技者が、リレーの自分の区間を完了した後に再度プールに入った場合。	障害物リレー メドレーリレー プールライフセーバーリレー
51	溺者役が、フィニッシュ壁／縁まで引っ張ってもらうスローラインを掴む時に、クロスバーを掴んでいなかった場合。	ラインスロー
52	救助者がスタートの合図からレース完了の音による合図までの間に、スローゾーンから出た場合。	ラインスロー
53	溺者役が45秒のレース完了の音による合図の前に、水中から出た場合。	ラインスロー
54	溺者役が自分のレーンの外にあるスローラインを掴んだ場合。	ラインスロー
55	溺者役がフィニッシュ壁／縁まで引っ張られている間、前を向いていなかった場合。	ラインスロー
56	溺者役がフィニッシュ壁／縁まで引っ張られている間、両手でスローラインを掴んでいない場合（壁／縁にタッチするために一方の手をスローラインから放すことは認められる）。	ラインスロー
57	溺者役がスローラインを手繰り寄せた場合。	ラインスロー
58	スロアーがラインを投げる練習をした場合。	ラインスロー
59	マネキンの頭部が水面に浮上する前に、第3競技者が壁／縁から手を放した場合、又はマネキンを掴んだ場合。	プールライフセーバーリレー
60	第3競技者がプールの壁／縁にタッチする前に第4競技者がマネキンに触れる。	プールライフセーバーリレー
61	マネキンリレーの競技者は、リレーの担当区間を完了したら、オールクリア（問題なし）の合図が出される前に水から上がる。	マネキンリレー
注：ラインスロー競技において、45秒の音による競技終了合図までに溺者役をフィニッシュの壁まで引っ張って来れなかった場合は、失格（DQ）ではなく、DNF（Did Not Finish＝終了しなかった）となる。		ラインスロー



## 第4章 オーシャン競技規則

## 4. オーシャン競技規則

この章では、以下のオーシャン競技種目について述べる：

- ・サーフレース,
- ・サーフチームレース,
- ・レスキューチューブレスキュー,
- ・レスキューチューブレース,
- ・ランスイムラン,
- ・ビーチフラッグス,
- ・ビーチスプリント,
- ・ビーチラン — 2 km及び1 km,
- ・3 x1 kmビーチランリレー,
- ・ビーチリレー,
- ・サーフスキーレース,
- ・サーフスキーリレー,
- ・ボードレース,
- ・ボードリレー,
- ・ボードレスキュー,
- ・オーシャンマン／オーシャンウーマン（及びオリンピック“M”フォーマットバリエーション）,
- ・オーシャンマン／オーシャンウーマンリレー,
- ・オーシャンライフセーバー混合リレー（オーシャンマンオーシャンウーマンリレーのバリエーション）。

### 4.1. オーシャン競技の一般規則

チームマネージャー及び競技者は、競技スケジュール、競技規則及び競技の方法に精通している責任を有する。

- (a) 競技者は、マーシャルエリアへの集合が遅れた場合、競技をスタートすることができない。主催者が、いくつの予選が必要かを判断するため、競技が予定されている前日又は当該競技種目実施日の初めに招集される。
- (b) 競技のスタート時に不在だった競技者又はチームは失格となる。
- (c) 特別に規定されていない限り、推進力を向上させる人工的な補助具を競技において使用してはならない(例えば、水かき、アームバンド)。
- (d) オーシャン競技種目において、競技者がボード、サーフスキー、パドルを掴む又は接触し続けるのを補助するため、ワックス又は類似物質を使用することは認められる。
- (e) 競争で優位にならない限り、予防的、医療的、治療的、運動学的目的で用いられるボディテープは、チーフレフリーの判断で認可される。

(f) ビデオカメラは、第8章の要件を満たしている限り、ボード及びサーフスキーに取り付けてよい。ビデオカメラは、レースのスタートからフィニッシュまでの間、競技者が着用又は競技者に取り付けることはできない。

(g) すべての競技種目において、競技者は自クラブ又はナショナルチームのスィムキャップを着用しなければならない。オーシャン競技でのキャップは、顎の下でしっかり締められ、各レースのスタートにおいて競技者は頭部にかぶっていないなければならない。

競技者が正しく競技を終了したとオフィシャルが確認できる場合、レースの開始後にキャップを失っても競技者は失格とはならない。

(h) **競技コース:** コースに対する抗議は、各種目又はレースのスタート前に限り受け付ける。

全てのレーンが可能な限り公平で同じ条件となるよう、チーフレフリーは、全てのコースの測定、設定及び配置を、納得いくまで調整することができる。

ILS/JLAの競技管理委員会及びチーフレフリーは、競技を安全に、公正に判定し、効率的に運営するため、コースの調整を許可することができる（例えば、距離、レーン又はブイの数、1レース当たりの競技者の人数）。いずれのコース変更も、レースのスタート前に競技者に伝達されなければならない（例えば、チームマネージャーミーティング時や、マーシャルエリアにおいて、又はスタートの時に）。

コース全体を通して競技者を正確に導くため、色でコード化したブイ及び旗の使用が推奨される。ブイまでの距離は、干潮時の膝の深さ位置から測定する。ただし、距離は、浜の状態及び安全を考慮して変わることがある。競技中にブイが列からずれた場合、ブイの調整が必要となることがある。

クラフト種目の競技者は、ブイやロープによって進路が妨げられた時の責任は競技者自身にあることを理解した上で、クラフトに乗ってスイムブイの間を通過してもよい。

(i) 競技者及びオフィシャルは、競技に出場していないとき、又は審判を務めていないとき、競技エリアから出なければならない。

競技エリアは、ラインやフェンスで囲われた浜の区画、又はラインやフェンスの先端から海にまっすぐ伸ばしたライン又はチーフレフリーが特定した区画である。

(j) フィニッシュジャッジの着順判定は抗議又は上訴の対象とはならない。

(k) スターター又はチーフレフリー（又はチーフレフリーが指定した者）によるスタートの決定は抗議又は上訴の対象とはならない。

(l) 自然現象による不利益：自然現象による不利益で事故が発生しても、抗議又は上訴として扱われない（「2.7 自然現象による不利益について」を参照のこと）。

## 4.2. スタート

### 4.2.1. スタート前

マーシャルは：

(a) 全ての予選及び／又は決勝で、くじで引いた通りの順に競技者を配置する、

(b) スタートエリアまで競技者及び器材に付き添い、競技者が正しい順に並ぶようにする。

各レースのスタート前、指定されたテクニカルオフィシャルは：

- (a) 全てのオフィシャルが配置についているか確認する、
- (b) 競技者が正しいスタートのため適切な服装及びキャップを着用しているか確認する、
- (c) 器材及びコースの目印が設置されているか確認する。

指定されたオフィシャル、例えばセクショナルレフリーは、競技者がスターターの管理下にあることをスターターに合図する。

#### 4.2.2. スターター

スターターは：

- (a) 合図をする時からレースがスタートするまで、競技者を単独で掌握する、
- (b) スタートの手順を行っている間、全ての競技者を十分目視できる場所に位置する、
- (c) 全てのレースのスタートが一貫しており公正であることを確かめる、
- (d) 不正スタートをした競技者を失格とする（又はビーチフラッグスにおいて、競技者を除外する）。

#### 4.2.3. スタートの手順

競技をスタートする手順は、「Take Your Mark（位置について）」を表す合図又は号令により始まり、「Set（用意）」を表す合図又は号令が続ぎ、その後、「Go（ドン）」を表すスタート合図又は号令を出す。スタートの手順は、チームマネージャーミーティングで説明してもよい。ビーチフラッグス、サーフボード競技（注意：本競技規則ではサーフボード競技は扱わない）、IRB 競技のスタート手順については、それぞれ個々の競技種目の規則を参照のこと。何らかの理由で、スターターがいずれかの号令の後で競技者と話す必要があった場合、スタートの手順をやり直すこと。

- (a) 何らかの理由で、競技者がスタート位置に付いた後、スターターがスタート準備に満足できない場合、スターターは全ての競技者にスタート位置から離れるよう指示を出し、再スタートをする。
- (b) スターターは、公正なスタートのためあらゆる努力を尽くすが、スタート合図の「Go（ドン）」の判断は、競技者又はチーム次第である。スターター、チェックスターター又はチーフレフリーにより呼び戻されなかった場合、スタートに関する抗議又は上訴は認められない。
- (c) スイム、ボード、サーフスキー（ドライスタートの場合）、及び複数分野競技の競技者は、スタート後、他の競技者を妨害しなければ、競技者は自身の裁量で入水してよい。
- (d) リレー又は複数分野競技において、最初の区間終了後、第2区間以降の競技者が入水する時、海から上がってくる競技者の進路を妨害した場合は失格とみなされる。

#### 4.2.4. スタートライン

- (a) スタートラインは、次のうちのどれかによって設定される：
  - ・ 2本のポール間のコード（紐）、
  - ・ 2本のポール間の砂上に引かれたライン、
  - ・ 2本のポール間を結んだ目視ライン、又はスターターが別途設定したライン。

- (b) スタート時、競技者のつま先はライン（コード、砂上に引かれたライン、目視ラインのいずれであっても）の上又は後ろでなければならないが、競技者の体（ボディー）の一部はラインを上空で越えてもよい。
- (c) **ビーチ種目の場合**：ラインが引かれている場合、つま先及び指は、（スタンディングスタートが採用された場合を除いて）スタートラインの上又は後ろでなければならない。この場合、競技者のつま先はラインの上又は後ろでなければならないが、競技者の体（ボディー）の一部はラインを上空で越えてもよい。
- (d) **ボード種目の場合**：コード（紐）でスタートラインを設定している場合、競技者が抱えるボードの一部がスタートラインを上空で越えてもよいが、ボードをスタートラインに対して90度又は自然現象に適した角度に維持しなければならない。ボードを置く場合、スタートライン又はチェンジオーバーラインに対して90度で陸側に置かなければならない。
- (e) **サーフボード<sup>15</sup>及びスキー種目の場合**：目視ラインをスタートラインとする場合、クラフトの船首は目視ラインの上又は後ろでなければならないが、クラフトはラインに対して90度又は自然現象に適した角度に維持しなければならない。

#### 4.2.5. 失格

- (a) 全てに競技種目において、1回制スタート（one-start rule）を採用する。
- (b) 最終のセットポジション（set position）をとった後、且つスタートの合図の前に、最初に前方へのスタート動作を起こした競技者又はチームは失格となる、但し、ビーチフラッグスでは除外となる（DQ7）。
- (c) 失格が宣告される前にスタートの合図がされた場合、競技者を呼び戻し、再スタートを行う。
- (d) 競技者を呼び戻すための合図は、スタートと同じ合図等を繰り返し行う。
- (e) 不正スタートにより失格となった競技者は、競技を継続することができず、スタートラインから離脱せねばならない。
- (f) 適切な時間内にスターターの号令に従うことができなかった全ての競技者は、不正スタートとなる（DQ8）。
- (g) スターターの最初の合図の後、音やその他の方法によって他の競技者を妨害した場合は失格、又は（ビーチフラッグスの場合）除外となる場合がある（DQ9）。

#### 4.2.6. 注意

- (a) スターター及びチェックスターターの任務は、公平なスタートを確保することである。技術的又は器材の不具合、海の条件、又はその他競技者の責によらない事項を含め、何らかの理由により公平なスタートが行えなかったとスターター及びチェックスターターが判断した場合、競技者を呼び戻し、スタートの手順をやり直すこと。
- (b) 競技者は、スタートの合図の前に、前方へのスタート動作を起こした場合に失格となる。競技者が動いたこと全てが失格となるわけではない。例えば筋肉がピクッと痙攣する又は水中スタートにお

---

<sup>15</sup> 【JLA注釈】本競技規則ではサーフボード競技は扱わない。

いて波で押されるといった意図しない動きは失格にならない。スタートの合図を予想して明らかに前方へのスタート動作を起こした競技者が失格となる。

スターター及びチェックスターター各自の裁量で、1人あるいはそれ以上の競技者がスタート動作を開始したか否かを判断する。一般に、ある競技者の早いスタート動作が他の競技者の動きを引き起こす。そのような他の競技者の動作は失格ではない。

- (c) スタートに関するスターター又はチェックスターターの判断は、抗議又は上訴の対象にならない。
- (d) スターターは平等で公平なスタートを達成するためにあらゆる努力を払う必要があるが、スタート合図「Go」の決定は、競技者又はチーム次第である。スターター又はチェックスターター又はチーフレフリーによる呼び戻しが無い場合、スタートについての抗議は認められない。

#### 4.2.7. チェンジオーバー及びリレーにおけるタッチ

- (a) リレー競技における引継ぎ又はチェンジオーバーは、特に指定が無い限り（ビーチリレーを参照せよ）、競技者が次のチームメンバーにタッチすることにより行われる。

タッチは、競技者がどちらかの手で次の競技者の手もしくは身体の他の部分に見えるように触れる。全てのタッチは、目視できるように水面よりも上で行われなければならない。

- (b) タッチされる競技者の足はチェンジオーバーラインの上又はラインの陸側になければならない。
- (c) リレーにおける競技者は、マーシャルから指定された位置又はレーンから自分の区間をスタートしなければならない。競技者が指定された位置又はレーンからスタートしなかった場合、チームは失格となるリスクがある。

### 4.3. フィニッシュ

- (a) ランでフィニッシュをする種目は、体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない（すなわち、倒れ込んでフィニッシュラインを越えてはいけない）。フィニッシュは、フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。
- (b) サーフスキー及びサーフボード（注意：本競技規則ではサーフボード競技は扱わない）など水中でフィニッシュをする種目は、クラフトの一部が、フィニッシュラインを越えた時点で判定される。
- (c) 競技者が競技規則通りに正しくフィニッシュラインを越えることができなかった場合、競技者はやり直して再度フィニッシュラインを正しく通過し、自身の順位を記録することができる。
- (d) 競技者が一旦正しくフィニッシュラインを通過したと判断されたら、その競技者はレースを完了したとみなされる。競技中の間違いを正すために再度コースに戻ってはいけない。

#### 4.3.1. 判定

- (a) 全ての競技種目は目視又は電子的手段によって判定される。着順はフィニッシュジャッジにより判定される。同着（引き分け）の場合は同着であると宣告される。
- (b) 可能であれば（ビデオ又はその他の判定補助技術を含む）電子機器を判定プロセスで利用すること。
- (c) レースの判定及び記録を支援するために電子的手段を用いる場合、競技者は電子タグを指示された場所（例えば、ベストに着用する、足首や手首の回り、又はクラフト／サーフボード等の指定され

た場所、等)に着用しなければならない。

着順は、電子タグがフィニッシュラインを越えた順番で判定される。電子タグによる着順判定ができなかった場合、レースの着順は通常どおり目視によって判定される。

- (d) ジャッジは、フィニッシュラインが良く見える場所に配置される。必要ならばジャッジは、高い位置に配置される。
- (e) ジャッジ1は1位と2位の競技者を担当し、ジャッジ2は2位と3位の競技者を担当し、以下同様に担当する（すなわち、ジャッジ1は、まずは着順1位がどの競技者であったかを見る責任があり、同時に2位がどの競技者であったかにも注意を払う）。
- (f) レースの結果を正しく決定するためにビデオ又はその他の電子式判定補助具を使用する場合、最初の判定結果が最終判定結果だと宣言せず、チーフレフリー／セクショナルレフリー及びチーフジャッジが当該種目の最終着順結果を決定する。
- (g) フィニッシュジャッジによる結果が最終だとされた場合、それは最終決定であり、抗議又は上訴は受け付けられない。
- (h) チーフレフリーの合図で、着順ステッカーが発行及び／又は名前の記録がされる。
- (i) チーフレフリーは、管理された状況のもとで、競技者又はチームマネージャーがビデオ再生又はその他の電子式判定補助具を観ることを許可できる。

#### 4.3.2. 時間制限

- (a) チーフレフリーの裁量により、競技種目に制限時間を設定することができる。制限時間が設けられる場合は、競技のラウンド開始前に各競技者に伝えられる。
- (b) チーフレフリーは、制限時間に達した時、又は次のラウンドに進む競技者が失格なしに競技を終了して確定した時、フィニッシュする前に棄権するよう競技者に指導してよい<sup>16, 17</sup>。

#### 4.4. 組み合わせ配置

オーシャン競技において、組み合わせ配置（シード）を行う。

##### 4.4.1. 予選における組み合わせ配置

予選において組み合わせ配置を行うが、最初のラウンドでは、クラブが同じ又は（国際大会の場合）国籍が同じ競技者は、可能な限り異なるヒートに組み合わせ配置する。

##### 4.4.2. 準決勝及び決勝における組み合わせ配置

予選後の全てのラウンドにおいて組み合わせ配置をする。予選後のラウンド、準々決勝、準決勝、決勝の組み合わせ配置は、予選の結果に基づく。

予選及び／又は更なるラウンド、又は準決勝の結果に基づいて、上位16人の競技者又はチームが以下の競技種目の決勝に進む：サーフレース、サーフチームレース、ランスイムラン、ビーチラン、サー

---

<sup>16</sup> 【JLA注釈】JLA主催競技会では、指導ではなく指示できるものとする。更に、競技者の技能不足により安全上競技を継続させることが危険とチーフレフリーが判断した場合も、競技から離れるよう指示できる。

<sup>17</sup> 【JLA注釈】JLA主催競技会では、DNF扱いとする。

フスキーレース、サーフスキーリレー、ボードレース、ボードリレー、オーシャンマン／オーシャンウーマン、オーシャンマン／オーシャンウーマンリレー。

(得点を明確にするなどの目的で) 必要とあらば、以下の競技で A 決勝, B 決勝を実施する: ビーチフラッグス, レスキューチューブレース, レスキューチューブレスキュー, ビーチスプリント, ビーチリレー, ボードレスキュー。予選又は準決勝の結果に基づき, 上位 8 位までの競技者又はチームが A 決勝に割り当てられる。上位 9 位から 16 位までの競技者又はチームは B 決勝に割り当てられる。16 人又は 16 チーム以上の決勝から, 1 人以上の競技者又は 1 以上のチームが棄権した時, 最大 4 人の競技者又は最大 4 チームがリザーブリストから招集される。リザーブは, 棄権した競技者又はチームと同じ予選レースから招集される。決勝は再シード (再度, 組み合わせ配置) されない。

1 人以上の競技者又は 1 以上のチームが, A 決勝が 8 人になるよう招集される, 又は B 決勝を棄権する場合, 代替として最大 4 人 (又は 4 チーム) までの競技者が予選ヒートから繰り上げられる。A 決勝は再シード (再度, 組み合わせ配置) されない。代替競技者が足りなくても, 招集できた競技者により B 決勝を行う。リザーブは, 棄権した競技者又はチームと同じ予選レースから招集される。B 決勝は再シード (再度, 組み合わせ配置) されない。

**同着について:** 決勝進出に係る同着が生じた場合, (決勝出場枠について) 可能であれば同着の競技者又はチームは該当する決勝に進む。決勝の出場枠が足りない場合, 決勝出場者を決定するために, 同着の競技者間又はチーム間で最終予選を実施する。

#### 4.4.3. レーン決め抽選

予選及びビーチ種目のスタート位置の最初の抽選は競技会運営側が行いチームに通知される。それに続くラウンド (例えば, 準々決勝, 準決勝, 決勝) のスタート位置の抽選は競技役員が行う。

予選のための最初の抽選及び競技者の組み合わせ配置のための抽選を含め, 抽選はチーフレフリーが承認した抽選方法で行う。

#### 4.4.4. ビーチでのスタート位置

スイム, サーフスキー, ボード, 複数分野競技, サーフポート<sup>18</sup>において, スタート位置又はレーンは, 海に向かって左から連続して 1, 2, 3, ... とする。ビーチ種目では, 海に最も近い位置を 1 とする。

#### 4.4.5. 競技者数の制限

予選, 準々決勝, 準決勝, 決勝を実施するかどうかはチーフレフリーが決定する。予選又は決勝における競技者の推奨最大人数は, 下の表の数を超えないものとする。競技委員会及びチーフレフリーだけが, 判定の有効性, 環境の条件, 安全の配慮及び全競技者への公平性を十分に配慮した上で, 当該最大人数の変更を許可できる。

---

<sup>18</sup> 【JLA注釈】本競技規則ではサーフポート競技は扱わない。

競技種目	最大競技者数／チーム数
サーフレース	32人
レスキューチューブレース	9人
ランスイムラン	32人
ビーチフラッグス	16人 (決勝は8人)
ビーチスプリント	10人
ビーチラン - 2 km及び1 km	40人
3×1 km ビーチランリレー	40チーム (1チームあたり3人)
サーフスキーレース	16人
ボードレース	16人
オーシャンマン／オーシャンウーマン	16人 (勝ち残り方式は20人)
オーシャンM	24人
サーフチームレース	10チーム (1チームあたり3人)
レスキューチューブレスキュー	9チーム (1チームあたり4人)
ビーチリレー	10チーム (1チームあたり4人)
サーフスキーリレー	16チーム (1チームあたり3人)
ボードリレー	16チーム (1チームあたり3人)
ボードレスキュー	9チーム (1チームあたり2人)
オーシャンマン／オーシャンウーマンリレー	16チーム (1チームあたり4人)
オーシャンMライフセーバーリレー	24チーム (1チームあたり4人)

## 4.5. サーフレース (Surf Race)

### 4.5.1. 競技の説明

競技者は、浜のスタートラインから走って海に入り、ブイにより指定された 400 m (マスターズでは 280 m) コースを泳ぎ、海岸に戻り、浜の (2 つの) フィニッシュ旗の間を (通過して) フィニッシュする。

フィニッシュ後の着順記録を容易にするため、競技者は以下のいずれかのライン上に並べられ得る：

- ・ フィニッシュラインから約30度の角度で浜側に引いたライン、
- ・ フィニッシュラインの10 m後方で、フィニッシュラインに直角で、5 m間隔に引いた複数のライン。

### 4.5.2. コース

図に示すとおり、U字型コースはスタートからフィニッシュまで約 400 m とする。スタートとフィニッシュを公平にするため、スタートラインとフィニッシュラインの配置は、海の状況に応じてチーフレフリーの判断で変更され得る。

**スタートライン** (約 40 m 隔てた 2 本のボールの間に伸ばされた鮮やかな色のコード) は、第 1 ブイを中心に、水際から 5 m の位置に置く。

**フィニッシュライン** (5 m 隔てた 2 本の旗の間) は、第 9 ブイを中心に、水際から約 15 m の位置に置く。

**スイムコース**は (図解の通り) ブイを目印とし、最も遠いもので膝の深さの位置から約 170 m 沖合に置かれる。(海の) 状況によって水上の距離は変更され得る。

### 4.5.3. 判定

スタートの合図で、競技者はスタートラインからスタートし、他の競技者を妨害することなく水に入りブイまで泳ぎ、ブイを回って海岸まで戻り、2 本の緑旗 (フィニッシュ旗) の間を通過してフィニッシュする。

**注意**：競技者は、ブイとブイロープに触れてもよいが、ブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

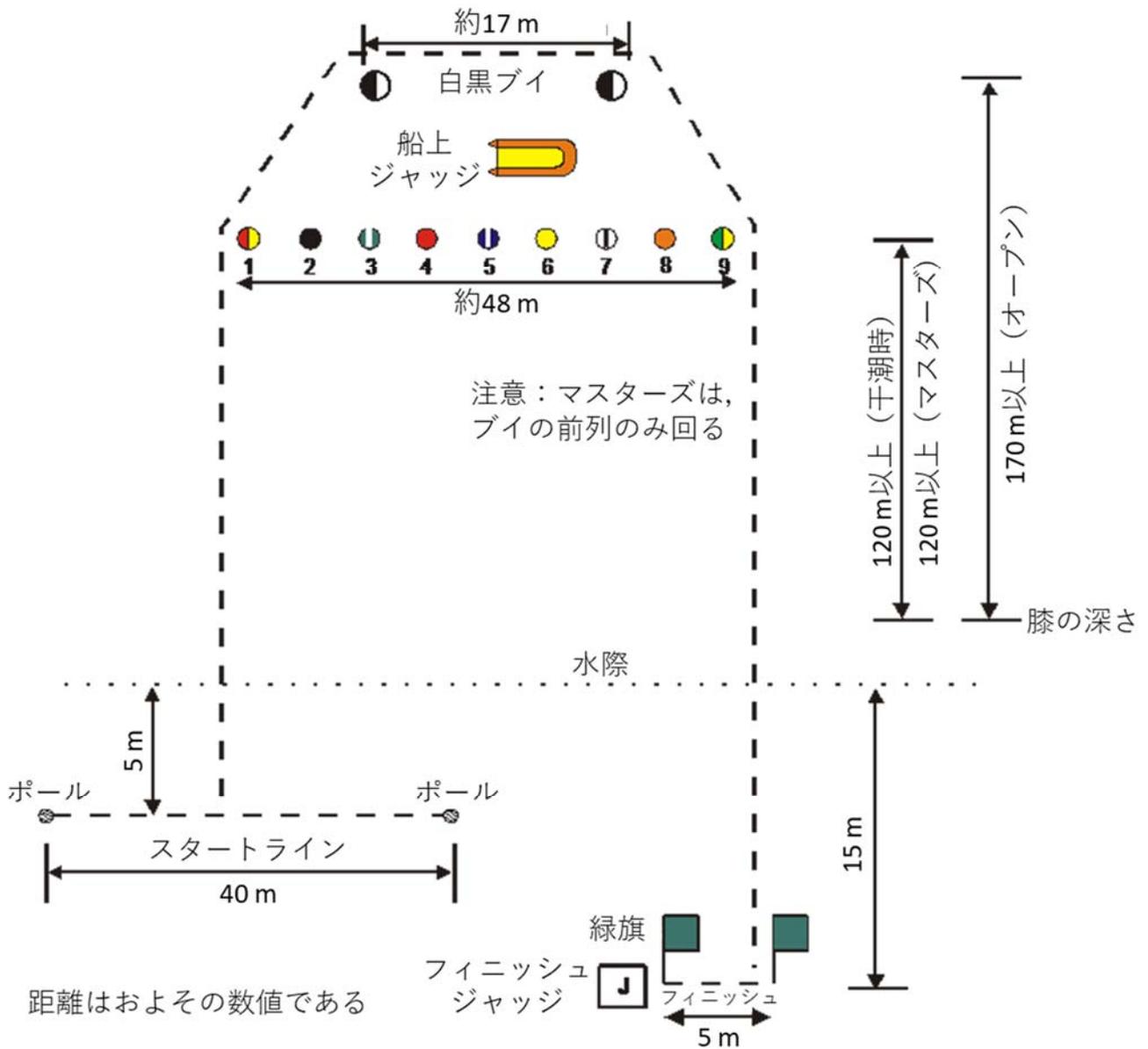
競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸 (の位置) で判定される。

複数のジャッジが、フィニッシュラインで競技者の着順を判定するだけでなく、競技の実施を観察するために配置される。

### 4.5.4. 失格

「2. 共通競技総則」及び 4.1 から 4.3 で概説されている総則に加え、以下の行為は失格となる：

(a) 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合 (DQ12)。



### サーフレース

年齢区分	およその距離
オープン	最も遠いブイまで170 m
マスターズ	最も遠いブイまで120 m

**注意：**ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは、海の状況に応じて調整され得る。

## 4.6. サーフチームレース (Surf Teams Race)

### 4.6.1. 競技の説明

各チームのメンバー3人全員は浜のスタートラインから海に向かって走り、ブイにより設定された400 m (マスターズは280 m) のコースを泳いで回り、岸に戻って浜のフィニッシュ旗の間を通過してフィニッシュする。

**マーシャル (招集)** 招集では、各チームのメンバー3名がドロー (抽選) で決められた順に海に向かって1列に並ぶ。最初のチームの隣に次のチームが並び、次々に並んでいく。

全チームが集まると、競技エリアに面するよう指示が与えられる。オフィシャルの指示で、水際に最も近い先頭列が競技エリアに進み、第2列、第3列がそれに続く (この並び方により、スタートライン上に各チームの競技者を満遍なく配置できる)。

**得点:** 点数は次のように割り当てられる: 第1位の競技者に1点, 第2位の競技者に2点, 第3位の競技者に3点, 第4位の競技者に4点, 以下同様。(訳注: チームメンバーの点数を合計して) 得点数が最も少ないチームが勝者となる。もし2つ以上のチームが同点の場合, それらのチームの中で最も早くフィニッシュした競技者の順により順位を付ける。

競技を終了した競技者全員について獲得順位が記録され, 得点が算出される。失格となったチームがある場合は順位が繰り上がり, 得点は再計算される。

サーフレースとサーフチームレースを一緒に実施する場合, チーム競技に属さない競技者 (=サーフレースの競技者) はチーム競技 (=サーフチームレース) の得点算出から除外される。

### 4.6.2. コース

サーフチームレースは, 以下に示す図の通りサーフレースと同じコースで実施する。スタートとフィニッシュを公平にするため, スタートラインとフィニッシュラインの配置は, 海の状況に応じてチーフレフリーの判断で変更され得る。

### 4.6.3. 判定

スタートの合図で, 競技者はスタートラインからスタートし, 他の競技者を妨害することなく水に入りブイまで泳ぎ, ブイを回って海岸まで戻り, 2本の緑旗 (フィニッシュ旗) の間を通過してフィニッシュする。

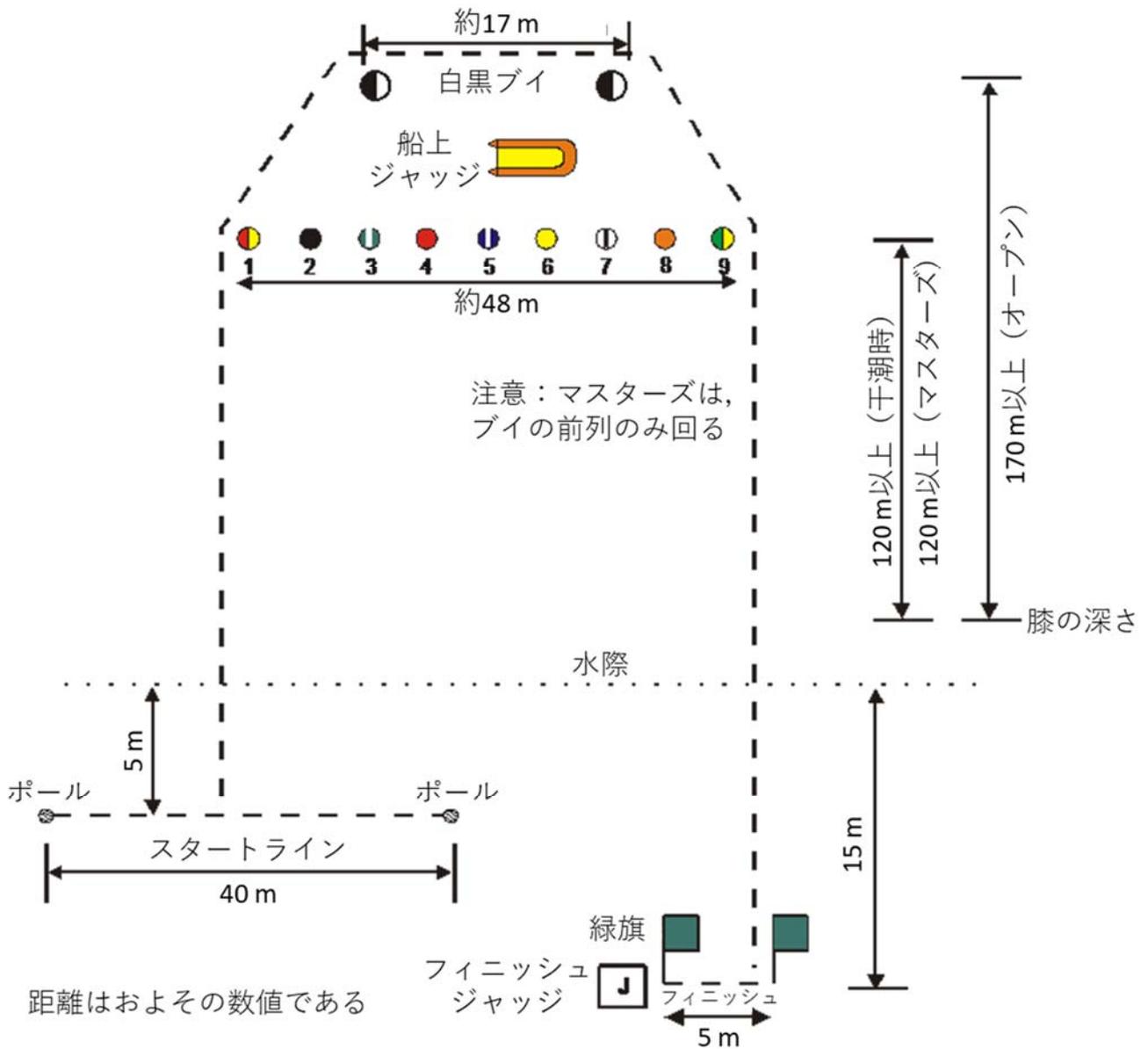
**注意:** 競技者は, ブイとブイロープに触れてもよいが, ブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸 (の位置) で判定される。

複数のジャッジが, フィニッシュラインで競技者の着順を判定するだけでなく, 競技の実施を観察するために配置される。

### 4.6.4. 失格

「2. 共通競技総則」及び4.1から4.3で概説されている総則に加え, 以下の行為は失格となる: 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合 (DQ12)。



サーフチームレース

年齢区分	およその距離
オープン	最も遠いブイまで170 m
マスターズ	最も遠いブイまで120 m

**注意：**ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは、海の状況に応じて調整され得る。

## 4.7. レスキューチューブレスキュー (Rescue Tube Rescue)

### 4.7.1. 競技の説明

この競技種目には各チームから4人の競技者が参加する：溺者役1人、レスキューチューブスイマー1人、レスキューア2人<sup>19</sup>。溺者役は指定されたブイまで約120m泳ぎ、合図を出してレスキューチューブスイマーから救助されるまで待機する。溺者役とレスキューチューブスイマーが浜に戻るとき、残っていたレスキューア2人が水に入りアシストする。溺者役に触れたままフィニッシュラインを越える競技者のうち、最初の競技者が越えた時点で（そのチームの）競技は終了する。

(a) スタート：4人の競技者全員が、スタートラインの指定された位置に集合する。スタートの合図の前に、レスキューチューブスイマー及び器材は、スタート／フィニッシュラインより浜側になければならない。レスキューチューブスイマーは、レスキューチューブを持つ又は身に着けてもよい、また、フィンを手を持つこともできる。レスキューチューブは、肩掛け部分を片方又は両方の肩にかける又は交差して、又は肩から胸にかけて身に着けることができる。フィンは、スタートラインを越える前に装着してはならない。

スターターの合図で、溺者役が水に入り、指定されたブイまで泳いでタッチし、ブイに触れた状態でもう一方の手を垂直に挙げてブイ到着の合図をする。溺者役は、その後ブイより沖側の水中で待機する。

#### 注意

1. ここでブイとはブイ本体のことであり、ブイにつながれているロープ及び／又はストラップ等は含まれない。競技者はブイ到着の合図をする前に、水面より上で視覚的に分かるようブイにタッチせねばならない。
2. 競技者は、ブイとブイロープに触れてもよいが、指定されたブイに達するためブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

チーフレフリーは、溺者役がブイに触れたことを明確に合図する別の妥当な方法を決定してもよい。

競技者は、指定された位置からスタートせねばならない。間違ったブイに泳ぎついて合図をした競技者は失格となる。

(b) **レスキューチューブスイマー**：レスキューチューブスイマーは、溺者役からの合図で、指定された位置からスタートラインを越えて、器材を自身の判断で装着して、指定されたブイの（浜から見ると）左側を通過し、ブイの沖側で待機している溺者役に泳ぎ着く。レスキューチューブスイマーは、溺者役の両腕の下の体にレスキューチューブを正しくつけクリップをオーリングに掛ける。溺者役は、レスキューチューブをつけるとき及びクリップを掛けるのに協力してもよい。競技者は、レスキューチューブを溺者役につけてから、引き続きブイを（時計回りに）回って、浜向かって溺者役を牽引する。

---

<sup>19</sup> 【JLA注釈】JLA編、サーフライフセービング教本（大修館書店、2018）ではファーストレスキューア、セカンドレスキューアだが、ILS競技規則原文の表記：rescue tube swimmer, rescuers、に倣った。

**注意：**競技者は、ブイとブイロープに触れてもよいが、指定されたブイに達するためブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

- (c) **レスキューアー：**レスキューチューブスイマーが溺者役を浜に向かって牽引し始めたら、2人のレスキューアーは各自の判断でスタートラインを越えて水に入り、レスキューチューブスイマーを補助して溺者役を浜に運ぶ。

溺者役は、フィニッシュまでドラッグ又はキャリーされなければならない。

- (d) **フィニッシュ**は、溺者役に触れたままフィニッシュラインを立った状態で自身の足で越える最初のチームメンバーの胸で判定される（レスキューチューブがついている必要はない）。

**注意：**傷病者<sup>20</sup>の全身がフィニッシュラインを越えるまでドラッグする必要はないが、チームは、競技のジャッジの邪魔にならぬよう、そして後続チームがフィニッシュできるように、速やかにフィニッシュラインの浜側に移動することが求められる。

#### 4.7.2. 注意

- (a) 全てのチームメンバーは、スタートラインにおいて指定された位置からスタートせねばならない。
- (b) レスキューチューブスイマー及び2人のレスキューアーは、（理由は何であれ）事前にスタートラインを越えても、自分らの区間を開始する前にスタートラインの浜側に戻れば、失格にはならない。
- (c) スタート時、レスキューチューブスイマーは、レスキューチューブ及びフィンスタート／フィニッシュラインより浜側に置くか、又はフィン及びレスキューチューブを手にもってよい。レスキューチューブの紐を装着してもよい。
- (d) レスキューチューブは、競技者の判断で、肩掛け部分を片方の肩にかける又は肩から胸にクロスするかのいずれかで、正しく装着せねばならない。
- (e) 溺者役は、レスキューチューブをつけるにあたり、レスキューチューブスイマーをアシストしてよい。両者のどちらでもレスキューチューブのクリップをかけてもよいが、溺者役がブイラインより沖側でクリップをかけなければならない。
- (f) レスキューチューブスイマーは、溺者役の両腕の下の体にレスキューチューブをつけクリップをオーリングに掛けた状態で、溺者役を牽引せねばならない。
- (g) 溺者役は腹を下にして牽引されてはならない。
- (h) 溺者役は、水面下でキック及び腕で水をかいてアシストしてよいが、水の外に腕を出してリカバリーして泳いではならない。
- (i) 溺者役は、決して歩いて又は走ってアシストしてはならないが、キャリーの間、足を上げてアシストしてもよい。
- (j) レスキューチューブスイマーだけがフィンを使用してもよい。レスキューアーはいずれの器材又はスイムフィンを使用してはならない。

#### 4.7.3. コース

---

<sup>20</sup> 【JLA注釈】 ILS競技規則原文ではここだけpatient（傷病者）だが、他の箇所の溺者役（victim）と同義とする。

以下の図に示す通り、コースは約 240 m とする。スタートとフィニッシュを公平にするため、海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で、ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

- (a) スタート／フィニッシュライン：ブイと向かい合うように水際に設定する。ラインの長さは水際に、2本の旗付きポールを約48 m間隔<sup>21</sup>で立て、その間に鮮やかな色の紐を張る。ブイに対するスタートラインの配置は、海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で変更してもよい。スタートラインは、フィニッシュラインでもある。この紐は、競技者がライン上に揃ったら、チューブが引っかからないようにスタートの前に取り除かれる。
- (b) **スイムブイ**は、サーフレースと同様に配置し、全ての競技者が、砂丘及びリップ（カレント）に関して、等しくチャンスを得られるようにする。

#### 4.7.4. 器材

**レスキューチューブ、スイムフィン**：「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。競技者は主催者が用意したレスキューチューブを用いなければならない。

#### 4.7.5. 判定

フィニッシュジャッジは、フィニッシュラインの両端で、両方の旗ポールの直線上で旗ポールから少なくとも 5 m 離れて配置される。船上ジャッジ 1 人が、図に示す通り、連ブイと同一線上に配置される。

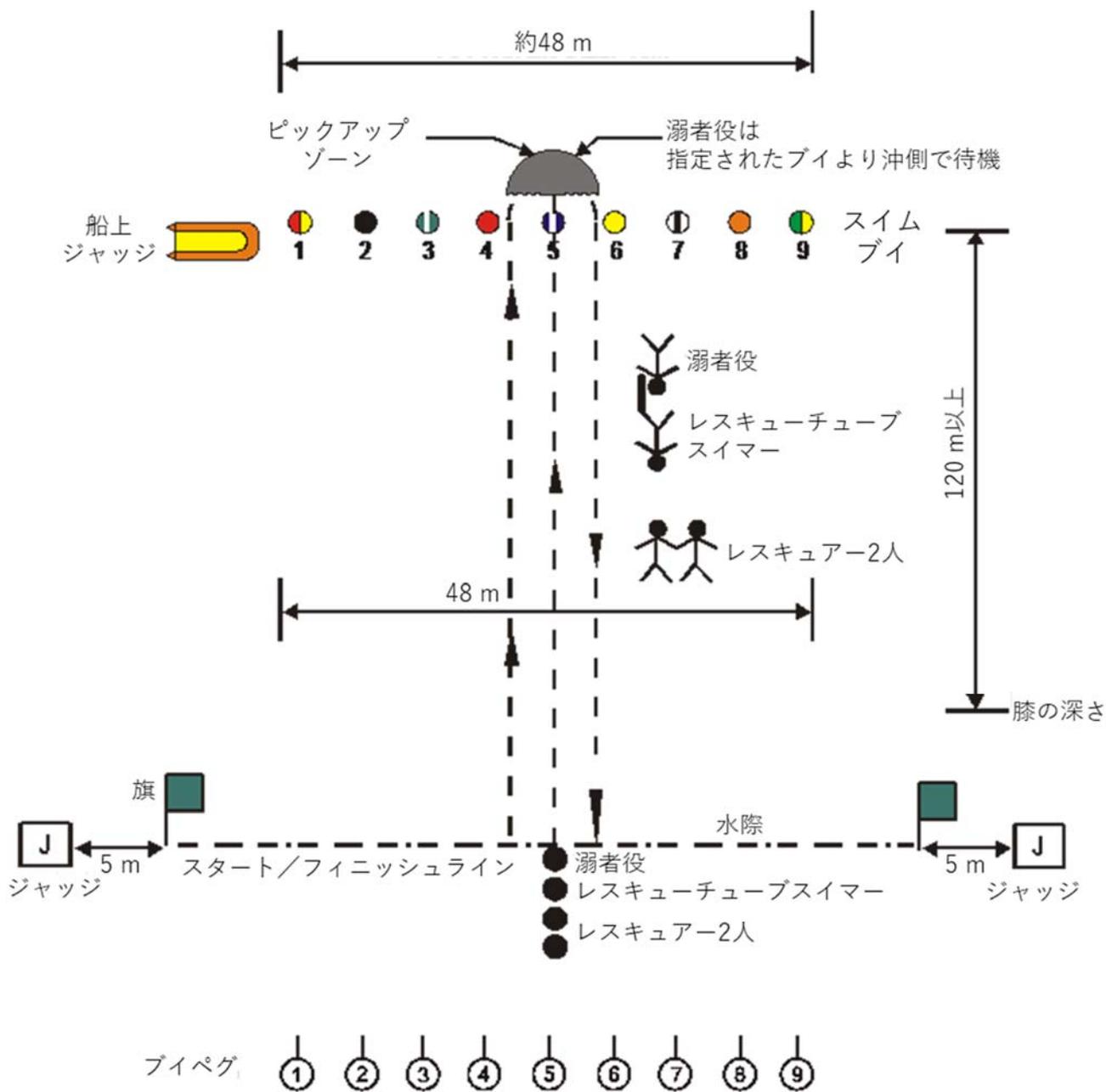
競技中にいずれかのジャッジが目視し記録された違反は、チーフレフリーに報告され、関係するジャッジと共に当該違反について裁定する。違反を目視した船上ジャッジは、実質的に可能な限り早く且つレース結果が発表される前に、チーフレフリーに報告すること。

#### 4.7.6. 失格

「2. 共通競技総則」及び 4.1 から 4.3 で概説されている総則に加え、以下の行為は失格となる：規定されたとおりにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

---

<sup>21</sup> 【JLA注釈】約48 mだと、第1、第9レーンのブイペグのほぼ正面に旗付きポールが位置するため、JLA主催競技会では、やや広め（約54 m）に接地することとする。



距離はおよその数値である

### レスキューチューブレスキュー

**注意:** ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは、海の状況に応じて調整され得る。

## 4.8. レスキューチューブレース (Rescue Tube Race)

### 4.8.1. 競技の説明

レスキューチューブ及びフィンは、競技者に指定されたブイペグに並ぶよう水際から約 15 m に配置する。

競技者は、水際から約 5 m のスタートライン上で位置につく。競技者は、スターターの合図で浜を駆け上がり、各自のレスキューチューブとフィンを取り、各自の判断で器材を装着し、水に入りブイに向かって泳ぎ、指定されたブイを（浜から見て左から）回り、浜に戻ってフィニッシュラインを越える。

**注意:** 競技者は、ブイとブイロープに触れてもよいが、指定されたブイに達するためブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない<sup>22</sup>。フィニッシュは、体を起こした状態で、フィンを持ちレスキューチューブの肩掛け部分の紐を肩にかけて、フィニッシュラインを越える競技者の胸で判定される。

#### **注意:**

1. スタート時、レスキューチューブとフィンは、競技者の判断で、指定されたブイペグのところに、且つブイペグの海側に配置されなければならない。
2. レスキューチューブは、肩掛け部分の紐の輪を一方の肩から交差させるか、又は一方の肩の上に掛けて着用されねばならない。

### 4.8.2. コース

レスキューチューブレースは、レスキューチューブレスキューの一般規則に基づいて実施される。コースは、以下の図に示すとおりレスキューチューブレスキューと同一である。

スタートとフィニッシュを公平にするため、海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で、ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

### 4.8.3. 判定

船上ジャッジ 1 人が、図に示す通り、連ブイと同一線上に配置される。フィニッシュジャッジは、フィニッシュラインの両端で、両方の旗ポールの直線上で旗ポールから少なくとも 5 m 離れて配置される。

### 4.8.4. 器材

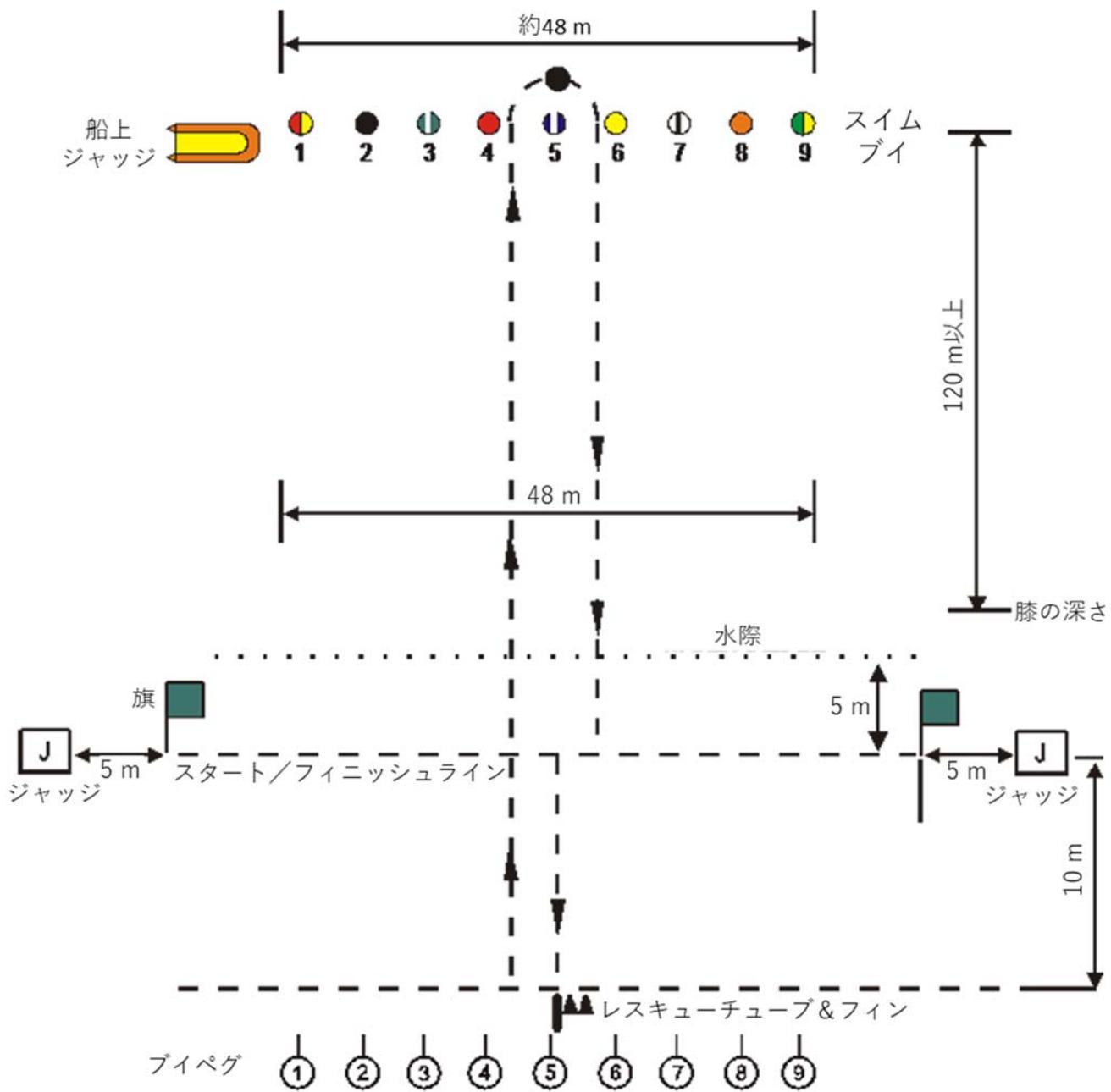
**レスキューチューブ、スイムフィン:**「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。競技者は主催者が用意したレスキューチューブを用いなければならない。

### 4.8.5. 失格

「2. 共通競技総則」及び 4.1 から 4.3 で概説されている総則に加え、以下の行為は失格となる：規定されたとおりにコースを完了できなかった場合 (DQ12)。

---

<sup>22</sup> 本競技種目ではこの文章のようにブイに到達する必要はないが、ILS原文のとおりここに記しておく。



距離はおよその数値である

### レスキューチューブレース

**注意:** ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは、海の状況に応じて調整され得る。

## 4.9. ランスイムラン (Run-Swim-Run)

### 4.9.1. 競技の説明

競技者は、スタートラインから走り、折返し旗を回って通過し、入水してブイまで泳ぎ、ブイを回る。競技者は、浜まで泳いで戻り、再度折返し旗を走って回り、フィニッシュラインに走って向かう。

**注意：**競技者は、ブイとブイロープに触れてもよいが、ブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

### 4.9.2. コース

以下の図に示すとおり、コースは、競技者が約 100 m 走り、約 300 m 泳ぎ、約 100m 走りフィニッシュするようにする<sup>23</sup>。

### 4.9.3. 判定

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

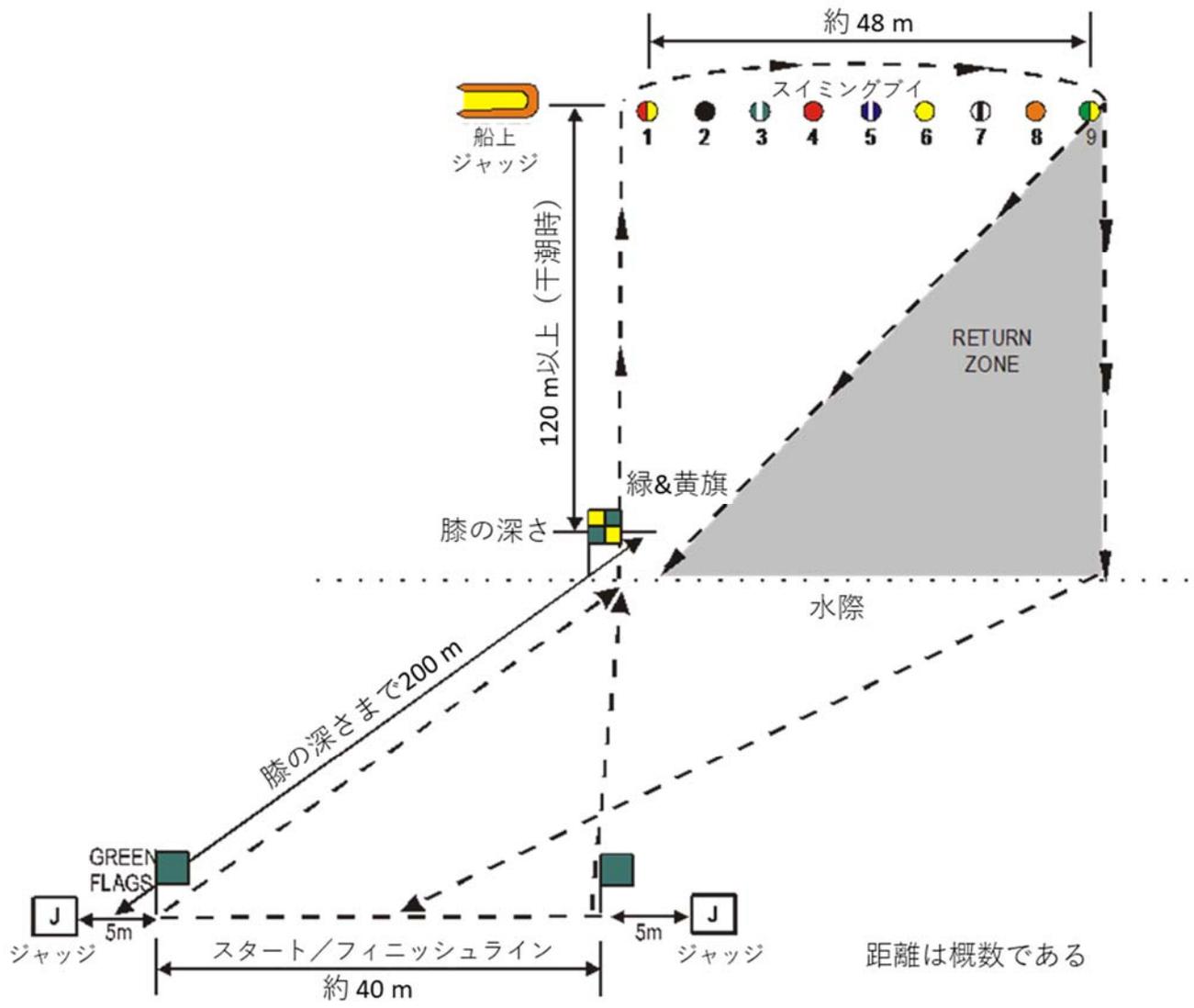
複数のジャッジが、フィニッシュラインで競技者の着順を判定するだけでなく、競技の実施を観察するために配置される。

### 4.9.4. 失格

「2. 共通競技総則」及び 4.1 から 4.3 で概説されている総則に加え、以下の行為は失格となる：規定されたとおりにコースを完了できなかった場合 (DQ12)。

---

<sup>23</sup> 【JLA注釈】 走る距離は、本文中で約100 m、図中では200 mと記載されているが、JLA主催競技会では約200 mを基本とする。



### ランスイムラン

**注意:** ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは、海の状況に応じて調整され得る。

## 4.10. ビーチフラッグス (Beach Flags)

### 4.10.1. 競技の説明

競技者は、ビーチの割り当てられた位置でうつ伏せの状態から、起き上がり、体を回転させて約 20 m 走り、砂上に約 2/3 が見えるように立てられたバトン（ビーチフラッグ）1 本を取る。

競技者は、顔を下にうつ伏せの姿勢になり、両足のつま先をスタートラインに乗せ、かかと又は足のいずれかの部分を合わせ、指先が手首に触れるように両手を重ね、頭を上げておく。両肘を体の正中線に対して 90 度に広げ、腰と胃部が砂につく姿勢をとる。体の正中線はスタートラインに対して 90 度にする。

#### 注意：

1. 競技者は、スタートエリアの砂をならず、平らにする、押し固めてもよい。競技者は、スタートをアシストするため、砂を盛り上げたり、砂の傾斜を不合理に変更してはならない。
2. 競技者は、うつ伏せになる前に手又は足を使って、又、うつ伏せになった後は足を使って、スタートラインの砂を掘りつま先を埋め込んでも良い。
3. 競技者はオフィシャルの指示に従わなければならない。競技のスタートを不合理に遅らせた競技者はペナルティーを受ける場合がある (DQ8)。

### 4.10.2. スタートの手順

ビーチフラッグスのスタートの手順は、「4.2 スタート」で説明した手順とは異なる。ビーチフラッグスでのスタートは以下の通り：

スタート前にマーシャルは以下のことを行う：

- (a) ランスルーのために、くじで引いた通りの順に競技者を配置する、
- (b) スタートエリアまで競技者及び器材に付き添い、競技者が正しい順に並ぶようにする、

チーフレフリー／セクショナルレフリーは以下のことを行う：

- (a) 全てのオフィシャル及び器材が配置されているか確認する、
- (b) 競技者がスタートラインで位置につくように、長いホイッスルで各レースの公式スタートを合図する、
- (c) 競技者がスターターの管理下にあることをスターターに知らせる — スターターは、競技者の視界の外に位置すること。

### 4.10.3. スタート

スターターの「Competitors Ready (コンペティターズ・レディ)」の号令で、競技者は記述されたとおりにスタートの姿勢をとる。スターターの「Heads down (ヘッズ・ダウン)」の号令で、競技者は — 遅滞なく速やかに — 顎を両手の上に乗せる。

- (a) 意図的な間を置いて全ての競技者が静止した状態になったら、スターターはホイッスルを強く一吹きしてスタートの合図をする。
- (b) スタートの合図の後、競技者は自身の足で立ち上がり、競い合ってバトンを取る。

#### 4.10.4. 不正スタート

ビーチフラッグスの不正スタートは以下のとおり：

- (a) 合理的な時間内でスターターの号令に従えなかった場合、
- (b) 「ヘッズ・ダウン」の号令の後、且つ、スタートの合図の前に、体の一部が砂から上がる又は、スタートの動作を始めた場合。

ある競技者が失格又は除外となった場合、残りの競技者とバトンの位置を再抽選せずに再度整列させる。ランスルーは、不正スタートがあっても、公正なスタートに影響を与えない限り、そのまま続行すること。<sup>24</sup>

#### 4.10.5. レーン決め抽選

事前にレーン決め抽選を行い、さらに各ラウンド後に抽選する。準決勝、決勝では、競技者が8人以下になったとき、各ランスルーの後にレーン決め抽選を行う。

#### 4.10.6. 除外される競技者の人数

予選の各ランスルーにおいて、チーフレフリーは、除外される競技者の数を1人又は2人とするかを決定する。準決勝及び決勝では、各ランスルーで除外される競技者は、1人を超えないものとする。

#### 4.10.7. ランオフ (Run-offs)

2人以上の競技者が同時に1本のバトンを取り、且つジャッジがどちらの競技者が一掴んだバトンの位置に関係なく一先にバトンを取ったか判定できない場合、関係する競技者間でのランオフを行う。同様に、バトンが砂の中に消失した場合はランオフを行う。バトンが砂の中に消失したことが明らかかな場合、フィニッシュジャッジはバトンが消失したことを（ホイッスル又は口頭の）合図によって伝え、ランスルーは終了する。

#### 4.10.8. コース

図に示す通り、コースはスタートラインからバトンまで約20mとし、16人の競技者それぞれに最低でも1.5mの間隔を確保する。

バトンは、スタートラインと平行に並べ、隣接する2人の競技者の間の垂線がバトンの根本付近を通過するようにする。換言すると、バトンは隣接する競技者から等距離になるようバトンライン上に並べられる。

ビーチフラッグスのアリーナには、小石や細かなゴミが無いようにし、砂の表面が固い場合は、安全のため、競技前及び競技中に熊手等で土を掻きならすこと。

#### 4.10.9. 器材及び服装

ビーチフラッグス（バトン）：「第8章 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは、競技者の裁量で着用してよい。

#### 4.10.10. 判定

---

<sup>24</sup> 【JLA注釈】JLA主催競技会では、他に影響を与えなくとも、ランスルーを中断する場合がある。

チーフレフリー／セクショナルレフリー又はそれらから指名された者は、全体を監督できる位置につく。

スターター及びチェックスターターは、スタートラインの両端に分かれて位置し、スタートの違反を監視する。コースジャッジは、コースの両側に分かれて位置し、ランスルー及びその間に介入して違反が無いかを監視する。

フィニッシュジャッジは、バトンラインの数メートル後方に位置し、バトンを取った競技者からバトンを回収し、次のランスルーのためにバトンをセットアップする。

#### 4.10.11. 除外及び失格

各ランスルーとランオフは別々の区分として判定する。ある区分における違反行為が後続の区分に持ち越され、不利になることはない。

不正スタートをした競技者、他の競技者の進路を妨害した競技者は除外される（失格とはならない）。

不正スタートにより除外された競技者でも、それ以前のレースで獲得した点数及び／又は順位は保持できる。ただし、失格の場合は全ての得点及び順位を失う。

ビーチフラッグス競技において、除外に対する抗議は、5分以内又は次のランスルーが始まる前（どちらか早い方）に提出せねばならない。ビーチフラッグスの除外に対する抗議が提出されたら、競技が進行する前にチーフレフリーは直ちに遅滞なくその抗議について検討する。チーフレフリーによるビーチフラッグスの除外に対する抗議の裁定結果について、上訴することは認められない。

#### 注意：

1. チーフレフリーは、上述の方法で短時間に裁定するため、ビーチフラッグスの除外に対する抗議を、現場の上訴委員に直接付託する権限を持つ。この場合、書類は不要であり預託金も発生しない。
2. 競技者は、プロセスが「2. 共通競技総則」の詳述のとおりであれば、ビーチフラッグスの失格に対して抗議及び／又は上訴することができる。

**妨害行為：**妨害行為とは、「他の競技者の進路を妨害する為に、手、腕、足、又は脚を使うこと」である。

競技者は、バトンを掴む際、自身の胴体を使って位置を良くしてもよい。他の競技者の前に肩や胴体を割り込ませてもよいが、その位置を良くする又は維持するために手、腕、足、又は脚を使用してはならない。

競技者が正当な方法で前方の位置を獲得し、正常な走行をしている場合、後方の競技者は前方の競技者を回り込まなければならない。

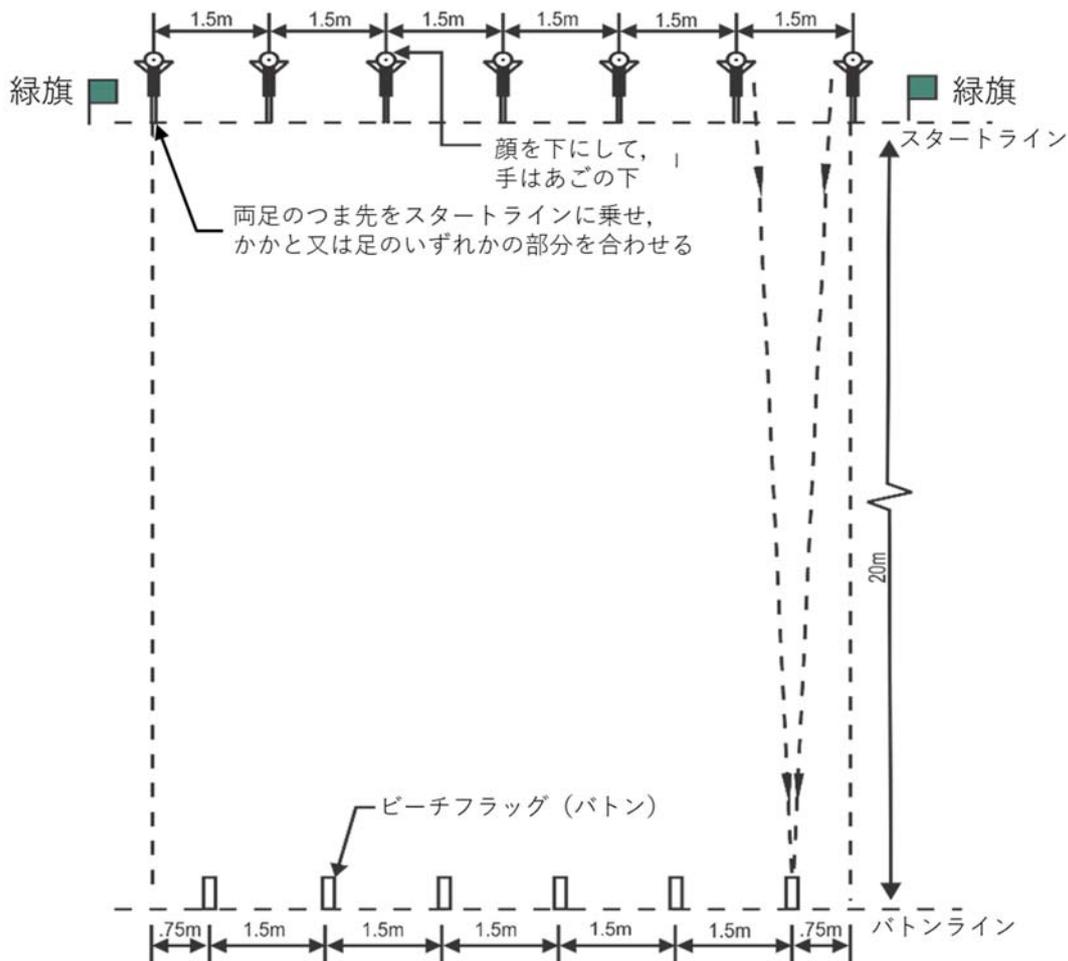
競技者は、遅い競技者の前を横切ってもよい。

2人以上の競技者が妨害行為を犯した場合、最初に手、腕、足または脚を使った競技者が除外となる。

ただし、妨害行為の条項に関わらず、もし競技者が行動規範に違反した場合及び／又はフェアでない競技を行った場合（「2.15 不正行為」を参照せよ）、関係する競技者は失格となる。

「2. 共通競技総則」及び 4.1 から 4.3 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合（DQ12）。
- (b) 2本以上のバトンを取ったり、他の競技者が取れないように妨害した場合（例えば、バトンの上に横たわったり、見えないように覆うことなど）（DQ11）。



ビーチフラッグス

年齢グループ	距離
オープン	20 m
マスターズ	15 m

## 4.11. ビーチスプリント (Beach Sprint)

### 4.11.1. 競技の説明

競技者は、指定されたレーンで位置につく。スタートの合図で、競技者はフィニッシュラインまで 90 m (マスターズは 70 m) のコースをレースする。フィニッシュは競技者の胸 (のみ) がフィニッシュラインを越えることで判定される。競技者は、足で立ち体を起こした状態で競技をフィニッシュせねばならない。

### 4.11.2. スタート

人工的なスターティングブロックの使用は許可されないが、競技者は、スタートの補助のため、砂に穴を掘る及び／又は砂を盛り上げてよい。競技者は、自身のレーン内の砂をならず又は平らにしてもよい。

### 4.11.3. コース

以下の図に示す通り、ビーチスプリントコースは、スタートラインからフィニッシュラインまで 90 m (マスターズは 70 m) とする。両端には<sup>25</sup>、少なくとも 20 m のランオフエリア<sup>26</sup>を設置する。

全ての競技者が同じ距離を走るように、コースは長方形の四角形とし、四隅には 2 m の目立つ色のポールを設置する。

**走行レーン**は色付きロープで仕切られ、競技者が直線コースを維持できるようビーチに敷設される。レーンの幅は、可能であれば 1.8 m、最低でも 1.5 m とする。

この種目には可能であれば 10 レーン、最低でも 8 レーンが必要である。

競技者はコース全体を通して自分のレーンを逸脱してはならない。

**レーン番号が記されたペグ**を、走行レーンが分かるよう、スターティングマーク<sup>27</sup>の手前及びフィニッシュラインを越えた位置に設置する。

**招集ライン**は、スターティングマークの後方 5 m のところにスターティングマークと並行に設置し、高さ 2 m のポールを置く。

### 4.11.4. 器材及び服装

「第 8 章 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは、競技者の裁量で着用してよい。

競技者は、判定を補助するため色のついたビブスの着用を求められることがある。

### 4.11.5. 判定

チーフレフリー／セクショナルレフリーは、全体を監督できるよう配置される。

---

<sup>25</sup> 【JLA注釈】「4.14 ビーチリレー (Beach Relay)」のコース図の解説を兼ねて「両端 (at each end)」と記されているが、ビーチスプリントではフィニッシュ側のみで十分である。

<sup>26</sup> 【JLA注釈】ランオフエリア (run-off area) は図ではオーバーラン (over run) と表記されている。

<sup>27</sup> 【JLA注釈】原文はstarting markだが、スタートラインのことと解釈する。

競技者が規定されたとおりコースを走っていることを確認するコースジャッジを2人任命してもよい。

フィニッシュジャッジは、順位を決める。競技者は、胸のいずれかの部分がフィニッシュラインを越えた順に順位付けられる。競技者は体を起こした状態でそのラインを足で越えなければならない。

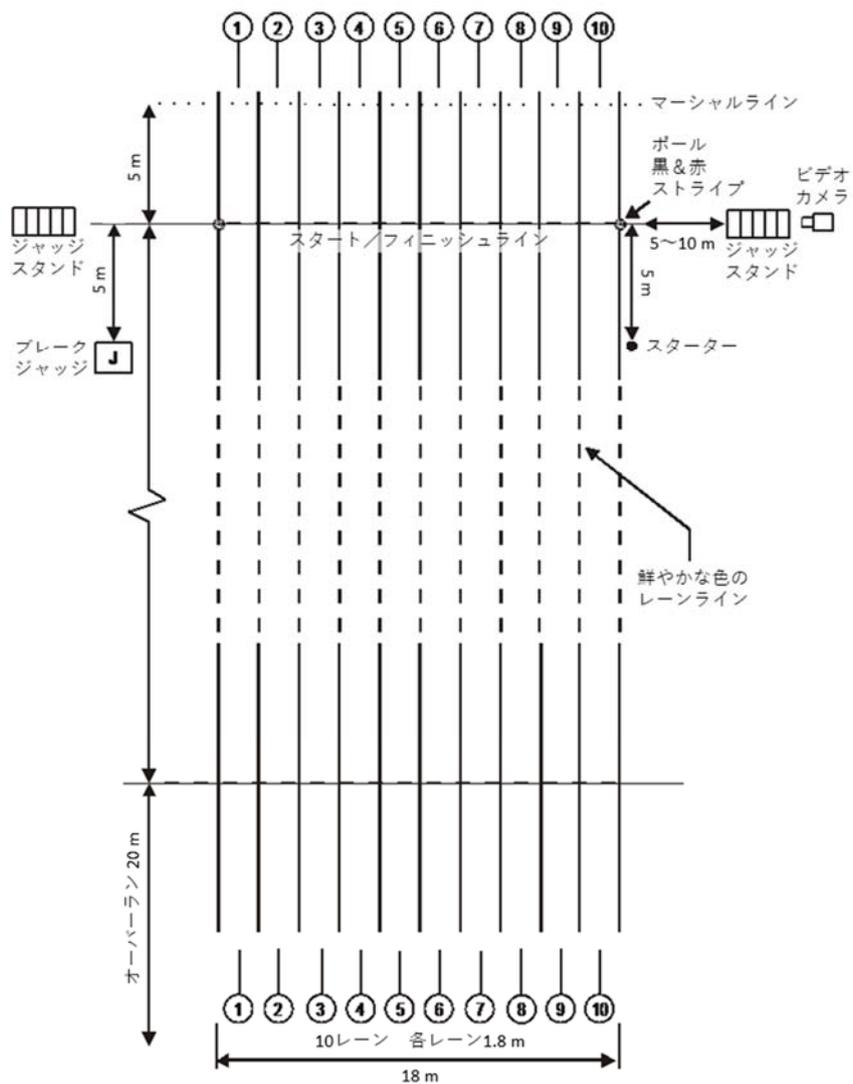
#### 4.11.6. 失格

「2. 共通競技総則」及び「4.1 オーシャン競技の一般規則」<sup>28</sup>に加えて、以下の行為は失格になる：

(a) 規定された通りにコースを完了できなかった場合 (DQ12)。

---

<sup>28</sup> 【JLA注釈】 JLA主催競技会では他のオーシャン競技種目と同様に、4.1だけでなく4.2, 4.3も適用することとする。



距離はおよその数値である

### ビーチスプリント

年齢グループ	距離
オープン	90 m
マスターズ	70 m

## 4.12. ビーチラン — 2 km 及び 1 km (Beach Run - 2 km and 1 km)

### 4.12.1. 競技の説明 — 2 km

競技者はビーチにおいて 2 km レースする。コースは、総距離を変更しない範囲で、会場の特性に合わせて設定されるものとする。デフォルトの周回距離は 500 m だが、ビーチの広さに余裕があればチーフレフリーは周回距離を 1 km としてもよい。

競技者は、スタートの合図により、レーンを左側通行でレースし 250 m 離れた折返しポールを（時計回りに又は右手に見ながら又はレフリーの指示どおりに）回り、スタート／折返し旗まで 250 m 戻ってくる。

競技者は、スタート／折返しラインの全ての折返し旗を（時計回り又は右手に見ながら又はレフリーの指示どおりに）回り、同様に進んで折返し旗を回るのが 4 回繰り返す。最後の周回で、競技者はフィニッシュラインを越えてレースをフィニッシュする。

他の競技者を故意に押ししたり妨害して彼らの進行を妨げてはいけない。

複数のジャッジが、フィニッシュラインで競技者の着順を判定するだけでなく、競技の実施を観察するために配置される。

フィニッシュは、フィニッシュラインを越える競技者の胸で判定される。競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

### 4.12.2. 競技の説明 — 1 km

競技者は、上述のビーチのコースを 1 km レースする。

### 4.12.3. コース

コース（図を参照）として、ビーチ上（実用的には柔らかい砂上）に、水際に平行にレイアウトする。

**スタートライン**は、砂上に引いたライン又は、緑と黄の旗を取り付けた 2 本のポール間に張った視認性の高い色の合成（繊維）コードとする。フィニッシュラインは、スタート／折返しラインより陸側に約 5 m 離して立てた 2 本の緑旗とする。チーフレフリーがスタート／折返しラインの長さを決定する。

**走行レーン**：コースは、水際に平行な 2 つのレーンに分けられる。海に近い側のレーンは、スタート／フィニッシュラインから走る区間である。2 つのレーンは色テープ、連続旗、その他の適切な材料により分けられる。#

**注意**：コースを逆方向に走らせる場合、スタートから離れる区間は陸側で、戻り区間は海側となる。

緑&黄旗を付けた 2 本のポールを、スタートから約 250 m のレーン分離線の終端に 5 m 間隔を空けて設置し、折返し場所とする

### 4.12.4. 器材及び服装

「第 8 章 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは、競技者の裁量で着用してよい。履物の着用は任意である。

### 4.12.5. 判定

チーフレフリー／セクショナルレフリーは、コースの片側に位置して、全体を監督できるようにする。

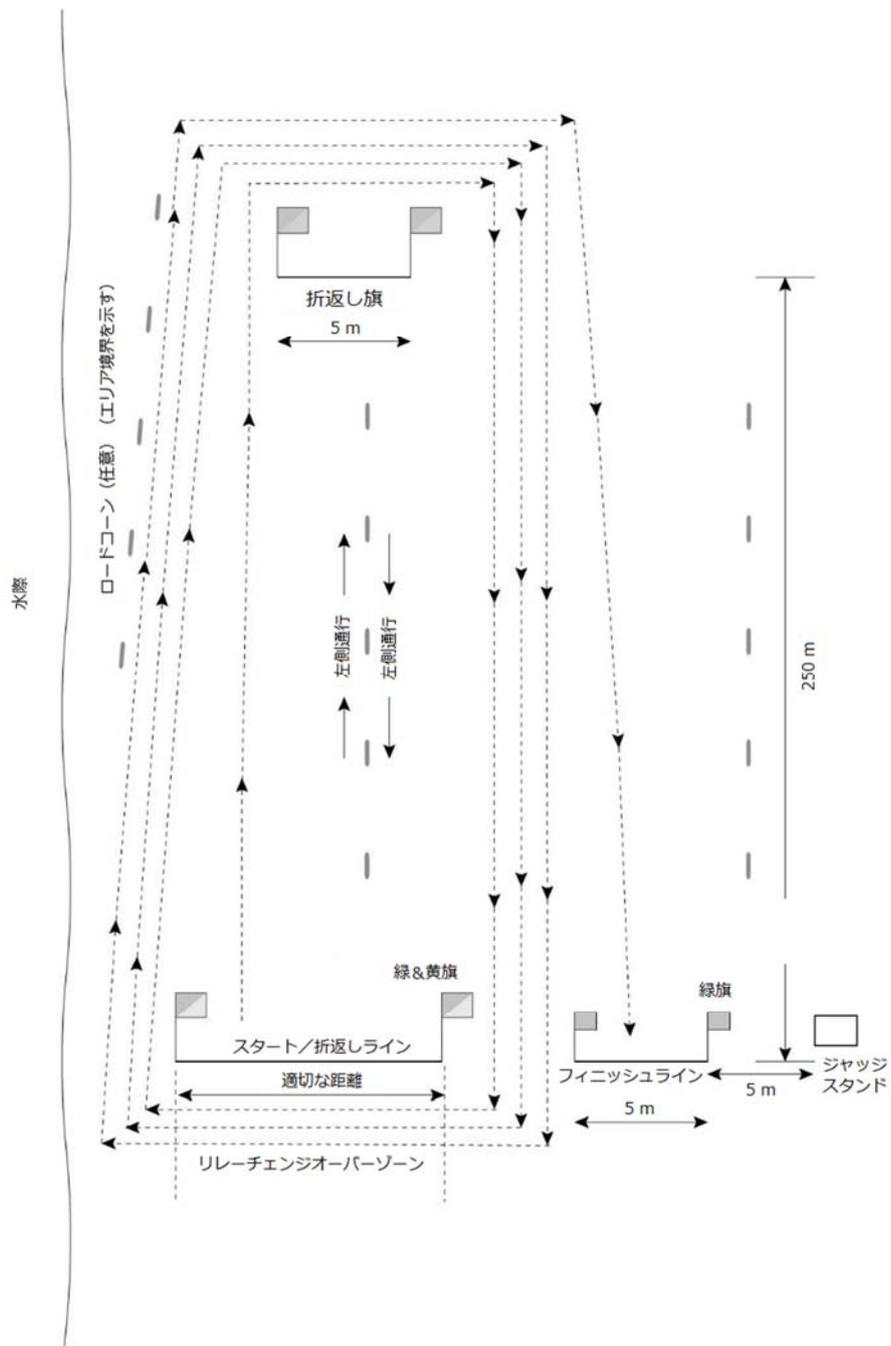
競技者が他の競技者に干渉せずコースを走っていることを確認するコースジャッジを任命してもよい。

競技者が不必要に押したり干渉していないか確認するため、折返しポールの位置にジャッジを1人配置すること。

フィニッシュジャッジは、順位を決める。

#### 4.12.6. 失格

「2. 共通競技総則」及び4.1から4.3の概要に加えて、以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。



ビーチラン及び3×1 kmビーチランリレー

距離	コース
1 km ラン	500 m 区間を2周
2 km ラン	500 m 区間を4周
3×1 km ラン	3×1 km (各々250 m 区間×4)

## 4.13. 3×1 km ビーチランリレー (3×1 km Beach Run Relay)

### 4.13.1. 競技の説明 — 3×1 km

3人の競技者がビーチにおいてそれぞれ1 km ずつレースする。コースは、総距離を変更しない範囲で、会場の特性に合わせて設定されるものとする。デフォルトの周回距離は500 m だが、ビーチの広さに余裕があればチーフレフリーは周回距離を1 km としてもよい。

競技者は、スタートの合図により、レーンを左側通行でレースし折返しポールを（時計回りに又は右手に見ながら）回り、折返し旗に戻って、コースの周回を繰り返す。（チェンジオーバーゾーンに）入ってくる競技者は第1折返し旗を（時計回り又は右手に見ながら）回り、次の競技者にタッチする。次の競技者は、第1及び第2折返し旗の間のチェンジオーバーゾーンの担当オフィシャルの指示に従いチェンジオーバーゾーンのほぼ中央にあるラインで待機している。タッチは、第1折返し旗から次の競技者が第2折返し旗を回るまでにしなければならない。

第2競技者は、上述と同じコースを回る。

第3競技者は、上述と同じコースを回ってフィニッシュラインを通過する。

他の競技者又はチームを故意に押しったり妨害して彼らの進行を妨げてはいけない。

複数のジャッジが、フィニッシュラインで競技者の着順を判定するだけでなく、競技の実施を観察するために配置される。

フィニッシュは、フィニッシュラインを越える競技者の胸で判定される。競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

### 4.13.2. コース

コース（p. 128 の図を参照せよ）として、ビーチ上（実用的には柔らかい砂上）に、水際に平行に2レーンをレイアウトする。

**スタートライン**は、砂上に引いたライン又は、緑と黄の旗を取り付けた2本のポール間に張った視認性の高い色の合成（繊維）コードとする。フィニッシュラインは、スタート／折返しラインより陸側に約5 m 離して立てた2本の緑旗とする。チーフレフリーがスタート／折返しラインの長さを決定する。

**走行レーン**：コースは、水際に平行な2つのレーンに分けられる。海に近い側のレーンは、スタート／フィニッシュラインから走る区間である（全てのチームメンバーにとっての最初の区間）。2つのレーンは色テープ、連続旗、その他の適切な材料により分けられる。#

**注意**：コースを逆方向に走らせる場合、スタートから離れる区間は陸側で、戻り区間は海側となる。

緑&黄旗を付けた2本のポールを、スタートから約250 m のレーン分離線の終端に5 m 間隔を空けて設置し、折返し場所とする

### 4.13.3. 器材及び服装

「第8章 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは、競技者の裁量で着用してよい。履物は任意である。

### 4.13.4. 判定

チーフレフリー／セクショナルレフリーは、コースの片側に位置して、全体を監督できるようにする。

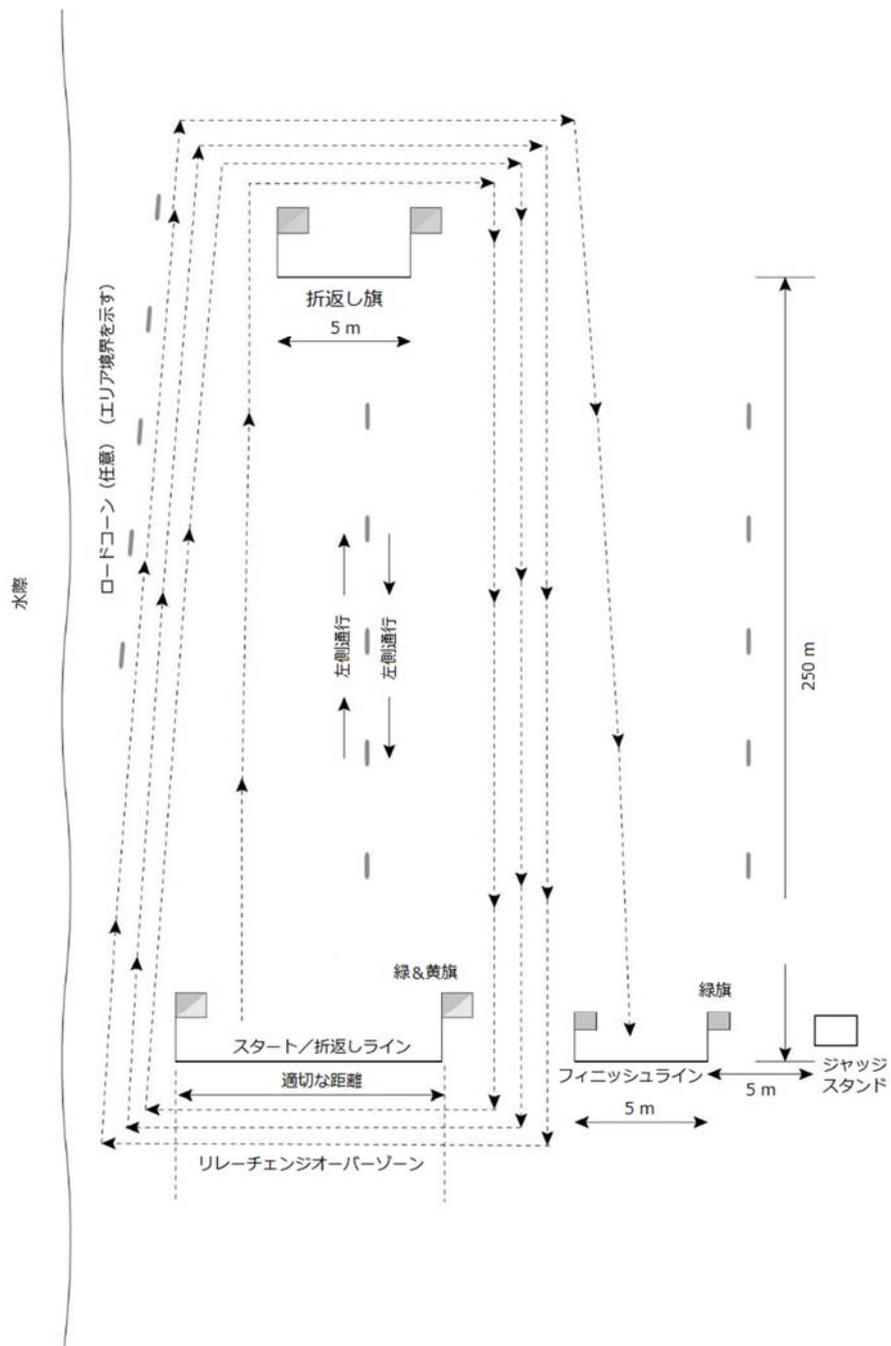
競技者が他の競技者に干渉せず競技していることを確認するコースジャッジを任命してもよい。

競技者が不必要に押したり干渉していないか確認するため、折返しポールの位置にジャッジを1人配置すること。

フィニッシュジャッジは、順位を決める。

#### 4.13.5. 失格

「2. 共通競技総則」及び4.1から4.3の概要に加えて、以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。



ビーチラン及び3×1 kmビーチランリレー

距離	コース
1 km ラン	500 m 区間を2周
2 km ラン	500 m 区間を4周
3×1 km ラン	3×1 km (各々250 m 区間×4)

## 4.14. ビーチリレー (Beach Relay)

### 4.14.1. 競技の説明

4人（マスタースでは3人）から成るチームが、90 m（マスタースでは70 m）コースをバトンリレー方式で競技する。スタートにあたり、競技者2人ずつ（マスタースでは1人と2人）がコース両端に分かれ指定されたレーンで位置につく。

スタート後、各競技者は、どちらか一方の手でバトンを持ってコースの1区間を完了し、第1、第2、第3区間終了時に、バトンを次の競技者に渡す。全ての競技者は、この競技の各自の区間を足で立ち体を起こした状態でフィニッシュするものとする。

競技者は、他の競技者の進路を妨害してはならない。

### 4.14.2. スタート

スタートは、ビーチスプリントと同じで、第1競技者が位置につく。

### 4.14.3. バトンの引継ぎ

バトンは、以下の方法で引き継がれる：

- (a) バトンを渡すためにやって来る競技者は、バトンを境界線まで運ばねばならない（バトンを次の競技者に投げてはならない）、
- (b) 第1、第2、第3の引継ぎでバトンを受け取る競技者は、受け取る間動いてもよいが、バトンを所持する前に競技者の身体又は手のいずれかの部分でも境界線を越えた場合、失格となる、
- (c) バトンの引継ぎの際にバトンを落とした時は、受け取る側の競技者が（他の競技者の妨害をせずに）バトンを拾い、そのままレースを続けてよい、
- (d) 引継ぎ以外でバトンを落とした場合は、競技者は（他の競技者の妨害をせずに）バトンを拾い、そのままレースを続けてよい。

### 4.14.4. コース

コースは、以下の図に示すとおりビーチスプリントと同じである。

### 4.14.5. 器材及び服装

**バトン及び服装：**「第8章 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは、競技者の裁量で着用してよい。

競技者は、判定を補助するため色のついたビブスの着用を求められることがある。

### 4.14.6. 判定／チェンジオーバー

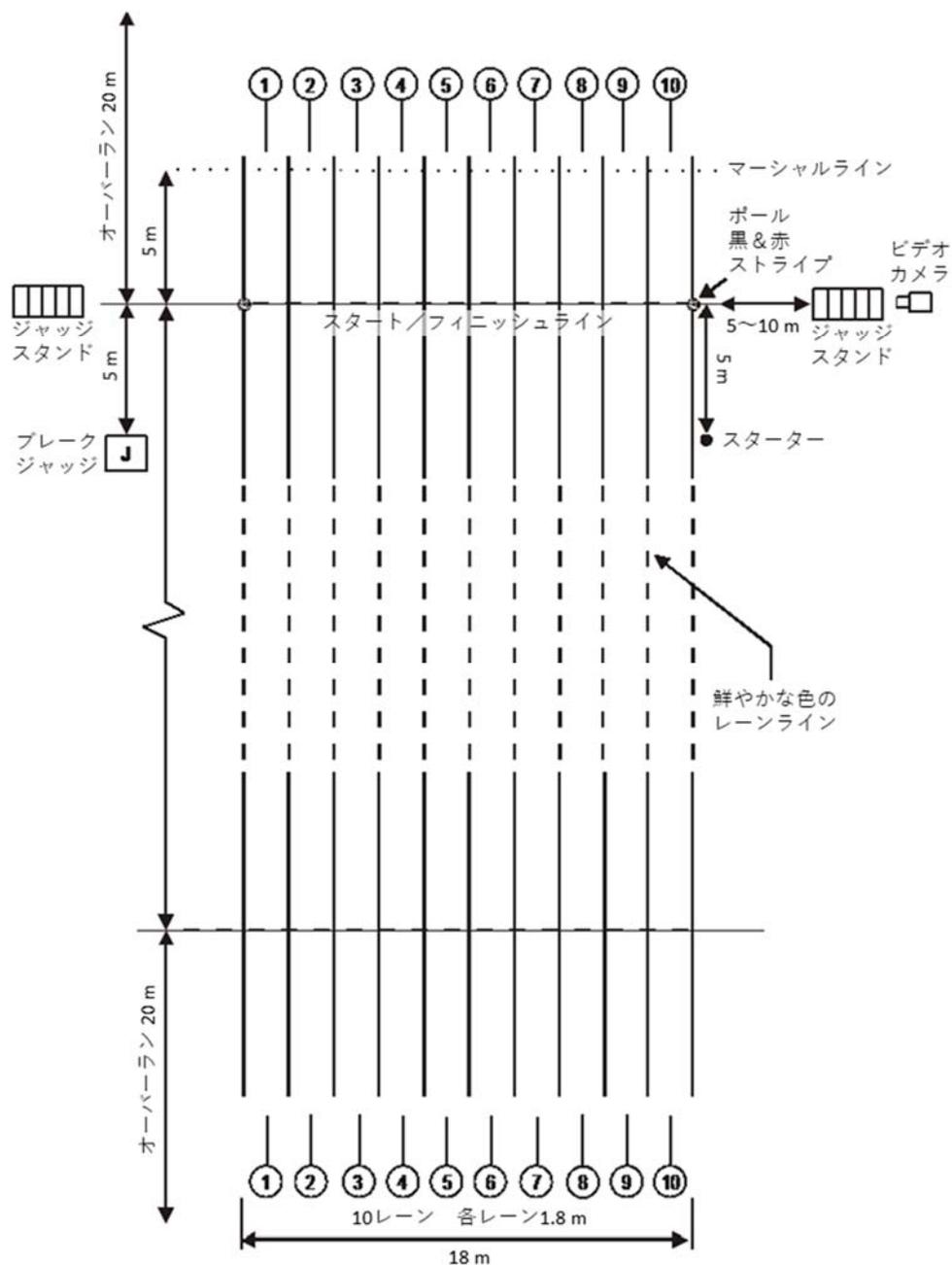
判定について、スタート及びフィニッシュに関してチーフレフリー、コースジャッジ及びフィニッシュジャッジは、ビーチスプリントと同様の責務が一般的に想定される。

コースジャッジが任命され、チェンジオーバー時に、両端のチェンジオーバーラインでの違反をチェックする。

チェンジオーバーの場合、コースジャッジが認めたいずれの違反も、チーフレフリー／セクショナルレフリーに報告すること。

#### 4.14.7. 失格

「2. 共通競技総則」及び4.1 から4.3の概要に加えて、以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合 (DQ12)。



#### ビーチリレー

年齢グループ	距離
オープン	90 m
マスターズ	70 m

## 4.15. サーフスキーレース (Surf Ski Race)

### 4.15.1. 競技の説明

シングルサーフスキーは、主としてパドルを持つ1人の競技者により推進されるクラフトである。詳細については、ILSの施設及び器材の規格セクションを参照のこと。

競技者は、およそ膝の深さで約1.5mの間隔をとって列になり自身のサーフスキーを安定させる。競技者はスタートでのサーフスキーの並べ方についてスターター又はチェックスターターの指示に従わなければならない。

競技者は、スターターの合図で各自のサーフスキーをパドルで漕いで、ブイで標(しる)されたコースを回り、戻ってフィニッシュする。競技者が乗船している、掴んでいる又は運んでいるに拘らず、サーフスキーのいずれかの部分が水中フィニッシュラインを通過することでフィニッシュとなる。

競技者は、サーフスキーから離れたり操作できなくなっても、必ずしも失格とはならない。レースを完了するには、競技者は、サーフスキー及びパドルを確保し(又は再度それらを確保し)、サーフスキー及びパドルに接したまま水中フィニッシュラインを海側から通過せねばならない。

競技者は、他の競技者のサーフスキーを掴んだり、その他の妨害をしてはならず、また故意に進路を妨害してはならない。

**ドライスタート及びドライフィニッシュ**：スターターが公平にスタートさせられない場合、ドライスタート及び/又はドライフィニッシュにより行われる。後述を参照のこと。

### 4.15.2. コース

コースのレイアウトの詳細は、以下の図のとおり。

スタートとフィニッシュを公平にするため、海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で、ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

**ブイ**：50リットルのドラムと同じサイズの3つのブイを使用する<sup>29</sup>：2個の「ターニングブイ」を約75mの間を隔て、干潮時の膝の深さ位置からのパドリング距離300m以上沖合に配置する(マスターズは250m以上) — 第3の「頂点」ブイは、2個のターニングブイの間及びそれらから更に約16m沖合に配置し、3個のブイで弧を描くようにする。

**スタートライン**を明確に設置する必要は無いが、必要であれば2本のポールで標(しる)し、第1ターニングブイがスタートラインの中央に位置するようにする。

**フィニッシュライン**は、旗を取り付けて、クラフトが浮いた状態でフィニッシュする位置に置いた2つのスタンド又はポール又はその他適切なマーカーの間とする。フィニッシュラインの中央に第3ターニングブイが(海の状況を考慮しながら)位置するようにする。

### 4.15.3. ドライスタート及びドライフィニッシュ (Dry Start and Dry Finish)

ドライスタートでは、競技者は、2本のスタートポール(間隔：35m、位置：水際から約5m、長さ：2m)の間の抽選した位置に、各自のスキー及びパドルと共に並ぶ。

---

<sup>29</sup> 【JLA注釈】 JLA主催競技会では、50リットルのドラムと異なるサイズのブイを用いる場合がある。

スターターの合図で、競技者は自身の判断で自身のクラフトを水まで運び、図に示すサーフスキーコースをパドルする。

ドライフィニッシュラインは、水際から約 15 m の浜に設定する。ラインの長さは約 20 m で、両端は 4 m 長のポールに取り付けた旗で標（しる）す。フィニッシュ旗は、コースブイと同じ色であること。

- (a) 競技者は、サーフスキーをパドルして最終ブイを回らねばならないが、最終ブイを回った後の帰路であれば、クラフト又はパドルから離れたり操作できなくなっても失格にはならない。
- (b) 競技者は、クラフト又はパドルと共にフィニッシュする必要はない。
- (c) フィニッシュは、フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。
- (d) 競技者のチームのメンバーは、クラフト及びパドルのコースからの回収をアシストする。チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。ただし、他の競技者の進路を妨害してはならない。
- (e) ハンドラーは：
  - ・ 競技用キャップを着用すること、
  - ・ 膝の深さより深い海に入る場合、主催者から指定された視認性の高いベストを着用すること、
  - ・ ハンドラー自身及びハンドラーが扱う器材が、他の競技者を妨害しないようあらゆる努力を尽くすこと（さもなくば失格になる場合がある）、
  - ・ オフィシャルの全ての指示に従うこと。

#### 4.15.4. 器材

サーフスキー：「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

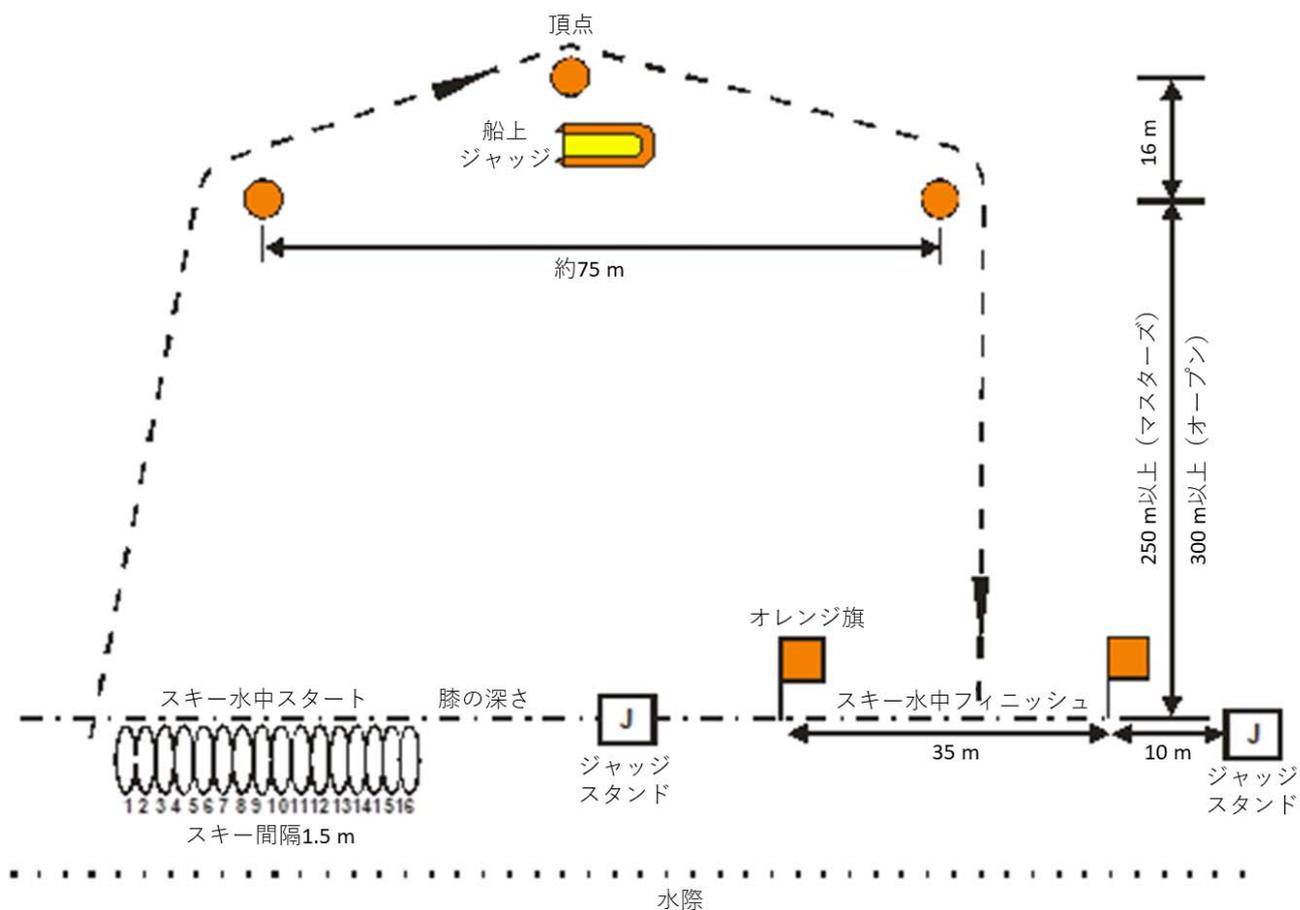
競技者のためにサーフスキー又はパドルを交換することは認められており、他の競技者を妨害せず交換し、そして競技者が元のスタートエリアからレースを再スタートするのであれば、クラブの他のメンバーが水際に運んでもよい。

#### 4.15.5. 判定

複数のジャッジが、競技の実施を観察し、フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

#### 4.15.6. 失格

「2. 共通競技総則」及び 4.1 から 4.3 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。



距離はおよその数値である

### サーフスキーレース

**注意:** ブイの位置に対するビーチの設定は、海の状況に応じて調整可能である。

## 4.16. サーフスキーリレー (Surf Ski Relay)

### 4.16.1. 競技の説明

サーフスキーリレーはサーフスキーレースの一般規則の下で実施される。各チームはそれぞれ3人の競技者で構成され、同一クラフトを共用してよい。競技者はスタート時のサーフスキーの並べ方について、スターターまたはチェックスターターの指示に従わなければならない。

**第1競技者**：リレー第1区間の競技者は、サーフスキーレースと同様にスタートし、パドルしてブイを回る。ここまでのコースを終えたら、第1競技者は、自身のクラフト（及びパドル）から離れてもよく、2本の折返し旗を回って、指定されたチェンジオーバーラインにいる第2競技者にタッチする。

**第2競技者**：第2競技者は同じコースをとり、2本の折返し旗を回り、指定されたサーフスキーチェンジオーバーラインにいる第3競技者にタッチする。

**第3競技者**：第3競技者は同じコースをとり、折返し旗1本を回り、もう1本の旗の陸側を通過し、2本のフィニッシュ旗の間を越えてフィニッシュする。

サーフスキーリレー競技の競技者は、自身の区間を割り当てられた位置から正しくスタートせねばならない。

各チームの第1及び第3競技者は、抽選したチームの位置からスタートする。但し、各チームの第2競技者については、抽選したスタート位置の左右を入れ替える。例えば、16チームが参加するレースで、抽選により位置1と指定された場合、第1競技者は位置1からスタート、第2競技者は位置16からスタート、第3競技者は位置1からスタートとなる。

第1及び第3競技者のスタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	… 16
第2競技者のスタート位置	16	15	14	13	12	11	10	9	… 1

競技者は、他の競技者のサーフスキーを掴んだり、その他の妨害をしてはならず、また故意に進路を妨害してはならない。

### 4.16.2. コース

コースのレイアウトの詳細は、以下の図のとおり。

スタートとフィニッシュを公平にするため、海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で、ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

### 4.16.3. 器材及び服装

**サーフスキー、パドル**：「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

- (a) チームのメンバー又はチーフレフリーの承認を得た他チームのメンバーは、チームメンバーが使用したクラフトが、レースしている他チーム又は競技者を妨害しないようにせねばならない。混雑及び器材破損を避けるため、器材を可能な限り早く水際から回収すること。
- (b) 同一団体から複数のチームが出場する場合、各チームは識別できる数字又は文字を腕、脚、又はキャップに入れること。

### 4.16.4. 判定

複数のジャッジが、競技の実施を観察し、フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

競技者は、体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。フィニッシュは、フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。

#### 4.16.5. クラフトのコントロール

競技者は、再度サーフスキー（及びパドル）を確保してクラフトに接触したまま最終ブイを回りコースを完了するのであれば、沖に出る際にサーフスキー又はパドルから離れたり操作できなくなっても、よい。

競技者は、自分のサーフスキーをパドルして最終ブイを回らねばならないが、最終ブイ後の帰路では、自分のクラフト（又はパドル）から離れたり操作できなくなっても、失格にはならない。

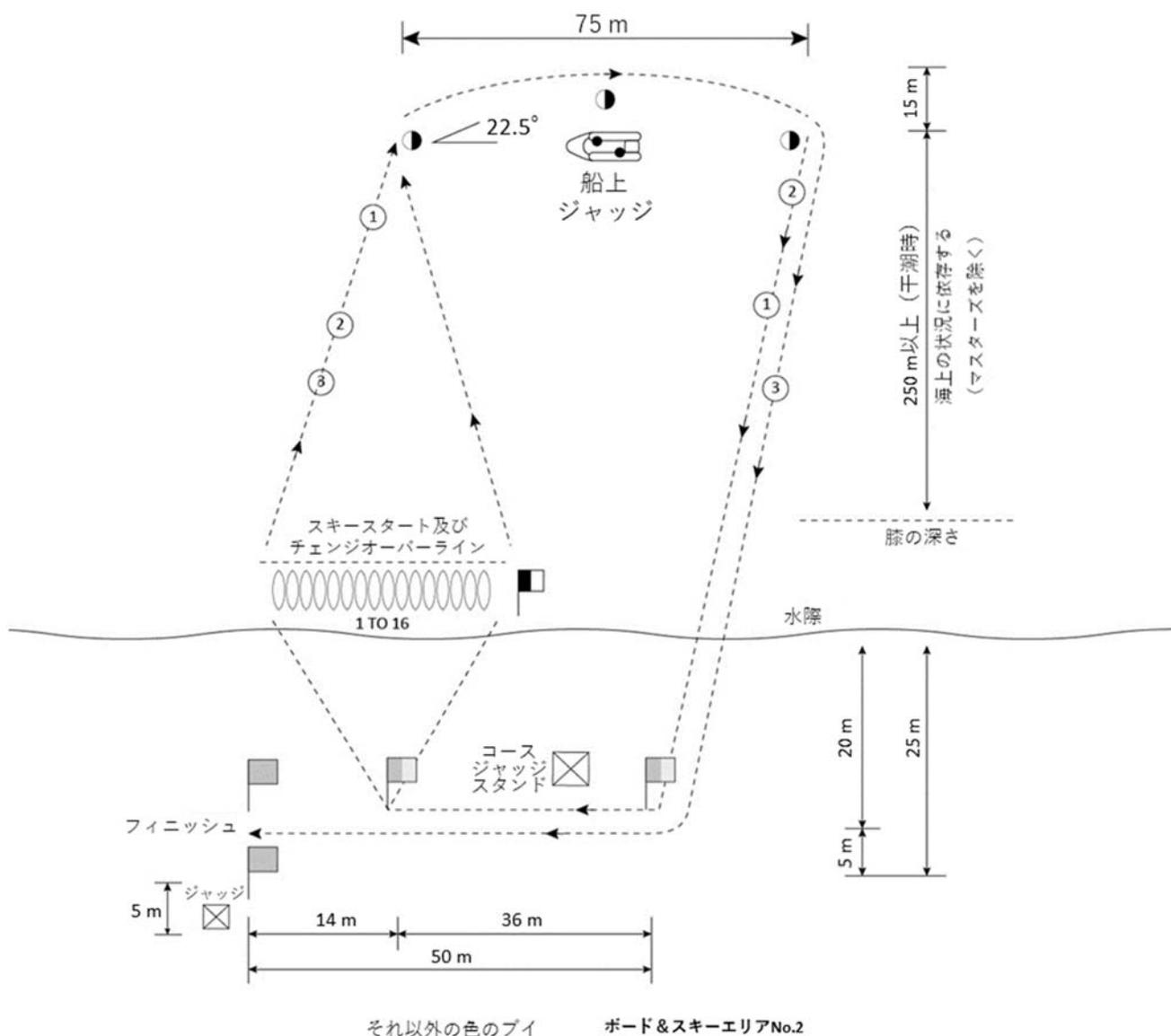
#### 4.16.6. マスターズスキーリレーのコース及び手順のバリエーション

- (a) マスターズのスキーリレーのスキーコースは、オーシャンマン／オーシャンウーマンリレーのスキー区間のおりとする。
- (b) 第1競技者は、標準のリレー競技と同様に競技をスタートし、オーシャンマン／オーシャンウーマンリレーのスキー区間の通りに全てのブイをパドルして回る。第1競技者が最終ターニングブイを回り終わったら、競技者の判断で（パドルを含む）スキーを残し（乗り捨て）てもよく、（波の条件に依存して、且つ、走る距離が最小になるよう）海岸線上又は膝の深さに置かれた緑&黄旗1本を回り、その1本旗の海側に置かれたチェンジオーバーラインにおいて第2競技者に見て分かるようにタッチする。
- (c) 第2競技者は、そのまま進んで競技に適したブイを回る。第2競技者が最終ターニングブイを回り終わったら、競技者の判断で（パドルを含む）スキーを残し（乗り捨て）てもよく、（波の条件に依存して、且つ、走る距離が最小になるよう）海岸線上又は膝の深さに置かれた緑&黄旗1本を回り、その1本旗の海側に置かれたチェンジオーバーラインにおいて第3競技者に見て分かるようにタッチする。
- (d) 第3競技者は、そのまま進んで競技に適したブイを回る。第3競技者が最終ターニングブイを回り終わったら、競技者の判断で（パドルを含む）スキーを残し（乗り捨て）てもよく、それから、ビーチの標準的な緑&黄折返し旗を回り、もう1本の緑&黄旗の陸側を通過し、2本の緑旗の間をフィニッシュして、標準的なスキーリレーコースを完了する。

**注意：**これ以外の条件は、標準的コースのまま変更はない。

#### 4.16.7. 失格

「2. 共通競技総則」及び 4.1 から 4.3 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。



**凡例**

■ 緑旗	スキーエリアNo.1	BOARD & SKI AREA No.2	■ マスターズターン旗
■ 緑&黄旗	● オレンジブイ	IFFERENT COLOURED BUOYS	

### サーフスキーリレー

**注意1:** マスターズのサーフスキーリレーの有効なコースブイ，手順，距離を参照せよ

**注意2:** ブイの位置に対するビーチの設定は，海の状況に応じて調整可能である。

## 4.17. ボードレース (Board Race)

### 4.17.1. 競技の説明

サーフボードは主に競技者の手と腕により推進するクラフトである。詳細は「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

競技者は、ボードを保持し 1.5 m の間隔を空けて、ビーチのスタートラインの上又は後ろに立つ。

競技者は、スターターの合図で水に入り、ボードを漕いで、ブイで標 (しる) されたコースをパドルし、浜に戻りフィニッシュラインを走って通過する。

競技者は、他の競技者のボードを掴んだり、その他の妨害をしてはならず、また故意に進路を妨害してはならない。

### 4.17.2. コース

コースのレイアウトは、以下のボードレースの図で詳細を示す。

スタートとフィニッシュを公平にするため、海況を鑑みてチーフレフリーの裁量で、ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

**ブイ**: 同じ色で、50 リットルのドラムと同じサイズの 3 つのブイを使用する<sup>30</sup>: 2 個の「ターニングブイ」を約 75 m の間を隔て、干潮時の膝の深さ位置から 250 m 以上沖合に配置する (マスターズも同様) — もう 1 個の「頂点」ブイは、2 個のターニングブイの間及びそれらから更に約 16 m 沖合に配置し、3 個のブイで弧を描くようにする。

**スタートライン**は鮮やかな色の紐により、水際から約 5 m の浜に設定する。長さは 30 m で、両端にポールを立てる。スタートラインの中央に第 1 ターニングブイが並ぶようにするが、全ての競技者が第 1 ブイを公平に通過できるよう、状況に応じてチーフレフリーの裁量で変更することができる。

**フィニッシュライン**は水際から約 15 m の浜に設定する。長さは 20 m で、両端に旗を付けた 4 m ポールを立てる。旗はコースブイと同じ色とする。

フィニッシュラインの中央に 3 番目のターニングブイが並ぶようにするが、海況に応じてチーフレフリーの裁量で、ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

### 4.17.3. 器材

**ボード**: 「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。ボードの交換は、競技者がスタートラインから再スタートすれば認められる。ボードの交換は、他の競技者を妨害しないのであれば、競技者のチームメンバーが代替ボードをスタートラインまで運んでもよい。

### 4.17.4. 判定

フィニッシュは、フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者はボードをコントロールした状態で、足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

### 4.17.5. クラフトのコントロール

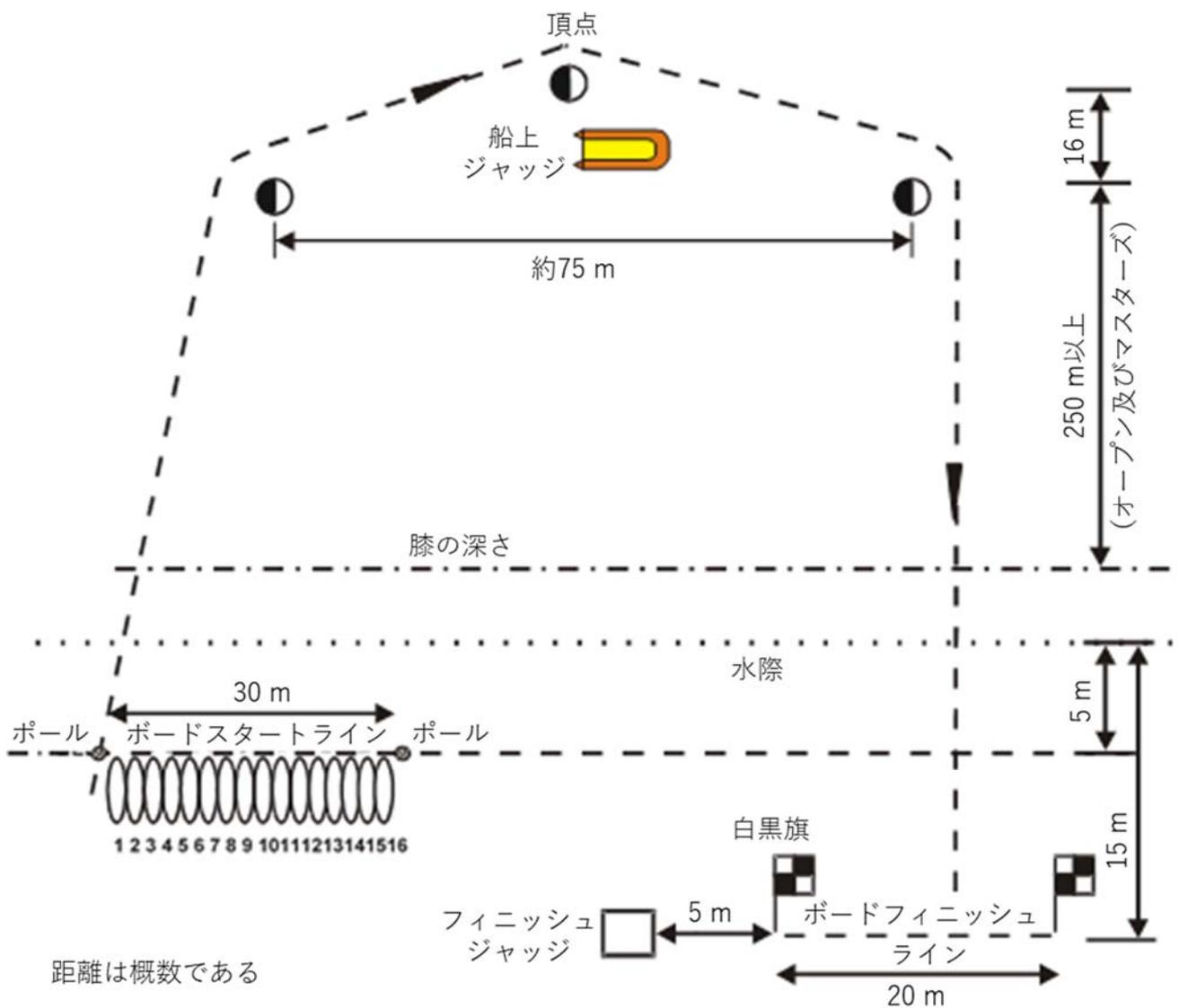
---

<sup>30</sup> 【JLA注釈】 JLA主催競技会では、50リットルのドラムと異なるサイズのブイを用いる場合がある。

競技者は、ボードから離れたり操作できなくなっても失格になることはない。レースを完了するには、競技者は自身のボードを保持して（又は再度確保して）ボードと共にフィニッシュラインを海側から通過せねばならない。

#### 4.17.6. 失格

「2. 共通競技総則」及び 4.1 から 4.3 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。



#### ボードレース

**注意:** ブイの位置に対するビーチの設定は、海の状況に応じて調整可能である。

## 4.18. ボードリレー (Board Relay)

### 4.18.1. 競技の説明

ボードリレー競技は、ボードレース競技の一般ルールのもと実施される。チームは3人で構成され、その3人は同じボードを使用してもよい。

**第1競技者**：第1競技者はボードレースと同様の手順でスタートし、ブイで指定されたコースを回る。次にボードから離れ（離れる場所はブイを回った後ならどこでもよい）2本の折返し旗を回って、チェンジオーバーラインで待機している第2競技者にタッチする。

**第2競技者**：第2競技者は、同じコースをとり、2本の折返し旗を回ってチェンジオーバーラインで待機している第3競技者にタッチする。

**第3競技者**：第3競技者は、同じコースをとり、第1折返し旗を回り、第2折返し旗の陸側を通過し、2本のフィニッシュ旗の間を通過してフィニッシュする。

ボードリレー競技において、第2、第3競技者は、足をチェンジオーバーラインの上又は陸側に置いて待機する。第2、第3競技者は、タッチされた後、入水するのにスタートラインを越えなくてもよい。

ボードリレー競技の競技者は、指定された正しい位置から各自の区間を開始せねばならない。

各チームの第1及び第3競技者は、抽選によって決定した位置からスタートする。それに対して、各チームの第2競技者は、スタート位置が抽選したものとは逆並びとなる。例えば、16チームが参加するレースで、抽選により位置1と指定されたチームは、第1競技者は位置1からスタート、第2競技者は位置16からスタート、第3競技者は位置1からスタートする。

第1及び第3競技者のスタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	... 16
第2競技者のスタート位置	16	15	14	13	12	11	10	9	... 1

競技者は、他の競技者のボードを掴んだり、その他の妨害をしてはならず、また故意に進路を妨害してはならない。

### 4.18.2. コース

コースレイアウトは、ボードリレーレース<sup>31</sup>で詳細を示した通り及び以下の図に示す通りとする。

スタートとフィニッシュを公平にするため、海況に応じてチーフレフリーの裁量で、ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

### 4.18.3. 器材

**ボード**：「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

- (a) ボードの交換は、競技者がスタートラインから再スタートするのであれば認められる。ボードの交換は、他の競技者を妨害しないのであれば、競技者のチームメンバーが代替ボードをスタートラインまで運んでもよい。

---

<sup>31</sup> 【JLA注釈】原文は「the Board Relay Race」だが、ここは「ボードレース」の誤植だと思われる。

- (b) チームのメンバー又はチーフレフリーの承諾を得た他チームのメンバーは、チームメンバーが使用したクラフトが、レースしている他チーム又は競技者を妨害しないようにせねばならない。混雑及び器材破損を避けるため、ボードを可能な限り早く水際から回収すること。
- (c) 同一団体から複数のチームが出場する場合、各チームは識別ができる数字又は文字を腕、脚、又はキャップに入れること。

#### 4.18.4. 判定

フィニッシュは、フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

#### 4.18.5. クラフトのコントロール

競技者は、再度ボードを確保してボードに接触したまま最終ブイを回りコースを完了するのであれば、沖に出る際にボードから離れたり操作できなくなってもよい。

競技者は、自分のボードをパドルして最終ブイを回らねばならないが、最終ブイ後の帰路では、ボードから離れたり操作できなくなっても、失格にはならない。

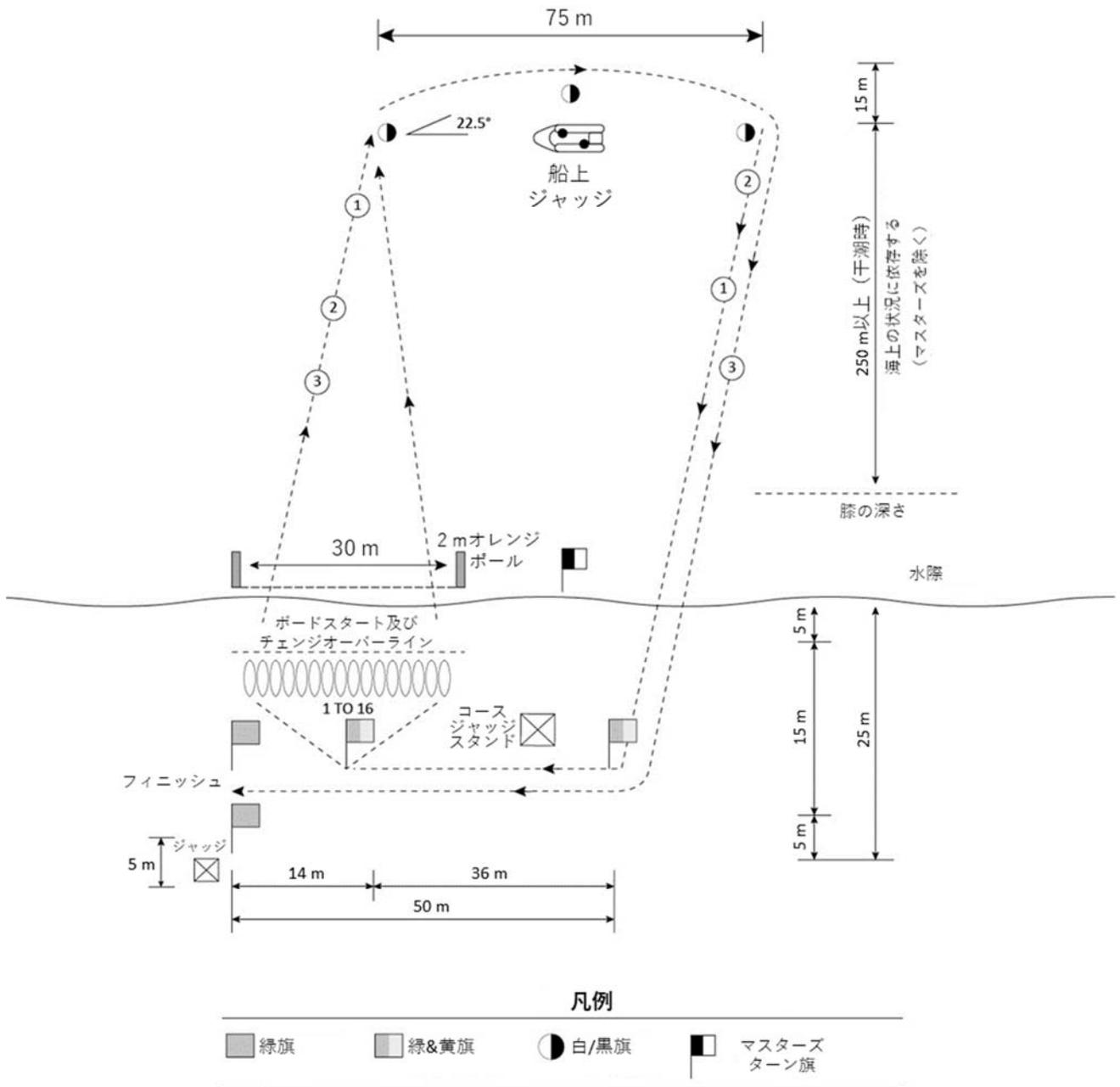
#### 4.18.6. マスターズボードリレーのコース及び手順のバリエーション

- (a) マスターズのボードリレーのボードコースブイは、オーシャンマン／オーシャンウーマンリレーのボード区間のおりとする。
- (b) 第1競技者は、標準のリレー競技と同様に競技をスタートし、オーシャンマン／オーシャンウーマンリレーのボード区間の通りに全てのブイをパドルして回る。第1競技者が最終ターニングブイを回り終わったら、競技者の判断でボードを残し（乗り捨て）てもよく、（波の条件に依存して、且つ、走る距離が最小になるよう）海岸線上又は膝の深さに置かれた緑&黄旗1本を回り、その1本旗の海側に置かれたチェンジオーバーラインにおいて第2競技者に見て分かるようにタッチする。
- (c) 第2競技者は、そのまま進んで競技に適したブイを回る。第2競技者が最終ターニングブイを回り終わったら、競技者の判断でボードを残し（乗り捨て）てもよく、（波の条件に依存して、且つ、走る距離が最小になるよう）海岸線上又は膝の深さに置かれた緑&黄旗1本を回り、その1本旗の海側に置かれたチェンジオーバーラインにおいて第3競技者に見て分かるようにタッチする。
- (d) 第3競技者は、そのまま進んで競技に適したブイを回る。第3競技者が最終ターニングブイを回り終わったら、競技者の判断でボードを残し（乗り捨て）てもよく、それから、ビーチの標準的な緑&黄折返し旗を回り、もう1本の緑&黄旗の陸側を通過し、2本の緑旗の間をフィニッシュして、標準的なボードリレーコースを完了する。

**注意：**これ以外の条件は、標準的コースのまま変更はない。

#### 4.18.7. 失格

「2. 共通競技総則」及び4.1から4.3の概要に加えて、以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。



### ボードリレー

**注意1:** マスターズのボードリレーの有効なコースブイ、手順、距離を参照せよ

**注意2:** ブイの位置に対するビーチの設定は、海の状況に応じて調整可能である。

## 4.19. ボードレスキュー (Board Rescue)

### 4.19.1. 競技の説明

この競技では、チームの第1競技者が約120 m沖にある指定されたブイまで泳ぎ、サインを出し、チームの第2競技者がボードでピックアップしに来るのを待つ。両者ともに波打際までパドルをして、ボードを保持した状態で砂浜にあるフィニッシュラインを通過する。

- (a) 両競技者はスタート／フィニッシュラインの指定された位置からスタートする。正しくないブイに泳ぎ着きサインを出した競技者は失格となる。
- (b) **第1競技者**：溺者役は、スターターの合図でビーチのスタートラインの指定された位置から水に入り、指定されたブイまで泳ぎ着きタッチし、ブイに触れた状態で、もう一方の手を垂直に挙げ到着の合図をする。その後、ブイより沖側の水中で待機する。

#### 注意：

- 1. ここでブイとはブイ本体のことであり、ブイにつながれているロープ及び／又はストラップは含まれない。競技者はブイ到着の合図をする前に、水面より上で視覚的に分かるようブイにタッチしなければならない。
- 2. 競技者は、ブイとブイロープに触れてもよいが、指定されたブイに達するためブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。
- (c) 第1競技者がブイに触れたことを明確に伝える合図が別にある場合、チーフレフリーの判断により、そちらの方法を採用してもよい。
- (d) **第2競技者**：ボードレスキューアは、溺者役が到着の合図をしたら、指定された位置からスタートラインを越えて入水し、指定されたブイの沖側の溺者役までパドルする。溺者役はブイの沖側でボードに触れなければならない。ボードは、溺者役と共に海岸に戻る前に、ブイを時計方向に（右手が内側になるように）回らなければならない。ボードは、溺者役をピックアップしている間、ブイの浜側に入り込んでもよい。
- (e) 溺者役は、ボードの前方又は後方に乗る。救助者は、浜に戻るのにボードをパドルして協力してもよい。
- (f) フィニッシュは、フィニッシュラインを、体を起こした状態で自身の足で越えた各チームの先頭競技者の胸の位置で判定され、両競技者はボードを保持していなければならない。

**注意**：正しく競技を完了するため、両競技者はフィニッシュラインを自身の足で越えなければならない。

- (g) ボードレスキューアは、溺者役が到着の合図をする前にスタートをしてはならない。ボードレスキューアは、あらためて正しい位置からスタートするのであれば、溺者役の到着の合図を待つ間、理由の如何にかかわらずスタート／フィニッシュラインを越えてもよく、失格とはならない。
- (h) 競技者は、他の競技者のボードを掴んだり、その他の妨害をしてはならない。また故意に進路を妨害してはならない。

### 4.19.2. コース

コースレイアウトの詳細を下記の図に示す。

ボードは、チーフレフリーから競技の前に指示がない限り、指定されたブイを時計方向（右手が内側になるよう）にパドルして回らねばならない。

#### 4.19.3. 器材

**ボード**：「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

#### 4.19.4. 判定

複数のジャッジが、競技の実施を観察し、フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

#### 4.19.5. 溺者役又はボードの制御

レスキューー及び溺者役は、復路でボードから離れても失格にはならないが、フィニッシュラインを通過するときには両方でボードを保持していなければならない。

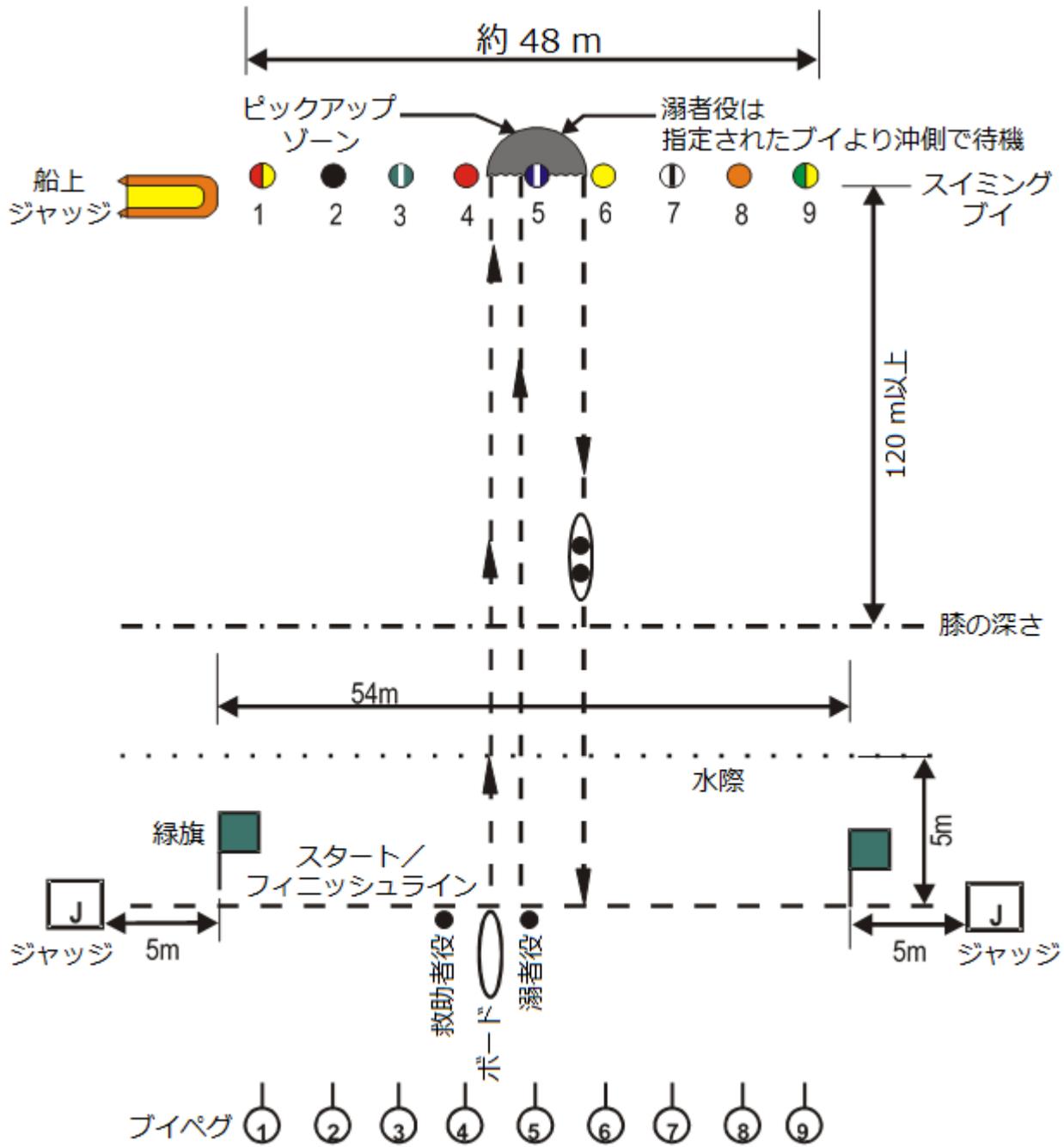
#### 4.19.6. 溺者役のパックアップ

ボードの全部が指定されたブイの沖側でなくてもよいが、溺者役は指定されたブイの沖側でボードに触れなければならない。

#### 4.19.7. 失格

「2. 共通競技総則」及び 4.1 から 4.3 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

(a) 規定された通りにコースを完了できなかった場合 (DQ12)。



距離は概数である

### ボードレスキュー

**注意:** ブイの配置に対するビーチの旗等のセットアップは、海の状況に応じて調整され得る。

## 4.20. オーシャンマン／オーシャンウーマン (Oceanman/Oceanwoman)

### 4.20.1. 競技の説明

競技者は、スイム区間、ボード区間、サーフスキー区間、及びビーチスプリントによるフィニッシュからなる合計約 1.4 km のコースを全て回る。

この節で述べられている相違を除き、各区間ではそれぞれ個別の一般的な競技種目規則が適用される。

各区間の順序は、事前に抽選によって決定される。オーシャンマン／オーシャンウーマンリレーの区間順序も同じ抽選結果を用いる。

サーフスキー区間が最初の場合、通常の水중スタートで行う。

**スタートの位置:** 競技者は、ビーチの指定された正しい位置からクラフト区間を開始せねばならない。ボード及びスキー区間のスタート位置は入れ替わる。例えば、16 人の競技者が参加するレースで、抽選により位置 1 と指定された場合、最初のクラフト区間は位置 1 からスタート、次のクラフト区間は位置 16 からスタートとなる。

1番目のクラフト区間のスタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	... 16
2番目のクラフト区間のスタート位置	16	15	14	13	12	11	10	9	... 1

**ハンドラー:** 競技者が属するチームメンバーが、当該競技者を補助する。チーフレフリーが認めた場合、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。

ハンドラーは:

- (a) 競技用キャップを着用すること、
- (b) 膝の深さより深い海に入る場合、主催者から指定された視認性の高いベストを着用すること、
- (c) 配置図又はオフィシャルの指示する位置にサーフスキーを浮かせて保持する、
- (d) ハンドラー自身及びハンドラーが扱う器材が、他の競技者を妨害しないようあらゆる努力を尽くすこと（さもなくば競技者が失格になる場合がある）、
- (e) オフィシャルの全ての指示に従うこと。

### 4.20.2. コース

スイム、ボード、サーフスキー区間のブイの配置は図のとおりである。

スタートとフィニッシュを公平にするため、海況を観ながらチーフレフリーの裁量で、ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

**ブイまでの距離:** スイムブイは干潮時における膝の深さの地点から 120 m 以上沖合に配置する。ボード区間のブイ及びサーフスキー区間のブイは、スイムブイからそれぞれ約 50 m 及び約 100 m 沖合に置く。ボード区間のブイは約 17 m 間隔を空け、サーフスキーブイは約 50 m 間隔を空け、更に沖へ 10 m のサーフスキー「頂」ブイを置く。

**旗のレイアウト:** 浜の折返し点として、水際から約 20 m に旗 2 本を立てる。第 2 折返し旗は第 2 スイムブイと、第 1 折返し旗は第 8 スイムブイと向かい合うように設置する。

フィニッシュラインとして、2本の旗を5mの間隔を空けて設置する。これらは、第1折返し旗から約50m離れた位置に、水際と垂直に設置する。

**スタート及びチェンジオーバーライン:** スタート及びチェンジオーバーラインは、長さは約30mで、ラインの中心が第1スイムブイと向かい合うように水際から約5mの浜に引き、両端には2mのポールを立てる。

ボード区間又はスイム区間が最初の場合、スタート及びチェンジオーバーラインがスタートラインとなる。又、ボード区間ではボード設置ラインとして用いられる。競技者はレースが開始された後、スタート及びチェンジオーバーラインを越える必要はない。

**ボードコース:** ボード区間は、スタートからチェンジオーバーラインまでに、スイムブイ1の外側を通過し、2つのボードコースブイを回り、スイムブイ9の外側を通過して浜に戻り、2本の折返し旗を回る。

**サーフスキーコース:** サーフスキー区間は、図のとおりサーフスキーを浮かべた位置からスタートし、3つのサーフスキーコースブイを回って浜に戻り、2本の折返し旗を回る。競技者は、全てのブイの外側を通過せねばならない。競技者は、スイムコースブイ又はボードコースブイの間を横切ってはいけない。

**スイムコース:** スイム区間は、スタートからチェンジオーバーラインまでに、スイムブイを回り、浜に戻り2本の折返し旗を回る。

**ビーチスプリントコース<sup>32</sup>及びフィニッシュ:** レースは、競技者が全ての区間を終えたとき完了する。競技者は、第1折返し旗を回り、2本目の折返し旗の陸側を通過し、2つのフィニッシュ旗の間を通過してフィニッシュする。

**注意:** 競技者は、各区間のブイを回ると同じ方向に、折返し旗をまわること。

**マスターズ:** もし海況によりマスターズのオーシャンマン/オーシャンウーマンのスイムコースが120mを越えるようであれば、10m以上間を空けた2つのブイを置くことで、120mの目印としてよい。この場合、通常のスイムコースはボード区間及びサーフスキー区間の第1及び第3ターンブイとして使用される。スイムブイよりも10m沖に頂点(apex)ブイを置いて、スキーコースとする。

### 4.20.3. 器材

**サーフスキー、パドル、ボード:** 「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

- (a) **破損したクラフトの交換:** ボード又はサーフスキーは、破損又は航行不能でない限り、各区間を競技中に交換することはできない。チームメンバー/ハンドラーは、別の器材をスタートライン及びチェンジオーバーラインに別の器材を置くまでであれば、破損したクラフトの交換を補助できる。
- (b) **パドル:** パドルが紛失又は破損した場合、スタート及びチェンジオーバーラインに戻った場合に限り交換することができる。
- (c) **器材の撤去:** 競技を安全に実施するため、チームメンバー及び/又はハンドラーは、他の競技者の

---

<sup>32</sup> 【JLA脚注】 JLA競技規則2019年版までは「ラン区間」と表記していたが、ILS競技規則の表記(Beach sprint course)を尊重した。

進路を妨害しなければ、破損又は放棄された器材をレース中にコースから撤去することができる。

#### 4.20.4. 判定

複数のジャッジが、競技の実施を観察し、フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

#### 4.20.5. クラフトとの接触

競技者は、最終ブイを通過するまではサーフスキー又はボードを保持していなければならない。最終ブイから浜に戻る途中でクラフトが離れても失格とはならない。最終ブイに向かう途中でクラフトが離れても失格とはならないが、この場合は、クラフトを回収し、保持した状態で各区間の最終ブイを回り、コースを完了すること。

#### 4.20.6. 失格

「2. 共通競技総則」及び 4.1 から 4.3 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。



## 4.21. オーシャン M (Ocean M)

### 4.21.1. 競技の説明

競技者は、スイム区間、ボード区間、サーフスキー区間の海上コース、及びビーチスプリントのフィニッシュからなる約 1.64 km をカバーする。

この節で述べられている相違を除き、各区間には、当該競技部門の規則及び複数の競技部門にまたがる規則が一般的に適用される。

区間の順番はスイム、ボード、スキーとする。

**スタート位置:** 競技者はスタートライン上のドローで決まった位置からスイム区間及びボード区間をスタートせねばならない。ボード区間の後のスキー区間では、スタート位置が反転する。即ち、24 人でレースするとき、ある競技者のドロー位置が 1 の場合：その競技者はスイム区間とボード区間は位置 1 からスタートするが、スキー区間は位置 24 からスタートする。

スイム区間スタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	...24
ボード区間スタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	...24
スキー区間スタート位置	24	23	22	21	20	19	18	17	...1

#### クラフトの管理／取扱い：

- **パーソナルハンドラー:** 競技者のチームメンバー1人が競技者のクラフト管理を補助することができる。チーフレフリーが認めた場合、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。

パーソナルハンドラーは：

- (a) 競技用キャップを着用すること、
  - (b) 膝の深さより深い水に入る場合、競技主催者が要求する視認性に優れたベストを着用すること、
  - (c) 競技の説明図又はオフィシャルの指示に従って、クラフトを位置させること、
  - (d) 自身及び取り扱っている器材が他の競技者の邪魔にならぬようあらゆる努力を払わねばならない（さもなくば競技者が失格になる場合がある）、
  - (e) オフィシャルの指示にすべて従わねばならない。
- **主要な競技の場合:** ある種の競技会（オリンピック型の振興イベントなど）では、ハンドラーが競技場に入ることを許可すべきでない。そのような状況では、競技者又は熟練したオフィシャル（競技主催者によって指名される）が、ボードをドロー順にスタート／チェンジオーバーラインに置き、ボードの後ろにスキー（およびパドル）をドロー（逆）順に置く。クラフトが競技者の邪魔にならぬよう、各ボード間、各スキー間は約1mの間隔を空ける。競技者が使った後の器材は、指定されたオフィシャルが競技アリーナにおいて管理する。

### 4.21.2. コース

スイム、ボード、サーフスキー区間のために、以下の図に示されているようブイを配置する。

スタートとフィニッシュを公平にするために、ブイに対するスタートラインとフィニッシュラインの位置関係は、海の状況に応じてチーフレフリーの裁量で変更される場合がある。

観客、公衆、メディア及びスポンサーの関心を高めるため、特別な視聴覚機器が以下のような場所で使用されることがある：チェンジオーバー、フィニッシュアーチ、大型の水上折返しブイ、ビーチの折返しマーカー／旗及びビーチの観客席。

**ブイの距離**：スイムブイは、50 m の間隔を空けて、水際から約 90 m 沖に設置する。

ボード区間ブイとサーフスキー区間ブイは、スイムブイよりも更にそれぞれ約 50 m 沖と 100 m 沖の位置に設置する。ボード区間ブイは約 55 m、サーフスキーブイは約 60 m の間隔を空け、サーフスキーブイには、スキー折返しを補助するためにスキーブイの戻り側約 1 m に「頂点 (apex)」ブイを追加する。

**マーカー**：レースの各区間の半分の距離にあたるビーチ折返し点において、大きな折返しマーカー（又は約 1 m 離れた 2 本の旗）を、ビーチの中央のほぼ膝の深さの水中に位置するように設置する。浅瀬が無い場合、マーカーは水際に配置される。

更に、この折返しマーカーの真後ろのビーチに、約 35 m 間隔を空けた 2 つのビーチマーカーを設置し、フィニッシュ／チェンジラインへの半円形の走路を形成する。

**フィニッシュ／チェンジライン**：フィニッシュ／チェンジラインは、フィニッシュアーチ又は 5 m の間隔を空けた 1 対の旗で示され、競技アリーナの中心で水際から約 20 m（潮汐に依存する）の位置に設置される。フィニッシュアーチが立てられた場合、（フィニッシュを判定する）ジャッジラインは、アーチの競技者がやって来る側（入り側）に置かれた 2 本の旗で描かれるものとする。

**注意**：オーシャン M ライフセーバーリレー競技の場合、フィニッシュ／チェンジラインは、チェンジオーバーラインになる。

**スタートライン**：スタートラインの長さは約 30 m で、水際から約 10 m の位置に、第 1 スイムブイが中心になるよう設置し、両端にポールを置いてよい。

最初のスイム区間スタート時を除いて、競技者はこの競技のボード区間、スキー区間において、スタートラインを通過しなくてもよい。

**注意**：ボードとスキーは、レース開始前に、スタートラインの指示された場所に配置される。<sup>33</sup>

**スイムコース**：スイム区間は、スタートラインから始まり、第 1 スイムブイを左から右に回り、ビーチに戻り、折返しマーカーを右から左に回り、第 2 スイムブイを左から右に回り、ビーチに戻り、第 1 ビーチマーカーを通過し、フィニッシュ／チェンジアーチを通り抜け、第 2 ビーチマーカーを通過して、ボード区間を開始する。

**ボードコース**：ボード区間は、ビーチでのボードのピックアップから始まり、第 1 スイムブイ外側を通過し（即ち、パドラーは第 1 スイムブイの左側に位置する）、第 1 ボードブイを左から右に回り、第 1

---

<sup>33</sup> 【JLA注釈】JLA主催競技会では、スタートライン付近の混雑を避ける等のため、チーフレフリーの判断でクラフトを配置するタイミングを変更する場合がある。

スイムブイ外側を通過してビーチに戻る（即ち、パドラーは第1スイムブイの左側に位置する<sup>34</sup>）。次に、折返しマーカーを右から左に回り、ボードをパドルして第2スイムブイ外側を通過し（即ち、パドラーは第2スイムブイの左側に位置する）、第2ボードブイを左から右に回り、第2スイムブイ外側を通過してビーチに戻り（即ち、パドラーは第2スイムブイの左側に位置する）、第1ビーチマーカーを通過し、フィニッシュ／チェンジアーチを通り抜け、第2ビーチマーカーを通過して、スキー区間を開始する。

**サーフスキーコース：**スキー区間は、ビーチでのスキーのピックアップから始まり、第1スイムブイと第1ボードブイ外側を通過し（即ち、パドラーは第1スイムブイと第1ボードブイの左側に位置する）、第1スキーブイ（及びマーカーブイ）を左から右に回り、第1ボードブイと第1スイムブイ外側を通過してビーチに戻る（即ち、パドラーは第1スイムブイと第1ボードブイの左側に位置する）。次に、折返しマーカーを右から左に回り、スキーをパドルして第2スイムブイと第2ボードブイ外側を通過し（即ち、パドラーは第2スイムブイと第2ボードブイの左側に位置する）、第2スキーブイ（及びマーカーブイ）を左から右に回り、第2ボードブイと第2スイムブイ外側を通過してビーチに戻り（即ち、パドラーは第2スイムブイと第2ボードブイの左側に位置する）、第1ビーチマーカーを通過し、フィニッシュラインとアーチを通り抜け、レースを終了する。

**ビーチスプリントコースとフィニッシュ：**競技者がすべての区間を完了してレースは終了する。競技者は第1ビーチマーカーを通過し、フィニッシュアーチのフィニッシュ（又は2本のフィニッシュ旗の間）を通過せねばならない。

#### **注意：**

1. 競技者は、ビーチマーカーを各区間のブイと同じ方向に回ること。
2. 潮流又は海面又はビーチの状況によりスイムブイの距離が水際から90 mを超える場合、競技管理委員会は2つのボードブイをスイムブイとして使用すると決定してもよい。その場合、競技者はM字のスイムコースでなく、ビーチに戻らず2つのボードブイを続けて周るコースを泳ぎ、その後M字コースのボード区間に移る。
3. 潮流又は海面又はビーチの状況により、適切なM字コースを設定するのが実用的でない場合、競技管理委員会は、代わりに、海上区間に従来のオーシャンマン／オーシャンウーマンのコースを使用し、ビーチコースはそのままにすると決定してもよい。

#### **4.21.3. 器材**

**サーフスキー、パドル、ボード：**「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

- a) **破損した器材の交換：**ボード、サーフスキー及び/又はパドルは、破損した又は航行できなくなったのでない限り、レース途中で交換してはならない。チームメンバー／ハンドラーは破損した器材交換を補助することが許されるが、それは、チーフレフリーが指定した競技アリーナの端の場所に、別のクラフトを置くだけである。

---

<sup>34</sup> 【JLA注釈】これは海から見た位置関係でなく、常に競技者の進行方向を「前」とした位置関係だと解釈すれば意味が通じる。つまり、沖に向かう時／浜に戻る時の両方で「ブイは常に競技者の右側」＝「競技者は常にブイの左側」に位置していることになる。

- b) **器材の撤去**：競技を安全に進めるため、チームメンバー及び／又はハンドラーは、他の競技者の邪魔にならない限り、レース中に破損した又は乗り捨てられた器材をコースから撤去することができる。

#### 4.21.4. 判定

複数のジャッジが、競技の実施を観察し、フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

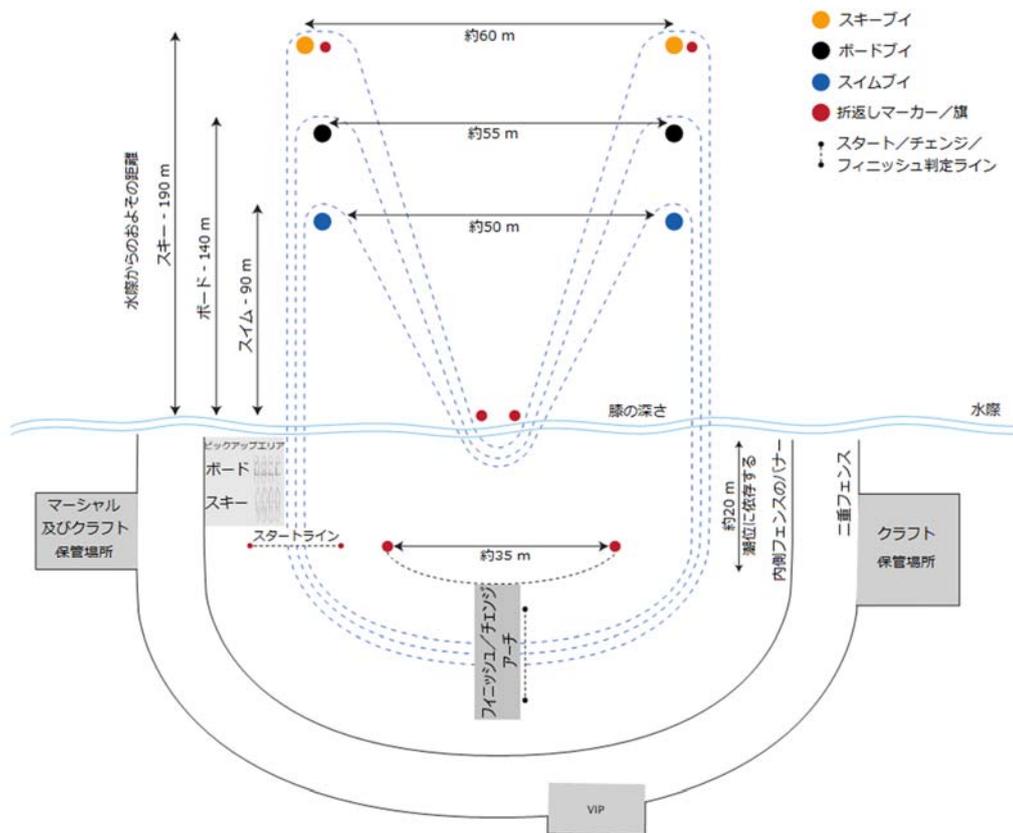
競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュは、フィニッシュラインを超える競技者の胸の位置で判定される。

#### 4.21.5. クラフトとの接触

競技者は、最終ブイまではサーフスキー又はボードに接していなければならない。各ブイから戻る途中でクラフトから離れても失格とはならない。ブイに向かう途中でクラフトから離れても、再度クラフトに接して各区間の最終折返しブイを回り、コースを終了できればペナルティーは科せられない。

#### 4.21.6. 失格

「2. 共通競技総則」と4.1から4.3の違反に加えて、以下のような場合は失格となる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。



### 個人オーシャンMコース<sup>35</sup>

(距離はおよその数値である)

**注意:** ブイの位置に対するビーチの設定は、海の状態に応じて調整可能である。

<sup>35</sup> 図中にピックアップエリアが描かれているが、本文中で言及されていないことから、JLA主催競技会では、クラフトはスタートラインの指示された場所に配置されることを基本とする。

## 4.22. オーシャンマン／オーシャンウーマン勝ち残りバリエーション (Oceanman/Oceanwoman Eliminator Variation)

### 4.22.1. 競技の説明

勝ち残り方式オーシャンマン／オーシャンウーマンは、従来のオーシャンマン／オーシャンウーマン及びオーシャン M コース競技のバリエーションの1つである。

予選及び更なるラウンド（適用可能な場合）により、勝ち残り方式オーシャンマン／オーシャンウーマン決勝へ進む 18 人の競技者が決定される。

決勝は、次の通り 3 つの勝ち残りレースで実施される：

- (a) レース1：最後の6人の競技者を除外する（18人→12人）、
- (b) レース2：最後の6人の競技者を除外する（12人→6人）、
- (c) レース3（決勝）：残りの6人の競技者によるレース。

#### 注意：

- 1. 場合により「レース1」での競技者は18人を超えても、18人より少なくても可能である。しかし、「レース2」では12人の競技者で開始されなければならない。
- 2. 13人より少ない競技者で実施する場合、チーフレフリーは最初の2つのレースで除外される競技者の人数を伝えなければならない。

各レースの間に 5 分間の休憩が設けられる。休憩時間は、各レースの勝者（先頭の競技者）がフィニッシュラインを越えた時点から開始する。この時間は、諸条件に基づいて主催者の判断により決定することができ、勝ち残り方式決勝が開始する前に伝えられる。

オーシャンマン／オーシャンウーマン勝ち残り形式決勝の競技規則は、以下で変更される場合を除き、オーシャンマン／オーシャンウーマンの通りとする：

- 1. 決勝の順位と得点は、競技者が除外されたときのポイントによって決まる、
- 2. 競技の振興を考慮し、いずれのフォーマットでも、競技エリア設置及び／又は競技条件、及び／又はラン区間の距離を長く又は短くすることが可能である。

**注意：**レースが「フラットな海」の会場で行われる場合、そして特にこの競技種目のみの競技会として実施される場合、通常のコースとは別の代替コースでの開催が検討され得る。この場合、コースは参加要項によって通知され、要項には、各区間のおよその距離を記したコース図を掲載しなければならない。

（折返しのブイ又はマークを見失ったことを含めて）コースを正しく終了しなかった競技者は、次の規定に従うものとする：

- 1. 最初のレースで違反が起きた場合、競技者は失格となり、最下位及び相応する得点が割り当てられる、
- 2. 「レース2」または「レース3」で違反が起きた場合、競技者は失格となり、当該レースで最下位が割り当てられる。これは、競技者が既に除外されている競技者より上の資格を既に有するからである。

この種目の勝者は、最初の2つの勝ち残りレースでいかなる順位であったかに関わりなく、「レース3（決勝）」の勝ち残りレースで正しく1着に入った競技者である。

#### 4.22.2. 失格

「2 共通競技総則」と4.1から4.3の違反に加えて、以下のような場合は失格となる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。

## 4.23. オーシャンマン／オーシャンウーマンリレー (Oceanman/Oceanwoman Relay)

### 4.23.1. 競技の説明

オーシャンマン／オーシャンウーマンリレーは、個人のオーシャンマン／オーシャンウーマン競技のバリエーションの1つである。

競技者4人からなるチーム（スイマー1人、ボードパドラー1人、サーフスキーパドラー1人及びランナー1人）が、事前に抽選で決めた順に一連の区間を回る。

ラン区間は常に最終区間である。サーフスキー区間が最初の場合、通常の水중スタートで行う。

**マスターズ:** チームは競技者3人からなる — スイマー1人、ボードパドラー1人、スキーパドラー1人。マスターズのオーシャンマン／オーシャンウーマンリレーにはラン区間は無い（後述の手順のバリエーションも参照のこと）。

この節で述べられている相違を除き、各区間ではそれぞれ個別の一般的な競技種目規則が適用される。

スタートとフィニッシュを公平にするため、海況を観ながらチーフレフリーの裁量で、ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。

競技者は、ビーチの指定された正しい位置から自分の区間を開始せねばならない。

**注意:** 第2競技者及び第3競技者は、タッチされた後、スタート及びチェンジオーバーラインを越える必要はない。

ボード及びスキー区間のスタート位置は入れ替わる。例えば、16チームが参加するレースで、抽選により位置1と指定された場合、最初のクラフト区間は位置1からスタート、次のクラフト区間は位置16からスタートとなる。

1番目のクラフト区間のスタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	... 16
2番目のクラフト区間のスタート位置	16	15	14	13	12	11	10	9	... 1

スイム→ボード→サーフスキーの順の場合、以下の通りとなる。各区間のコースは時計方向に回る。

**スイム区間:** スイマーは、ビーチからスタートして水に入り、スイムコースブイを回り、浜に戻り2本の折返し旗を回り、足をスタート／チェンジオーバーライン上又はその陸側に置いてボードと共に待機するボードパドラーにタッチする。

**ボード区間:** ボードパドラーは、ボードと共に水に入り、スイムブイ1の外側を通過し、2つのボードコースブイを回り、スイムブイ9の外側を通過して浜に戻り、2本の折返し旗を回り、スタート／チェンジオーバーラインを通過して、水深が膝の位置でサーフスキーとパドルと共に待機するサーフスキーパドラーにタッチする。

浜に戻る際、ボードパドラーはボードを水際に残してよい。

**サーフスキー区間:** サーフスキーパドラーは、サーフスキーコースブイをパドルして回り、浜に戻り、水際又は水中で待機するランナーにタッチする。

パドラーは、全てのブイの外側を通過せねばならない。パドラーは、スイムコースブイ又はボードコースブイの間を横切ってはいけない。

**ラン区間:** ランナーは、第1折返し旗を回り、2本目の折返し旗の陸側を通過し、2本のフィニッシュ旗の間を通過しフィニッシュする。

**注意:** ランナーにタッチをする場所は、最終のブイの浜側から浜の第1折返し旗までのどこでもよい。タッチは水面より上で、はっきりと見えるようにしなければならない。

ランナーは戻ってくる競技者にタッチをするため水に入り、ウェーディング、ドルフィンスルー、ボディーサーフィンをしてよい。また折返し旗に向かって走ってもよい。ただし、ランナーはいかなるときも泳いではならない（ここで泳ぐとは、ボディーサーフィンのため又は波に乗り続けるため水面の上に腕を出してストロークする動作を含む）。

#### 4.23.2. 器材

**サーフスキー、パドル、ボード:** 「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。チームごとに少なくともボード1本、サーフスキー1艇を用意すること。

チームメンバーは、各クラフトのスタートエリアの傍にギアを置くこと。

**器材の撤去:** 競技を安全に実施するため、チームメンバー及び／又はハンドラーは、他の競技者の進路を妨害しなければ、破損又は放棄された器材をレース中にコースから撤去することができる。

ハンドラーは以下のことを行う：

- (a) 競技用キャップを着用すること、
- (b) 膝の深さより深い海に入る場合、主催者から指定された視認性の高いベストを着用すること、
- (c) ハンドラー自身及びハンドラーが扱う器材が、他の競技者を妨害しないようあらゆる努力を尽くすこと（さもなくば競技者が失格になる場合がある）、
- (d) オフィシャルの全ての指示に従うこと。

**服装:** ビーチスプリントコースにおいて、チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは、競技者の裁量で着用してよい。

#### 4.23.3. 判定

複数のジャッジが、競技の実施を観察し、フィニッシュラインで競技者の着順を判定するために配置される。

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

#### 4.23.4. クラフトとの接触

競技者は、最終ブイを通過するまではサーフスキー又はボードに触れていなければならない。最終ブイから浜に戻る途中でクラフトが離れても失格とはならない。最終ブイに向かう途中でクラフトが離れても失格とはならないが、この場合は、クラフトを回収し、保持した状態で各区間の最終ブイを回り、コースを終了すること。

#### 4.23.5. マスターズオーシャンマン／オーシャンウーマンリレー手順のバリエーション

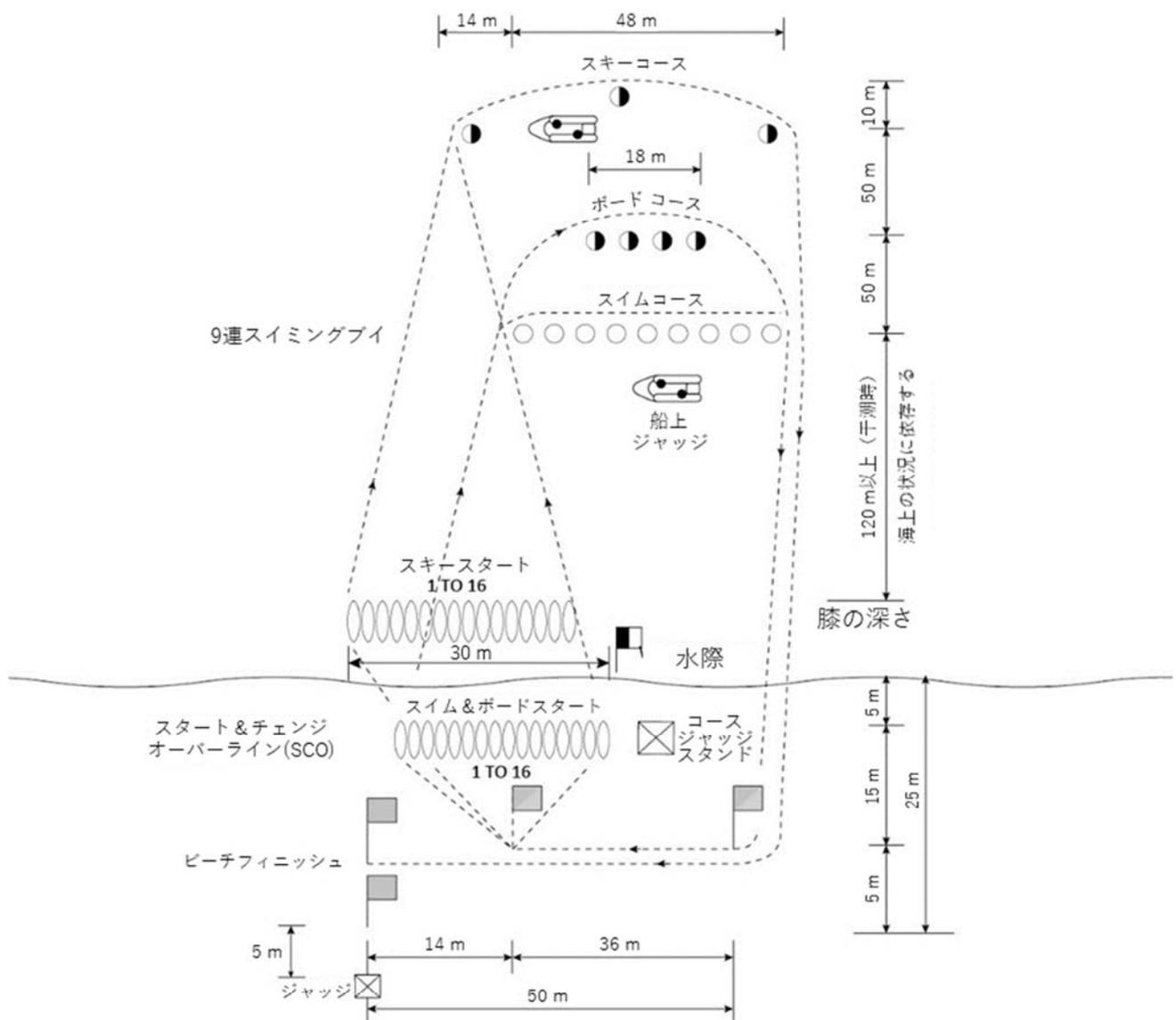
オーシャンマン／オーシャンウーマンリレーの第1競技者は、標準的なオーシャンマン／オーシャンウーマンリレー競技のとおりスタートし、同競技のコースのとおり（担当する）スイム／ボード／スキー区間のブイを回る。第1競技者が最終ブイを回った後、競技者は浜に戻り（自身の判断でボード／スキー（パドルを含む）を残してよい）、（波の条件に依存して、且つ、走る距離が最小になるよう）海岸線又は膝の深さに置いた1本の緑&黄旗を回り、その1本の旗の海側にあるチェンジオーバーラインの第2競技者に、よく見えるようにタッチする。

次に、第2競技者は、適切なブイを回る。第2競技者が最終ブイを回った後、競技者は浜に戻り（自身の判断でボード／スキー（パドルを含む）を残してよい）、（波の条件に依存して、且つ、走る距離が最小になるよう）海岸線又は膝の深さに置いた1本の緑&黄旗を回り、その1本の旗の海側にあるチェンジオーバーラインの第3競技者に、よく見えるようにタッチする。

次に、第3競技者は、適切なブイを回る。競技者は浜に戻り（自身の判断でボード／スキー（パドルを含む）を残してよい）、浜に立てた標準的な緑&黄旗を回り、陸側に立てたもう1本の緑&黄旗を通過し、2本のフィニッシュフラグの間をフィニッシュして、標準的なオーシャンマン／オーシャンウーマンリレーのコースを完了する。

#### 4.23.6. 失格

「2 共通競技総則」と4.1から4.3の違反に加えて、以下のような場合は失格となる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。



凡例

● 黒&白ブイ	○ スイミングブイ	■ 緑旗	■ マスターズターン旗
● オレンジブイ	■ 緑&黄旗	■ オレンジポール	

オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー

**注意1:** マスターズのオーシャンマン/オーシャンウーマンリレーの有効なコース手順を参照せよ

**注意2:** ブイの位置に対するビーチの設定は、海の状況に応じて調整可能である。

## 4.24. オーシャン M ライフセーバーリレー (Ocean M Lifesaver Relay)

### 4.24.1. 競技の説明

オーシャン M ライフセーバーリレーは、オーシャン M 競技種目の 1 つのバリエーションである。

この節で述べられている相違を除き、競技の条件と競技規則はオーシャン M 競技種目に準ずる。

**注意:** ライフセービング世界選手権では、チームは、男性 2 人、女性 2 人からなる<sup>36</sup>。第 1 競技者がラン区間、第 2 競技者がスイム区間、第 3 競技者がボード区間、最終競技者がスキー区間及びラン区間を担当し、ビーチのフィニッシュアーチ (又は旗) でフィニッシュする。

チーム内での男女の競技順は各チームが決めてよい。

### 4.24.2. コース

コースは、以下の図に示す通り。

競技は、スタート/チェンジ/フィニッシュラインから、ビーチを横切って 125 m 地点まで行き、2 つのマーカーを時計回りに回ってフィニッシュアーチに戻る 500 m ラン区間から始まる。ランナーは、フィニッシュアーチの 2 つのマーカーを時計回りに回り、もう一回ランコースを回って、スタート/チェンジ/フィニッシュラインのフィニッシュ側で待機しているスイム競技者にタッチする。

オーシャン M ライフセーバーリレーでの競技者間タッチは、スタート/チェンジ/フィニッシュ判定ラインのフィニッシュアーチ側と、フィニッシュアーチから出て行く側に約 5 m のラインとの間のゾーンにおいて行うこと。これから出て行く競技者の足をスタート/チェンジ/フィニッシュ判定ラインの上又はチェンジオーバーゾーン内のスタート/チェンジ/フィニッシュ判定ラインのフィニッシュアーチ側に置くかどうかはチームの裁量で決めてよい。タッチはこのゾーン内で行わなければならない。

**注意:** 効果的にタッチするため、これから出て行く競技者の手が、スタート/チェンジ/フィニッシュ判定ラインに入ってくる競技者側に伸びていてもよいが、タッチの時、競技者の足はチェンジオーバーゾーンのいずれかの端上又はチェンジオーバーゾーン内になければならない。

その後、スイム競技者からボード競技者、そしてスキー競技者へ上述のとおりタッチすることを除き、レースは個人オーシャン M と同様に進められる。

スキー競技者がスキー区間を終了し、第 1 ビーチマーカーを通過し、スタート/チェンジ/フィニッシュ判定ラインを通過して、競技は終了する。

#### **注意:**

1. 潮流又は海面又はビーチの状況によりスイムブイの距離が水際から 90 m を超える場合、競技管理委員会は 2 つのボードブイをスイムブイとして使用すると決定してもよい。その場合、競技者は M 字のスイムコースでなく、ビーチに戻らず 2 つのボードブイを続けて周るコースを泳ぎ、その後 M 字コースのボード区間に移る。
2. 潮流又は海面又はビーチの状況により、適切な M 字コースを設定するのが実用的でない場合、競技管理委員会は、代わりに、海上区間に従来のオーシャンマン/オーシャンウーマンのコースを使用

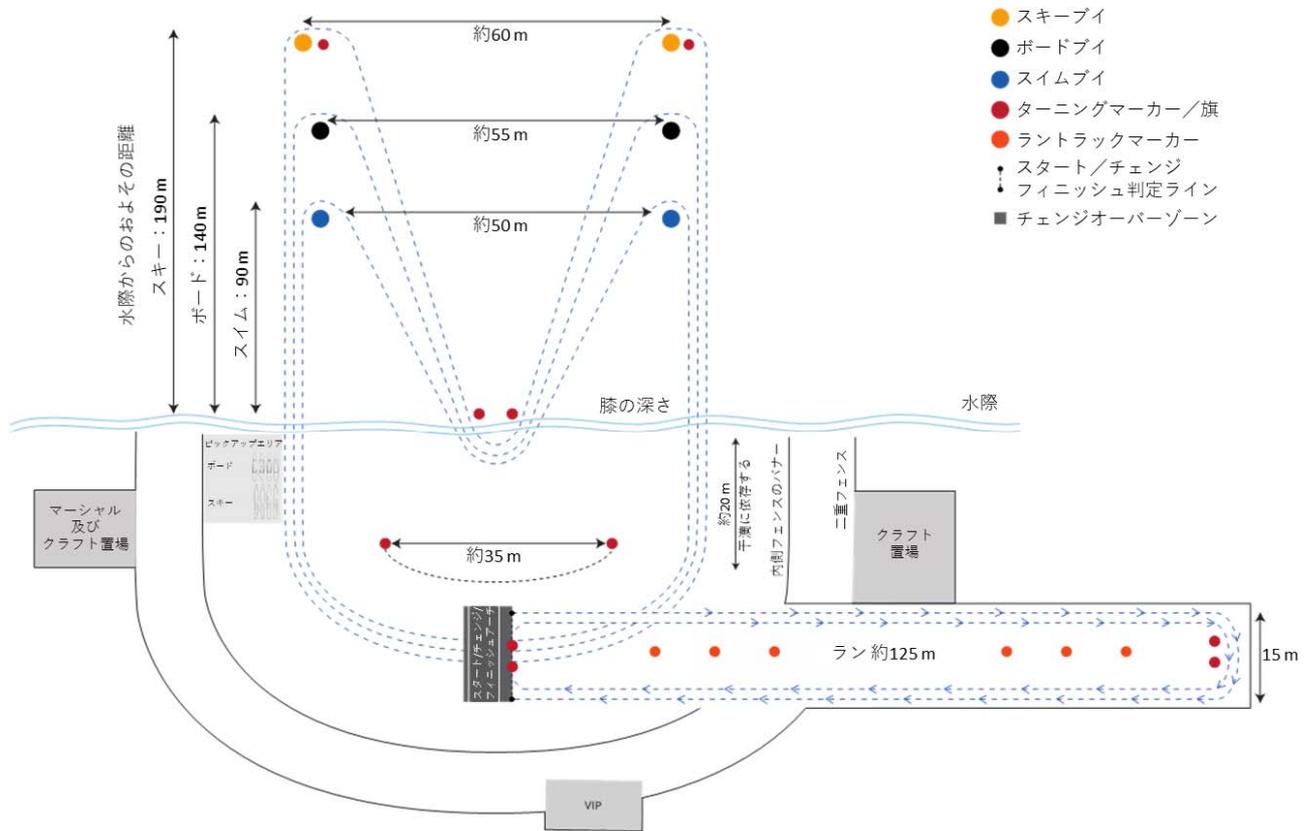
---

<sup>36</sup> 【JLA 注釈】 JLA 主催競技会においてもチーム構成を原則的に男性 2 人、女性 2 人とする。

し、ビーチコースはそのままにすると決定してもよい。

#### 4.24.3. 失格

「2 共通競技総則」と4.1 から4.3 の違反に加えて、以下のような場合は失格となる：規定された通りにコースを完了できなかった場合（DQ12）。



#### オーシャンMライフセーバーリレーのコース

（距離はおよその数値である）

**注意：**ブイの位置に対する相対的なビーチの設定は、海の状態に応じて調整可能である。

## オーシャン競技失格コード表

コード No.	失格内容	競技種目
1	共通競技総則に沿って競技しなかった。	全競技種目
2	チーム、競技者及びハンドラーが不正行為をした場合、競技者又はチームは失格となる。不正行為には下記のような例が含まれる： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドーピング又はドーピングに関連した違反行為、</li> <li>・他の競技者になりすますこと、</li> <li>・競技順や位置決め投票又は抽選で不正を試みること、</li> <li>・同じ個人種目に2度出場すること、</li> <li>・他のチームの競技者として同じ種目に2度出場すること、</li> <li>・コースで自分が優位になるために故意に妨害すること、</li> <li>・他の競技者又はハンドラーを押ししたり、進路を妨害すること、</li> <li>・競技者が外部から身体的又は物質的な助力を受けること（口頭又はその他の指示を除く）。</li> </ul>	全競技種目
3	招集場所への集合に遅れた競技者は、競技をスタートすることができない。	全競技種目
4	競技のスタートに不在だった競技者又はチームは失格となる（A, B決勝を除く）。	全競技種目
5	会場施設、宿泊施設又は他者の所有物を故意に損壊する行為は、個人としての失格、又は競技会全体での失格となる。	全競技種目
6	オフィシャルへの侮辱は競技会全体からの失格となる。	全競技種目
7	スタートの合図の前にスタートした（すなわち、スタート動作を開始した）全ての競技者は失格となる。ただし、ビーチフラッグスでは除外となる。	全競技種目
8	合理的な時間内でスターターの号令に従うことが出来なかった。	全競技種目
9	スターターの最初の合図の後、音やその他の方法によって他の競技者を妨害した競技者は失格となる（ただし、ビーチフラッグスの場合は除外となる）。	全競技種目
10	指定された位置又はレーン以外からスタートした。	全競技種目
11	競技者が2本以上のバトンを取った、又はバトンが取れないようにブロックした — 例えば、バトンの上に横たわる又は覆いかぶさってバトンを見えなくする。	ビーチフラッグス
12	規定された通りに競技種目及び／又はコースを完了できなかった。	全競技種目

## 第5章 シミュレーテッド・エマージェンシー・ レスポンス競技 (SERC) 規則

## 5. シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技 (SERC)規則

シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技 (SERC) は、チームリーダーの指示の下にチームとして行動する4人のライフセーバーの主導権、判断、知識及び能力をテストする。開始前にシミュレーテッド・エマージェンシーの状況は競技者には知らせておらず、競技を実施するにはライフセービングスキルを適用する。この競技は2分の時間制限内に実施される。全てのチームは同じ状況設定で、同じジャッジにより評価される。

競技は男女の区別なく実施され、チームはどのような男女の組み合わせでも成立する。

### 5.1. シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技 (SERC) 総則 組み合わせ

チームの競技順は抽選により決定するものとする。

#### 出場確認及び招集

- (1) 競技者又は代理人は出場確認の手続きを行わなければならない。時刻までに出場確認を行わなかった場合は、原則として失格となる。
- (2) 競技者は競技開始前の指定された時刻にロックアップエリア (招集場所) に速やかに集合するものとする。競技の開始時にロックアップエリアにいないチームは失格となる。

#### スタート

スタートの合図はスターターによるピストル、ホイッスル、エアホーン等で行われる。

#### 不正行為

- (1) 競技者は溺者及び傷病者に対し丁寧に対応する。言葉及び身体的暴力を与えてはならない。言葉及び身体的暴力を与えた場合は、失格になることがある。
- (2) 競技エリアに自分たちの所持品又は器材を持ち込んではいけない。
  - ① 持ち込みできるもの：眼鏡及びコンタクトレンズ等の視力矯正器具 (矯正用ゴーグル又はマスクは不可)。
  - ② 持ち込みできないもの：時計、宝飾品、携帯電話、その他の通信機器、ゴーグル、マスク、フィンなど。競技者、溺者及び傷病者にとって危険と判断された宝石類 (アクセサリー) は外すように指示されることがある。

#### 競技人数

4人

#### 用具の位置

状況設定に応じて決定される。

##### 5.1.1. 機密保護とロックアップ

競技開始前及び競技中、チームは競技エリアが見えず、音も聞こえないような「ロックアップエリア」に隔離される。競技者が隔離されるまで、状況設定、演技者、器材は秘密にされる。競技の終了後、競技者は他のチームの競技を観戦することができる。

### 5.1.2. 競技開始

スタートの合図の後、チームはロックアップエリアからプールへと誘導され、様々な救助を必要とする溺者や傷病者が競技エリア内にいるのを発見する。スタートの合図の後チームが競技エリアに入ったら、演技者は即座に溺者、傷病者の演技を始める。競技者は制限時間内にあらゆる方法を用いて溺者、傷病者に対応する。

### 5.1.3. 競技エリア

SERC は、室内又は屋外の様々な水辺の環境で行われる。事前に全チームに対して明確に競技エリアを示す。競技エリアの入口と出口の両方の位置を明確に指示する（例、どちらのプールサイドを使用するか）。別に指示されない限り、競技者は競技エリア内の状況が「発見した通り」であるとみなす。電光時計が使用可能であるなら、競技者と観客のためにカウントダウン時計として使用してよい。

### 5.1.4. 状況設定

状況設定は競技開始まで秘密にされ、できるだけ現実的（かつ安全）に演出されるものとし、競技者の想像力をテストするものではない。例えば、演技者が、手にやけどを負ったと申し出た状況は、火災、電気コード、化学物質が、シミュレートされた証拠により演出される（実際の火、通電中のコード、実際の化学物質を使用するべきではない）。

### 5.1.5. 溺者、傷病者、マネキン、バイスタンダー

演技者は溺者、傷病者役を演じ、異なる手当てを必要とするような問題を提示する。溺者、傷病者役の種類には、泳げない人、泳ぎが下手な人、けがを負った遊泳者と意識不明の溺者、傷病者を含む。さらに、競技者はバイスタンダーや遊泳者だけでなく、「溺者、傷病者」役の CPR 用マネキンに対処する場合もある。

溺者、傷病者の演技は競技中に展開する場合がある（例、意識のある溺者、傷病者が意識不明になる）。その条件は、変化が明らかに分かること、変化のタイミングが一貫していること、競技を通して全競技者に一貫した変化であることである。

溺者、傷病者の種類が目印（例、意識不明を示す額の赤/黒の×印）に示される場合、競技者は開始前に通知される。競技者は、マネキンに対応する場合、呼吸をしていない脈のない溺者、傷病者として扱うものとする。

### 5.1.6. 使用器材

競技者は競技エリア内で入手可能な全ての資材や器材を使用することができる。競技者は競技エリア内に自分たちの所持品及び器材を持ち込んではいない。

## 5.2. 救助の原則

### 5.2.1. ライフセーバーとライフガードの対応の違い

SERC 競技者は、指定されたチームリーダーの指示の下に連携したチームの中で行動する。ライフセーバー4人で構成されるチームとして対応することを求められる。管理された水辺の環境の中で、十分に訓練されたチームの一員として活動することが多いライフガードと異なり、ライフセーバーは、特殊な器材、支援又は確立された手順や通信システムの便益なしに、予想外の緊急事態の中で適切な方法で

対応する態勢を要求される。かかる状況では、ライフセーバーの個人的安全が常に最優先であり、採点シートにはこれが反映されるものとする。

競技者は以下の基本的救助ステップを適用する：

- (a) 問題の認識,
- (b) 状況の評価,
- (c) 問題を克服するための行動方針の計画,
- (d) 救助を達成するための行動,
- (e) 溺者、傷病者に対する手当て。

競技者は状況評価の際に、以下を考慮する：

- (a) 救助者の能力,
- (b) 溺者、傷病者の人数,
- (c) 溺者、傷病者の位置,
- (d) 溺者、傷病者の状態（例、泳げない人、泳ぎの下手な人）,
- (e) 利用可能な救助支援物資（器材）,
- (f) 周囲の状態（例、水深、入水及び着水点）。

競技者はその状況評価に基づき、取り入れ得る行動方針を計画する：

- (a) 支援の要請,
- (b) 支援の組織,
- (c) 利用可能な協力者に対する情報伝達,
- (d) 適切な支援物資又は器材の収集,
- (e) 必要に応じた救助実施。

計画では状況管理を確立すると共に、可能な限り多くの命を救うことを目指す。多数の溺者、傷病者の救助管理では、救助者に複数の選択肢が与えられる。

救助者は以下のように状況を管理する：

- (a) 移動可能な人の移動,
- (b) 大きな危険にさらされている人の安全確保,
- (c) 継続的の手当てが必要な人の回復と蘇生。

移動可能な人とは、自分で安全な場所に移動できる者である。大きな危険にさらされている人には、泳げない人やけがを負った遊泳者などが含まれる。継続的な手当てを必要とする人には、意識不明者、呼吸停止者又は脊椎損傷が疑われる溺者、傷病者などが含まれる。適切な計画が出来上がった時点で、それを迅速に行動に移すことが望ましい。競技者は状況変化に警戒すると共に、その行動計画をかかる変化に合わせて調整し、それに対応する。

救助を実施する際は、競技者は以下を覚えていなければならない：

- (a) 自分自身が最も安全な位置から救助する,
- (b) 救助原則の実施,
- (c) 溺者, 傷病者には極めて慎重に接近する,
- (d) 意識のある溺者, 傷病者に直接接触しないようにする。

入水が不可欠な場合, 競技者は, 自分自身の命を絶対に危険にさらさない状況を作るための, 最も有効な技術を選ぶ。競技者はその意図及び行動をジャッジに明確に示すことが重要である。

### 5.3. 判定と採点

採点シートは, 1人のジャッジが状況設定全体を採点し, 他のジャッジが個々の溺者, 傷病者を扱う方法で作成される。溺者, 傷病者1人にジャッジ1人という状況が望ましい。ジャッジは競技開始前に, 状況設定, 採点方法, 及び採点基準について簡単な説明を受けるものとする。ジャッジは1人の溺者, 傷病者, 又は溺者, 傷病者集団を割り当てられ, 状況設定の当該部分に参加した全チームを, 競技全体について評価するものとする。

#### 5.3.1. 採点制度

この競技で使用される採点制度では, ジャッジは採点シートを使って得点配分を行うことが可能であり, 競技者は適切だが予期せぬ対応を行うよう規定される。ジャッジは得点配分を行うにあたって, 以下を考慮する。

- (a) 溺者, 傷病者の種類,
- (b) 溺者, 傷病者の安全圏までの距離,
- (c) 利用可能な器材及び使用器材,
- (d) 判断の速さ,
- (e) 優先順位,
- (f) 行動/仕事の質,
- (g) 溺者, 傷病者の手当て。

傷病者の問題を迅速かつ正確に認識することは, この競技の重要なポイントであり, 溺者, 傷病者の状況設定及び事故演出と密接な関係がある。

**競技者が, どの溺者, 傷病者を優先するかに対する正確な判断に得点が与えられる。**

競技者の判断は, 緊急事態の性質によって異なる。水中の溺者, 傷病者の場合は, 最初に救助する者を決める際に, 競技者は以下の優先順位に従って溺者, 傷病者を優先するのが望ましい。

- (a) 泳ぎの下手な者, 及び自分で移動できる者
- (b) 大きな危険にさらされている者 (例: 泳げない者, けがを負った遊泳者)
- (c) 継続的な手当てが必要な溺者, 傷病者 (例: 意識不明者, 呼吸停止者又は脊椎損傷が疑われる溺者, 傷病者)

より高度な技能及び判断力を必要とする救助パフォーマンスに高得点を与える場合がある。

加えて、<https://www.ilsf.org>に掲載されている、コーチ、競技者及び競技役員のための SERC ガイドを参照すること。

### 5.3.2. 失格

「2. 共通競技総則」及び 5.2 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) 外部からの援助、指示又は助言を受けた場合 (DQ7),
- (b) ロックアップエリアに遠距離通信機を持ち込んだ場合 (DQ8),
- (c) 競技の一部として提供されていない器材を用いた場合 (DQ9),
- (d) 演技者に身体的、又は言葉による暴力を加えた場合 (DQ10)。

## シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技失格コード表

コード No.	失格内容	競技種目
1	総則及び種目別の競技規則に違反した場合。	全競技種目
2	チーム、競技者及びハンドラーが不正行為をした場合、競技者又はチームは失格となる。不正行為には下記のような例が含まれる： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドーピング又はドーピングに関連した違反行為、</li> <li>・他の競技者になりすますこと、</li> <li>・競技順や位置決め投票又は抽選で不正を試みること、</li> <li>・同じ個人種目に2度出場すること、</li> <li>・他のチームの競技者として同じ種目に2度出場すること、</li> <li>・コースで自分が優位になるために故意に妨害すること、</li> <li>・他の競技者又はハンドラーを押ししたり、進路を妨害すること、</li> <li>・競技者が外部から身体的又は物質的な助力を受けること（口頭又はその他の指示を除く）</li> </ul>	全競技種目
3	招集場所への集合に遅れた競技者は、競技をスタートすることができない。	全競技種目
4	競技のスタートに不在だった競技者又はチームは失格となる（A, B 決勝を除く）	全競技種目
5	会場施設、宿泊施設、又は他者の所有物を故意に損壊する行為は、個人としての失格、又は競技会全体での失格となる。	全競技種目
6	オフィシャルへの侮辱は競技会全体からの失格となる。	全競技種目
7	外部からの援助、指示又は助言を受けた場合。	シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技
8	ロックアップエリアに遠距離通信機を持ち込んだ場合。	シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技
9	競技の一部として提供されていない器材を用いた場合。	シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技
10	演技者に身体的、又は言葉による暴力を加えた場合。	シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技

## サンプル採点シート

### SERC：全般

抽選番号 \_\_\_\_\_ チーム名： \_\_\_\_\_ 審判員名： \_\_\_\_\_

状況設定の説明：あなたは朝、リラックスするために地元のスイミングプールに来た。そのとき、プールの中で何かが起きていることに気付いた。まだライフガードや他の職員も見当たらない。あなたが溺者／傷病者を保護する、または水中から引き上げるなら、指定された場所（プールへの入水・退水については場所が指定される）から行わなければならない。ほかの場所を使用する場合は得点を獲得することはできない。

判定の注意点：審判員は、SERCの概要を頭に入れており、チーム全体の効率性を評価する。特に、チームリーダーのチームの管理、すなわち負傷者を手当てするための優先事項の評価およびチームメンバーへの指示を採点する。また、リーダーとチーム間、チームメンバー間のコミュニケーションを採点する。これには溺者／傷病者の状態についての情報およびどのような援助が必要かということが含まれる。

採点は以下の事項を考慮しなければならない。

- 全体の統制が失われる範囲に責任を持たされた、または関与するリーダーによる統制の喪失。リーダーが実行する救助について採点しないこと。そうしたことはその溺者／傷病者に割り当てられたほかの審判員により採点される。
- 救助が求められたか否か。注意：助けに送られた人は状況設定中に戻ることはできない。

採点の項目	得点 / 10
<b>評価</b> 緊急の評価 リーダーはチームをまとめ、正しい救助の優先事項を指示したか？ 継続的な評価／再評価	
<b>統制</b> 状況設定全体にわたる統制と安全 リーダーは状況設定全体にわたり統制を保持する 継続的な評価／再評価	
<b>コミュニケーション</b> リーダーからチームへ、およびチームメンバーと溺者／傷病者間のコミュニケーションとフィードバック 溺者／傷病者とチームへ与えられる効果的な質問／明確な指示	
<b>探索</b> 状況設定エリアの効果的な探索 溺者／傷病者の特定と場所	
<b>チームワーク</b> 適切な情報提供が伴われたチームワーク、招集支援（救急サービスが呼ばれる） 全ての溺者／傷病者の特定と保護 バイスタンダーと溺者／傷病者の有効な利用	
溺者／傷病者に対する乱暴な手当て - 減点	
<b>総合点</b>	

採点の注意（審判員により 0.5 単位で採点される）

満点 10	優 7.5 - 9.5	良 5.0 - 7.0	可 2.5 - 4.5	不可 0 - 2.0
-------	-------------	-------------	-------------	------------

高度な技術および判定を必要とする救助行為に:

## サンプル採点シート

### SERC：泳げない人

抽選番号 \_\_\_\_\_ チーム名： \_\_\_\_\_ 審判員名： \_\_\_\_\_

溺者／傷病者：プールの端に行こうとする泳げない人

彼は、水面に出ようとしてもがき、プールの端に行けないためにパニックになり始める。彼は手の届く場所に救助器具がある場合それらを確認することができる。しかし、何も持たずに救助する場合、彼はもがきながら救助者を掴もうとする（仰向けにならない）。彼はプールから出るときに助けを必要とし、疲れ果てている。彼は自分だけの力では上がれない。

判定の注意点：泳げない人は危険が差し迫った状態にあり、救助の最優先対象となる。彼は救助器具を持たないまま近寄ってくる救助者を直接掴もうとする。何も持たずに救助する場合、採点項目の救助の欄には得点は一切記録されないものとする。彼は有効かつ効率的にプールの端まで戻されることにより安全を確保される。プールからの引き上げは慎重に行なわれるべきである。彼は尋ねられた質問には回答するが、自ら情報を与えることはない。彼はおびえているため、救急隊の到着を待つエリアを離れさせないこと。

採点の項目	得点 / 10
溺者／傷病者の認識／接近手法 泳げない人の認識（最優先）、溺者／傷病者に接近する速度 救助者による安全な接近手法	
救助 極めて慎重に配慮した救助 有効な救助、非接触（接触救助の場合、この項目では得点とはならない）	
溺者／傷病者の管理 明確で有効な質問と元気づけの言葉 救助中およびプールの端まで戻るまでの元気づけ	
陸地への引き上げ 溺者／傷病者への注意、頭部の保護 救助者の大きさと体力に合った適切な陸地への引き上げ	
溺者／傷病者の手当てとアフターケア プールの端から離れた安全な場所、可能な場合は保温と保護 安全の監視、継続的な元気づけ	
溺者／傷病者への乱暴な取り扱い－減点	
総合点	

採点の注意（審判員により 0.5 単位で採点される）

満点 10	優 7.5 - 9.5	良 5.0 - 7.0	可 2.5 - 4.5	不可 0 - 2.0
高度な技術および判定を必要とする救助行為に対しては、高い得点が与えられる。				

## サンプル採点シート

### SERC：泳ぎが下手な人

抽選番号 \_\_\_\_\_ チーム名： \_\_\_\_\_ 審判員名： \_\_\_\_\_

溺者／傷病者：友人と遊んでいた泳ぎが下手な人

彼は泳ぎの下手な人で、友人たちと遊んだあとにプールの端まで戻るのに苦勞している。彼はほかの友人たちについてくるように叫んでいるが、友人たちは見あたらない。彼は救助器具を確保することもでき、器具なしにプールの端までたどりつくこともできる。何も持たずに救助する（キャリアを含む）方法が用いられる場合、もがいて抵抗する。彼はほかの友人たちにプールの端まで泳ぐように伝わったかどうか心配している。彼自身は補助なしでプールの端にたどり着くことができる。彼は応援を頼み、119番通報し、全体にわたり協力的である。

判定の注意点：泳ぎの下手な遊泳者は迅速に救助される必要がある。彼はプールの端まで戻るように声をかけられる、または合図を送られる。彼は水中にいる間も監視される必要がある。何も持たずに救助する場合、彼はもがいてしまうため、救助に対する採点は低くなる。

採点の項目	得点 / 10
溺者／傷病者の認識／接近方法 泳ぎの下手な遊泳者だと認識し、移動させることを最優先にする 救助者による安全な接近手法	
救助 明確な指示によりプールの端まで戻ることを促す非接触救助を行なう (何も持たずに救助する場合は低得点 - この項目には最大で5得点) 水中にいる間も監視する、更なる指示が必要な場合がある	
溺者／傷病者の管理と扱い 効果的なコミュニケーション指示：ほかの溺者／傷病者を安全かつ保温する (特に彼の友人たち)	
陸地への引き上げ 安全を確保して陸地へ引き上げる 救助者の大きさや体力に合った適切な陸地への引き上げ	
溺者／傷病者の手当てとアフターケア プールの端から離れた安全な場所、可能な場合は保温と保護 観察と、継続的な元気づけ	
溺者／傷病者への乱暴な取り扱い - 減点	
総合点	

採点の注意（審判員により 0.5 単位で採点される）

満点 10	優 7.5 - 9.5	良 5.0 - 7.0	可 2.5 - 4.5	不可 0 - 2.0
高度な技術および判定を必要とする救助行為に対しては、高い得点が与えられる。				

## サンプル採点シート

### SERC：意識不明者／呼吸停止者

抽選番号 \_\_\_\_\_ チーム名： \_\_\_\_\_ 審判員名： \_\_\_\_\_

溺者／傷病者：意識不明で呼吸していない子ども（マネキン）

この子どもはプールの底にいる。彼は友人たちと遊んでいた。

判定の注意点：彼は救助の優先順位が低く、継続的な手当てを必要とする。彼を救助するために、できる限り速やかに最優先の負傷者を救助する。CPR はできる限り早く開始すべきである。得点は CPR シミュレーションの効率性および有効性に反映される。

採点の項目	得点 / 10
溺者／傷病者の認識／接近方法 負傷者の特定	
救助 救助の速度（救助の優先性を考慮する） プールの端まで戻る速度	
溺者／傷病者の管理 有効かつ効率的な搬送	
陸地への引き上げ 負傷者の慎重な取り扱い／陸地への引き上げ	
溺者／傷病者の手当てとアフターケア 効果的な CPR は回復を助ける プールの端から離れた安全な場所、観察と継続的な手当て	
溺者／傷病者への乱暴な取り扱い－減点	
総合点	

採点の注意（審判員により 0.5 単位で採点される）

満点 10	優 7.5 - 9.5	良 5.0 - 7.0	可 2.5 - 4.5	不可 0 - 2.0
高度な技術および判定を必要とする救助行為に対しては、高い得点が与えられる。				

## サンプル採点シート

### SERC：負傷した溺者／傷病者

抽選番号 \_\_\_\_\_ チーム名： \_\_\_\_\_ 審判員名： \_\_\_\_\_

溺者／傷病者：肩を負傷している意識がある溺者／傷病者  
水に落ち肩を負傷した。負傷者は落ち着いている。

判定の注意点：援助を必要とする中程度の優先度がある負傷者である。救助者は救助器具を用いるべきである。負傷者は救助器具を持つことができるが、プールから上がるときに援助が必要である。負傷者は負傷した肩に注意しながら、慎重に水から引き上げられる。彼は救助には協力せず、支援を求めたり、119番通報したりすることはない。

採点の項目	得点／10
負傷者の認識／接近方法 負傷した遊泳者で移動させるには中程度の優先順位であることの認識 救助者による安全な接近方法	
救助 明確な指示によりプールの端まで戻るよう促す 非接触救助を行う（接触救助には低い得点－この項目では最大で5点） 水中にいる間の監視、継続的な監視と手当て	
負傷者の管理 有効なコミュニケーション／指示 安心感を与えるための継続的な声かけ	
陸地への引き上げ 負傷した肩に注意しながら水から慎重に引き上げる 安全を確保し、陸地へ引き上げる（水中にいる間の監視、更なる指示が必要な場合がある） 救助者の大きさと体力に合った適切な陸地への引き上げ	
負傷者の手当てとアフターケア プールの端から離れた安全な位置、可能な場合は保温と保護 継続的な監視とケア	
溺者／傷病者への乱暴な取り扱い－減点	
総合点	

採点の注意（審判員により0.5単位で採点される）

満点 10	優 7.5 - 9.5	良 5.0 - 7.0	可 2.5 - 4.5	不可 0 - 2.0
高度な技術および判定を必要とする救助行為に対しては、高い得点が与えられる。				

## 第6章 サーフボード競技規則

## 6. サーフボード競技規則

(競技規則2020年版では省略します)

## 第 7 章 IRB 競技規則

## 7. IRB競技規則

IRB 競技の目的：

- (a) IRBドライバーとクルーの技量を向上すること（以下、あわせて「乗組員」という）、
- (b) ライフセービングにおけるパトロール業務および競技双方における安全パフォーマンスの最適化および信頼性を得るため、IRBとモーターを正確な配備および整備を乗組員に促すこと、
- (c) 乗組員によるレスキュー技術および能力を実演すること、
- (d) IRB技術と操作力について議論し、IRB技術と操作力を向上させるため、乗組員同士の団結を促進させること、
- (e) シミュレーテッドレスキューシナリオにおいて乗組員や溺者役の安全意識技術を促進させること。

### 7.1. 免責事項

IRB 競技に参加する全ての参加者は以下を理解し、同意すること：

- (a) ILS及び／又はILSメンバー団体（日本の場合JLA）は、IRB競技に参加する競技者から発せられる全ての請求行為から免除される。ILS及び／又はILSメンバー団体による請求行為、ILSやILSメンバー団体認定競技会や認定活動から生じた請求行為、関連した請求行為は別である、
- (b) ILS及び／又はILSメンバー団体による請求行為、ILSやILSメンバー団体認定競技会や認定活動の結果として生じた請求行為、それに関連して生じた請求行為（競技規則に則って実施されているのかそうでないかということになるが）については、ILS及び／又はILSメンバー団体は法律の許す範囲で免責され続ける、
- (c) (a), (b)における請求行為には、行為、訴訟、プロセス（手順）、主張、要求、損害、ペナルティー（罰則行為）、損失、費用を含む。ただし、ILS及び／又はILSメンバー団体の適切な保険ポリシーや規約、規則下で請求行為を発する権利のある人物による行為、訴訟等について出される請求行為は含まない、
- (d) この競技規則に記載されている規則は、安全性を確立し公正なシステムあるいはフレームワークを確実にする目的で作成されている。ライフセービング競技はこの規則により規定され実施されるべきである。

### 7.2. 一般条件

IRB 競技特有の規則や進行に加えて、「4.1 オーシャン競技の一般規則（特に、a), b), e) ~ j))」と同様に、チームマネージャーと競技者は下記の一般条件を熟知しておく責任がある。

#### 7.2.1. 必須安全事項

- (a) **警告**：IRB競技は本質的に危険を伴う競技である。IRB競技に出場する競技者は、自らがレース中に、脚、脊椎、首の損傷に限らず、身体運動、IRBとの接触、気温、天候と海況や溺水による危険があることを理解していなければならない。さらに、怪我あるいは死亡する事故が起こりうる、又はしばしば起こることを理解していなければならない。IRB競技に出場する競技者は全員、これらの危険性を認識及び理解し、IRB競技のもつ本質的な危険性を前提とし、容認すること。
- (b) チーフレフリーはレース開始前とレース遂行中、海況及び各種関連条件を納得していなければなら

ない。進行の補助には、ILSイベント安全ガイド (ILS event safety guide) が使用されうる。チーフレフリーは、セーフティブリーフィング時に詳細を確定しなければならない (7.2.2に記載)。

- (c) **安全手順**: コースジャッジは全ての運転, 動作, 安全手順及び技術を監視する。これらの動作及び技術が安全でない, 危険又は規則に反していると判断した場合, コースジャッジは問題のある競技者(たち)を即座に失格, もしくは安全違反を発令する権利がある。さらなる罰則, 又は規律委員会への付託も勧告されうる。
- (d) **器材の安全**: スクルーティニアとジャッジは, 全ての器材がどのように競技中に使用されているかを監視し, 競技中のいかなる時も, 安全でないあるいは危険な器材の修理や代用品を要求する権利を与えられている。
- (e) **ヘルメット**: 認可された (EN1388又は同等の) 水上ヘルメットの着用は, 全ての種目においてドライバー, クルー, 溺者役に義務付けられている。IRBの溺者役は練習中も競技中もヘルメットを着用しなければならない。ヘルメットの下にキャップを着用することは義務付けられていない。「2.10.1 競技用キャップ及びヘルメット」, 又は「8. 設備及び器材の規格と検査手順」も確認すること。
- (f) **PFD (Personal Flotation Devices)**: 認可されたPFD (ISO12402.5 PFD-レベル50又は同等のもの) の着用は, 練習中も競技中もドライバー, クルー, 溺者役に義務付けられている。目立つベストをPFDの下に着用することは義務付けられていない。「2.10.3 ライフジャケット及びPFD」, 又は「8. 設備及び器材の規格と検査手順」も確認すること。
- (g) サインやバナーは, 50 mの緩衝地帯を設け, 競技エリアの両側に表示する。これらはIRBの練習を示す時に使用されるサインと同様のものであることもあり, サイン又はバナーは最小でも1 m × 1 mなければならない。バナーに表記される文字は英語, もしくは主催国の公用言語でなければならない。例えば:

**注意! 近づくな! 訓練中!**

(CAUTION - KEEP CLEAR - POWER RESCUE BOAT TRAINING)

又は

**注意! 近づくな!**

(CAUTION - KEEP CLEAR)

又は

**IRB — レスキュー競技**

(INFLATABLE RESCUE BOAT - RESCUE EVENTS) .

- (h) IRB競技に出場する競技者はILSのドラッグポリシーとドーピング・コントロールに想起される。IRBドライバーは現地国/州/省を意識しなければならない。たとえばアルコールや薬物に関連する法律を遵守しなければならない。ドライバーは, 現地の法律を破っていないことを確証するために地方自治体, 又はILSの検査を受けることがある。すべての競技者は薬物検査の被験者になりうる。

## 7.2.2. 競技前安全説明

IRB 競技が始まる前に、オフィシャル、監督、そしてチームマネージャーに対して同時に安全説明が行われなければならない。

下記の事項が含まれる：

- (a) 全ての競技者によって順守されなければならない安全手順の説明、
- (b) 溺者役のケアと水温の表示、
- (c) 競技中の緊急時及び応急処置の場所の確認、
- (d) 競技中の波と天候条件の予報と固有の危険、
- (e) 安全とレスキュープランと不測の事態に対する移転計画、
- (f) 注意は、「2.3 競技会の安全」に表記されている。

### 7.2.3. 安全性及び技術的違反

安全な運転・クルーワーク・溺者役の実践が重要視される。すべての競技者は、それぞれの種目において、安全かつコントロールされたスピード、マナーにて競わねばならず、それに違反するものは、直ちに競技資格を剥奪され、さらに／もしくは安全違反として、さらなるペナルティーも考慮される。

- (a) チーフレフリーもしくはデピュティーチーフレフリーは、安全性に欠けた行為に及んだ競技者に対して、安全性違反認定を下すことができる。この違反認定を受けた競技者及びその競技者が所属するチーム（例：乗組員・溺者役）は、違反を犯した種目において、直ちに失格となる。又、チーフレフリーは、（強制ではないが）最初の安全性違反にイエローカードを提示し、その種目の失格を通告することもできる。
- (b) どの競技においても、2つ以上の安全性違反認定を受けた競技者は、競技会全ての競技資格を剥奪される。又、チーフレフリーは、（強制ではないが）2つめの安全性違反にレッドカードを提示し、その競技会からの競技資格剥奪を命ずることもできる。
- (c) 安全性違反となったチームは、その種目において、どのようなポイントを有していたとしても、零点とされる。
- (d) 技術的違反とは、チームがその種目における安全性や棄権に関わるものではなく、規則違反をすることによって、失格となることをいう。このような技術的な失格は、その競技会における他の種目に関してそのチームの参加に影響を及ぼさない。
- (e) 技術的違反が決勝で起きた場合、該当チームはその大会要項に詳細が記載されている通りのポイント配分を受ける。

IRB 競技会における安全面及び技術的失格は、この章の最後に記載されている。

チーフレフリーもしくはデピュティーチーフレフリーは、それぞれの予選、ラウンド、決勝の直後に、失格をチームマネージャーに報告する。

### 7.2.4. 競技者の条件

ILS の IRB 競技に出場する競技者は、大会が開催される年に 16 歳以上でなければならない。あるいは、ILS 認定団体が定める年齢が 16 歳以上であればその年齢以上である必要がある。又、競技に出場することを ILS 認定団体に認められていなければならない。加えて以下の条件がある。

- (a) **ドライバー**：大会が開催される年に18歳以上であること。あるいは、ILS認定団体が定める年齢が18歳以上であればその年齢以上である必要がある。又、ILS認定団体のドライバー資格又は法令で定められた運転免許を含むそれに相当する資格を取得していること。ライフセービング団体が認める熟練したドライバーであること。
- (b) **クルー**：ILS認定団体によるクルー資格又はそれに相当する資格を取得していること。熟練したクルーであること。
- (c) **溺者役**：ILS認定団体によるライフセーバーの資格やそれに相応する資格を取得していること。熟練した溺者役であること。
- (d) **ハンドラー**：競技が開催される日において、以下のことが求められる：
- ・ ILS認定団体によるライフセーバーの資格やそれに相応する資格を取得していること — 熟練したハンドラーであること、
  - ・ 同じクラブメンバーであり、選手登録をしていること — ただし、チーフレフリーが認めた場合、他クラブメンバーがハンドラーを行うことも可能とする — 他クラブのメンバーがハンドラーを行う場合も、競技会への選手登録をしていること、
  - ・ ハンドラーとして参加する際は必ずキャップ（又は認可された水上ヘルメット）をかぶること、
  - ・ 膝より深く水に入るときは、大会主催者が定めたラッシュベスト（又は承認済みのライフジャケット）を装着すること、
  - ・ オフィシャルの指示に従うこと、
  - ・ 競技者及び使用する器材が他の競技者の妨害とならないようあらゆる努力をすること — 妨害した場合は、競技者及びハンドラーともに失格となる。

#### 7.2.5. エントリー基準と代理出場

- (a) 競技者は1レース1回のみ出場可能である。つまり、ドライバーが役割を変えて、クルーや溺者役で出場したり、異なるチームで出場することはできない。しかし、異なるヒートにおいて、競技者の役割を変えてもよい。代理出場は、チームメンバーが選手登録しており、かつ異なるチームメンバーとして同じ種目に出場していない場合に限り認められる。
- (b) 種目の特別な状況が明示されない限り（ライフセービング世界選手権のIRBナショナルチームなど）、男子及び女子のIRB競技において、IRB溺者役は男女の区別はない。

#### 7.2.6. 器材の要件、器材検査及び適合

- (a) ILS世界選手権では、主催者である組織委員会が完全に装備されたIRBを提供する。他の競技会では、主催者がIRB競技器材を提供するか、もしくは競技者が自らの器材を用いるかを決め、案内する。
- (b) すべてのIRBと器材は、ILSの設計書・仕様書に沿ったものでなければならず、仕様書に沿ったものを使用しているかのコンプライアンスと、安全性を担保するために、検査の対象となりうる。
- (c) ビデオカメラは、「8. 設備及び器材の規格と検査手順」に詳しく記載されている要件を満たす限

り、IRBに搭載してもよい。IRBドライバーを除き、競技開始から終了までビデオカメラを競技者が身に着けたり装着してはならない。

IRBドライバーは、カメラが装着器具の上に付属、又は製造者が推奨するストラップで止められていれば、本人のヘルメットの上にビデオカメラを装着してもよい。

#### 7.2.7. コース

- (a) IRB競技のコースは図表にて詳細に示され、チーフレフリーの裁量で定められる。
- (b) レーンはビーチポジションマーカーの直線上で、スタート／フィニッシュライン及び指定されたターニングブイ上に位置する。
- (c) レーンは、レーンマーカーポールによって区別され（一般的にオレンジあるいは赤色である）、水際から約10 m離れた位置に水際と平行に設置される。チェンジオーバーラインを示すポールは、チーム競技やリレー競技でタッチする際に使用される。チェンジオーバーラインの約5 m浜側のレーンの中心に、ビーチポジションマーカーが設置される。
- (d) ターニングブイは原則として干潮時のひざの深さから最低120 m沖に設置されるが、サンドバー、ホールやリップ、波の状況、風、安全面を脅かすなどの海の状況によって変化することがある。
- (e) IRBレスキュー、IRBマスレスキュー、IRBチームレスキューにおいて使用されるペイシェントピックアップブイは、ターニングブイの約10 m沖に設置される。
- (f) IRBレスキューチューブペイシェントブイはターニングブイの約25 m沖に設置される。

#### 7.2.8. コースの種類

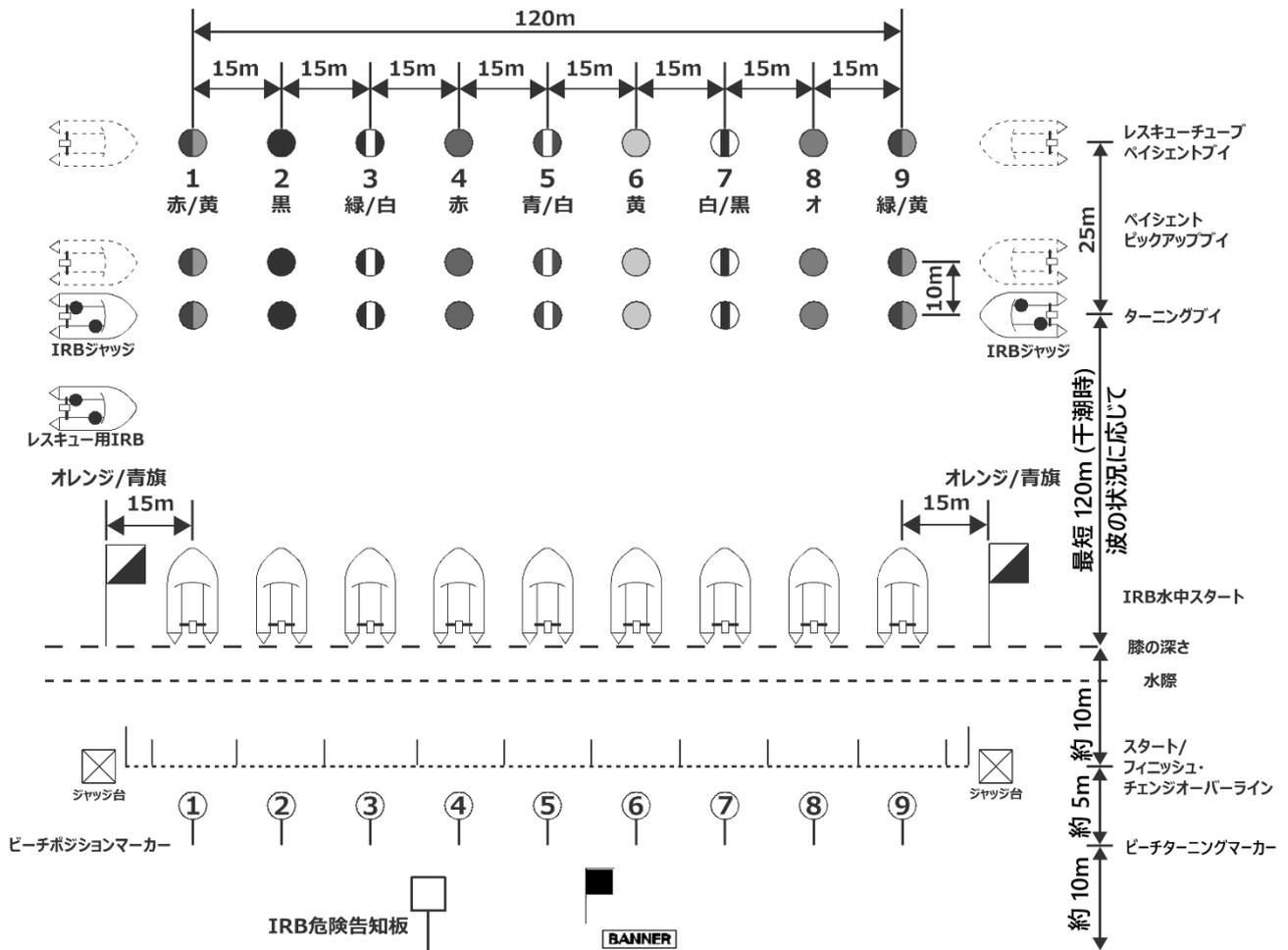
- (a) **水中スタート**：レフリーが水中スタートすべきと判断した場合、スタート／フィニッシュラインは波打ち際から10 m離れることが望ましい。ビーチポジションマーカーは、波打ち際から5 m離れることが望ましい。
- (b) **曲線ビーチでのスタート**：乗組員は、湾曲しているビーチの性質を考慮に入れる。
- (c) **水中フィニッシュ**：チーフレフリーが水中フィニッシュと判断しない限りは、通常（図に示す通り）、フィニッシュは砂浜の上の、競技者に割り当てられたマーカー内に設定される。水中フィニッシュでは、チームはIRBの船体のいずれかの部分が、2つのフィニッシュ旗／ポール又はフィニッシュゲートの間を海側から通過することでフィニッシュしたとみなされる。
- (d) **曲線ビーチでのフィニッシュ**：ドライバーはスタート／フィニッシュラインまで走り、両足で立った状態で、チームのビーチポジションフラッグを頭上に上げなければならない。
- (e) **電子フィニッシュ**：ドライバーは、両足でフィニッシュをした瞬間を記録するために、電子機器を有効に機能させなければならない。

#### 7.2.9. 運営とオフィシャル

- (a) 競技は、サーフ競技会とは別に、又はサーフ競技会の一環として開催され、したがって、チーフレフリーの全体的な管理下に置かれる。

チーフレフリーは、ILS競技、ILS競技規則及びIRB運営に関する関連書類についての知識を有するものとする。

(b) その他のオフィシャルは、円滑な競技運営のために任命される。加えて、専門家アドバイザー（例えば、船体やモーターの専門家など）を任命することもできる。



### 記号

- |  |  |  |   |
|--|--|--|---|
|  | エリアフラッグ オレンジ/青   |  | LANE MARKERS (RED OR ORANGE)<br>レーンマーカー (レーン境界線 赤またはオレンジ)               |
|  | PRE-START FLAG OR TIMING LIGHTS<br>グリーンのスタートフラッグまたはタイミングライト<br>緑/黄/赤 |  | BODY COLOURED BEACH FINISH & TURNING INDICATOR<br>ゴール/ターニング 表示板 (パイと同色) |
|  | I.R.B. DANGER WARNING SIGN<br>IRB危険告知板                               |  | "I.R.B. SIMULATED RESCUE EVENTS"<br>IRBシミュレーションレスキュー競技中バナー              |

### 一般的なIRB競技エリア

距離はおよその数値である。ブイの位置に応じたビーチのセットアップは海の状況により調整される。

## 7.3. 競技進行

### 7.3.1. 溺者役の位置

(a) 専用ボート (duty boat) クルーあるいは自分たちのチームが、ヘルメットをかぶった溺者役を沖に連れて行く。

- (b) 自分たちのチームで溺者役を沖に連れて行きたくても、専用ボートが溺者役を沖に連れて行くということもありうる。
- (c) 溺者役は競技開始前に、定められたペイシェントピックアップブイの位置につく。IRBレスキューチューブでは、溺者役は定められたレスキューチューブペイシェントブイの位置につく。
- (d) 溺者役は、ピックアップされるまでブイをつかんでおく。チームに有利なようにブイを動かそうとしてはならない。ピックアップの際、ブイから手を離し、必ずピックアップブイより沖側にいなければならない。
- (e) IRBマスレスキューとIRBチームレスキューでは、第2溺者役はピックアップブイの浜側で待機する。第1溺者役がピックアップされIRBがピックアップブイの浜側に移動した後に、ピックアップブイの沖側に移動する。

### 7.3.2. スタート

- (a) 競技者は全員、承認済みのヘルメットと承認済みのPFDを着用する。競技者はマーシャルエリアに集合し出場確認された後、それぞれのコースを伝えられる。ドライバーは各自のコースのカラーが分かる服を身に着ける。
- (b) ホイッスルなどでスターターから合図が出され、乗組員とIRBは水中の定められたコース上に進む。この合図はセットポジションにつくようにとのサインである。チェックスターターがスターティングポジションまでクルーを誘導することもある。  
**注意:** 乗組員がセットポジションに着いたら、スタートまでにボーナスタイムを要求することは許されない。セットポジションについた後、IRB器材が波の影響などで損傷を受けた場合のみ、スタート前にチーフレフリーが損傷したIRBを交換したり、迅速に修理することもある。
- (c) 任意の権利であるがチーフレフリーの指示があれば、乗組員はレースのスタート時にボーナスタイムを要求することができる。各レースにおいて、1分単位で各クラブ最大5分のボーナスタイムが認められる。
- (d) IRBをそれぞれのスタート／フィニッシュマーカーの前に、まっすぐに置く。
- (e) IRBをセットポジションにする際、最大2人のハンドラーが、サポートしてよい（コンディションが悪ければ、チーフレフリーの判断で人数を4人まで増やすこともある）。セットポジションとは、IRBが安定し、船首が波と直角に沖を向いた状態で、チーフレフリーが定めたスタートができる十分な深さのコース上にあるということである。モーターのギアは入っていても入ってなくても構わない。
- (f) ドライバーとクルーは、スタートラインの上又は後ろにつま先があるようにし、それぞれのビーチマーカー（コースを示すサイン）に隣接して位置につく。コースごとに色つきのベストなどがある場合はチーフレフリーの指示でそれを着用する。
- (g) スターターの合図で、ドライバーとクルーはスタート／フィニッシュラインを超え、IRBに向かう。
- (h) スタートの合図の際、ハンドラーはIRBの片側に立ち、少なくとも片方の手でIRBの側面を掴む/コントロールしていなければならない。又、ハンドラーはモーターや燃料、燃料経路、セーフティチ

ェーンに触れていてはならない。もしハンドラーがIRBの片側から動いたとしても、IRBの側面に触れていれば、ペナルティーにはならない。

- (i) スタートの合図後、ハンドラーはIRBの位置する水深を保つ、船首が波と直角に沖を向いているようにする、といった目的でIRBを動かしてもよいが、ドライバーやクルーがIRBに乗り込むのを助けるために船首の向きを変えてはならない。ドライバーかクルーのどちらかが最初にIRBに触れたら、ハンドラーはIRBを動かしてはならない。又、その際にセットポジションにIRBがあるようにする。
- (j) ドライバーか乗組員のどちらかがIRBに触れた後も、ハンドラーは自らの裁量でIRBに触れていることができる。しかし、IRBが動き出す前に安全に移動しなければならない。
- (k) ドライバーとクルーは、自分たちの方法で、IRBに適宜乗り込むことができる。乗り込みはドライバーとクルーの責任で行われるため、競技者はスタートに対して抗議することはできない。
- (l) モーターを始動する前にドライバーは完全にIRBに乗っている。ドライバーのみがモーターをかけることができ、クルーはモーターがかかったときにはIRBに触れていなくてはならない。
- (m) ギアはフォワードの状態でも、ニュートラルの状態でも構わない。ギアをフォワードにした状態で片方の手でモーターをかける場合は、スロットルをもう片方の手で握らなくてはならない。両方の手でモーターをかける場合モーターはニュートラルでなくてはならない。
- (n) モーターがかかっているとき、又、モーターをかけたらずぐに、IRBを制御し、安全な状態で動かさなくてはならない。
- (o) スタートの合図が出てからは、ドライバーだけがモーターを触ることができる。

### 7.3.3. ブイへの進行と戻り

- (a) 沖へ向かう道筋はドライバーとクルーが決めてよい。
- (b) IRBに乗り込んだ後、ドライバーとクルーは下記に述べる「ノーマルポジション」を維持しなくてはならない。安全のマナーであり、3つの安全ポイントは常に守られなくてはならない。

**ノーマルドライバーポジション:** 左あるいは右足をフットストラップにかけて、左手はIRBについているドライバー用のバンドストラップを、右手はモータースロットルグリップをつかみ、ポンツーンの上に座る。

**ノーマルクルーポジション:** 左足をフットストラップにかけて（右足は任意）、左手でパウロープハンドルを掴み、右手でポンツーンの内側にあるハンドルあるいはライフラインロープを掴み、ポンツーンの上に座る。

**ノーマルペイシェントポジション:** IRBの中でしゃがみこみ、少なくとも片方の手でライフラインロープを掴む。溺者役はIRBの底とポンツーン上には座ってはいけない。

- (c) 上記のノーマルポジションの例外は下記である。どんな時でもIRBと接触する3つのポイントを維持しながら、ノーマルポジションから移る際は安全な方法でおこなう：
  - ・ モーターが電氣的に動かなくなった場合、ドライバーとクルー（もしくは、ドライバーかクルー）はノーマルポジションから離れIRBを浜辺の上に引き上げてもよい — あるいは、IRBが動いている場合はニュートラルにしてよい、

- ・ クルーは、波やうねりを超える衝撃を和らげるため、座っている状態から立ちあがってもよい、
- ・ クルーは、海に出る際、「ロックインポジション」に移動してもよい。大きな波にあたる場合も含まれるが、これに限定されない。

**注意:** ロックインポジションとは、乗組員がIRBに沿ってストリームラインの体勢をとり、船体とより密着することである。このポジションは安全な体勢とされており、乗組員が必要と判断した際はいつでも行うことができる。ロックインポジションは、波がIRB上に崩れ落ちてきそうな場合によく使われる。

ロックインポジションを取るには、乗組員は左手でバウロープハンドルを握り、腰の後ろでお尻より少し下向きに引っ張り、きつく張った状態にする。左手でポンツーン右舷側のハンドルかライフラインロープを握ってもよい。最も重要なことは、バウロープをきつく張った状態にすることである（コントロールしやすくするため）。乗組員はロープが張った状態を維持するために船尾肋板の方向に腰を捻る。クルーの「ロックインポジション」は以下を含む：

- ・ 左足を乗組員のフットストラップにかける。足は少し曲げてまっすぐ固定はしない。波にぶつかる際は左足を前方方向に蹴る、
- ・ 右足及び右膝は波よけカバー（spray dodger）の下で曲げておく（可能であれば）。右足はポンツーンの反対側に位置する燃料の上/波よけカバーの下に置く。
- ・ バウロープDリングから約200 mm離れているバウロープの4つの結び目のうち、1つを右手でつかむ、
- ・ 左手でバックバウロープハンドルを握る。
- ・ 頭をまっすぐにして前を向き（横ではなく）、近づいてくる波を直視する。脊椎の整合は常に保たれていなければならない、
- ・ 右肘は胸の近くに引き寄せ、右肩を波よけカバーの上に置けるようにする。肘には寄りかからないことが推奨される、
- ・ IRBが海上から離れる場合は、ロックインポジションを維持し、体への衝撃を最小限に抑える。

**注意:** この詳細は、詳しい審査条件を表すものではなく、クルーが安全に競技を行うことを目的に明記している。

ターン時あるいは浅瀬に対応するためには重心を移動させてよい、

クルーはブイを回るために重心を移動させたり、安全支点を調整してもよい、

クルーは溺者役のピックアップの際、ノーマルポジションから離れてよい、

ドライバーはレスキューチューブピックアップの際、ノーマルポジションから離れてよい、

レースの最後に浜に到着する際、クルーはIRB内で背筋を伸ばして座っている必要はないが、スリーポイントを維持し着座していなければならない、

チームメンバーがそれぞれのノーマルポジションから離れないよう、ドライバー、クルー、溺者役

は、各自のノーマルポジションから瞬間的に移動してもよい。

- (d) ドライバーとクルーは、IRBを安全かつ制御範囲内で確実に動かせるよう、競技中どんなときでもIRBの制御をしていなければならない。バウロープを離すことはSafety DQ（安全面における失格）である。
- (e) ブイに向かっている際、前方にいるIRBは正しい航路で進み、後方のIRBは衝突を防ぐためにターンしたり航路をあける。
- (f) 浜に戻る際、波に押された危険な状態でIRBが運転されてはならない。又、ドライバー、クルー、溺者役が落ちるようなことがあってはならない。

#### 7.3.4. ブイまわりとピックアップ

レスキュー、マスレスキュー、チーム競技におけるターンと溺者役のピックアップは、以下である。

- (a) 乗組員は、他のIRBの走行を妨害したり正規のコースから逸脱させようとして、幅広くコースをとったり、遅れてターンをしてはならない。
- (b) すべてのブイを、IRBのポートサイド（左側）から反時計回りに回る。ペイシェントピックアップブイをターンするとき、ポンツーンの下にブイを沈めてはならない。

**注意：**ターンとピックアップの際、ブイが完全に水中に沈んだ場合、失格となる。

- (c) IRBは指定されたターニングブイを360度回る。又、ペイシェントピックアップブイでは、ポートサイドから溺者役をピックアップする。
- (d) レスキューチューブレース以外では、溺者役をピックアップする際、溺者役はIRBの方を向き、ピックアップにそなえる。溺者役は両手を組んだ状態あるいは片方の手首をもう片方の手でつかんだ状態でピックアップされなければならない。
- (e) 溺者役は安全な方法で、IRBのポートサイドからピックアップされ、かつ、その行為はピックアップブイの海側で行われなければならない。ドライバーとクルーはどちらも、溺者役のピックアップを手伝ってよい。
- (f) 溺者役のピックアップが完了したら、IRBはピックアップとターンを確実にを行い、ピックアップブイの浜側に移動し、ターニングブイを左側にみながら浜に戻る。マスレスキューでこの手順は第2溺者役のピックアップの際にも繰り返される。

溺者役のピックアップは、溺者役の体が完全に水から上がったときに完了したとみなされる（ただし、完全にボートの中に入りきらなくてもよい）。IRBレスキューチューブを除いたすべてのIRB競技は、ペイシェントピックアップブイの浜側にIRBが完全に移動する前に、溺者役のピックアップが完了していなければならない。

- (g) IRBは、指定されたターニングブイとピックアップブイ以外のブイを回ってはならない。
- (h) もしIRBクルーが溺者役をピックアップし損ねた場合、指定されたターニングブイをもう一度まわり、上記の手順で、溺者役のピックアップを試み競技を続けることができる。

#### 7.3.5. 退出とフィニッシュ

- (a) IRBは浜に上がったら、ドライバーがIRBから降りるまで、IRBは主に指定されたコースの中に置い

ておかなければならない。

- (b) ビーチングの時は、ドライバーはモーターをアイドリング状態に戻し、IRBが浅瀬に接地する前にモーターをとめなくてはならない。つまり、モーターのキルスイッチの作用によって、電氣的にモーターを止めなければならぬ。もしモーターのキルスイッチのセーフティストラップが使用されている場合は、モーターに接続したままにしておかなければならない。
- (c) クルーは、IRBが浜に上がる際、上体を起こして座っていなければならない、IRBのどの部分にも、寄りかかっているとはならない。
- (d) ドライバー、クルー、溺者役は、IRBが過度のスピードで浜に上がったり、不自然な角度で浜に上がったとしても、ノーマルポジションを逸脱してはならない。
- (e) ドライバー、クルー、溺者役がIRBから降りる前に、モーターは止まった状態でなくてはならない（電氣的にモーターを切る）。
- (f) 溺者役はドライバーより先にIRBから降りてはならない。クルーは、IRBの動きを安定させるため、安全な方法であれば、ドライバーより先に降りてもよいが、モーターの電源が切られてからでなければならない。モーターはギアに入っているでもいい。クルーは、降りる際にサイドリフティングハンドルを使ってもよい。
- (g) IRBから降りる際、キルスイッチでモーターを切るまで、ドライバーは両足をIRBの床の上に載せていなければならない。エンジンはニュートラルでなくてもよい。
- (h) 両方の足がIRBの外側に出るまで、ドライバーは座ったままでなければならない。「外側」の定義はポートサイドのポンツーンの中心線を過ぎてのことである。
- (i) ドライバーはIRBフロントリフトハンドルの後ろから降りなければならない。降りるときにIRB又は床板から飛び降りてはならない。
- (j) ドライバーは安全で制御された方法で降りなければならない、テクニックが不十分であるかIRBが過剰な速度で接地されているという理由で、降りる際に倒れてはならない。退出プロセスとは、ドライバーがノーマルポジションを離れるときから、IRBの接地、乗り上げ、前進速度の勢いが消失した後、通常のランニング状態に落ち着く（例えばつまづくことなく）ことまでのことを指す。倒れるとは、足以外のドライバーの身体部分が地面に接触することを指す。
- (k) ドライバーがスタート／フィニッシュラインまで走っている間、クルーはIRBをコントロールできる。溺者役も、IRBをコントロールするクルーをアシストすることができる。
- (l) フィニッシュは、ドライバーの足がスタート／フィニッシュラインを通過するときに、ドライバーの胸がスタート／フィニッシュラインを過ぎた時点で判定される。

**注意:** IRBチームは、すべてのチームがフィニッシュするまで、終了時に立った状態でスタート／フィニッシュラインから離れていなくてはならない。これはジャッジプロセスの助けとなる。

別段の指示がない限り（例えば、「7.2.8 (c) 水中フィニッシュ」）、チームはフィニッシュ結果を記録するために、IRBを運転してフィニッシュラインを横切ってはならない。ドライバーはIRBの外に出てフィニッシュラインを越えなければならない。もしIRBがフィニッシュラインを越えてしまったら、ドライバーはIRBから出てスタート／フィニッシュラインの海側に進み、もう一度スター

ト／フィニッシュラインを越えればフィニッシュした結果を残すことができる。

### 7.3.6. チェンジオーバー（マス、チーム、リレー種目のみ）

- (a) すべてのチェンジオーバーの間、クルーはIRBに常に触れた状態かつ安全な方法でIRBを制御しなくてはならない。関連する種目の説明に詳述されているように、クルーと溺者役はIRBの方向転換をし、ドライバーがIRBに乗り込みやすい角度にボートを安全な方法で置くことができる。

#### 注意：

1. チェンジオーバーの間、ドライバー、クルー、溺者役は、IRBからの降り方について、7.3.5に記述されている方法に従わなければならない。
  2. IRBは主に指定されたコースの中から再出発しなければならない。しかし、他のチームの妨害にならない範囲内でIRBの向きを変える場合は、コースから出てもペナルティーはない。
- (b) チームリレーでのチェンジオーバーの際は第1ドライバーと第2ドライバーは見える様にタッチをする。これを行うために、第1ドライバーはスタート／フィニッシュラインに進み、ビーチポジションマーカ（7.2.7 (c)参照）を回り、第2ドライバーにタッチをする。第2ドライバーはチェンジオーバーラインの浜側又はライン上につま先を置き、完全停止状態ではなくても良いが、必ずチェンジオーバーゾーン内で交代が行われなければならない。

#### 注意：

1. チェンジオーバーの際は、チェンジオーバーゾーン内に引き継ぐ競技者と引き継がれる競技者の両者の足が入っていなければならない。ゾーン内において足が地面に接地している必要はない。
2. 引き継ぎが上記内容で行われていれば、引き継ぐ側の競技者の胴体や手足がビーチポジションマーカを超えていてもペナルティーはない。

### 7.4. 競技種目1：IRB レスキュー

- (a) 各チームは、ドライバー1人、クルー1人、溺者役1人の編成である。
- (b) 溺者役は7.3.1で示された場所に位置する。
- (c) スタートは7.3.2に準ずる。
- (d) クルーは7.3.3と7.3.4に従い、沖へ進み、溺者役をピックアップし、浜へ戻る。
- (e) フィニッシュは7.3.5に準ずる。

### 7.5. 競技種目2：IRB マスレスキュー

- (a) 各チームは、ドライバー1人、クルー1人、溺者役2人の編成である。
- (b) 溺者役は7.3.1で示された場所に位置する。
- (c) スタートは7.3.2に準ずる。
- (d) クルーは7.3.3と7.3.4に従い、沖へ進み、第1溺者役をピックアップし、浜へ戻る。
- (e) ドライバーは7.3.5に書かれている通りに退出する。浜では、クルーが7.3.6に記載の通りIRBを制御し、方向転換できる。溺者役は、ドライバーが降りた後にIRBから退出する。溺者役は、IRBを方向転換し、IRBの位置を固定するクルーをアシストしてよい。

- (f) ドライバーは、スタート／フィニッシュのラインまで進み、定められたビーチのターニングポイントを回って、IRBに戻る。ドライバーも、IRBの方向転換をするクルーをアシストしてよい。第1溺者役が、IRBの方向転換・位置固定をするクルーをアシストしている場合、ドライバーがIRBに触れた後も、溺者役は自らの裁量でIRBに触れていることができる。しかし、IRBが動き出す前に安全に移動しなければならない。

**注意：**溺者役達は、競技や審判の妨げにならない場所にいないなければならない。

- (g) IRBはもう一度設置・スタートされ、クルーは7.3.3と7.3.4に記載の通り、第2溺者役をピックアップするために沖へ進み、ピックアップ後浜へ戻る。
- (h) フィニッシュは7.3.5に準ずる。

### 7.6. 競技種目3：IRB チームレスキュー

- (a) 各チームは、ドライバー2人、クルー2人、溺者役2人の編成である。

**注意：**ライフセービング世界選手権で開催される国別対抗のIRBチームレスキュー種目は、男女混合種目である。チームは、女性メンバーで構成されるチーム（ドライバー・クルー・溺者役）と男性メンバーで構成されるチーム（ドライバー・クルー・溺者役）で編成され、女性、男性の順で競技を行う。

- (b) 溺者役は7.3.1で示された場所に位置する。
- (c) スタートは7.3.2に準ずる。
- (d) 第2ドライバーと第2クルーは、チェンジオーバーラインの位置にいること。
- (e) クルーは7.3.3と7.3.4に従い、沖へ進み、第1溺者役をピックアップし、浜へ戻る。
- (f) ドライバー、クルー、溺者役は7.3.5に記載の通り、IRBから退出する。第2クルーは、ドライバーがIRBから離れたら、チェンジオーバーラインを超え、IRBへ進んでよい。
- (g) 第1クルーは7.3.6 (a)で記載の通り、IRBの方向転換をし、IRBを制御した状態でいなければならない。チーフレフリーが別の方法を認めない限り、最大で2人のチームメンバーが同時にIRBに触れ、IRBの制御をすることができる。

**注意：**第1クルー／第1溺者役は、IRBから手を離した際、IRBから離れて立っていないなければならない。

- (h) ドライバーは、スタート／フィニッシュのラインまで進み、指定のビーチターニングマーカーを回って、チェンジオーバーゾーンの中で見えるように第2ドライバーにタッチする。第2ドライバーはチェンジオーバーラインの浜側又はライン上につま先を置いた状態で、ビーチターニングマーカーよりは海側にいなくてはならない（チェンジオーバーゾーン内）。第2ドライバーは完全停止状態でも良いが、必ずチェンジオーバーゾーン内で交代が行われなければならない。
- (i) 交代の後、第2ドライバーは水際まで進み、IRBを乗り出し、スタートする。第2ドライバー又は第2クルーがIRBに触れた後も、第1クルー又は溺者役は自らの裁量でIRBに触れていることができる。しかし、IRBが動き出す前に安全に移動しなければならない。

**注意：**第1クルー及び第1溺者役は、競技や審判の妨げにならない場所にいないなければならない。

- (j) 第2クルーは7.3.3と7.3.4に従い、沖へ進み、第2溺者役をピックアップし、浜へ戻る。
- (k) フィニッシュは7.3.5に準ずる。

#### 7.7. 競技種目4：IRB レスキューチューブ

- (a) 各チームは、ドライバー1人、クルー1人、溺者役1人の編成である。
- (b) 溺者役は7.3.1で示された場所に位置する。
- (c) この種目に限っては、レスキューチューブは通常のポジション、又はクルーのバウロープにハーネスを付けた状態で波よけカバーの下に置いてよい。レスキューチューブに何らかの変更等を加えることは禁止される。
- (d) スタートは7.3.2に準ずる。
- (e) 波を越えた後、クルーは安全なポジションを保ちながら、ブイを回る前にレスキューチューブハーネスを安全に装着する。
- (f) IRBはターニングブイを反時計回りで回り、溺者役のピックアップを開始するまで、IRB全体がターニングブイの浜側にあるようにする（7.7 (i)参照）。
- (g) IRBがターニングブイを回ったら、クルーはターニングブイを左側にみた状態を維持しながらポートサイドから入水する。レスキューチューブはクリップを外した状態でしっかりと掴まれた状態であればならない。レスキューチューブのハーネスやストラップなどどの部分も、IRBやドライバーにぶつからないよう注意する。
- (h) クルーは、指定されたターニングブイ、ペイシェントピックアップブイ、レスキューチューブペイシェントブイをクルーの左側にみながら、それぞれの溺者役のところまで泳ぐ。
- (i) レスキューチューブは、クルーあるいは溺者役によって、溺者役の両腕の下でつけられなくてはならない。溺者役がレスキューチューブを自分自身に巻くこともできる。クルーは、レスキューチューブペイシェントブイの浜側に溺者役が移動するまでにレスキューチューブをオーリングにかけられていれば、泳ぎ続けてよい。
- (j) クルーは、ペイシェントピックアップブイを180度反時計回りに回り、ペイシェントピックアップブイとターニングブイを左側にみた状態で溺者役をIRBまで引っ張る。溺者役は、キック及び水中で腕を使用しカーリングしてよいが、水上に腕を上げて泳いではならない。又、うつ伏せの状態では引っ張られてはならない。足・手用のフィンやその他認められていない器具を使用してはならない。
- (k) クルー又は溺者役がIRBに触れた時点で、溺者役のピックアップが開始されたとみなされ、IRBはターニングブイの海側へ移動してよい。
- (l) ドライバーはクルーと溺者役がIRBに乗り込むのを手伝ってよいが、クルーと溺者役はIRBのポートサイドからIRBに乗り込む。ドライバーはモーターがニュートラルに入っていれば、モーターグリップを手放し、乗り込みを手伝うことができる。  
**注意：**クルーは溺者役よりも先にIRBに乗り込むことができる。逆も同様。
- (m) IRBはターニングブイを反時計回りに回る。

- (n) レスキューチューブは、溺者役に装着された状態で、クルーはハーネスをとり溺者役に渡す。溺者役は、ドライバーがIRBを降りる前にストラップとハーネスを持っていなければならない。溺者役はしっかりとハーネスとストラップを掴み、IRBの中のものにぶついたり、トランサムを越えて伸ばしたり、セルフペイラーに巻き込んだりしないようにしなければならない。
- (o) クルーは7.3.3に記載の通り、浜に戻る。
- (p) フィニッシュは7.3.5に準ずる。

## 7.8. 失格

競技者は全ての大会の進行，説明，規定及び/又は競技規則や関連の案内，告示に含まれる他の事項に応じていないことが見つかった場合，失格者と判定される。IRB競技の安全面における失格及び技術的な要素における失格は以下に述べる。

## IRB競技失格コード表

TDQ – 技術的な要素における失格 (Technical Disqualification)

SDQ – 安全面における失格 (Safety Disqualification)

A. スタート	DQタイプ
A1 – ドライバー又はクルーが不正スタートをした場合。	TDQ
A2 – IRBが指示通りに位置されていない, 又は乗組員のフィニッシュマーカの前ではない場合。	TDQ
A3 – 競技が始まる時点で, IRBの船首が海側に向いていない場合。	TDQ
A4 – ハンドラーがIRBを出発させるクルーを手伝った場合。	TDQ
A5 – ドライバーがIRBの外でモーターを起動させた場合。	SDQ
A6 – ドライバーが両手でスターターロープを引く際, モーターがニュートラルでない場合。	TDQ
A7 – ドライバーがモーターを起動させるときに, クルーがIRBに触れていない場合。	TDQ
A8 – スタート時点, 又はスタート後にIRBが制御できない状態, もしくは危険な状態で動いている場合。	SDQ
A9 – モーターにギアが入っている状態, 又はモーターが起動している状態でドライバーがIRBを押ししたり引っ張ったりした場合。	SDQ

B. ブイの行き来	DQタイプ
B1 – 運転あるいはクルーの技術により, IRB内ではあるが, 競技者がノーマルポジションから逸脱した場合。	SDQ
B2 – 危険な方法で波にぶつかる, 又はドライバーかクルーがIRBから落ちてしまった場合。	SDQ
B3 – IRBが指定されたブイと違うブイを回った場合。	TDQ
B4 – 先頭のIRBには先行権がある; 後続のIRBが回避行動をしなかった場合。	SDQ
B5 – 他のIRBの走行を妨害したり正規のコースから逸脱させようとして, 幅広くコースをとったり, 遅れてターンした場合。	TDQ
B6 – IRBの左側にターニングブイをみるようにして浜に戻らなかった場合。	TDQ
B7 – クルーメンバーあるいは溺者役が競技進行中にIRBから離れてしまった場合。	SDQ
B8 – IRBに触れてはいるが, ドライバーあるいはクルーがIRBを制御できていない場合。	SDQ
B9 – IRBが正規のコースを完走しなかった場合。	TDQ
B10 – IRBが指定されているターニングブイを360度回転しなかった場合。	TDQ
B11 – 浜に戻る際, 危険な方法で波に乗ったり, ドライバー, クルー, 溺者役がIRBから落ちてしまった場合。	SDQ

### C. 溺者役の引き上げ

### DQタイプ

C1 - 溺者役のピックアップがペイシェントブイの海側から開始されていない場合。	TDQ
C2 - 溺者役がIRBのポートサイドから引き上げられていない場合。	TDQ
C3 - ドライバー、クルー、又は溺者役がIRBに触れていない場合。	SDQ
C4 - 溺者役/クルーメンバーが安全にピックアップされなかった場合（つまり、溺者役のピックアップが規定通りに行われていない）。	SDQ
C5 - IRBが指定されたブイと異なるターニングブイ又はペイシェントピックアップブイを回った場合。	TDQ
C6 - 溺者役のピックアップ時にブイがポンツーンの下敷きになり、正しい側に浮上しなかった場合。	TDQ
C7 - IRBがターニングブイあるいはペイシェントピックアップブイを時計回り（右回り）に回った場合。	TDQ
C8 - IRBが溺者役のピックアップに失敗した際、ペイシェントブイで溺者役のピックアップを再試行する前にターニングブイを180度回らなかった場合。	TDQ
C9 - ドライバーあるいはクルーが溺者役をIRBに乗せることができなかった場合。	TDQ

### D. IRBレスキューチューブ種目

### DQタイプ

D1 - クルーが入水する前にIRBがターニングブイを回っていない場合。	TDQ
D2 - クルーがIRBの左舷側のポンツーンより入水しなかった場合。	TDQ
D3 - クルーが正しい方法でIRBから離れなかった場合。	TDQ
D4 - レスキューチューブのフックがクリップされた状態で、クルーが溺者役に到着した場合。	TDQ
D5 - クルー/溺者役が指定されたブイを反時計回りに泳いでいない場合。	TDQ
D6 - 溺者役がレスキューチューブにオーリングを用いて巻かれていない場合。	TDQ
D7 - 溺者役がうつ伏せの状態で引っ張られている、あるいは腕を水面上にあげる動きをした場合。	TDQ
D8 - 溺者役又は乗組員がIRBに触れていないにも関わらずIRBがターニングブイの浜側に残っていない場合。	TDQ
D9 - クルー/溺者役がIRBのポートサイドから乗船しなかった場合。	TDQ
D10 - IRBが溺者役のピックアップ後、ターニングブイを反時計回りに回らなかった場合。	TDQ
D11 - 溺者役がレスキューチューブを胴回りに巻きつけていない、あるいはハーネスを競技終了時点で確保していない場合。	TDQ

## E. チェンジオーバー – IRBマス/チーム種目

## DQタイプ

E1 – モーターが起動している状態でドライバーがIRBを離れた場合（エンジンキルスイッチを稼働させていない）。	TDQ
E2 – ドライバーがIRBを離れた後にクルーがキルスイッチをセットし直した場合。	TDQ
E3 – ドライバー、クルー、溺者役が規則に従ったチェンジオーバーをしなかった場合。溺者役がIRBの向きを変えることは現在認められている。	TDQ
E4 – IRBのモーターが停止される前に溺者役がIRBを離れた場合。	TDQ
E5 – チェンジオーバーの際に、ボートが浜にぶつかった勢いで、ドライバー、クルー、溺者役がIRBから落ちた場合。	SDQ
E6 – 競技者が危険な方法でボートから降りた場合。	SDQ
E7 – ドライバーあるいはクルーが、規則で定められている方法でチェンジオーバーしなかった場合。	TDQ

## F. フィニッシュ

## DQタイプ

F1 – モーターが起動している状態でドライバーがIRBを離れた場合（エンジンキルスイッチを稼働させていない）。	TDQ
F2 – ドライバーがIRBから正しく降りなかった場合。	TDQ
F3 – ドライバーがIRBを指定されたコース外から浜に乗り上げた場合。	TDQ
F4 – IRBのモーターが停止される前に溺者役がIRBを離れた場合。	TDQ
F5 – ドライバーがフィニッシュラインを足で通過しなかった場合。	TDQ
F6 – 競技終了時、IRBが強く浜にぶつかり、ドライバー、クルー、溺者役がIRBから落ちた場合。	SDQ

## G. 全体

## DQタイプ

G1 – ドライバーが危険行為をした場合。	SDQ
G2 – クルーが危険行為をした場合。	SDQ
G3 – 溺者役が危険行為をした場合。	SDQ
G4 – クルーがバウロープを掴んでいない場合。	SDQ



## 第 8 章 設備及び器材の規格と検査手順

## 8. 設備及び器材の規格と検査手順 (Facility and Equipment Standards and Scrutineering Procedures)

### 8.1. プール施設規格 (Pool Facility Standards)

全てのライフセービング世界大会は、ILS規格に沿った8レーン(最小)50mのスイミングプールで実施される。施設の計測はILS管理委員会(ILS Management Committee)により任命又は承認された者により認証されなければならない。

#### 8.1.1. 検査手順 (Scrutineering procedure)

- (a) ILSが管理する競技種目(例えば、ライフセービング世界選手権、ワールドゲームズ)に関し、組織委員会により任命された者が、プール検査証明書の以下の仕様を審査する：
- ・ プールの長さ、幅、深さ、レーンの幅とロープ、スタートプラットフォーム、電子計時機器、等。
- (b) 係る証明書がない場合、ILS管理委員会により任命された者は、プール施設がILSの施設規格に適合するか検査する。更に、以下の器材が検査される：
- ・ 障害物、レスキューチューブ、スローライン、マネキン、
  - ・ マネキンプラットフォーム(深さをチェックしてプラットフォームが浅すぎないことを確認することを含む)。
- (c) 必要とされる最低限の測定器材：テープメジャー(1mm単位で最低50mのもの、深度を測定する棒又はポール)。
- (d) ILS認定競技に関し、認定の申請には、競技に使用するプール及び全ての器材がILS規格に適合していることを競技会主催者が宣告する必要がある。

#### 8.1.2. 長さ (Length)

プールは、スタート端の全自動審判計時装置のタッチパネルと折返し端の壁又はタッチパネルとの間を50mとする。各レーンの許容誤差は、プラス30mm及びマイナス0.00mmである。

#### 8.1.3. レーン (Lanes)

少なくとも2.5m幅で少なくとも8レーンで、第1及び最終レーンの外側に少なくとも200mmずつのスペースがあるべきである。各レーンの両側にはコース全長に渡ってレーンロープを張ること。各レーンロープは、最小直径50mmから最大直径150mmまでのフロートを、端から端まで配置したものである。レーンロープはしっかりと張られていること。

#### 8.1.4. スタートプラットフォーム (Starting platform)

プラットフォームの高さは、水面から500mmから750mmまでとする。表面積は少なくとも500mm×500mmで、滑り止め材で覆われているものとする。最大傾斜は10度を超えないこと。スタートプラットフォームには、位置が調整可能なバックプレートと、プラットフォームスタート及び水中スタートのためのスタートンググリップ(starting grips)が付いていてもよい。必要とあらば、スタートンググリップ等の突端を覆うこと。

#### 8.1.5. 全自動審判計時装置 (Automatic officiating equipment)

プールには、各競技者のタイムを記録し、レースイベントでの各競技者の順位を決定するための全自動審判計時装置が設置されていること。

### 8.1.6. 水

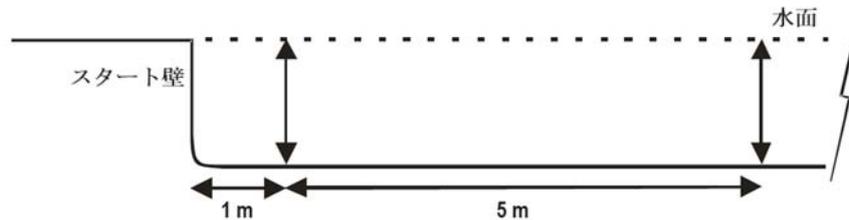
プールの水は、ホスト国の地域で適用可能な保健規則の透明度規格、細菌及び化学規格に適合すること。水温は摂氏 25 度から 28 度までであること。

### 8.1.7. 深さ

実施される各競技種目に対し、プールは、ILS 競技種目それぞれに特化した深さ規格に準拠すること。競技種目での規格で特定した場合を除き、1.0 m 以上の深さが必要である。

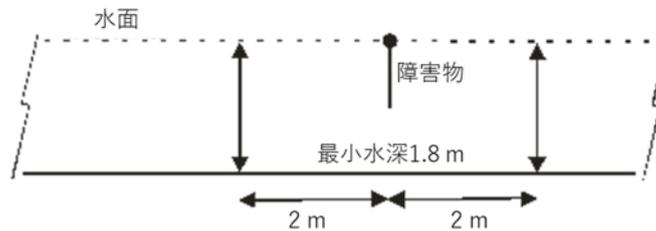
### 8.1.8. 飛び込みスタート

スタート壁から測って 1.0 m から少なくとも 6.0 m までの間は、少なくとも深さ 1.35 m とする。



### 8.1.9. 障害物スイム、障害物リレー

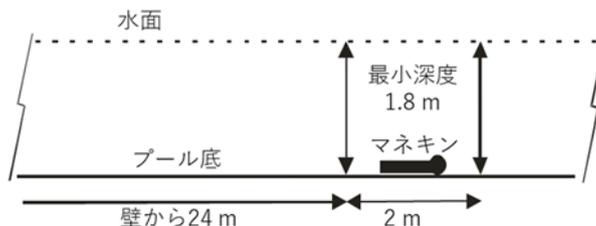
各障害物の両側 2.0 m の間は、最小でも水深 1.8 m とする。



### 8.1.10. マネキンキャリアー (50 m), スーパーライフセーバー (200 m)

(a) 壁から 24 m の位置から少なくとも 2.0 m 先までの範囲の最小水深は 1.8 m。

(b) マネキンは最大水深 3.0 m のプールの底に配置される。3.0 m より深いプールにおいては、「台 (platforms)」を用いてマネキンを水深 3.0 m に保持してもよい。



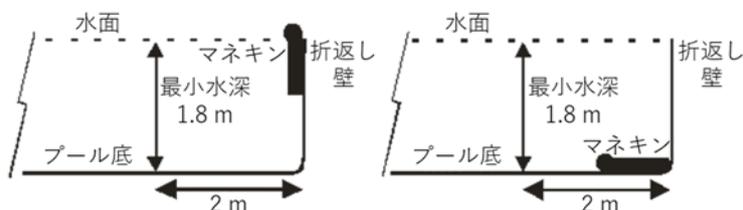
### 8.1.11. マネキンキャリアー・ウィズフィン (100 m), マネキントウ・ウィズフィン (100 m), スーパーライフセーバー (200 m), プールライフセーバーリレー (4×50 m)

(a) 折り返し壁から少なくとも 2.0 m の範囲の最小水深は 1.8 m。

(b) マネキンは最大水深 3.0 m のプールの底に配置される。3.0 m より深いプールにおいては、「台

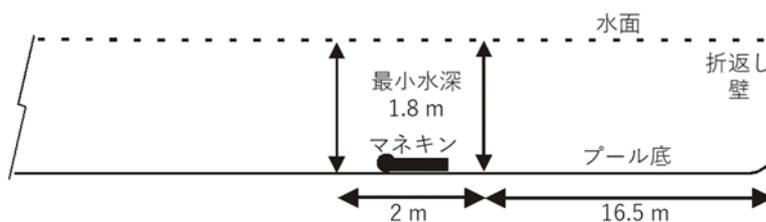
(platforms)」を用いてマネキンを水深3.0 mに保持してもよい。

- (c) マネキンキャリア・ウィズフィンにおいて、マネキンは背中がプールの底に接するように置かれ、基部（脚側）がプール壁に接し、頭はフィニッシュ側に向くようにする。
- (d) 施設の設計上、プールの底に対して90度の垂直な壁になってない場合、マネキンは可能な限り壁に近づけて配置し、水面で測定したとき壁から300 mm以内になければならない<sup>37</sup>。



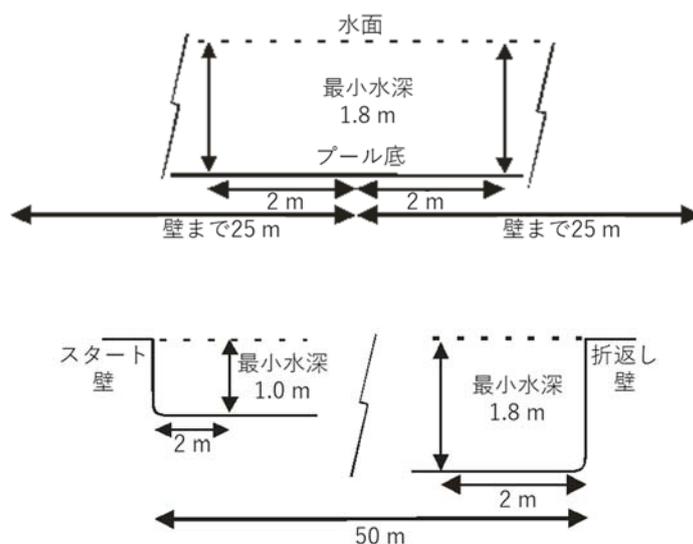
### 8.1.12. レスキュードレー (100 m)

- (a) 折返し壁から16.5 mの位置から少なくとも2.0 m先までの範囲の最小水深は1.8 m。
- (b) マネキンは最大水深3.0 mのプールの底に配置される。3.0 mより深いプールにおいては、「台 (platforms)」を用いてマネキンを水深3.0 mに保持してもよい。



### 8.1.13. マネキンリレー (4×25 m)

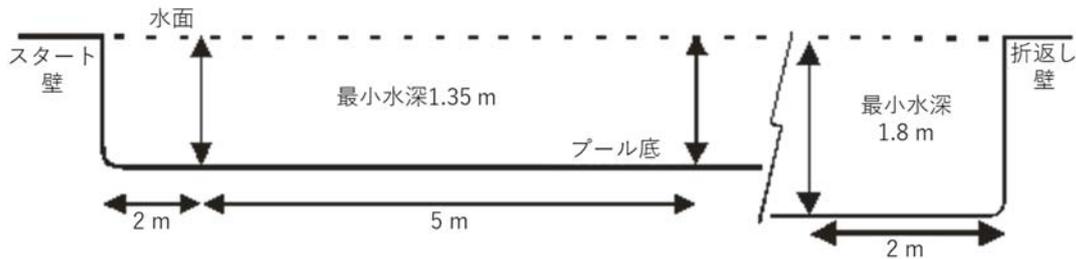
- (a) プール中央25 mの受け渡しマークの両側少なくとも2.0 mずつの間の最小水深は1.8 m。
- (b) スタート端壁での最小深度は1.0 m。
- (c) 折返し壁から少なくとも2.0 mまでの範囲の最小水深は1.8 m。



<sup>37</sup> 【JLA注釈】 JLA主催競技会では、300 mm以内になければならないのは、マネキンの基部（脚側）だと解釈する。

#### 8.1.14. メドレーリレー (4×50 m)

- (a) スタート端壁から1.0 m地点から少なくとも6.0 mまでの範囲の最小水深は1.35 m。
- (b) 折返し壁から少なくとも2.0 mまでの範囲の最小水深は1.8 m。



#### 8.1.15. ラインスロー

- (a) 硬い（曲がらない）クロスバーから少なくとも2.0 mまでの範囲の最小深度は1.8 m。
- (b) 硬い（曲がらない）クロスバーを、スタート側のプールの端から12.5m地点の水面に各レーンを横断するように設置する。許容差は各レーンに於いてプラス0.10 m、マイナス0.00 mである。

#### 8.1.16. シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技 (SERC)

SERC は、ILS 管理委員会が承認した 8 レーンある 50 m プール又は別の設計の施設で実施できる。

### 8.2. 器材の規格 (ILS Equipment Standards)

ILS/JLA が採用する器材の規格は以下のとおりである。必要に応じて許容誤差が表示される — 例えば「(±200 mm)」とはプラス 200 mm 及びマイナス 200 mm の公差が許容される。場合によっては、寸法及び重量の許容範囲として「最小値」又は「最大値」と表示される。

更に、ライフセービング世界選手権又は JLA 主催競技会で使用する全ての器材は、世界選手権ハンドブック又は競技会の要項に記載の商業的識別ポリシー (the commercial identification policy) 基準を満たさなければならない。

#### 8.2.1. 器材検査 (Scrutineering of Equipment)

器材検査の方法は競技会の公報 (bulletins) /案内 (circulars) /ハンドブック (handbook) で詳しく述べられる<sup>38</sup>。組織委員会は競技会開催中いつでも器材を再検査する権利を有する。ILS/JLA 仕様を満たしていない器材は失格の対象となるが、その器材を用いた競技者だけでなく、チームが失格になる可能性もある。

個人の器材が不適格であるとの裁定に対して抗議及び上訴することができる。

一部の器材では、設計上及び測定機器の特性のため、競技会開催前に詳細な仕様と検査が要求される場合がある。サーフスキー、ボード、IRB、サーフポート<sup>39</sup>及びマネキンには追加仕様があり、ILS ウェブサイト (<http://www.ilsf.org>) から入手できる。

### 8.3. バトン (ビーチフラッグス) (Batons (Beach Flags))

<sup>38</sup> 【JLA注釈】 JLA主催競技会の場合、競技会の要項に記される場合がある。

<sup>39</sup> 【JLA注釈】 本書ではサーフポート競技は扱わない。

ビーチフラッグス及びビーチリレーで使用されるバトンは、柔軟な素材（例えば、柔らかいホース）で、長さは最大 300 mm 及び最小 250 mm、直径は約 25 mm（±1 mm）であること。バトンは、簡単に見分けられるように色のついたものであること。

### 8.3.1. 器材検査手順

- (a) ILS/JLAが管理する競技において、組織委員会から任命された者がバトンをチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも1 m以上、1 mm刻み）。
- (b) ILS/JLAが認定する競技の認定申請書では、競技会で使用される全てのビーチフラッグスのバトンがILS/JLA規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

## 8.4. ボード (Boards)

ボードは、以下を含む ILS/JLA 仕様に準拠していなければならない：

- ・ **重量**：最小7.6 kg \*
- ・ **長さ**：最大3.2 m 。

**ビデオカメラ**：ボードにカメラを取り付ける場合、装置の製造メーカーが供給又は推奨している取付け装置及びトグルストラップに取り付けなければならない。カメラはノーズに最も近いハンドグリップ（hand grips）からノーズまでのいずれかの箇所に取り付けること。

\*カメラを取り付けるためクラフトに恒久的にはめ込まれたプラグの重量は、クラフトの総重量に含まれる。その他の暫定的に取り付けられた器具及びカメラの重量は総重量に含まれない。

詳細な仕様は[www.ilsf.org](http://www.ilsf.org)で入手可能。

### 8.4.1. 器材検査手順

- (a) ボードを検査する際、クラフトの最大長さ、最小重量及び安全性（例えば、修理の状態）についてチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺 — 10 m以上、1 mm刻み；最小荷重10 kg以上及び0.01 kg刻みの重量計。また、長さの測定及びゲージをテストする測定用「治具」を用いて、ノーズの径及び最小フィン幅及び厚さを測定することを推奨する。
- (b) 主催する組織委員会は、器材検査済証として、クラフトに貼付するスタンプ又はステッカーを提供すること。

ILS/JLA が認定する競技の場合：

- (a) 認定申請書では、競技会で使用されるためプールされている全てのボードがILS/JLA規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある、
- (b) 競技会主催者が決定したその他の検査<sup>40</sup>。

## 8.5. ボート (Boats)

### 8.5.1. IRB (Inflatable Rescue Boats (IRBs))

---

<sup>40</sup> 【JLA注釈】 その他の検査をどうするのかILS原文に書かれていない。

IRB (インフレタブルレスキューボート) とモーターは、ILS 及び主催国の仕様に合致しており、主催する組織委員会が用意すること。組織委員会は、IRB 及びモーターの仕様を競技会に先立って参加チームが入手できるようにしておくこと。

**ビデオカメラ**：IRB にカメラを取り付ける場合、装置の製造メーカーが供給又は推奨している取り付け装置及びトグルストラップに取り付けなければならない。カメラはトランサム (transom) もしくはモーターのカウル (cowling) にのみ取り付けよう。

\*カメラを取り付けるためボートに恒久的にはめ込まれたプラグの重量は、クラフトの総重量に含まれる。その他の暫定的に取り付けられた器具及びカメラの重量は総重量に含まれない。

### 8.5.2. サーフボート (Surf Boats) <sup>41</sup>

サーフボートは、以下を含む ILS/JLA 仕様に準拠していなければならない：

- ・ **重量**：最小180 kg (オール、オールロック、レスキューチューブ、及びすべてのオプション器材を除く)、
- ・ **長さ**：最小6.86 m；最大7.925 m (アウトリガーを除く)、
- ・ **ビーム**：最小1.62 m (船の中央部 (the midship section) で測定)。

**ビデオカメラ**：サーフボートにカメラを取り付ける場合、装置の製造メーカーが供給又は推奨している取付け装置及びトグルストラップに取り付けなければならない。カメラは、スプラッシュボード (フロントデッキ)、又は漕ぎ手座席の反対側のタンク、及びリアデッキに取り付けることができる。

\*カメラを取り付けるためボートに恒久的にはめ込まれたプラグの重量は、クラフトの総重量に含まれる。その他の暫定的に取り付けられた器具及びカメラの重量は総重量に含まれない。

詳細な仕様は [www.ilsf.org](http://www.ilsf.org) で入手可能。

### 8.5.3. 器材検査手順

- (a) ボートを検査する際、重量の最小値及び安全性 (例えば、修理の状態) についてチェックすること。競技者の安全のためオールもチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺 — 10 m以上、1 mm刻み；最低でも200 kg測定可能で1 g刻み<sup>42</sup>の重量計。
- (b) 主催する組織委員会は、器材検査済証として、ボートに貼付するスタンプ又はステッカーを提供すること。

ILS/JLA が認定する競技の場合：

- (a) 認定申請書では、競技会で使用されるためプールされている全てのボートがILS/JLA規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある、
- (b) 競技会主催者が決定したその他の検査<sup>43</sup>。

---

<sup>41</sup> 【JLA注釈】本競技規則ではサーフボート競技は扱わない。

<sup>42</sup> 【JLA注釈】ILS原文ではグラムの単位を“gm”としているが、SI単位表記の“g”に修正した。但し、1gでなく1kgの誤植の可能性はある。

<sup>43</sup> 【JLA注釈】その他の検査をどうするのかILS原文に書かれていない。

## 8.6. ブイ (Buoys)

オーシャン競技：オーシャン競技に用いるブイは、見分けられる色で、(海に向かって左から) 1 から番号を付すこと<sup>44</sup>。

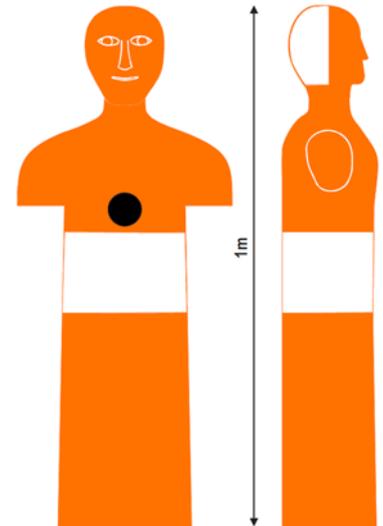
### 8.6.1. 器材検査手順

- (a) ILS/JLAが管理する競技において、組織委員会から任命された者がブイをチェックすること。
- (b) ILS/JLAが認定する競技の認定申請書では、競技会で使用される全ての器材がILS/JLA規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

## 8.7. マネキン (Rescue Manikins) <sup>45</sup>

### 構造と組成 (Construction and composition)

- (a) マネキンは、PITETタイプのプラスチック製の中空で、気密性があること (即ち、競技用に水を入れて密封できること)。プラグを使って密閉され水を一杯に注入したもの。ただし、「マネキントウ・ウィズフィン」に使用されるマネキン、及び「スーパーライフセーバー」に使用される第2マネキンは、マネキン胸部の横ラインの上部が水面と等しく浮くように水を入れる。
- (b) 素材 — ポリエチレン
- (c) 色 — オレンジ
- (d) 横ライン — マネキンの他の部分及び水と対照的な色であること。
- (e) 厚さ (Thickness) —  $944 \text{ kg/m}^2$
- (f) 流動性指数 (Fluidity Index) —  $3 \text{ dg/min}$



### 材料の力学的性質 (Mechanical properties of materials)

- (a) 弾性係数 —  $1000 \text{ N/mm}^2$
- (b) +23°Cでのアイゾッド耐衝撃性 (Shock resistance Izod) —  $19 \text{ kJ/m}^2$
- (c) -20°Cでのアイゾッド耐衝撃性 —  $6 \text{ kJ/m}^2$
- (d) 破壊抵抗 (ESCR) — (省略)<sup>46</sup>
- (e) 50 mm/min.での牽引抵抗 (traction resistance) —  $31 \text{ N/mm}^2$
- (f) 50 mm/min.での伸びの破断点 (breaking point) — > 500 %
- (g) Dスケール・ショア硬度 (hardness Shore D) — 57
- (h) ビカット軟化温度 (Vicat point of softening) —  $121^\circ\text{C}$
- (i) 融解温度 (fusion temperature) —  $128^\circ\text{C}$

<sup>44</sup> 【JLA注釈】 JLA主催競技会では、ブイを番号で呼称するものの、ブイに番号を表記しない場合がある。

<sup>45</sup> 【JLA注釈】 JLA主催競技会では、構造と組成(e), (f)及び、材料の力学的性質(a)~(i)の器材検査は省略する。

<sup>46</sup> 【JLA注釈】 ILS原文の表記が不正確な可能性があるため、詳細確認中。

### 技術的計測及び重量の仕様 (Technical measurement and weight specification)

- (a) 全高 — 1000 mm (980~1000 mm, 2 %偏差)
- (b) 腋の下の高さ — 595 mm (585~ 595 mm, 1.7 %偏差)
- (c) 高さ遷移ライン (height transition line) — 550 mm (540~550 mm, 1.9 %偏差)
- (d) ベース部の幅 — 260 mm (250~260 mm, 4 %偏差)
- (e) ベース部の奥行 — 200 mm (190~200 mm, 5.3 %偏差)
- (f) 目の位置での頭回り — 590 mm (570~590 mm, 3.5 %偏差)
- (g) 腋の下での胸囲 — 800 mm (780~800 mm, 2.6 %偏差)
- (h) 底から1 cmのベース部の周囲 — 840 mm (820~840 mm, 2.4 %偏差)
- (i) 完全に水に沈んだ状態での重さ — 1500 g (1450~1500 g, 3.4 %偏差)

### 身体的特徴 (Physical features)

- (a) マネキンは人間に似ていなければならない、レスキュー及び組成に必要な人類学的特徴を持っていないなければならない。頭部は以下の特徴が必要：目、鼻、口、あご先 (chin)、あご (jaw)、及び喉。胴体には、胸部、胴体からの上肢芽 (arm buds)、腹部 (abdomen)、及び骨盤 (pelvis) が必要。
- (b) マネキンがプールの底から回収される競技種目では、マネキンは背を下にして深さ2.0 mで動かないことが必要である。マネキンは、4時間その状態のまま、水又は空気が漏れないことが求められる。マネキンに充填孔及びプラグがある場合、それらは重点及び排出が容易なように配置され、水及び空気を通さないこと。マネキンの重りは、背を下にした姿勢を保てるよう配置されていること。
- (c) マネキンは、マネキンを引っ張る競技種目で使用できるよう、遷移ライン (transition line) で浮く必要がある。

#### 8.7.1. 器材検査手順

- (a) ILS/JLAが管理する競技において、組織委員会から任命された者が承認されたマネキンをチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも10 m以上、1 mm刻み）；重量計（最低でも200 kg測定可能で1 g刻み）<sup>47</sup>。
- (b) ILS/JLAが認定する競技の認定申請書では、競技会で使用するプールされた全てのマネキンがILS/JLA規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

#### 8.8. 障害物 (Obstacles)

- (a) **寸法**：プール競技で使用する障害物は高さ700 mm (±10 mm)、幅2.4 m(±30 mm)で、危険な部分がないこと。
- (b) **フレーム内**：フレームの内側は、ネット又は競技者が通過できないものであり、ネットの色は水と

---

<sup>47</sup> 【JLA注釈】 ILS原文ではグラムの単位を“gm”としているが、SI単位表記の“g”に修正した。但し、この重量計のスベックはマネキンを計量するのに適切でない (200 kgは大きすぎて、1 g でなく1 kgの誤植の可能性がある)。

対照的な鮮やかな色で、明確に目視できること。

- (c) **フレーム上部**：障害物の上部ラインは水面に接するようにし、明確に目視できること。障害物のフレーム上部ラインにクロスする浮具を使用することが望ましい。

### 8.8.1. 器材検査手順

- (a) ILS/JLAが管理する競技において、組織委員会から任命された者が障害物をチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも10 m以上，1 mm刻み）。
- (b) ILS/JLAが認定する競技の認定申請書では、競技会で使用されるすべての障害物がILS/JLA規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

## 8.9. レスキューチューブ (Rescue Tubes)

### 構造と組成 (Construction and composition)

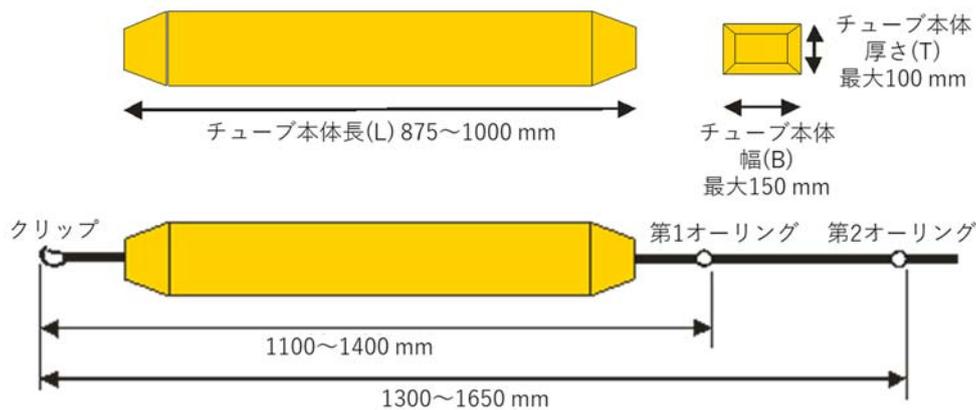
- (a) **浮力源**：オーストラリア規格 AS2259又はその同等物で指定されている素材。その素材は独立気泡プラスチック発泡体 (closed cell plastic foam) で、耐久性と柔軟性がある。
- (b) **浮力**：レスキューチューブは、淡水での最小浮力係数 (minimum buoyancy factor) が100 Nであること。
- (c) **柔軟性**：レスキューチューブ本体は、5～6 kg の荷重でそれ自体が巻かれるような性質であること。
- (d) **強度**：帯紐 (webbing)，リーシュ，及び付属品は、縦方向の応力454.55 kg (1000 lb) に耐え、損傷しないこと。
- (e) **重量**：チューブの総重量は600～700 gであること<sup>48</sup>。
- (f) **色**：レスキューチューブの本体は、オーストラリア規格AS2259に従って、耐変色性の赤，黄，又はオレンジであること (含浸，塗布，又は被覆)。
- (g) **縫製／糸**：縫製 (stitching) は、オーストラリア規格AS2259で示されているとおり，英国規格BS3870のロック縫い方式301 (locked stitched type 301) であること。糸は、縫い付けられる素材と同様の特性を持つものとする。

### 技術的計測の仕様 (Technical measurement specification)

- (a) **レスキューチューブの寸法**：チューブの本体 (浮揚コンポーネント)：
- ・ L — 最小長875 mm; 最大長1000 mm,
  - ・ B — 最大幅 (breadth) 150 mm,
  - ・ T — 最大厚さ (thickness) 100 mm。

---

<sup>48</sup> 【JLA注釈】 ILS原文ではグラムの単位を“gm”としているが，SI単位表記の“g”に修正した。



クリップの先端から第1オーリングの先端までの距離は、最小1.10 mから最大1.40 mであること。

クリップの先端から第2オーリングの先端までの距離は、最小1.30 mから最大1.65 mであること。

- (b) **リーシュ／紐 (leash／line)**：第1オーリングから肩掛け帯紐 (lanyard webbing) までのリーシュの長さは、最小1.90 mから最大2.10 mであり、少なくとも2つのオーリングを含まねばならない。リーシュは、UV加工された合成タイプのロープであること。
- (c) **帯紐の接続 (webbing connections)**：オーリング／クリップとチューブ本体を接続する帯紐は、幅25 mm (±2.5 mm) の織りナイロン製 (woven nylon) であること。
- (d) **肩掛け／ハーネス (lanyard／harness)**：肩掛け帯紐は、幅50 mm (±5.0 mm) の織りナイロン製で、最小1.30 mから最大1.60 mであること。肩掛けループ (lanyard loop) の周長は最小で1.20 mであること。
- (e) **オーリング (O-rings)**：オーリングは、真鍮、ステンレス鋼 (溶接されたもの) 又はナイロン製であること。ナイロン製の場合、リングはUV加工されていること。オーリングは、内径37.5 mm (±10.0 mm) で、救助者又は溺者役に切り傷を与えたり負傷させる可能性のあるシャープエッジ又は突起が無いこと。
- (f) **クリップ (clips)**：クリップは、全長70 mm (±7.0 mm) の真鍮又はステンレス鋼のスナップフック (snap hook) KS2470-70であること。救助者又は溺者役に切り傷を与えたり負傷させる可能性のあるシャープエッジ又は突起が無いこと。
- (g) **全長 (overall length)**：クリップから肩掛け／ハーネスの端までの距離は、最小3.65 mから最大4.30 mであること。

#### 8.9.1. 器材検査手順

- (a) ILS/JLAが管理する競技において、組織委員会から任命された者がレスキューチューブをチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺 (最低でも10 m以上、1 mm刻み)。
- (b) ILS/JLAが認定する競技の認定申請書では、競技会で使用するためプールされたすべてのレスキューチューブがILS/JLA規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

#### 8.10. サーフスキー (Surf Skis)

サーフスキーは、以下を含む ILS/JLA 仕様に準拠していなければならない：

- ・ **重量**：最小18 kg,

- ・ **長さ**：最大5.80 m,
- ・ **幅**：船体の幅最も広い部分の幅が最小480 mmで、防舷物 (rubbing strips)、モールディング (moulding) 又は付加的な保護モールディングは含まない。

**ビデオカメラ**：サーフスキーにカメラを取り付ける場合、装置の製造メーカーが供給又は推奨している取付け装置及びトグルストラップに取り付けなければならない。カメラはフットウェル（足を置く部分）の前方に取り付ける。

\*カメラを取り付けるためクラフトに恒久的にはめ込まれたプラグの重量は、クラフトの総重量に含まれる。その他の暫定的に取り付けられた器具及びカメラの重量は総重量に含まれない。

詳細な仕様は[www.ilsf.org](http://www.ilsf.org)で入手可能。

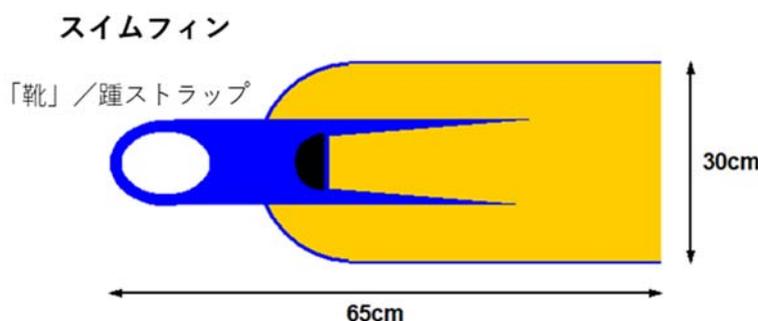
### 8.10.1. 器材検査手順

- サーフスキーを検査する際、最大長、最小重量、最小幅、最小ロッカー (minimum rocker) 及び安全性（例えば、修理の状態）についてチェックすること。競技者の安全のためパドルもチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも10 m以上、1 mm刻み）；重量計（最低でも20 kg測定可能で0.1 g刻み<sup>49</sup>の重量計。また、ロッカー及び長さをチェックする測定用「治具」を用いて、方向舵及びノーズの最小径、方向舵の厚み、船体曲線及びスキーの最小幅、等を測定することを推奨する。
- 主催する組織委員会は、器材検査済証として、サーフスキーに貼付するスタンプ又はステッカーを提供すること。
- ILS/JLAが認定する競技の認定申請書では、競技会で使用するためプールされているすべてのスキーがILS/JLA規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

### 8.11. スイムフィン (Swim Fins)

フィンには、競技者が履いていない状態で計測される。競技会で使用されるスイムフィンは、以下の使用に準拠すること：

- ・ 長さ：最大650 mm, 「靴」部分又は踵ストラップ（伸ばした状態の踵ストラップ）を含む,
- ・ 幅：ブレードの最も広い部分で最大300 mm。



<sup>49</sup> 【JLA注釈】 ILS原文ではグラムの単位を“gm”としているが、SI単位表記の“g”に修正した。但し、0.1 gは細かすぎるので誤植の可能性はある。

### 8.11.1. 器材検査手順

ILS/JLA が管理する競技において、以下のとおりとする：

- (a) ILS/JLAの競技管理委員会から任命された者は、プール及び／又はビーチにおいてフィンをチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも10 m以上、1 mm刻みの物）、又はフィンが完全に収まるフィンボックス、又はその他迅速且つ効率的な測定器具。
- (b) 主催する組織委員会は、器材検査済証として、フィンに貼付するスタンプ又はステッカーを提供すること。

ILS/JLA 認定競技においても同様の手順を実施すること。

## 8.12. スローライン (Throw Lines)

ラインスロー競技では、スローラインは編まれたもので、形状記憶機能がなくポリプロピレン製で水に浮くこと：

- ・ **直径**：8 mm (±1 mm)，
- ・ **長さ**：最小 16.5 m；最大17.5 m。

### 8.12.1. 器材検査手順

- (a) ILS/JLAが管理する競技において、組織委員会から任命された者がスローラインをチェックすること。最低限必要な測定器材：巻尺（最低でも20 m以上、1 mm刻み）。
- (b) ILS/JLAが認定する競技の認定申請書では、競技会で使用するためプールされたすべてのスローラインがILS/JLA規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

## 8.13. 水着 (Swimwear)

(a) ILS/JLAプール競技及びオーシャン競技の水着は、以下の基準を満たさねばならない：

- ・ 男子が着用する水着は、へそを超えず、膝までとする、
- ・ 女子が着用する水着は、首、肩、腕を覆わず、膝までとする。この基準を満たすツーピース水着も着用してよい。

男子水着					
フルレングス	ロング	ロングレッグス	ニーレングス	スクエアレッグ	ショート
禁止	禁止	禁止	許可	許可	許可
					

女子水着				
フルレングス	ジッパーバック	ニーレングス、 オープンバック	ショート、 オープンバック	ツーピース
禁止	禁止	許可	許可	許可

(b) ILS/JLAプール競技及びオーシャン競技種目で着用される水着の素材及び構造は、次の通りとする：

- ・ 編み込んだ織物繊維のみ許可されるとする、
- ・ 繊維でない、また透過性のない（例えば、ウェットスーツタイプ）素材は認められない、
- ・ 使用する素材の最大厚さは0.8 mmとする、
- ・ 男子水着の上部、女子のツーピース水着のボトム及び／又はトップ、及び女子のワンピースオープンバック水着の背を留めるための紐を除き、ジッパー又はその他身体を締める機構は使用してはならない、
- ・ 競技者が着用する水着は、浮力を助けるものであってはならない、
- ・ 浮力、鎮痛作用、化学・医学的刺激、又はその他外部からの刺激又は何らかの影響のある水着は禁止される、
- ・ 水着の素材には、物を貼り付けてはならない（ただし、メーカーのロゴマークや所属団体／クラブ名などは許可される）。

**注意：**競泳用として国際水泳連盟（FINA : Federation International de Natation）スタンプが押されている水着は全て、ILS/JLA の競技会において使用が認められる。

### 8.13.1. 器材検査手順

検査する場合、組織委員会から任命された者が競技者が持参した水着をチェックすること。

## 8.14. PFD (Personal Flotation Devices (PFDs))

IRB 競技の競技者（ドライバー、クルー及び溺者役）は、国際標準である ISO12402-5 Level 50<sup>50</sup>又は同等の固形式 PFD（ライフジャケット）を着用せねばならない。固形式 PFD（ライフジャケット）に代えて膨張式 PFD（ライフジャケット）を着用してはならない。

<sup>50</sup> 【JLA注釈】 ISO 12402-5:2006 Personal flotation devices -- Part 5: Buoyancy aids (level 50) -- Safety requirements

他のクラフト競技種目において PFD の着用は任意とする。競技者が着用する PFD は国際規格又は同等規準を満たすものを強く推奨する（例えばオーストラリア規格 AS4758 L25 flotation<sup>51,52,53</sup>）。

器材が各種規格に適合しない場合、着用者はリスク評価を完了し、製品に関する安全及び取扱いについての指示を全て読むことを推奨する。全ての PFD が基準を満たしているとは限らないことから、PFD の溺水を防ぐ効果は証明されていない。国際規格を遵守していない場合、他の潜在的な危険性（例えば、フィット感が悪い、海の条件によっては容易に脱げてしまう、動きや呼吸が制限される、など）を呈する可能性がある。

#### 8.14.1. 器材検査手順

- (a) ILS/JLAが管理する競技において、組織委員会から任命された者は、プールされているPFDがILS/JLAの仕様を満たしているかチェックすること。ILS/JLAの競技管理委員会から任命された者は、競技者が用意したPFDをチェックするものとする。
- (b) ILS/JLAが認定する競技の認定申請書では、競技会で使用するためプールされている全てのPFDがILS/JLA規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

### 8.15. ヘルメット (Helmets)

承認される水中ヘルメットは、EN1385<sup>54</sup>認証である（又はそれと同等のものである）。ヘルメットの色は、メーカー出荷時のままでも良いが、競技者のチーム/競技用キャップのデザインに準じたものをプリントするか被せることが好ましい。

#### 8.15.1. 器材検査手順

- (a) ILS/JLAが管理する競技において、組織委員会から任命された者は、プールされているヘルメットがILS/JLAの仕様を満たしているかチェックすること。ILS/JLAの競技管理委員会から任命された者は、競技者が用意したヘルメットをチェックすること。
- (b) ILS/JLAが認定する競技の認定申請書では、競技会で使用するためプールされている全てのヘルメットがILS/JLA規格を満たしている旨を競技会主催者が宣言する必要がある。

### 8.16. ウェットスーツ (Wetsuits)

ウェットスーツは、首から手首及び足首まで伸びているフルか、又はもっと短いものでもよい。IRB競技を除き、スイム競技又はスイム区間で着用するウェットスーツの最大厚さは、ウェットスーツの任意の場所で5 mmとし、許容範囲は±0.5 mmとする。IRB競技又は非スイム競技で着用するウェットスーツには厚さの制限はない。

#### 8.16.1. 器材検査手順

---

<sup>51</sup> 【JLA注釈】 AS 4758.1-2015 Personal flotation devices - General requirements

<sup>52</sup> 【JLA注釈】 AS 4758.2-2015 Personal flotation devices - Materials and components - Requirements and test methods

<sup>53</sup> 【JLA注釈】 AS 4758.3-2015 Personal flotation devices - Test methods

<sup>54</sup> 【JLA注釈】 EN 1385: 2012 Helmets for canoeing and white water sports

ILS/JLA が管理する競技において、ILS/JLA の競技管理委員会から任命された者は、水温及びウェットスーツをチェックすること。

全てのウェットスーツが、無作為に器材検査される対象である。最低限必要な測定器材：水温計（摂氏 10 度以上，0.5 度刻み），マイクロメーター。

ILS/JLA 認定競技においても同様の手順を実施すること。

## 付録 A. 短水路プール競技

### この付録 A について

この付録 A は、ILS 短水路プール競技規則 (ILS Competition Rule Book, Short Course Pool Events, 2020 Edition) を元に、JLA ジュニアユースプール競技会 (全日本ジュニアライフセービング・プール競技会/全日本ユースライフセービング・プール競技会) においてこれまで実施してきたレスキューチューブトウの競技規則を追加したものである。

## A. 短水路プール競技<sup>55</sup>

### A.1. 短水路プール競技種目

この短水路プール競技種目の競技の説明は、ILS 競技規則 (*International Life Saving Federation Competition Rule Book 2019 Edition (Revised February 2020)*) に含まれる標準化された競技種目に基づいており、25 m の短水路競泳プール向けに修正されたものである。規則と失格については、短水路プール競技規則で特に規定されていない限り、ILS 競技規則本文に拠るものとする。

ILS は、この短水路プール競技規則の作成を支援してくれたライフセービングカナダ連盟 (Lifesaving Canada Federation) に感謝する。

短水路ライフセービング競技は FINA 施設規格を満たした施設で行われることが推奨される。FINA の施設規則は、競争力のある使用と訓練のための最良の環境を提供することを目的としている (FINA 施設規則 FINA Facilities Rules : FR2 Swimming Pools は [www.fina.org](http://www.fina.org) を参照のこと)。

**注意:** スタート台、自動計測装置、飛び込みスタートのための十分な深さやプールの長さなどが FINA 施設規格に適合しない場合、競技の実行委員会は安全性を確保し状況に合わせて競技規則と必要条件を適応させる必要がある。

以下の施設基準は、FINA の施設規則に基づいている。

#### A.1.1 距離

プールは、スタート端の全自動審判計時装置のタッチパネルと折返し端の壁又はタッチパネルの間が 25 m とする。許容誤差は各レーンに於いて +0.03 m, -0.00 m。

#### A.1.2 スタート台

水面からのスタート台の高さは、0.5 m~0.75 m とする。スタート台は少なくとも 0.5 m×0.5 m で、滑り止め材で覆われていなければならない。スタート台はしっかり固定され、跳躍効果を持たない。

#### A.1.3 水深

競技特有の規格で規定されている場合を除き、最低 1.0 m の水深が必要である。

飛び込みスタートのためには、スタート端壁から測って 1.0 m から少なくとも 6.0 m の間で、少なくとも 1.35 m の水深でなければならない。

#### A.1.4 全自動審判計時装置とマニュアル計時

全自動審判計時装置が推奨されるが必須ではない。ILS 認定競技会で全自動審判計時装置が利用できない場合、各競技者のタイムは少なくとも 3 人のタイムキーパーによって計時されなければならない。

---

55 【JLA】付録Aは、「ILS」の表記を適宜「JLA」と読み替え、JLA主催競技会で適用する競技規則とする。

計時はスタートの合図で開始し、競技者の身体のいずれかの部分が（タイムキーパーにはっきりと見えるように）フィニッシュ壁に触れるとストップする。

タイムキーパー3人のうち2人が同じタイムであれば、そのタイムが公式とみなされる。もし3人のタイムキーパーのタイムが異なる場合、中間のタイムが公式となる。もし1つの時計が計時に失敗した場合、残り2つのタイムの平均を公式タイムとする。

もし手動タイムキーパーのタイムによる順位とフィニッシュジャッジによる順位が一致しない場合、フィニッシュジャッジによる順位が優先される。順位不一致に関係する競技者に与えられるタイムは同一であるべきで、例えば、もし2人の競技者が関係している場合、2人には各々のタイムの和を2で割った同一タイム与えられる。

## A.2. プール競技種目

この付録 A では、以下のプール競技種目について述べる：

- ・ 障害物スイム — 25 m, 50 m, 100 m, 200 m,
- ・ マネキンキャリー — 25 m, 50 m,
- ・ レスキューメドレー — 50 m, 100 m,
- ・ マネキンキャリー・ウィズフィン — 25 m, 50 m, 100 m,
- ・ マネキントウ・ウィズフィン — 50 m, 100 m,
- ・ スーパーライフセーバー — 100 m, 200 m,
- ・ マネキンリレー — 4 x 12.5 m, 4 x 25 m,
- ・ 障害物リレー — 4 x 25 m, 4 x 50 m,
- ・ メドレーリレー — 4 x 25 m, 4 x 50 m,
- ・ プールライフセーバーリレー — 4 x 25 m, 4 x 50 m
- ・ レスキューチューブトウ — 50 m <sup>56</sup>。

**注意：**施設の規格、安全性及び状況に応じて、距離、水深及び器材の代替措置が発生する場合がある。短水路プール競技規則の目的は、最終的には認定された競技会を確立し、同じ距離の種目の記録を認定することである。

---

<sup>56</sup> 【JLA注釈】「レスキューチューブトウ — 50 m」はILS短水路プール競技規則に掲載されていない。

## A.2.1 障害物スイム Obstacle Swim

### A.2.1.1 競技の説明 — 25 m, 50 m, 100 m, 200 m 短水路

競技者は音による合図で飛び込みスタート又は水中スタートし、水中の障害物の下を通過しながら泳いで、プールのフィニッシュ壁／縁にタッチする。

- (a) 飛び込んだ後、競技者は障害物までの間に；各障害物を通過した後；及び折返した後に障害物の下を通過する前に、水面に浮上しなければならない。
- (b) 競技者は各障害物の下から水面に浮上する際、プールの底を蹴っても押してもよい。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面を突き破ることを意味する。
- (c) 障害物へ向かって泳ぐ、又は障害物にぶつかることは、失格となる行為ではない。

**注意：** 競技者が障害物の下を通過する回数：

- 25 m – 1回,
- 50 m – 2回,
- 100 m – 4回,
- 200 m – 8回。

### A.2.1.2 器材

**障害物：** 競技規則本文「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。障害物は、全レーンにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。障害物は、プールのスタート壁／縁から 12.5 m、すなわちプールの中央に位置している。障害物の寸法は、狭いレーン幅（例えば 180 cm のような狭さ）や深さ（例えば 35 cm のような浅さ）を考慮して調整する必要がある。

## A.2.2 マネキンキャリー Manikin Carry

### A.2.2.1 競技の説明 — 25 m 短水路

競技者は、音による合図で飛び込みスタート又は水中スタートし、自由形で 12.5 m 泳ぎ、水中に潜って 5 m のピックアップラインまでの間にマネキンを水面に引き上げる。競技者はマネキンを引き上げるために潜る前に水面に浮上しなければならない。競技者はマネキンを運び、プールのフィニッシュ壁／縁にタッチする。

マネキンを水面に引き上げる際、競技者はプールの底を押してもよい。

### A.2.2.2 競技の説明 — 50 m 短水路

競技者は、音による合図で飛び込みスタート又は水中スタートし、自由形で 25 m 泳ぎ、水中に潜って 5 m のピックアップラインまでの間にマネキンを水面に引き上げる。競技者はマネキンを引き上げるために潜る前に水面に浮上しなければならない。競技者はマネキンを運び、プールのフィニッシュ壁／縁にタッチする。

マネキンを水面に引き上げる際、競技者はプールの底を押してもよい。

競技者はマネキンを引き上げる時プールの折返し壁／縁にタッチしなくてもよい。

### A.2.2.3 器材

**マネキンの設置 (25 m 短水路):** マネキンは、背を下にして、フィニッシュの方向に頭を向け、胸部中央ラインの上端が 12.5 m ライン上にくるように置かれる<sup>57</sup>。

**マネキンの設置 (50 m 短水路):** マネキンは、プールの底に接するように背を下にして、マネキンの底(脚側)がプール壁に接し、フィニッシュの方向に頭が向くように置かれる。

施設的设计上、プールの壁がプールの底と直角ではない場合、マネキンは壁にできるだけ近く、水面で測定した距離が壁から 30 cm 以内に位置しなければならない。

---

<sup>57</sup> 【JLA注釈】 この一文はILS原文には無いが、JLAの判断で挿入した。

## A.2.3 レスキューメドレー Rescue Medley

### A.2.3.1 競技の説明 — 50 m, 100 m 短水路

競技者は、音による合図で飛び込みスタート又は水中スタートし、自由形で 25 m 又は 75 m 泳ぎ、折返し、潜水して、折返し壁／縁から 12.5 m の位置に沈められたマネキンまで潜行する。

競技者は、5 m のピックアップラインまでの間にマネキンを水面に引き上げ、その後フィニッシュ壁／縁にタッチするまでの残りの距離、マネキンを運ぶ。

競技者は、折返しの際呼吸してもよいが、足が最後の折返し壁／縁を離れた後は、マネキンと一緒に水面に浮上するまで呼吸してはならない。

マネキンを水面に引き上げる際、競技者はプールの底を押してもよい。

### A.2.3.2 器材<sup>58</sup>

マネキンは、背を下にして、フィニッシュの方向に頭を向け、胸部中央ラインの上端が 12.5 m ライン上にくるように置かれる。

---

<sup>58</sup> 【JLA注釈】この「器材」の節はILS原文には無いが、JLAの判断で挿入した。

## A.2.4 マネキンキャリー・ウィズフィン Manikin Carry with Fins

### A.2.4.1 競技の説明 — 25 m 短水路

一方の手で水面にマネキンを保持し、もう一方の手でスタート壁／縁又はスターティングブロックを掴み、水中からスタートする。音による合図で、競技者はフィンを装着してマネキンを 25 m 運び、プールのフィニッシュ壁／縁にタッチする。

### A.2.4.2 競技の説明 — 50 m, 100 m 短水路

競技者は、フィンをつけ、音による合図で飛び込みスタート又は水中スタートし、自由形で 25 m 又は 75 m 泳ぎ、折返し壁／縁から 10 m までの間にマネキンを水面に引き上げる。その後競技者はプールのフィニッシュ壁／縁にタッチするまでマネキンを運ぶ。

競技者はマネキンを引き上げるときプールの折返し壁にタッチしなくてもよい。

マネキンを水面に引き上げる際、競技者はプールの底を押してもよい。

### A.2.4.3 器材<sup>59</sup>

**マネキンの設置 (50 m, 100 m 短水路):** マネキンは、プールの底に接するように背を下にして、マネキンの底（脚側）がプール壁に接し、フィニッシュの方向に頭が向くように置かれる。

施設の設計上、プールの壁がプールの底と直角ではない場合、マネキンは壁にできるだけ近く、水面で測定した距離が壁から 30 cm 以内に位置しなければならない。

---

<sup>59</sup> 【JLA注釈】この「器材」の節はILS原文には無いが、JLAの判断で挿入した。

## A.2.5 マネキントウ・ウィズフィン Manikin Tow with Fins

### A.2.5.1 競技の説明 — 50 m, 100 m 短水路

競技者は、フィンとレスキューチューブを装着し、音による合図で飛込みスタート又は水中スタートし、自由形で25 m又は75 m泳ぐ。折返し壁／縁にタッチした後、10 mのピックアップゾーンまでの間に、競技者はマネキンにチューブを正しく装着し、フィニッシュまで引っ張る。レスキューチューブの紐は、マネキンの頭頂部が10 mラインを通過するまでに、出来るだけ早く完全に伸びた状態にしなければならない。競技者がプールのフィニッシュ壁／縁にタッチしたとき競技は終了する。

競技者は折返しの際、レスキューチューブを装着した状態でクイックターンをしてはならない<sup>60</sup>。

### A.2.5.2 失格

- (a) レスキューチューブをマネキンに巻きつける際、プールの付属品（レーンロープ、階段、水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合 — 但し、プールの底は含まれない、
- (b) 75 m地点で競技者がプールの壁／縁にタッチする前にマネキンに触れた場合。

---

<sup>60</sup> 【JLA注釈】 この一文はJLA主催競技会で適用するJLA独自の競技規則である（ILS原文には記述されていない）。

## A.2.6 スーパーライフセーバー Super Lifesaver

### A.2.6.1 競技の説明 — 100 m 短水路

競技者は、音による合図で飛び込みスタート又は水中スタートし、自由形で 25 m 泳ぎ、水中に潜ってマネキンを引き上げる。競技者は、5 m ピックアップゾーン内でマネキンと共に水面に浮上し、折返し壁／縁までマネキンを運ぶ。壁／縁にタッチした後、競技者はマネキンを放す。

競技者はマネキンを引き上げるときプールの折返し壁／縁にタッチしなくてもよい。

水中で、競技者はフィンとレスキューチューブを装着し、自由形で 25 m 泳ぐ。壁／縁にタッチした後の 10 m ピックアップゾーンまでの間に、競技者はマネキンの周りにレスキューチューブを正しく付け、マネキンをフィニッシュまで引っ張る。レスキューチューブの紐は、マネキンの頭頂部が 10 m ラインを通過するまでに、出来るだけ早く完全に伸びた状態にしなければならない。

競技者は折返しの際、レスキューチューブを装着した状態でクイックターンをしてはならない<sup>61</sup>。

競技は、競技者がプールのフィニッシュ壁／縁にタッチして完了する。

### A.2.6.2 競技の説明 — 200 m 短水路

競技者は、音による合図で飛び込みスタート又は水中スタートし、自由形で 75 m 泳ぎ、水中に潜ってマネキンを引き上げる。競技者は、5 m ピックアップゾーン内でマネキンと共に水面に浮上し、折返し壁／縁までマネキンを運ぶ。壁／縁にタッチした後、競技者はマネキンを放す。

競技者はマネキンを引き上げるときプールの折返し壁／縁にタッチしなくてもよい。

水中で、競技者はフィンとレスキューチューブを装着し、自由形で 75 m 泳ぐ。壁／縁にタッチした後の 10 m ピックアップゾーンまでの間に、競技者はマネキンの周りにレスキューチューブを正しく付け、マネキンをフィニッシュまで引っ張る。レスキューチューブの紐は、マネキンの頭頂部が 10 m ラインを通過するまでに、出来るだけ早く完全に伸びた状態にしなければならない。

競技者は折返しの際、レスキューチューブを装着した状態でクイックターンをしてはならない<sup>62</sup>。

競技は、競技者がプールのフィニッシュ壁／縁にタッチして完了する。

### A.2.6.3 器材<sup>63</sup>

**運ぶマネキンの置き方:** マネキンは、プールの底に接するように背を下にして、マネキンの底（脚側）がプール壁に接し、フィニッシュの方向に頭が向くように置かれる。

施設の設計上、プールの壁がプールの底と直角ではない場合、マネキンは壁にできるだけ近く、水面で測定した距離が壁から 30 cm 以内に位置しなければならない。

### A.2.6.4 失格

---

<sup>61</sup> 【JLA注釈】 この一文はJLA主催競技会で適用するJLA独自の競技規則である（ILS原文には記述されていない）。

<sup>62</sup> 【JLA注釈】 この一文はJLA主催競技会で適用するJLA独自の競技規則である（ILS原文には記述されていない）。

<sup>63</sup> 【JLA注釈】 この「器材」の節はILS原文には無いが、JLAの判断で挿入した。

- (a) レスキューチューブをマネキンに巻きつける際、プールの付属品（レーンロープ、階段、水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合 — 但し、プールの底は含まれない、
- (b) 75 m地点で競技者がプールの壁／縁にタッチする前にマネキンに触れた場合。

## A.2.7 マネキンリレー Manikin Relay

### A.2.7.1 競技の説明 — 4 x 12.5 m 短水路

競技者4人が順に約12.5mずつマネキンを運ぶ（キャリアーする）。

- (a) **第1競技者**は、一方の手で水面にマネキンを保持し、もう一方の手でスタート壁／縁又はスターティングブロックを掴み、水中からスタートする。音による合図で、競技者はマネキンを運び、10m地点から15m地点の間の5mのチェンジオーバーゾーン内で第2競技者に手渡す。
- (b) **第2競技者**はマネキンを運び、折返し壁／縁にタッチし、少なくとも一方の手で折返し壁／縁に触れて待機している第3競技者にマネキンを手渡す。第3競技者は第2競技者が折返し壁／縁にタッチした後でなければマネキンに触れることができない。
- (c) **第3競技者**はマネキンを運び、35m地点から40m地点の間のチェンジオーバーゾーンで第4競技者にマネキンを手渡す。
- (d) **第4競技者**はマネキンを運び、競技者の身体のいずれかの部分でフィニッシュ壁／縁をタッチすることで競技を完了する。
- (e) 競技者は、競技完了の合図があるまで、各自のレーンのチェンジオーバーゾーン内の水面に留まっていなければならない。
- (f) マネキンを運んで来る競技者と、それを受け取る競技者だけが、マネキンの手渡しに参加できる。マネキンを運んで来た競技者は、マネキンの頭頂部がスタート／フィニッシュ及びチェンジオーバーゾーン内にある限り、マネキンを受け取る競技者を補助してもよい。
- (g) 常に（少なくとも）1人の競技者の手がマネキンに触れていなければならない。
- (h) スタートとチェンジオーバーゾーンは、旗で示される。
- (i) 競技者はチェンジオーバーゾーン内でプールの底を押しても（蹴っても）よい。
- (j) スタートゾーン、フィニッシュゾーン及びチェンジオーバーゾーン内では（競技規則本文3.3で定義した）「マネキンを運ぶ（キャリアー）場合」規準で判定されないが、競技者はマネキン受け渡し中を含め常に少なくとも一方の手でマネキンに接触し続ける必要がある。
- (k) マネキンの受け渡しは指定されたチェンジオーバーゾーン内で行わなければならないが、それはマネキンの頭頂部で判定する。

### A.2.7.2 競技の説明 — 4 x 25 m 短水路

競技者4人が順に約25mずつマネキンを運ぶ（キャリアーする）。

- (a) **第1競技者**は、一方の手で水面にマネキンを保持し、もう一方の手でスタート壁／縁又はスターティングブロックを掴み、水中からスタートする。音による合図で、競技者はマネキンを25m運び、折返し壁／縁にタッチし、少なくとも一方の手で折返し壁／縁<sup>64</sup>に触れるか又はスターティングブロックを掴んで待機している第2競技者にマネキンを手渡す。第2競技者は第1競技者が折返し壁／

---

<sup>64</sup> 【JLA注釈】 ILS原文に「/edge」の記載はないが、JLAの判断で他の記述に合わせて「/縁」とした。

縁にタッチした後でなければマネキンに触れることができない。

- (b) **第2競技者**はマネキンを25 m運び、折返し壁／縁にタッチし、少なくとも一方の手で折返し壁／縁に触れるか又はスターティングブロックを掴んで待機している第3競技者にマネキンを手渡す。第3競技者は第2競技者が折返し壁／縁にタッチした後でなければマネキンに触れることができない。
- (c) **第3競技者**はマネキンを25 m運び、折返し壁／縁にタッチし、少なくとも一方の手で折返し壁／縁に触れるか又はスターティングブロックを掴んで待機している第4競技者にマネキンを渡す。第4競技者は第3競技者が折返し壁／縁にタッチした後でなければマネキンに触れることができない。
- (d) **第4競技者**はマネキンを25 m運び、競技者の身体のいずれかの部分でフィニッシュ壁／縁をタッチすることで競技を完了する。
- (e) 競技者は、競技完了の合図があるまで、各自のレーンのチェンジオーバーゾーン内の水面に留まっていなければならない。
- (f) マネキンを運んで来る競技者と、それを受け取る競技者だけが、マネキンの手渡しに参加できる。マネキンを運んで来た競技者は、マネキンの頭頂部がスタート／フィニッシュ及びチェンジオーバーゾーン内にある限り、マネキンを受け取る競技者を補助してもよい。
- (g) 常に（少なくとも）1人の競技者の手がマネキンに触れていなければならない。
- (h) スタートとチェンジオーバーゾーンは、旗で示される。
- (i) 競技者はチェンジオーバーゾーン内でプールの底を押しても（蹴っても）よい。
- (j) スタートゾーン、フィニッシュゾーン及びチェンジオーバーゾーン内では（競技規則本文3.3で定義した）「マネキンを運ぶ（キャリア）場合」規準で判定されないが、競技者はマネキン受け渡し中を含め常に少なくとも一方の手でマネキンに接触し続ける必要がある。
- (k) マネキンの受け渡しは指定されたチェンジオーバーゾーン内で行わなければならないが、それはマネキンの頭頂部で判定する。

### A.2.7.3 失格

以下の時点でマネキンが受け渡された場合：

- ・ 第1, 第2, 及び第3競技者が折返し壁／縁<sup>65</sup>にタッチする前,
- ・ 第2, 第3, 及び第4競技者による折返し壁／縁<sup>66</sup>へのタッチがない。

---

<sup>65</sup> 【JLA注釈】 ILS原文に「/edge」の記載はないが、JLAの判断で他の記述に合わせて「/縁」とした。

<sup>66</sup> 【JLA注釈】 ILS原文に「/edge」の記載はないが、JLAの判断で他の記述に合わせて「/縁」とした。

## A.2.8 障害物リレー Obstacle Relay

### A.2.8.1 競技の説明 — 4 x 25 m, 4 x 50 m 短水路

音による合図で第1競技者は飛び込みスタート又は水中スタートし、障害物の下を通過しながら自由形で25 m又は50 m泳ぐ。第1競技者が折返し壁／縁<sup>67</sup>にタッチした後、第2、第3、第4競技者が順に同じ手順を繰り返す。

- (a) 飛び込みスタート又は水中スタートの後、競技者は障害物の前までに、及び各障害物の下を潜った後水面に浮上しなければならない。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面を突き破って浮上することを意味する。
- (b) 競技者は各障害物の下から水面に浮上する際、プールの底を蹴っても押してもよい。
- (c) 障害物にぶつかっても失格にはならない。
- (d) 第1、第2、第3競技者は、それぞれの区間が終了したら、他の競技者を妨害することなく、直ちに指定されたレーンから退水しなければならない。退水後は、再度プールに入ってはならない。

### A.2.8.2 器材

**障害物:** 競技規則本文「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。障害物は、全レーンにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。障害物は、プールのスタート壁／縁から12.5 m、すなわちプールの中央に位置している。障害物の寸法は、狭いレーン幅（例えば180 cmのような狭さ）や深さ（例えば35 cmのような浅さ）を考慮して調整する必要がある。

---

<sup>67</sup> 【JLA注釈】 ILS原文に「/edge」の記載はないが、JLAの判断で他の記述に合わせて「/縁」とした。

## A.2.9 メドレーリレー Medley Relay

### A.2.9.1 競技の説明 — 4 x 25 m 短水路

第1競技者は、フィン装着せずに音による合図で飛び込みスタート又は水中スタートし、自由形で25 m 泳ぐ。

第2競技者は、第1競技者が折返し壁／縁にタッチした後、飛び込みスタート又は水中スタートし、フィン装着して自由形で25 m 泳ぐ。

第3競技者は、第2競技者がスタート／フィニッシュ壁／縁にタッチした後、飛び込みスタート又は水中スタートし、レスキューチューブを引いて自由形で25 m 泳ぐ。第3競技者は折返し壁／縁にタッチする。

第4競技者は、水中でフィン装着し、少なくとも一方の手で折返し壁／縁に触れ、ハーネスを着用する。第3競技者は「溺者」の役割を演じ、第4競技者にフィニッシュまで25 m 引かれている間、レスキューチューブを両手で掴む。

- (a) 第4競技者と第3競技者（溺者役）は、折返し壁／縁から出発せねばならない。溺者役は10 mラインを通過する前にレスキューチューブに触れなければならない。レスキューチューブの紐は、「溺者役」の頭頂部が10 mラインを越えるとき、10 mラインよりフィニッシュ側で完全に伸びていなければならない。
- (b) 第4競技者が、チューブに触れている溺者役を伴ってプールのフィニッシュ壁／縁にタッチした時、競技は完了する。
- (c) 溺者役は引っ張られている間キックしてよいが、第4競技者にその他の助力を与えることは許可されない。
- (d) 溺者役はレスキューチューブ本体及び／又はクリップを掴まなければならない — 紐ではない。
- (e) 溺者役は、引っ張られている間、レスキューチューブ（本体）及び／又はクリップを両手で掴まなければならないが、引っ張られている間にチューブ（本体）及び／又はクリップ上で手の位置を変えても失格とはならない。
- (f) 第3競技者がプールの壁／縁にタッチする時、第4競技者は少なくとも一方の手で折返し壁／縁又はスターティングブロックを掴んでいないといけませんが、第4競技者は手、腕、又は足で壁／縁を押してもよい。第4競技者は、第3競技者が折返し壁／縁にタッチした後でないと、レスキューチューブ（本体）、ハーネス又は紐のいかなる部分にも触れてはいけない。
- (g) 第1競技者と第2競技者は自分のリレー区間を終えたら他の競技者を妨害することなくプールから上がらなければならない。第1競技者と第2競技者は、（上がった後）再度プールに入ってはならない。

### A.2.9.2 競技の説明 — 4 x 50 m 短水路

第1競技者は、フィン装着せずに音による合図で飛び込みスタート又は水中スタートし、自由形で50 m 泳ぐ。

第2競技者は、第1競技者が折返し壁／縁にタッチした後、飛込みスタート又は水中スタートし、フィン装着して自由形で50 m泳ぐ。

第3競技者は、第2競技者がスタート／フィニッシュ壁／縁にタッチした後、飛込みスタート又は水中スタートし、レスキューチューブを引いて自由形で50 m泳ぐ。第3競技者は折返し壁／縁にタッチする。

水中でフィンを装着し、少なくとも一方の手で折返し壁／縁に触れている第4競技者は、ハーネスを着用する。第3競技者は「溺者」の役割を演じ、第4競技者にフィニッシュまで50 m引かれている間、レスキューチューブを両手で掴む。第3競技者は175 m地点の壁／縁にタッチをする必要はない。

- (a) 第4競技者と第3競技者（溺者役）は、折返し壁／縁から出発せねばならない。溺者役は最初の10 mラインを通過する前にレスキューチューブに触れなければならない。レスキューチューブの紐は、「溺者役」の頭頂部がそれぞれの10 mラインを越えるとき、10 mラインよりフィニッシュ側で完全に伸びていなければならない。
- (b) 第4競技者が、チューブに触れている溺者役を伴ってプールのフィニッシュ壁／縁にタッチした時、競技は完了する。
- (c) 溺者役は引っ張られている間キックしてよいが、第4競技者にその他の助力を与えることは許可されない。
- (d) 溺者役はレスキューチューブ本体及び／又はクリップを掴まなければならない — 紐ではない。
- (e) 溺者役は、引っ張られている間、レスキューチューブ（本体）及び／又はクリップを両手で掴まなければならないが、引っ張られている間にチューブ（本体）及び／又はクリップ上で手の位置を変えても失格とはならない。
- (f) 第3競技者がプールの壁／縁にタッチする時、第4競技者は少なくとも一方の手で折返し壁／縁又はスターティングブロックを掴んでいないといけませんが、第4競技者は手、腕、又は足で壁／縁を押ししてもよい。第4競技者は、第3競技者が折返し壁／縁にタッチした後でないと、レスキューチューブ（本体）、ハーネス又は紐のいかなる部分にも触れてはいけない。
- (g) 第1競技者と第2競技者は自分のリレー区間を終えたら他の競技者を妨害することなくプールから上がらなければならない。第1競技者と第2競技者は、（上がった後）再度プールに入ってはならない。

## A.2.10 プールライフセーバーリレー Pool Lifesaver Relay

### A.2.10.1 競技の説明 — 4 x 25 m, 4 x 50 m 短水路

**第1 競技者**：音による合図で第1 競技者は飛び込みスタートし、フィンをつけずに自由形で25 m 又は50 m 泳ぐ。

**第2 競技者**：第2 競技者はフィンをつけ、第1 競技者が壁／縁にタッチした後飛び込みスタートして25 m 又は50 m 泳ぎ、潜って水中のマネキンを引き上げる。第2 競技者は、第3 競技者へマネキンを引き継ぐ前に、折返し縁にタッチする必要はない。

**注意**：第2 競技者は、マネキンと共に水面に浮上するまでの全期間水中を泳いでもよい、又は、スタートしてからマネキンを引き上げるため潜る前までに、1 回以上水面に浮上してもよい。

**第3 競技者**：第3 競技者は少なくとも一方の手で折返し壁／縁又はスターティングブロックに触れて、水中でフィンをつけずに待機しておく。第3 競技者は、マネキンが水面に浮上する前に、マネキンに触れてもよい。マネキンの頭部が水面に浮上した後、競技者はマネキンを管理下に置き、折返し壁／縁又はスターティングブロックから離れてもよい。そして第3 競技者はマネキンを25 m 又は50 m 運び（キャリア）、マネキンを第4 競技者に引き継ぐ前に、壁／縁にタッチする。

**第4 競技者**：第4 競技者は（フィンをつけて）、少なくとも一方の手でマネキンを受け取るまで、折返し壁／縁又はスターティングブロックを掴んでおく。第4 競技者は、第3 競技者が壁／縁にタッチした後に限りマネキンに触れてよい。そして第4 競技者はマネキンを運び（キャリア）、競技者の体のいずれかの部分でフィニッシュ壁／縁にタッチする。

チェンジオーバーゾーンにやって来る第2 及び第3 競技者は、出ていく競技者を補助してもよいが、それはマネキンの頭部がチェンジオーバーゾーン内にある場合に限る。

マネキンキャリア区間のチェンジオーバーゾーンを旗で示す。

競技者は、次の競技者がマネキンを掴むまで、マネキンから手を放してはならない（すなわち、各競技者は、一方の手がいつもマネキンに触れていなければならない）。

マネキンの頭頂部がチェンジオーバーゾーン内であれば、第3 競技者及び第4 競技者は「マネキンを運ぶ（キャリア）」の規則（競技規則本文3.3 で定義）は適用されない。「マネキンを運ぶ（キャリア）」の規則は、リレーの最後のフィニッシュゾーン内では適用されない。

第3 競技者及び第4 競技者は、それぞれの区間でマネキンを受け取った後、プールの壁を手、腕もしくは足で押してもよい。

第4 競技者がマネキンを正しく運び、競技者の身体の一部でフィニッシュ壁／縁にタッチすることで競技完了となる。

第1, 第2, 第3 競技者は、それぞれの区間が終了したら、他の競技者を妨害することなく退水しなければならない。退水後は、再度プールに入ってはならない。

## A.2.11 レスキューチューブトウ Rescue Tube Tow <sup>68</sup>

### A.2.11.1 競技の説明 — 50 m短水路

競技者は、レスキューチューブを装着して音による合図で飛込みスタート又は水中スタートし、25 m泳ぎ折返し壁／縁に手でタッチする。折返し壁／縁に手でタッチした後、折返し壁から5 m以内でレスキューチューブのクリップを正しくオーリングにかけて、フィニッシュ壁／縁までそれを引っ張る。フィニッシュはレスキューチューブを正しく引いている状態で、はっきりと見えるようにフィニッシュ壁／縁にタッチする。

スタート時、レスキューチューブの本体と紐は、競技者の判断で指定されたレーン内に位置させる。ただし、競技者はレスキューチューブを付けたスタートが安全にできるようにしなければならない。

レスキューチューブの紐は、レスキューチューブのクリップ及びオーリングの部分が折返し壁／縁から10 mラインを通過する前に出来るだけ早く完全に伸びていなければならない。

競技者は、折返し壁／縁に手でタッチする前にレスキューチューブ本体に触れてはならない。また、競技者はレスキューチューブを付けたままクイックターンをしてはならない。

### A.2.11.2 失格

競技規則本文（共通競技総則及びプール競技規則）の違反に加えて、次のような場合は失格とする。

- (a) 種目別の競技規則に違反した場合。
- (b) 競技者が折返しの壁／縁をタッチする前にレスキューチューブ本体に触れた場合。
- (c) レスキューチューブのオーリングをクリップに正しくつけない場合。
- (d) レスキューチューブのオーリングをクリップにつける際、競技者の頭頂部が5 mラインを越えてしまった場合。
- (e) レスキューチューブのオーリングとクリップの部分が途中で外れた場合。
- (f) 競技中にレーンロープを握ったり、引っ張った場合。
- (g) レスキューチューブを正しく引いていない状態でフィニッシュ壁／縁をタッチした場合。
- (h) 競技者がはっきりと見えるようにフィニッシュ壁／縁にタッチしなかった場合。

---

<sup>68</sup> 【JLA注釈】 この競技種目は、JLA独自の競技種目であり、ILS短水路プール競技規則に掲載されていない。



## 付録 B. ジュニア/ユース競技規則

## B. ジュニア／ユース競技規則

### B.1.ジュニア／ユース競技の一般規則

このジュニア／ユース競技規則は、*ILS Competition Rule Book 2019 Edition (Revised February 2020)*に掲載されている競技種目をもとに、それをジュニア及びユース向けに作成したものである。規則と失格（DQ コードを含む）については、ジュニア／ユース競技規則で特に規定されていない限り、競技規則本文に拠るものとする。

#### B.1.1 年齢区分

JLA が主催する競技会において、ジュニア及びユースの競技者の年齢及び適格年齢群は、当該競技者が競技に参加する日を基準に、以下を基本とする。

ジュニア：競技会における最初の競技種目が行われる日に、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 17 条第 1 項に規定された保護者による就学義務が発生する年齢に達していること。

ユース（中学生の部）：競技会における最初の競技種目が行われる日に、学校教育法第 17 条第 2 項に規定された保護者による就学義務が発生する年齢に達していること。

ユース（高校生の部）：競技会における最初の競技種目が行われる日に、学校教育法第 17 条第 2 項に規定された保護者による就学義務が発生する年齢を超過していること。ただし、超過は 3 歳以下とする。

#### B.1.2 ハンドラー及びマネキンハンドラー

ハンドラー及びマネキンハンドラーの規則は、原則として競技規則本文に拠るものとする。但し、ジュニア種目に限り以下の通りとする。

- (a) ハンドラーは、競技者のチームの 12 歳以上（上記ジュニア競技に参加できる年齢を含まない）の関係者から選出すること。「関係者」とは、当該競技者が所属する団体の 12 歳以上（上記ジュニア競技に参加できる年齢を含まない）の競技者、チームマネージャー、コーチ、指導者、保護者等を指し、当該競技会にエントリーをしていない者でもよい。なお、チーフレフリーが承認すれば、当該競技者が所属する団体とは別の団体の関係者がハンドラーを務めてもよい。
- (b) ハンドラーは、競技者のチームの競技用キャップを着用しなければならない。
- (c) ハンドラーは競技中、他の競技者の進路を妨害しないように自チームの競技者の器材を準備・回収しなければならない。また、ハンドラーは、競技規則に規定されている以外の助力を競技者に与えてはならない。

#### B.1.3 器材

競技で使用する器材は、競技規則本文「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。ニッパードは以下の通りとする。

- (1) 重量 4.0 kg 以上
- (2) 全長 2.0 m 以下

ビデオカメラ：取り付けてはならない。

#### B.1.4 競技者数の制限（サーフ種目に限る）

予選，準々決勝，準決勝，決勝を実施するかどうかはチーフレフリーが決定する。予選又は決勝における競技者の推奨最大人数は，下の表の数を超えないものとする。競技委員会及びチーフレフリーだけが，判定の有効性，環境の条件，安全の配慮及び全競技者への公平性を十分に配慮した上で，当該最大人数の変更を許可できる。

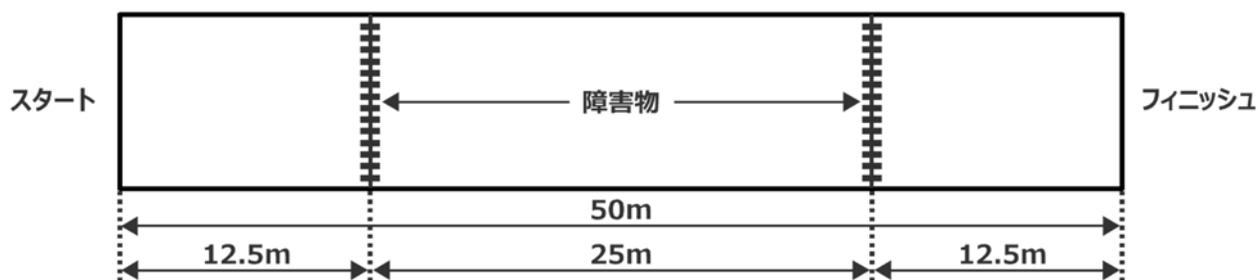
競技種目	最大競技者数／チーム数
ウェーディングレース	20人
ランスイムラン	32人
ニッパーボードレース	16人
ニッパーボードリレー	16チーム（1チームあたり3人）
タップリンリレー	16チーム（1チームあたり3人）

#### B.2.ジュニア／ユース競技種目

この付録 B.では，以下のジュニア競技及びユース競技の種目について述べる：

- ・障害物スイム — 50 m,
- ・ジュニアチューブスイム — 50 m,
- ・レスキューチューブトウ — 100 m,
- ・レスキューチューブリレー — 4×50 m,
- ・ウェーディングレース,
- ・ランスイムラン,
- ・ニッパーボードレース,
- ・ニッパーボードリレー,
- ・タップリンリレー。

## B.2.1 障害物スイム — 50 m



### B.2.1.1 競技の説明

競技者は、音による合図で飛び込みスタートし、水中の障害物の下を2回通過しながら50 m泳いで、プールのフィニッシュ壁／縁にタッチする。

**注意：**飛び込みスタートで安全が十分に確保できない場合は、水中スタートでもよい。

- 飛び込んだ又は水中スタートをした後、競技者は第1障害物までの間に；及び各障害物を通過した後に、水面に浮上しなければならない。
- 競技者は各障害物の下から水面に浮上する際、プールの底を蹴っても押してもよい。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面を突き破ることを意味する。
- 障害物に向かって泳ぐ、又は障害物にぶつかることは、失格となる行為ではない。

### B.2.1.2 器材

**障害物：**「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。障害物は、全レーンにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。第1障害物は、スタートの壁から12.5 mのところに設置し、第2障害物は逆の端から12.5 mのところに設置する。2つの障害物の距離は25 mとする。

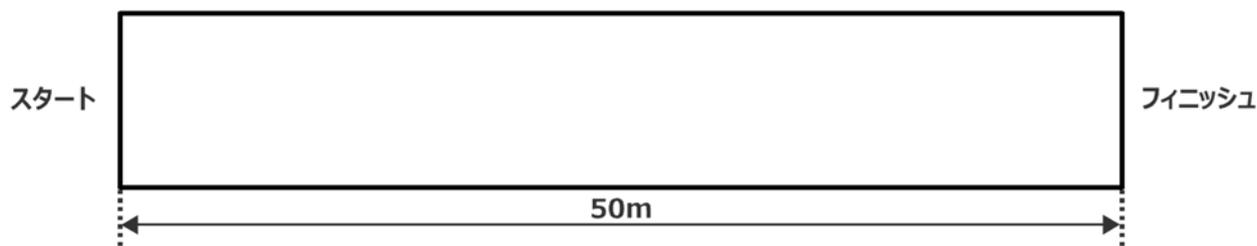
### B.2.1.3 失格

競技規則本文及びB.1の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- 障害物の上を通過してしまった後、ただちに障害物の上または下を戻り、あらためて障害物の下を通過し直さなかった、
- 飛び込んだ後又は水中スタートをした後、障害物の下を通過する前に浮上しなかった、
- 各障害物を通過後、浮上しなかった、
- 浮上する際、プールの付属品（レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの設備等）を補助として用いた場合 — ただし、プールの底は含まれない、
- フィニッシュ壁／縁にタッチしなかった。

## B.2.2 ジュニアチューブスイム — 50 m

本競技種目の規則は、特定非営利活動法人神奈川県ライフセービング協会が制定する同種目の競技規則を引用する。



### B.2.2.1 競技の説明

(a) 競技者は、音による合図で飛び込みスタートし、ジュニアチューブをつけて自由形で50 m泳ぐ。

**注意：**飛び込みスタートで安全が十分に確保できない場合は、水中スタートでもよい。

(b) 競技者は、出来るだけ速やかにレスキューチューブの紐を十分に伸ばした状態にしなければならない。

(c) フィニッシュは、ジュニアチューブを正しく引いている状態で、はっきり見えるようにフィニッシュ壁／縁にタッチしなければならない。

### B.2.2.2 器材

**スタート時のジュニアチューブ：**スタートにおいて、ジュニアチューブ本体と紐は、競技者に指定されたレーン内に、競技者の判断で配置をする。競技者は、ジュニアチューブと紐が安全で正しく配置されるようにせねばならない。ジュニアチューブのクリップは外したままにしておく（オーリングにかけない）。

### B.2.2.3 失格

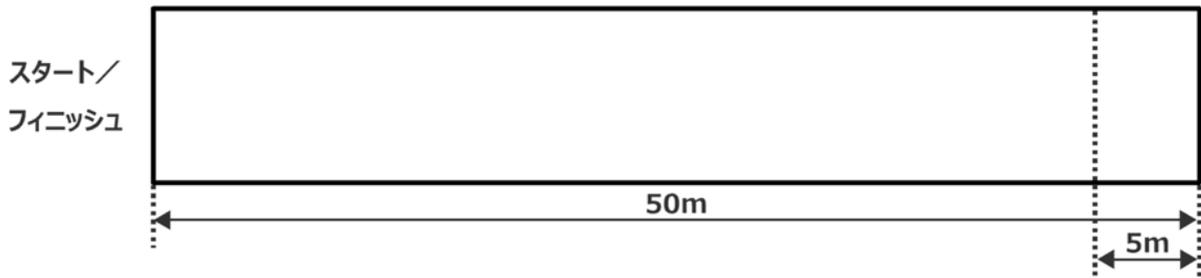
競技規則本文及び B.1 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

(a) 競技中に、プールの付属品（レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの設備等）を補助に用いた場合 — ただし、プールの底は含まれない、

(b) ジュニアチューブを正しく引いていない状態でフィニッシュ壁／縁をタッチした、

(c) 競技者がはっきりと見えるようにフィニッシュ壁／縁にタッチしなかった。

### B.2.3 レスキューチューブトウ — 100 m



#### B.2.3.1 競技の説明

- (a) 競技者は、レスキューチューブを装着し、音による合図で飛び込みスタートし、自由形で50 m泳ぐ。  
**注意:** 飛び込みスタートで安全が十分に確保できない場合は、水中スタートでもよい。
- (b) 競技者は、折返し壁／縁を手でタッチした後、プールの壁／縁から5 m以内でレスキューチューブのオーリングとクリップの部分を正しくつけ、フィニッシュまでそれを引っ張る。
- (c) 折返し壁／縁をタッチした後、プールの壁から5 mを越えたかどうかの判断は、競技者の頭頂部を基準とする。
- (d) 競技者は、出来るだけ速やかにレスキューチューブの紐を十分に伸ばした状態にしなければならない。
- (e) 競技者は、スタート後、折返し壁／縁に手でタッチする前にレスキューチューブ本体に触れてはならない。
- (f) フィニッシュは、レスキューチューブを正しく引いている状態で、はっきり見えるようにフィニッシュ壁／縁にタッチしなければならない。

#### B.2.3.2 器材

**スタート時のレスキューチューブ:** スタートにおいて、レスキューチューブ本体と紐は、競技者に指定されたレーン内に、競技者の判断で配置をする。競技者は、レスキューチューブと紐が安全で正しく配置されるようにせねばならない。レスキューチューブのクリップは外したままにしておく（オーリングにかけない）。

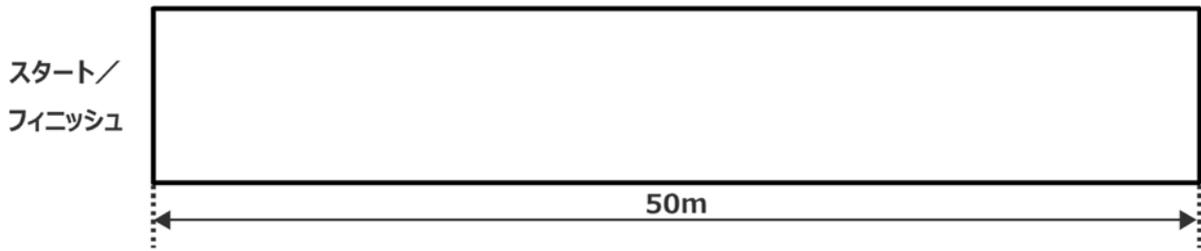
#### B.2.3.3 失格

競技規則本文及び B.1 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) 競技者が折返し壁／縁にタッチする前に、レスキューチューブ本体に触れた場合、
- (b) レスキューチューブのクリップをオーリングに正しく付けなかった場合、
- (c) レスキューチューブのクリップをオーリングに付ける際、競技者の頭頂部が5 mラインを越えた場合、
- (d) 競技中に、プールの付属品（例えば、レーンロープ、排水管、水中ホッケー設備等）を補助に用いた場合 — 但し、プールの底は含まれない、

- (e) レスキューチューブのクリップとオーリングの部分が途中で外れた場合,
- (f) レスキューチューブを正しく引いていない状態でフィニッシュ壁／縁をタッチした場合,
- (g) 競技者がはっきりと見えるようにフィニッシュ壁／縁にタッチしなかった場合。

## B.2.4 レスキューチューブリレー — 4×50 m



### B.2.4.1 競技の説明

競技者4人が順に50mずつレスキューチューブを装着し泳ぐ。

- (a) **第1競技者**：第1競技者は、音による合図で飛び込みスタートし、レスキューチューブを引いて自由形で50m泳ぐ。  
**注意**：飛び込みスタートで安全が十分に確保できない場合は、水中スタートでもよい。
- (b) **第2競技者**：第2競技者は、少なくとも一方の手で折返し壁／縁に触れるか又はスターティングブロックを掴んで水中で待機し、第1競技者が折返し壁／縁にタッチした後、ハーネスを受け取る。その後、レスキューチューブを正しく装着し、50m泳ぎスタート／フィニッシュの壁／縁にタッチする。
- (c) **第3競技者**：第3競技者も第2競技者と同様に、少なくとも一方の手でスタート／フィニッシュの壁／縁に触れるか又はスターティングブロックを掴んで水中で待機し、第2競技者がスタート／フィニッシュの壁／縁にタッチした後、ハーネスを受け取る。その後、レスキューチューブを正しく装着し、50m泳ぎ折返し壁／縁にタッチする。
- (d) **第4競技者**：第4競技者も第2競技者及び第3競技者と同様に、少なくとも一方の手で折返し壁／縁に触れるか又はスターティングブロックを掴んで水中で待機し、第3競技者が折返し壁／縁にタッチした後、ハーネスを受け取る。その後、レスキューチューブを正しく装着し50m泳ぎ、はっきりと見えるようにフィニッシュの壁／縁にタッチする。
- (e) 第2競技者は第1競技者が、第3競技者は第2競技者が、第4競技者は第3競技者が50m泳ぎ、それぞれの壁／縁にタッチする前にレスキューチューブに触れたり、壁／縁やスターティングブロックから離れてはならない。
- (f) 第1、第2、第3競技者は、それぞれの区間が終了したら、他の競技者を妨害することなく、直ちに指定されたレーンから退水しなければならない。退水後は、再度プールに入ってはならない。

### B.2.4.2 器材

**スタート時のレスキューチューブ**：スタートにおいて、レスキューチューブ本体と紐は、競技者に指定されたレーン内に、競技者の判断で配置をする。競技者は、レスキューチューブと紐が安全で正しく配置されるようにせねばならない。レスキューチューブのクリップは外したままにしておく（オーリングにかけない）。

### B.2.4.3 失格

競技規則本文及び B.1 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) 第1, 第2, 第3競技者が、それぞれ折返しの壁／縁にタッチする前に、第2, 第3, 第4競技者がスタートした場合、
- (b) 第1, 第2, 第3競技者が、それぞれ折返しの壁／縁にタッチする前に、第2, 第3, 第4競技者が壁／縁やスターティングブロックから離れた場合、
- (c) 競技中に、プールの付属品（例えば、レーンロープ、排水管、水中ホッケー設備等）を補助に用いた — 但し、プールの底は含まれない場合、
- (d) 第1, 第2, 第3競技者が、それぞれの壁／縁にタッチする前に第2, 第3, 第4競技者がレスキューチューブ（ハーネス、紐、その他全ての部分を含む）を触った場合、
- (e) 第4競技者が、はっきりと見えるようにフィニッシュの壁／縁にタッチしなかった場合、
- (f) 1人の競技者が、2つ又はそれ以上の区間に出場した場合、
- (g) 競技者が、自分の区間を終了しプールから出た後に、再度プールに入った場合。

## B.2.5 ウェーディングレース

### B.2.5.1 競技の説明

- (a) 競技者は浜のスタートラインから海に向かって走り、3つのブイを左から右に回って浜へ戻り、フィニッシュラインへ向かう。
- (b) 競技者は、フィニッシュラインを海側から通過する。

### B.2.5.2 コース

- (a) **ブイの位置**: 子供の膝の深さに3つの目立つ色のブイを、第1ブイと第3ブイの間が約36 mとなるように配置する。
- (b) **スタートライン**: スタートラインは、ラインの中間に第1ブイが位置するように、水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約20 mで、両端にポールを立てる。
- (c) **フィニッシュライン**: フィニッシュラインは、ラインの中間に第3ブイが位置するように、水際から約15 mの浜に設定する。ラインの長さは約5 mで、両端に緑旗を立てる。

### B.2.5.3 判定

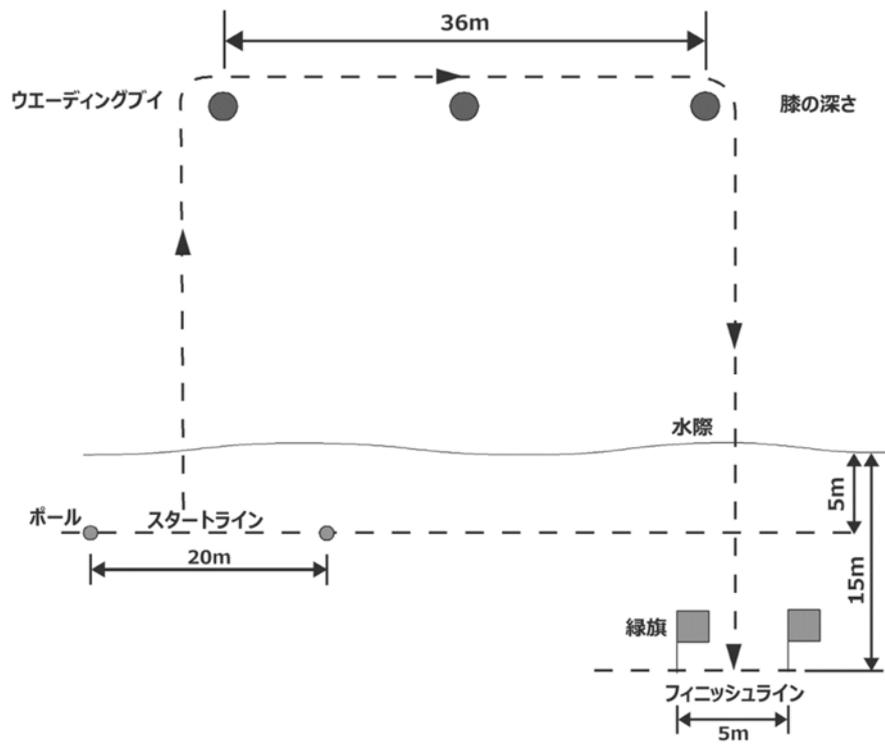
スタートの合図で、競技者はスタートラインからスタートし、他の競技者を妨害することなく水に入りブイまで走り、ブイを回って浜まで戻り、2本の緑旗（フィニッシュ旗）の間を通過してフィニッシュする。

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

### B.2.5.4 失格

競技規則本文及び B.1 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合



### ウエーディングレース

**注意:** ブイの位置に対するビーチの設定は、海の状況に応じて調整可能である。

## B.2.6 ランスイムラン

### B.2.6.1 競技の説明 — 小学3,4年

競技者は、スターターの合図でスタートラインから走り、折返し旗を回って通過し、入水してブイまで泳ぎ、2つのスイミングブイを左から右へ回る。その後、浜まで泳いで戻り、再度折返し旗を走って回り、フィニッシュラインに走って向かう。

### B.2.6.2 競技の説明 — 小学5,6年

競技者はスターターの合図でスタートラインから走り始め、100 m走った後折返し旗を回り、入水し、泳いでスイミングブイを左から右へ回る。その後、浜まで泳いで戻り、折返し旗を走って回り、フィニッシュラインを通過する。

**注意:** 競技者は、ブイとブイロープに触れてもよいが、ブイロープを引いて自身の身体をコースに沿って移動させてはならない。

### B.2.6.3 コース — 小学3,4年

以下に示すとおり、コースは、競技者が約50m走り、ブイまでを泳ぎ、約50m走りフィニッシュするようにする。

- (a) **ブイの位置:** スイミングブイは、約50 m沖合に20 m間隔で2つ配置する。
- (b) **スタートラインとフィニッシュライン:** スタートラインとフィニッシュラインは同じ。ラインの長さは約30 mで、両端に緑旗を立てる。折返し旗は緑&黄旗とする。

### B.2.6.4 コース — 小学5,6年

以下に示すとおり、コースは、競技者が約100m走り、ブイまでを泳ぎ、約100m走りフィニッシュするようにする。

- (a) **ブイの位置:** スイミングブイ（連ブイ）は、約70 m沖合に配置する。
- (b) **スタートラインとフィニッシュライン:** スタートラインとフィニッシュラインは同じ。ラインの長さは約30 mで、両端に緑旗を立てる。折返し旗は緑&黄旗とする。

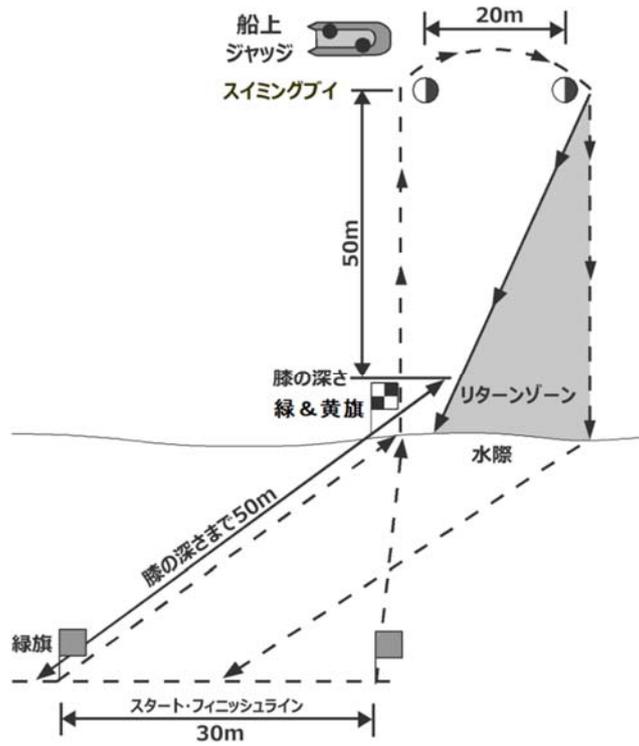
### B.2.6.5 判定

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸（の位置）で判定される。

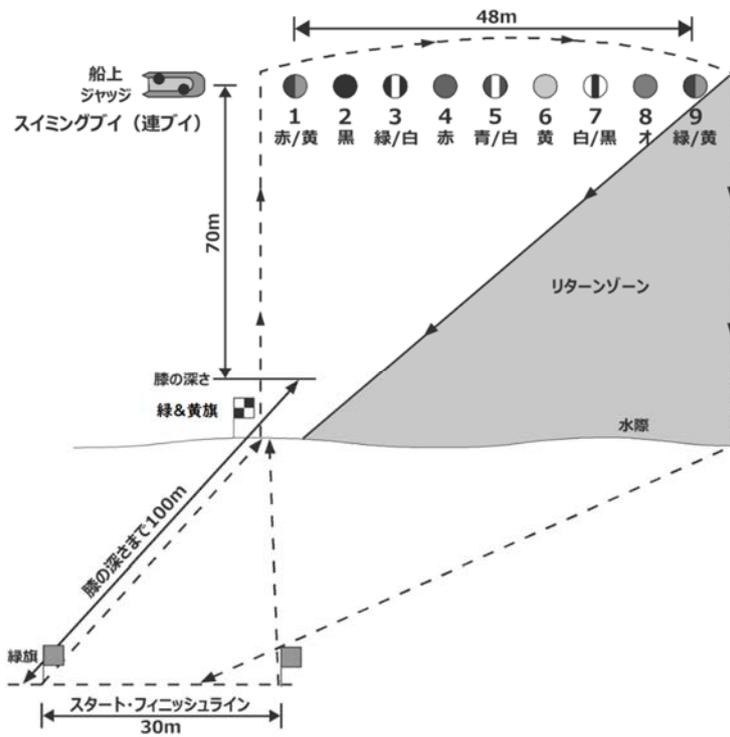
### B.2.6.6 失格

競技規則本文及びB.1の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合



小学3,4年



小学5,6年

**注意:** ブイの位置に対するビーチの設定は、海の状況に応じて調整可能である。

## B.2.7 ニッパーボードレース

### B.2.7.1 競技の説明

- (a) 競技者は、ニッパーボードを保持し1.5 mの間隔を空けて、ビーチのスタートラインの上又は後ろに立つ。
- (b) 競技者は、スターターの合図で水に入り、ニッパーボードを漕いで、ブイで標（しる）されたコースをパドルし、指定されたブイを左から右へ回って、浜に戻りフィニッシュラインを走って通過する。
- (c) フィニッシュは、競技者がニッパーボードと共にフィニッシュラインを海側から通過する。
- (d) 競技者は、他の競技者のニッパーボードを掴んだり、その他の妨害をしてはならず、また故意に進路を妨害してはならない。

### B.2.7.2 コース — 小学1,2年

- (a) **ブイ**：干潮時の膝の位置から約20 m沖合に、3つのブイを約20 m間隔で配置する。
- (b) **スタートライン**：スタートラインの中央に第1ブイが並ぶように、水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで、両端にポールを立てる。
- (c) **フィニッシュライン**：フィニッシュラインの中央に第3ブイが並ぶように、水際から約15 mの浜に設定する。ラインの長さは約20 mで、両端に緑旗を立てる。

### B.2.7.3 コース — 小学3,4年

- (a) **ブイ**：干潮時の膝の位置から約70 m沖合に、スイミングブイ（連ブイ）を配置する。
- (b) **スタートライン**：スタートラインの中央に第1ブイが並ぶように、水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで、両端にポールを立てる。
- (c) **フィニッシュライン**：フィニッシュラインの中央に第9ブイが並ぶように、水際から約15 mの浜に設定する。ラインの長さは約20 mで、両端に緑旗を立てる。

### B.2.7.4 コース — 小学5,6年

- (a) **ブイ**：2つのブイを約50 mの間を隔て、干潮時の膝の位置から約90 m沖合に配置する。もう1個の「頂点」ブイは、2個のブイの間及びそれから更に約10 m沖合に配置し、3個のブイで弧を描くようにする。
- (b) **スタートライン**：スタートラインの中央に第1ブイが並ぶように、水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで、両端にポールを立てる。
- (c) **フィニッシュライン**：フィニッシュラインの中央に第3ブイが並ぶように、水際から約15 mの浜に設定する。ラインの長さは約20 mで、両端にコースブイと同じ色の旗を立てる。

### B.2.7.5 コース — 中学生

- (a) **ブイ**：2つのブイを約50 mの間を隔て、干潮時の膝の位置から約150 m沖合に配置する。もう1個の

「頂点」ブイは、2個のブイの中間及びそれから更に約10m沖合に配置し、3個のブイで弧を描くようにする。

- (b) **スタートライン**: スタートラインの中央に第3ブイが並ぶように、水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで、両端にポールを立てる。
- (c) **フィニッシュライン**: フィニッシュラインの中央に第3ブイが並ぶように、水際から約15 mの浜に設定する。ラインの長さは約20 mで、両端にコースブイと同じ色の旗を立てる。

#### B.2.7.6 器材

**ニッパーボード**: 「B.1.3. 器材」を参照のこと。ニッパーボードの交換は、競技者がスタートラインから再スタートすれば認められる。ニッパーボードの交換は、他の競技者を妨害しないのであれば、競技者のチームメンバーが代替ニッパーボードをスタートラインまで運んでもよい。

#### B.2.7.7 判定

フィニッシュは、フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者はニッパーボードをコントロールした状態で、足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

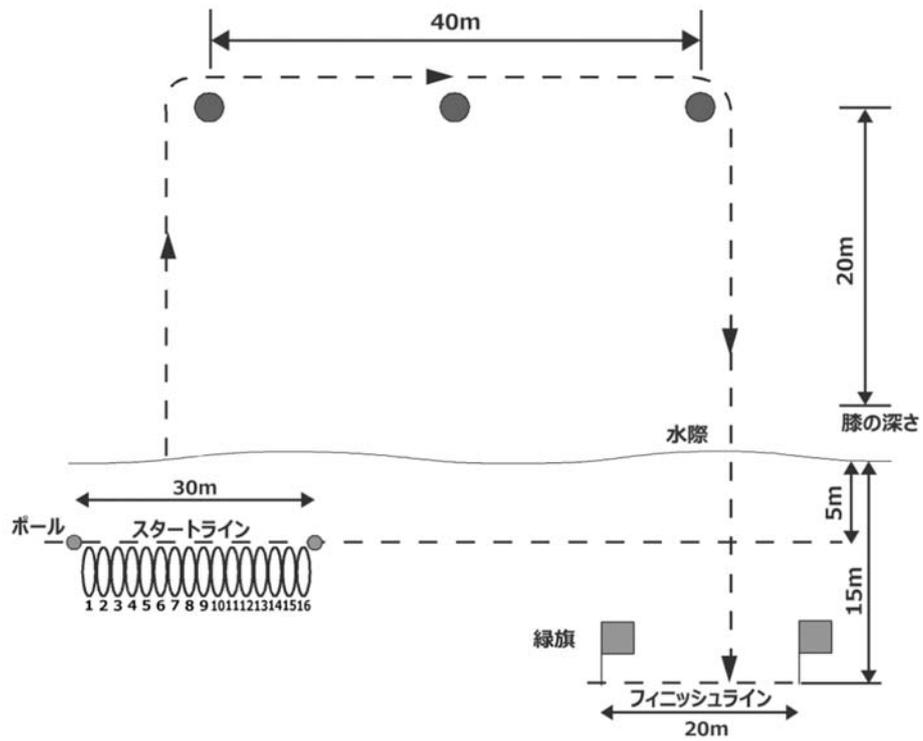
#### B.2.7.8 クラフトのコントロール

競技者は、ボードから離れたり操作できなくなっても失格になることはない。レースを完了するには、競技者は自身のボードを保持して（又は再度確保して）ボードと共にフィニッシュラインを海側から通過せねばならない。

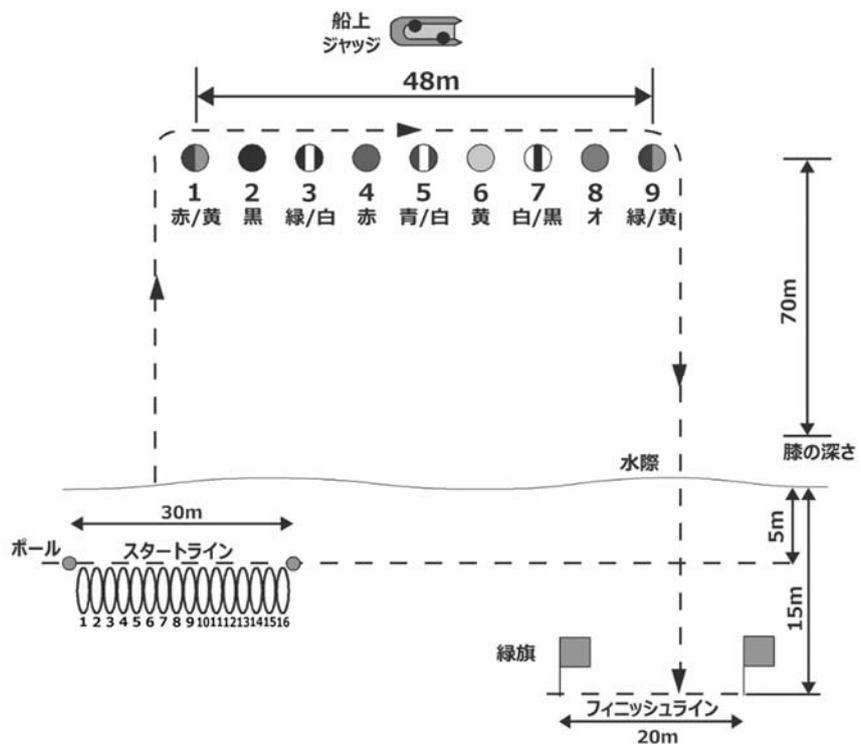
#### B.2.7.9 失格

競技規則本文及び B.1 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

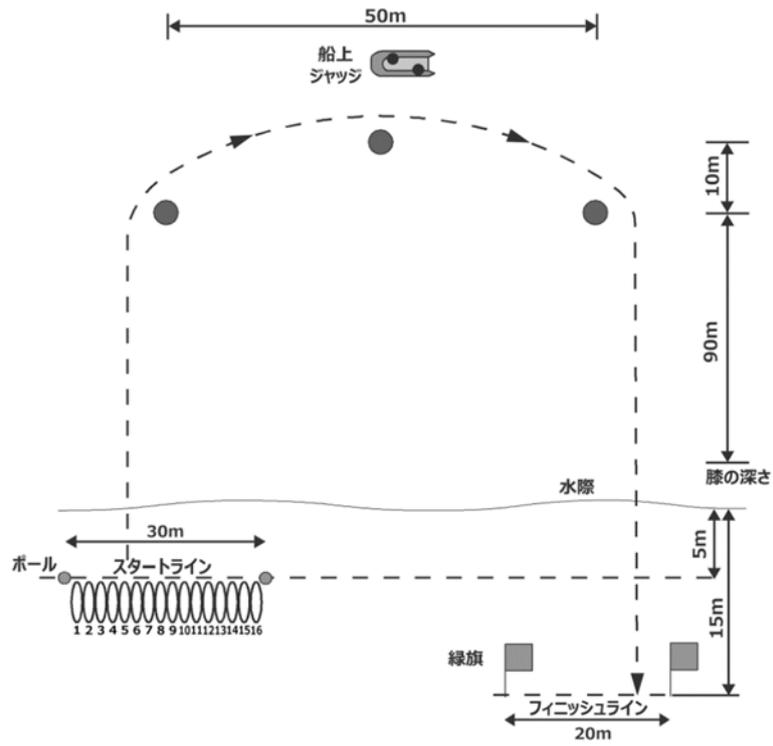
- (a) 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合



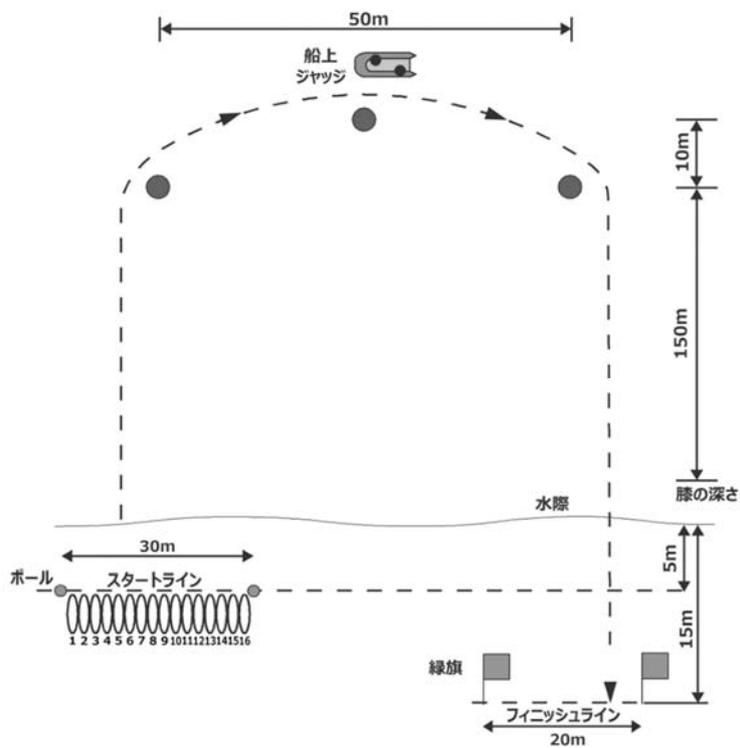
小学 1, 2 年



小学 3, 4 年



小学 5, 6 年



中学生

**注意:** ブイの位置に対するビーチの設定は、海の状況に応じて調整可能である。

## B.2.8 ニッパーボードリレー

### B.2.8.1 競技の説明

ニッパーボードリレーは、ニッパーボードレースの一般ルールのもと実施される。チームは3人で構成され、その3人は同じボードを使用してもよい。

- (a) **第1競技者**：第1競技者はニッパーボードレースと同様の手順でスタートし、指定されたブイを左から右へ回って浜へ向かい、ニッパーボードを残し（残す場所はブイを回った後ならどこでもよい）2本の折返し旗を回って、チェンジオーバーラインで待機している第2競技者にタッチする。
- (b) **第2競技者**：第2競技者は、同じコースをとり、2本の折返し旗を回ってチェンジオーバーラインで待機している第3競技者にタッチする。
- (c) **第3競技者**：第3競技者は、同じコースをとり、第1折返し旗を回り、第2折返し旗の陸側を通過し、2本のフィニッシュ旗の間を通過してフィニッシュする。
- (d) 第2、第3競技者は、足をチェンジオーバーラインの上又は陸側に置いて待機する。第2、第3競技者は、タッチされた後、入水するのにスタートラインを越えなくてもよい。
- (e) ニッパーボードリレーの競技者は、指定された正しい位置から各自の区間を開始せねばならない。
- (f) 各チームの第1及び第3競技者は、抽選によって決定した位置からスタートする。それに対して、各チームの第2競技者は、スタート位置が抽選したものとは逆並びとなる。例えば、16チームが参加するレースで、抽選により位置1と指定されたチームは、第1競技者は位置1からスタート、第2競技者は位置16からスタート、第3競技者は位置1からスタートする。

第1及び第3競技者のスタート位置	1	2	3	4	5	6	7	8	... 16
第2競技者のスタート位置	16	15	14	13	12	11	10	9	... 1

- (g) 競技者は、他の競技者のニッパーボードを掴んだり、その他の妨害をしてはならず、また故意に進路を妨害してはならない。

### B.2.8.2 コース

- (a) **ブイ**：2個のブイを約50 mの間を隔て、干潮時の膝の深さの位置から約90 m沖合に配置する。もう1個の「頂点」ブイは、2個のブイの間及びそれらから更に約10 m沖合に配置し、3個のブイで弧を描くようにする。
- (b) **折返し地点**：浜の折返し旗2本を水際から約15 mの浜に立てる。
- (c) **スタートライン**：スタートラインの中央に第1ブイが並ぶように、水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで、両端にポールを立てる。
- (d) **チェンジオーバーライン**：チェンジオーバーラインはスタートラインと同じとする。
- (e) **フィニッシュライン**：水際に対して垂直で、第2折返し旗（緑&黄旗）から約14 mに設定する。ラインの長さは約5 mで、両端に緑旗を立てる。

### B.2.8.3 器材

ニッパーボード：「B.1.3. 器材」を参照のこと。

- (a) ニッパーボードの交換は、競技者がスタートラインから再スタートすれば認められる。ニッパーボードの交換は、他の競技者を妨害しないのであれば、競技者のチームメンバー及び／又はハンドラーが代替ニッパーボードをスタートラインまで運んでもよい。
- (b) チームのメンバー又はチーフレフリーの承諾を得た他チームのメンバーは、チームメンバーが使用したクラフトが、レースしている他チーム又は競技者を妨害しないようにせねばならない。混雑及び器材破損を避けるため、ボードを可能な限り早く水際から回収すること。
- (c) 同一団体から複数のチームが出場する場合、各チームは識別ができる数字又は文字を腕、脚、又は競技用キャップに入れること。

#### B.2.8.4 判定

フィニッシュは、フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。

#### B.2.8.5 クラフトのコントロール

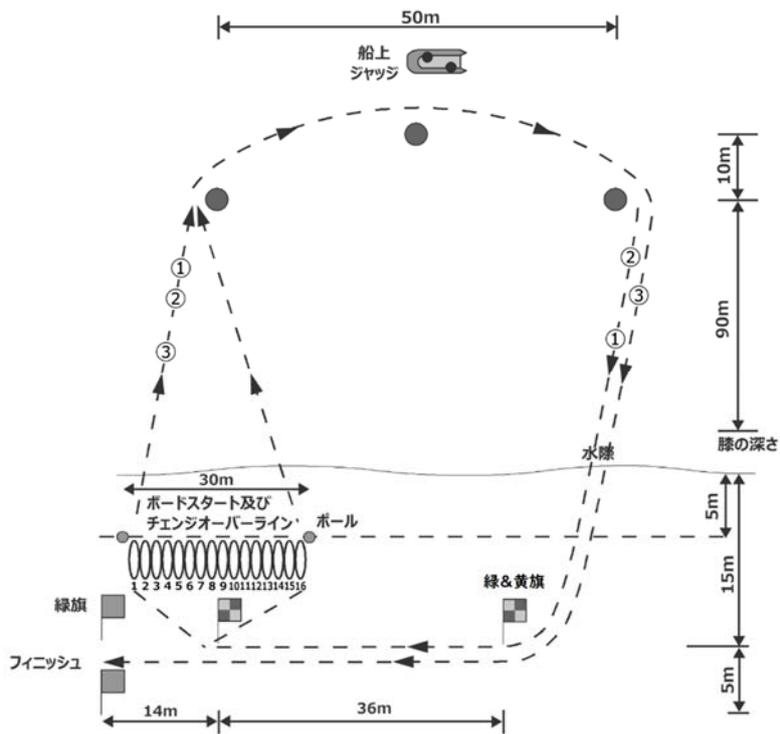
競技者は、再度ボードを確保してボードに接触したまま最終ブイを回りコースを完了するのであれば、沖に出る際にボードから離れたり操作できなくなってもよい。

競技者は、自分のボードをパドルして最終ブイを回らねばならないが、最終ブイ後の帰路では、ボードから離れたり操作できなくなっても、失格にはならない。

#### B.2.8.6 失格

競技規則本文及び B.1 の概要に加えて、以下の行為は失格になる：

- (a) 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合



ニッパーボードリレー

注意：ブイの位置に対するビーチの設定は、海の状況に応じて調整可能である。

## B.2.9 タップリンリレー

### B.2.9.1 競技の説明

競技者3人からなるチーム（スイマー1人、ボードパドラー1人及びランナー1人）が、事前に抽選で決めた順に一連の区間を回る。ラン区間は常に最終区間である。

ボードパドラーは、小学生及び中学生はニッパーボードを、高校生はボードを、それぞれ使用する。

- (a) 本競技は、スイム区間、ボード（又はニッパーボード）区間、ラン区間のコースとし、リレー形式で行われる。
- (b) この節で述べられている相違を除き、各区間ではそれぞれ個別の一般的な競技種目規則（サーフレース、ボードレース又はニッパーボードレース、ビーチスプリント）が適用される。
- (c) 競技者は、ビーチの指定された正しい位置から自分の区間を開始せねばならない。

**注意：**第2競技者は、タッチされた後、スタート及びチェンジオーバーラインを越える必要はない。

スイム→ボード→ランの順の場合、以下の通りとなる。各区間のコースは時計方向に回る。

- (d) **スイム区間：**スイマーは、ビーチからスタートして水に入り、それぞれ指定されたスイムブイを回り、浜に戻り2本の折返し旗を回り、足をスタート／チェンジオーバーライン上又はその陸側に置いてボードと共に待機するボードパドラーにタッチする。
- (e) **ボード区間：**ボードパドラーは、ボード（又はニッパーボード）と共に水に入り、それぞれ指定されたブイを回り、浜に戻り2本の折返し旗を回り、水際又は水中で待機するランナーにタッチする。浜に戻る際、ボードパドラーはボード（又はニッパーボード）を水際に残してよい。
- (f) **ラン区間：**ランナーは、第1折返し旗を回り、2本目の折返し旗の陸側を通過し、2本のフィニッシュ旗の間を通過しフィニッシュする。

**注意：**ランナーにタッチをする場所は、最終のブイの浜側から浜の第1折返し旗までのどこでもよい。タッチは水面より上で、はっきりと見えるようにしなければならない。

ランナーは戻ってくる競技者にタッチをするため水に入り、ウェーディング、ドルフィンスルー、ボディーサーフィンをしてよい。また折返し旗に向かって走ってもよい。ただし、ランナーはいかなるときも泳いではならない（ここで泳ぐとは、ボディーサーフィンのため又は波に乗り続けるため水面の上に腕を出してストロークする動作を含む）。

### B.2.9.2 コース — 小学4年以下

- (a) **ブイの位置：**スイム区間のブイは干潮時における膝の深さから約50 m沖合に、2つのブイを約20 m間隔で配置する。ニッパーボード区間のブイは約70 m沖合にスイミングブイ（連ブイ）を配置する。
- (b) **折返し地点：**浜の折返し点として、水際から約20mに旗2本を立てる。第2折返し旗は第2スイミングブイと、第1折返し旗は第8スイミングブイと向かい合うように設置する。
- (c) **スタートライン：**スタートラインは、長さは30mで、ラインの中心が第1スイミングブイと向かい

合うように水際から約5 mの浜に引き、両端にはポールを立てる。

- (d) **チェンジオーバーライン**: チェンジオーバーラインはスタートラインと同じとする。
- (e) **フィニッシュライン**: 2本の旗を5 mの間隔を空けて設置する。フィニッシュラインは1本目の折返し旗から約50 m離れた位置に、水際と垂直の角度で設置する。

### B.2.9.3 コース — 小学6年以下

- (a) **ブイの位置**: スイム区間のブイは干潮時における膝の深さの地点から約70 m沖合にスイミングブイ（連ブイ）を配置する。ニッパード区間のブイは、スイミングブイ（連ブイ）から約20 m沖合に、2つのブイを約50 m間隔で設置する。もう1つの「頂点」ブイは、2つのブイから約10 m沖合且つ2つのブイの中間に配置し、3つのブイで弧を描くようにする。
- (b) **折返し地点**: 浜の折り返し点に旗を2本立てる。第2折返し旗は第2スイミングブイと、第1折返し旗は第8スイミングブイと向かい合い、両方とも水際から約20 mの浜に立てる。
- (c) **スタートライン**: スタートラインは、ラインの中心が第1スイミングブイと向かい合うように水際から約5 mの浜に設定する。ラインの長さは約30 mで、両端にはポールを立てる。
- (d) **チェンジオーバーライン**: チェンジオーバーラインはスタートラインと同じとする。
- (e) **フィニッシュライン**: 2本の旗を5 mの間隔を空けて設置する。フィニッシュラインは1本目の折返し旗から約50 m離れた位置に、水際と垂直の角度で設置する。

### B.2.9.4 コース — 中学生

- (a) **ブイの位置**: ブイは干潮時における膝の深さの地点から約120 m沖合にスイミングブイ（連ブイ）を配置する。スイム区間及びニッパード区間共に、同じブイを使用する。
- (b) **折返し地点**: 浜の折り返し点として、水際から約20 mに旗を2本立てる。第2折返し旗は第2スイミングブイと、第1折返し旗は第8スイミングブイと向かい合うように設置する。
- (c) **スタートライン**: スタートラインは、長さは約30 mで、ラインの中心が第1スイミングブイと向かい合うように水際から約5 mの浜に引き、両端にはポールを立てる。
- (d) **チェンジオーバーライン**: チェンジオーバーラインはスタートラインと同じとする。
- (e) **フィニッシュライン**: 2本の旗を5 mの間隔を空けて設置する。フィニッシュラインは1本目の折返し旗から約50 m離れた位置に、水際と垂直の角度で設置する。

### B.2.9.5 コース — 高校生

- (a) **ブイの位置**: スイム区間のブイは干潮時における膝の深さの地点から約120 m沖合にスイミングブイ（連ブイ）を配置する。ボード区間のブイは、スイミングブイ（連ブイ）から約50 m沖合に、2つのブイを約17 m間隔で配置する。
- (b) **折返し地点**: 浜の折り返し点として、水際から約20 mに旗を2本立てる。第2折返し旗は第2スイミングブイと、第1折返し旗は第8スイミングブイと向かい合うように設置する。
- (c) **スタートライン**: スタートラインは、長さは30 mで、ラインの中心が第1スイミングブイと向かい合うように水際から約5 mの浜に引き、両端にはポールを立てる。

- (d) **チェンジオーバーライン**: チェンジオーバーラインはスタートラインと同じとする。
- (e) **フィニッシュライン**: 2本の旗を5 mの間隔を空けて設置する。フィニッシュラインは1本目の折返し旗から約50 m離れた位置に、水際と垂直の角度で設置する。

#### B.2.9.6 器材

**ボード (高校生)**: 「8. 設備及び器材の規格と検査手順」を参照のこと。

**ニッパーボード (小学生及び中学生)**: 「B.1.3. 器材」を参照のこと。

チームメンバーは、各クラフトのスタートエリアの傍にギアを置くこと。

**破損したクラフトの交換**: ボード (又はニッパーボード) は、破損又は航行不能でない限り、各区間を競技中に交換することはできない。チームメンバー/ハンドラーは、別の器材をスタートライン及びチェンジオーバーラインに別の器材を置くまでであれば、破損したクラフトの交換を補助できる。

**器材の撤去**: 競技を安全に実施するため、チームメンバー及び/又はハンドラーは、他の競技者の進路を妨害しなければ、破損又は放棄された器材をレース中にコースから撤去することができる。

ハンドラーは以下のことを行う:

- (a) 競技用キャップを着用すること,
- (b) 膝の深さより深い海に入る場合、主催者から指定された視認性の高いベストを着用すること,
- (c) ハンドラー自身及びハンドラーが扱う器材が、他の競技者を妨害しないようあらゆる努力を尽くすこと (さもなくば競技者が失格になる場合がある),
- (d) オフィシャルの全ての指示に従うこと。

**服装**: ビーチスプリントコースにおいて、チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは、競技者の裁量で着用してよい。

#### B.2.9.7 判定

競技者は足で立ち体を起こした状態でフィニッシュせねばならない。フィニッシュはフィニッシュラインを通過する競技者の胸 (の位置) で判定される。

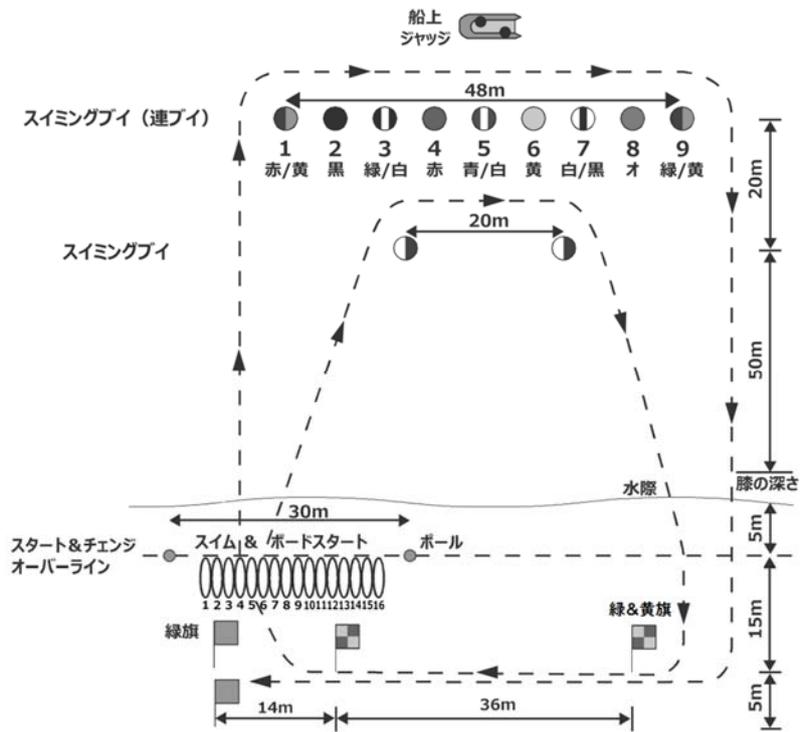
#### B.2.9.8 クラフトとの接触

競技者は、最終ブイを通過するまではボード (又はニッパーボード) を保持していなければならない。最終ブイから浜に戻る途中でボード (又はニッパーボード) が離れても失格とはならない。最終ブイに向かう途中でボード (又はニッパーボード) が離れても失格とはならないが、この場合は、ボード (又はニッパーボード) を回収し、保持した状態で各区間の最終ブイを回り、コースを終了すること。

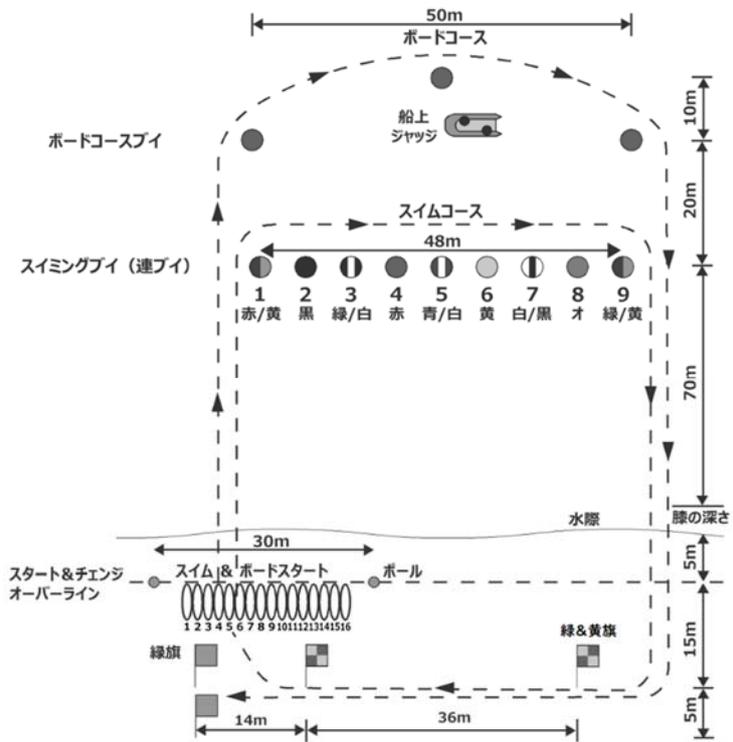
#### B.2.9.9 失格

競技規則本文及び B.1 の概要に加えて、以下の行為は失格になる:

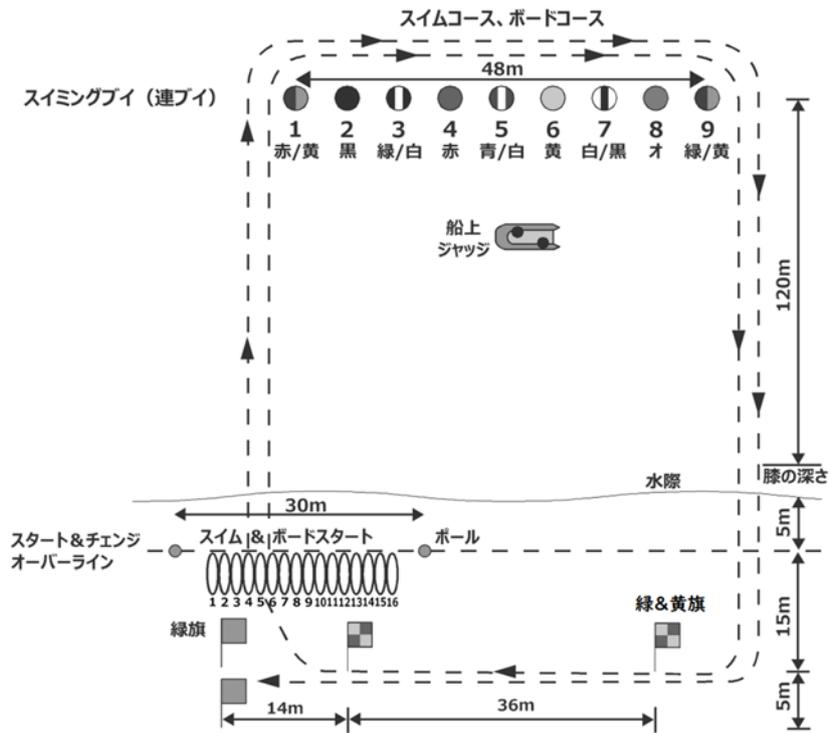
- (a) 規定されたとおりにコースを完了できなかった場合



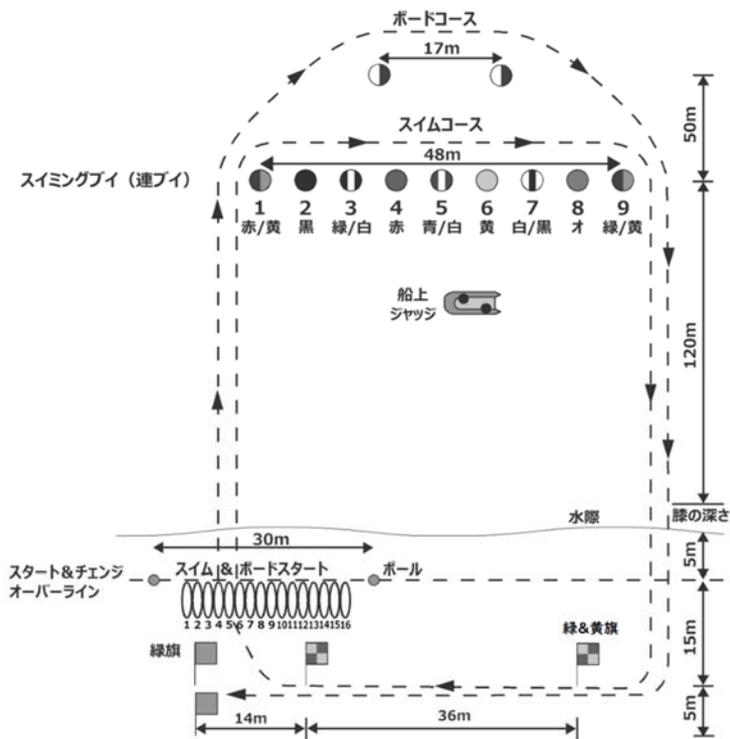
タップリンリレー 小学4年以下



タップリンリレー 小学6年以下



タップリンリレー 中学生



タップリンリレー 高校生

注意：ブイの位置に対するビーチの設定は、海の状況に応じて調整可能である。



## 【編集委員会】

1993年・初版～1995年・第2版

文珠寺裕之（委員長），小峯力，永井宏，戸田正雄，山口毅，山崎博志，江沢陽子

1997年・第3版

永井宏（委員長），小峯力，山口毅，山崎博志，疋田美貴，江沢陽子，柴田奈美，大西明，中山昭

2004年版・初版

深山元良（委員長），安藤烈，飯塚哲也，泉田昌美，遠藤大哉，塚本隆之，中村勝，川地政夫，  
中山昭

〈翻訳協力〉重元典子（旧姓：坂本），根岸賢輔

2006年版・初版

深山元良（委員長），安藤烈，飯塚哲也，池谷薫，泉田昌美，遠藤大哉，木野康信，塚本隆之，  
中村勝，渡辺智美，川地政夫，中山昭，荒木雅信

2008年版・初版

深山元良（委員長），安藤烈，飯塚哲也，池谷薫，泉田昌美，木野康信，塚本隆之，中村勝，  
渡辺智美，川地政夫，中山昭，三浦慶子，藤然智，荒木雅信

2010年版・初版

深山元良（委員長），飯塚哲也，池谷薫，泉田昌美，橘川克巳，木野康信，塚本隆之，中村勝，  
吉田健博，渡辺智美，川地政夫，中山昭，三浦慶子，稲垣裕美

2012年版・初版

塚本隆之（委員長），飯塚哲也，橘川克巳，泉田昌美，渡辺智美，池谷薫，中島重之，藤田善照，  
林昌広，深山元良，川地政夫

2014年版・初版

塚本隆之（委員長），橘川克巳，池谷薫，泉田昌美，梶本道彦，中島重之，中島典子，林昌広，  
藤田善照，渡邊彩子，相澤千春，堤容子，西嶋智美，宮部周作

2016年版・初版

中島典子（委員長），梶本道彦，栗栖清浩，中島重之，藤田善照，水川雅司，毛利智，塚本隆之，  
池谷薫，泉田昌美，林昌広，宮部周作（ILSスポーツ委員），国際室

2018年版（2018.07.13版，2018.07.20版）

編著：中島典子，中島重之，藤田善照，梶本道彦，栗栖清浩，水川雅司，栗生賢一，松永祐，毛利智  
協力：宮部周作（ILSスポーツ委員），西嶋智美（国際室），西山俊（アスリート委員会）

2019年版（2019.04.01版）

編著：中島典子，中島重之，藤田善照，梶本道彦，栗栖清浩，水川雅司，栗生賢一，松永祐，毛利  
智，濱田博孝，南部孝二（競技運営・審判委員会），桂里帆，齊藤愛子，細井梨沙（国際室），  
泉田優花，大山玲奈

協力：宮部周作（ILSスポーツ委員），西山俊（アスリート委員会），錦織功延（アンチ・ドーピング  
委員会）

2020年版・暫定版 第1～3, 8章（2020.03.16版）

編著：中島典子，中島重之，藤田善照，梶本道彦，栗栖清浩，水川雅司，栗生賢一，松永祐，毛利  
智，濱田博孝，南部孝二（競技運営・審判委員会）

2020年版（2020.06.01版，2020.06.04版）

編著：中島典子，中島重之，藤田善照，梶本道彦，栗栖清浩，水川雅司，粟生賢一，松永祐，毛利智，濱田博孝，南部孝二（競技運営・審判委員会），鈴木慎一，新部愛海（国際室）

協力：西山俊，特定非営利活動法人神奈川県ライフセービング協会（競技規則B.2.2）

## ライフセービング競技規則

1993年 5月20日	初版発行
1995年 3月20日	第2版発行
1997年 9月 1日	第3版発行
2004年 4月10日	2004年版 初版発行
2007年 4月25日	2006年版 初版発行
2008年 4月23日	2008年版 初版発行
2010年 4月12日	2010年版 初版発行
2012年 9月 1日	2012年版 初版発行
2014年 5月27日	2014年版 初版発行
2017年 4月 1日	2016年版 初版発行
2018年 7月13日	2018年版 (2018.07.13版) 発行
2018年 7月20日	2018年版 (2018.07.20版) 発行
2019年 4月 1日	2019年版 (2019.04.01版) 発行
2020年 3月16日	2020年版・暫定版 第1～3, 8章 (2020.03.16版) 発行
2020年 6月 1日	2020年版 (2020.06.01版) 発行
2020年 6月 4日	2020年版 (2020.06.04版) 発行

◆編集 日本ライフセービング協会 競技運営・審判委員会

◆発行 日本ライフセービング協会

〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-18 トップスビル

TEL : (03) 3459 1445 / FAX : (03) 3459 1446

(無断転載を禁ず)







**JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION**